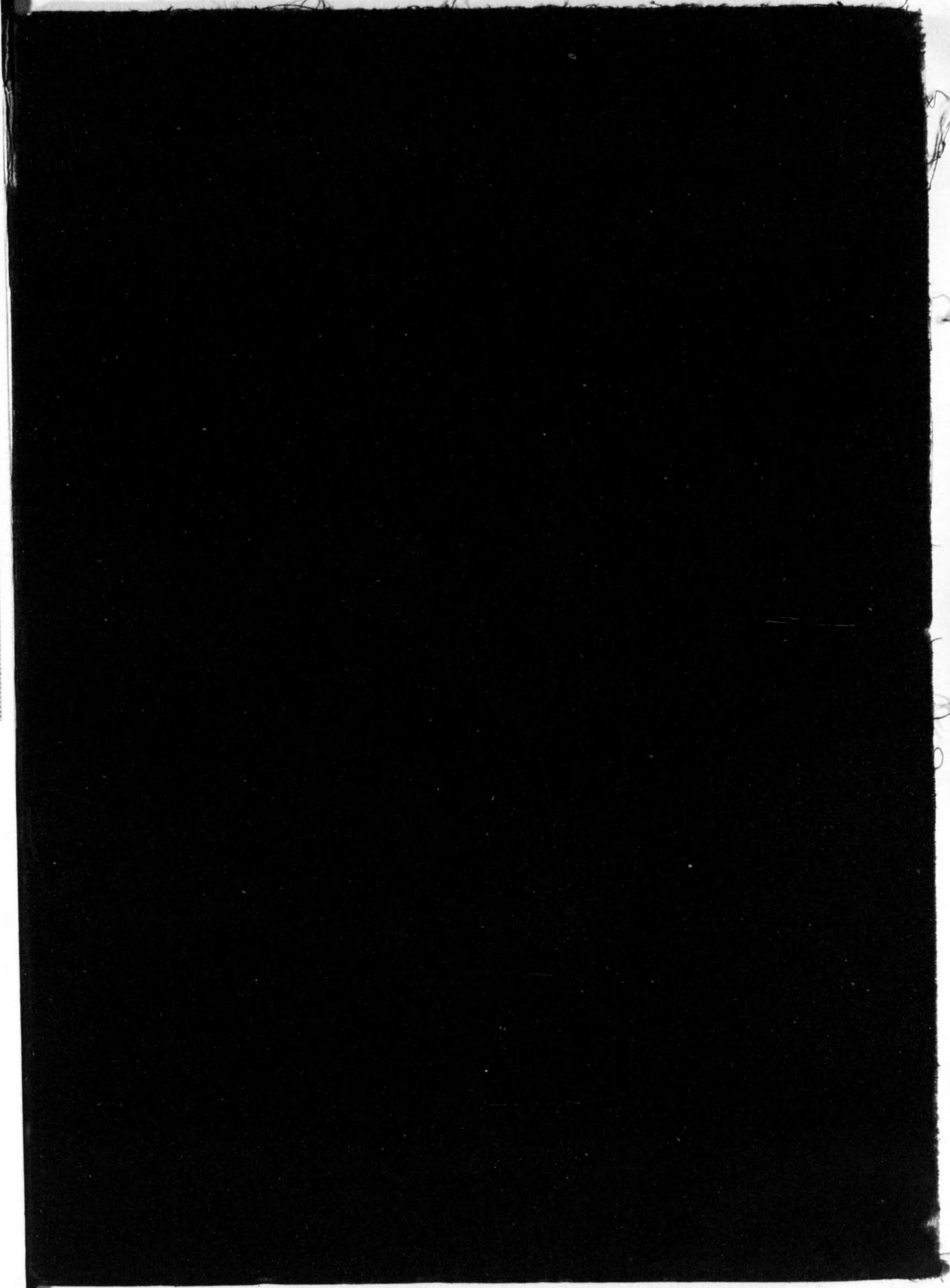




始



14.4  
750

5.9.4

昭和三年度年報

朝鮮總督府鐵道局



圖

表

144-750



### 昭和三年度年報圖表ノ部目次

#### 朝鮮鐵道略圖

#### 建設工事工程圖

- 咸鏡線 (北青引込線)
- 〃 (遮湖引込線)
- 平元線 (西浦高原間)
- 圖們線 (雄基潼關鎮間)
- 東海線 (安邊浦項、蔚山釜山鎮間)

#### 營業線路條數圖表 (年度末現在)

#### 運輸成績圖表 (昭和三年度)

- 第一號圖表 運輸成績累年圖表
- 第二號圖表 〃
- 第三號圖表 運輸成績月別圖表
- 第四號圖表 主要貨物圖表
- 第五號圖表 主要貨物發著圖表 (木材、粟)
- 第六號圖表 〃 (石炭)
- 第七號圖表 〃 (米、大豆)
- 第八號圖表 旅客通過圖表 (其ノ一)
  - 京釜本線、馬山線、鎮海線、京仁線
  - 京義本線、瓮二浦線、平壤炭礦線、平南線、博川線、新義州荷扱所線
  - 平元西部線
  - 東海中部線
- 第九號圖表 〃 (其ノ二)
  - 京元線
  - 咸鏡本線、川内里線、清津線、會寧炭礦線
  - 湖南本線、群山線
  - 慶全北部線、光州線
- 第十號圖表 貨物通過圖表 (其ノ一)
  - 京釜本線、馬山線、鎮海線、京仁線
  - 京義本線、平南線、瓮二浦線、平壤炭礦線、博川線、新義州荷扱所線
  - 平元西部線

發行所 官製本



075-021

第十一號圖表 貨物通過圖表  
 (其ノ二)

- 京元線
- 成鏡本線、川內里線、清津線、會寧炭礦線
- 湖南本線、群山線
- 慶全北部線、光州線
- 東海中部線

比較統計圖表

主要貨物運輸成績 (三年度)

本邦事故比較 (二年度)

主要國鐵道營業一哩平均比較 (二年度)

Vertical stamp or text at the bottom of the page.

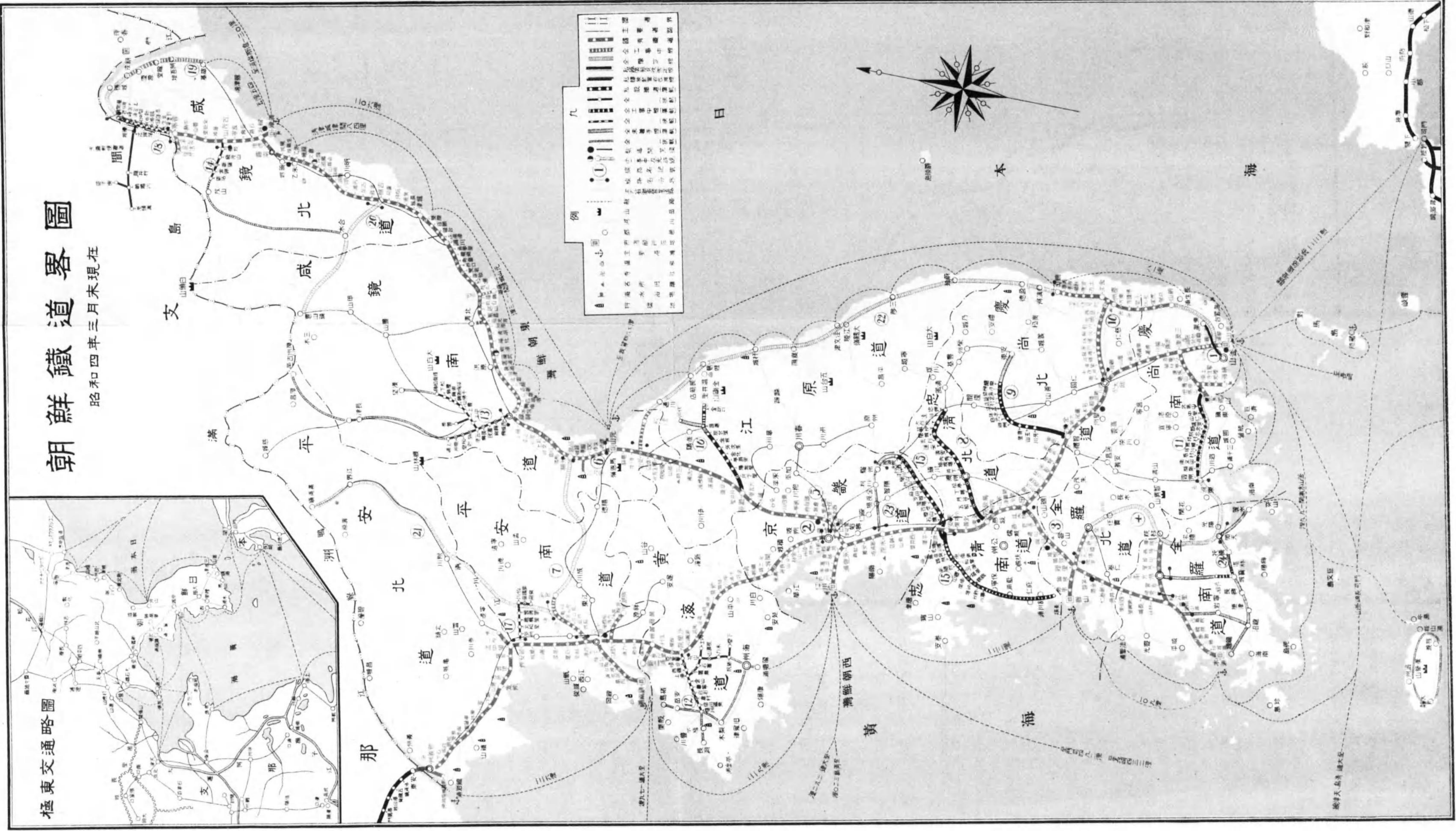




0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

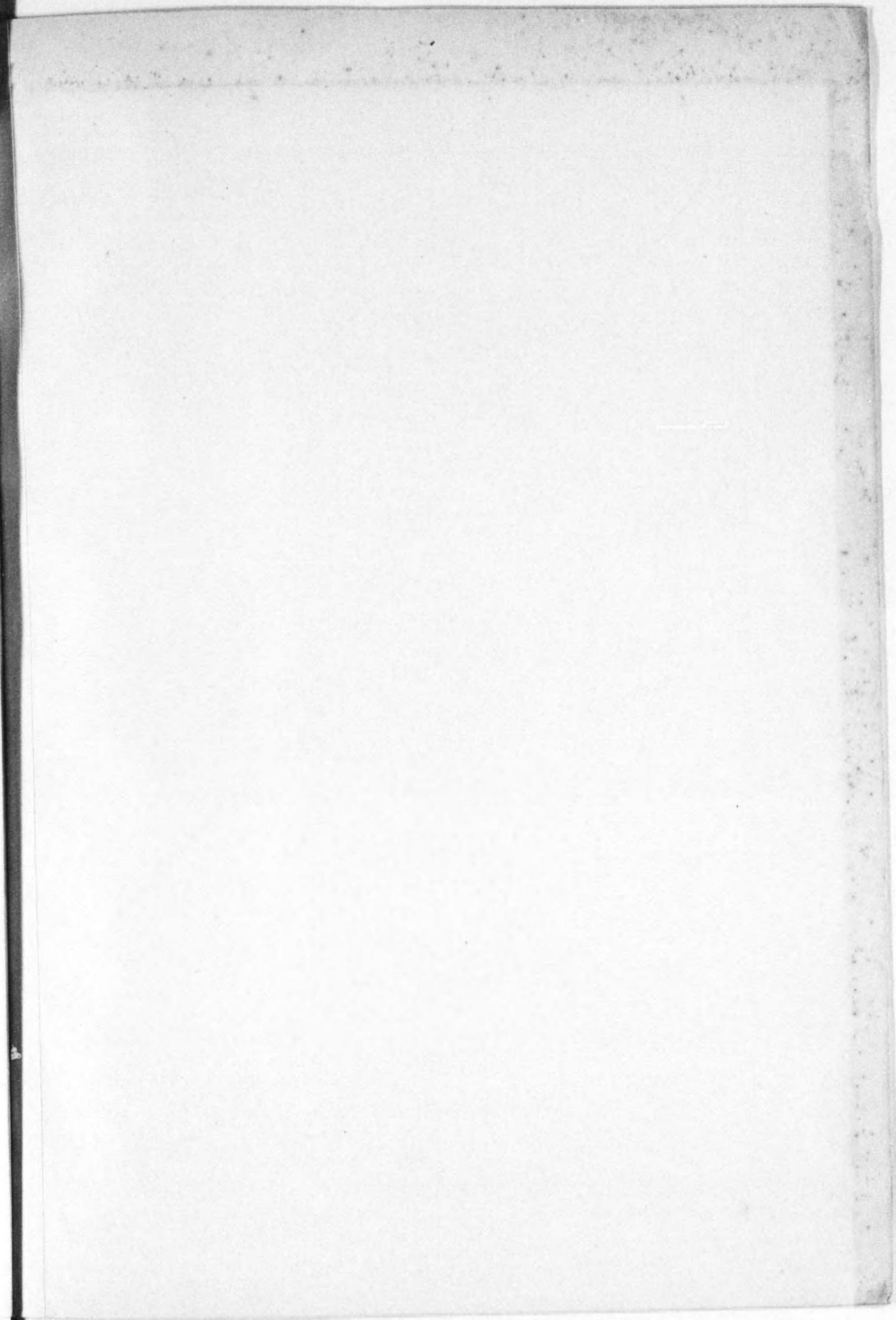
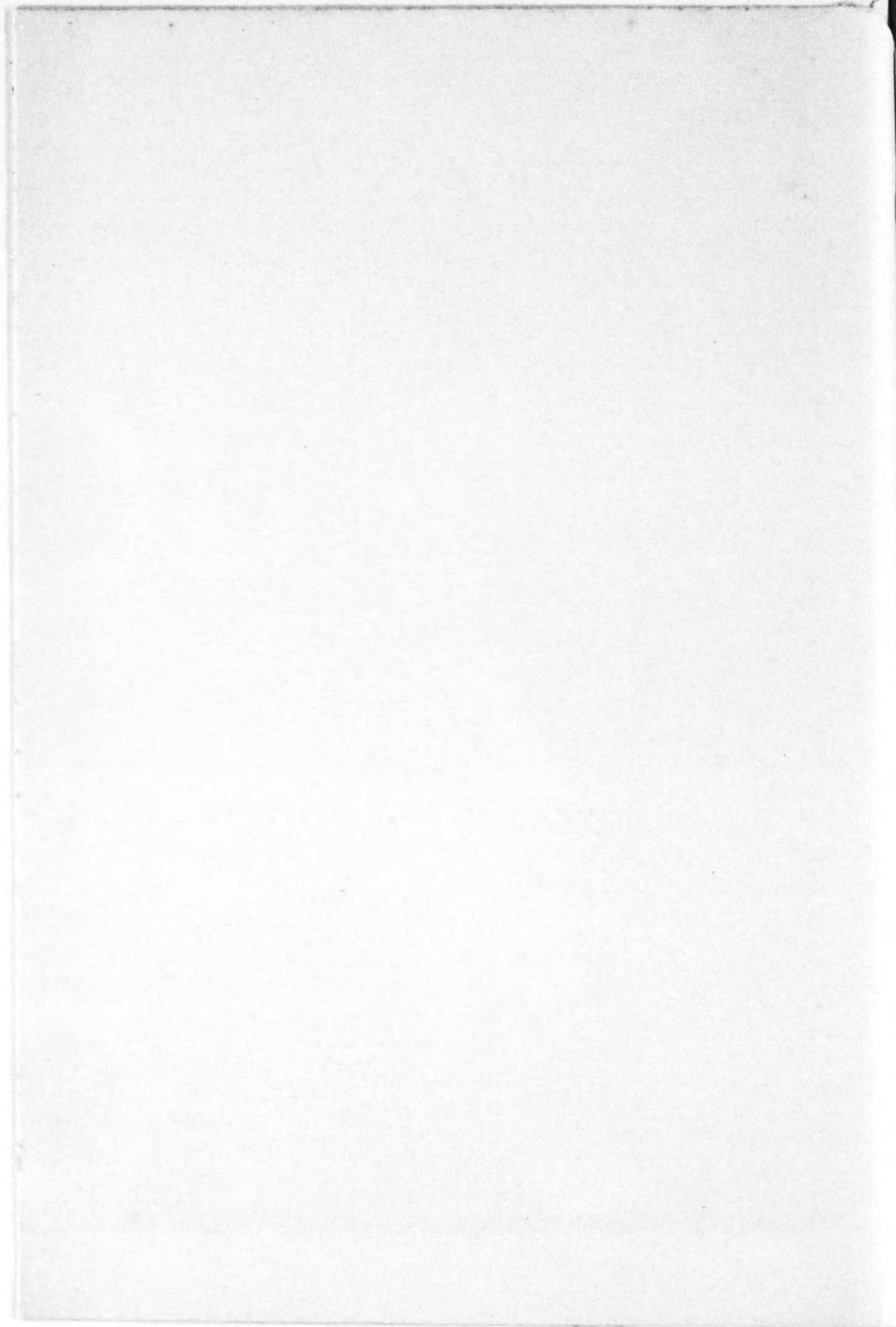
# 朝鮮鐵道畧圖

昭和四年三月末現在



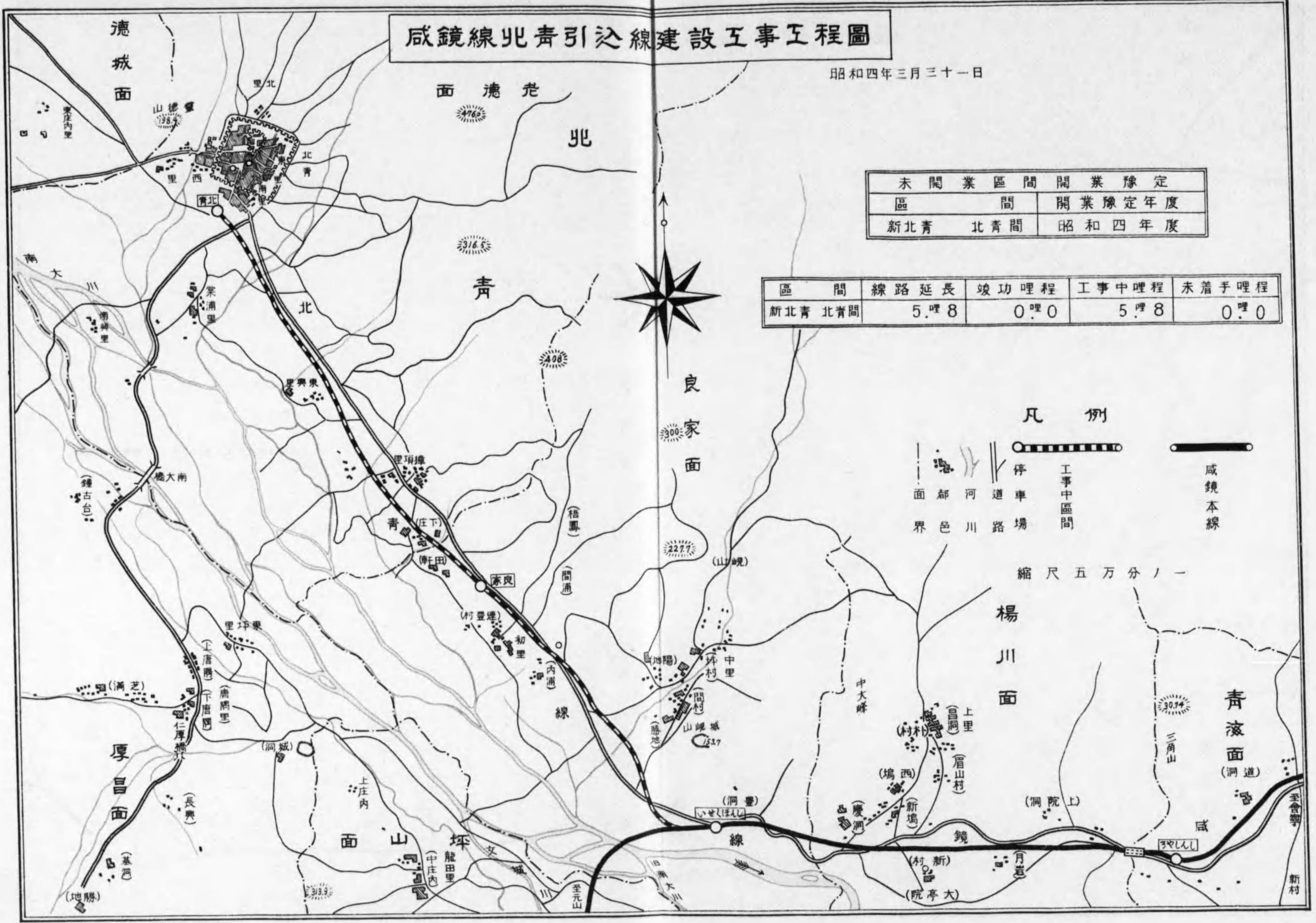
極東交通略圖

...	...	26.5
計	×	154.5
...	...	27.8
...	...	70.0
計	×	97.8
計	...	400.1
...	...	34.2
...	...	12.3
計	...	46.5
...	...	21.0
...	...	30.0
計	...	51.0
...	×	43.1
...	...	108.0
...	...	25.0
...	...	42.5
計	...	175.5
計	...	716.2



# 咸鏡線北青引込線建設工事工程圖

昭和四年三月三十一日



未開業區間		開業豫定	
區	間	開業豫定年度	
新北青	北青間	昭和四年度	

區間	線路延長	竣功哩程	工事中哩程	未着手哩程
新北青 北青間	5.哩8	0.哩0	5.哩8	0.哩0

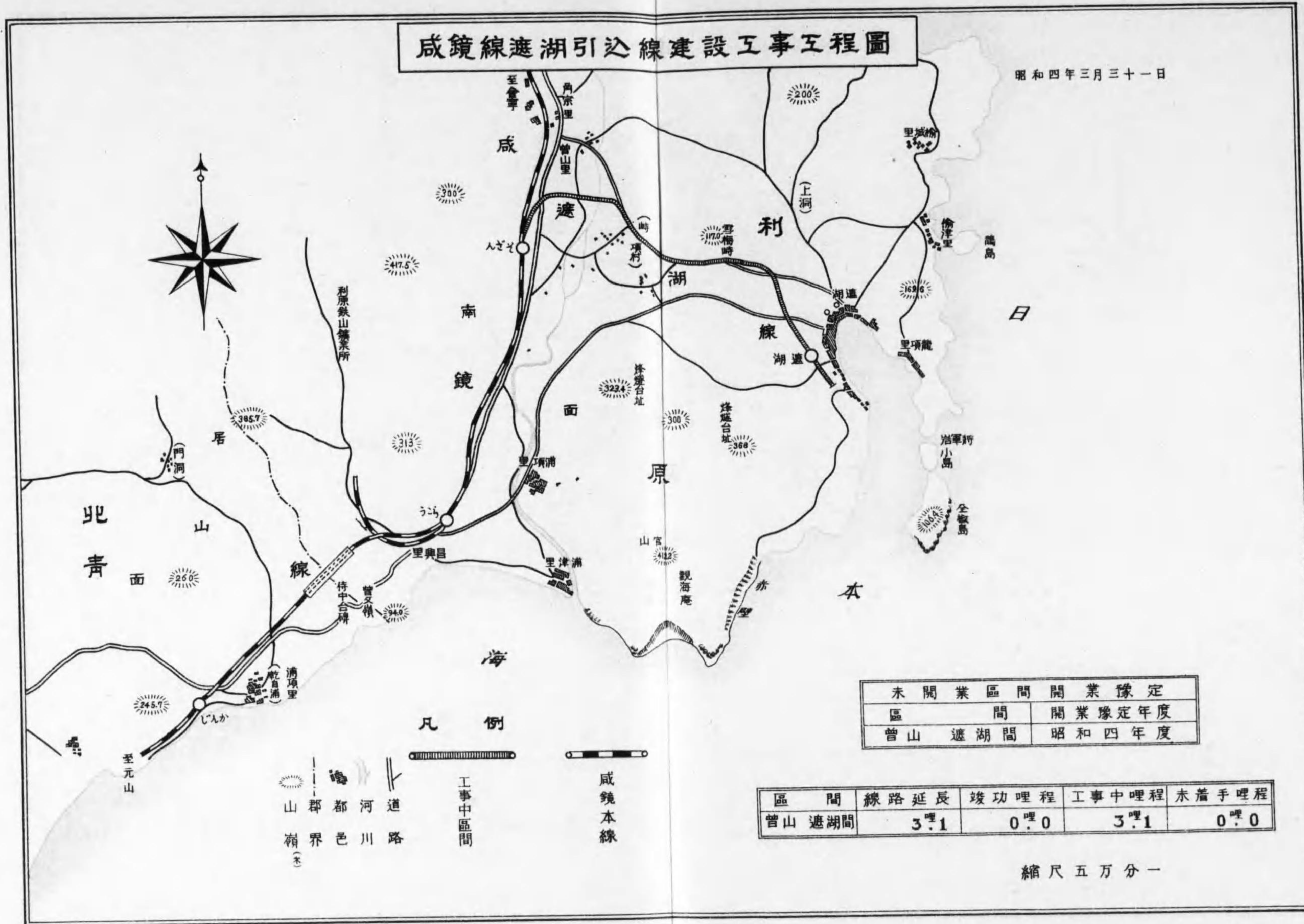
## 凡例

- 停車場
- 道路
- 河川
- 邑界
- 工事中區間
- 咸鏡本線

縮尺五万分ノ一

# 咸鏡線遮湖引込線建設工事工程圖

昭和四年三月三十一日



未開業區間		開業豫定	
區	間	開業豫定年度	
昔山	遮湖間	昭和四年度	

區	間	線路延長	竣工哩程	工事中哩程	未着手哩程
昔山	遮湖間	3.1	0.0	3.1	0.0

縮尺五万分一

凡例

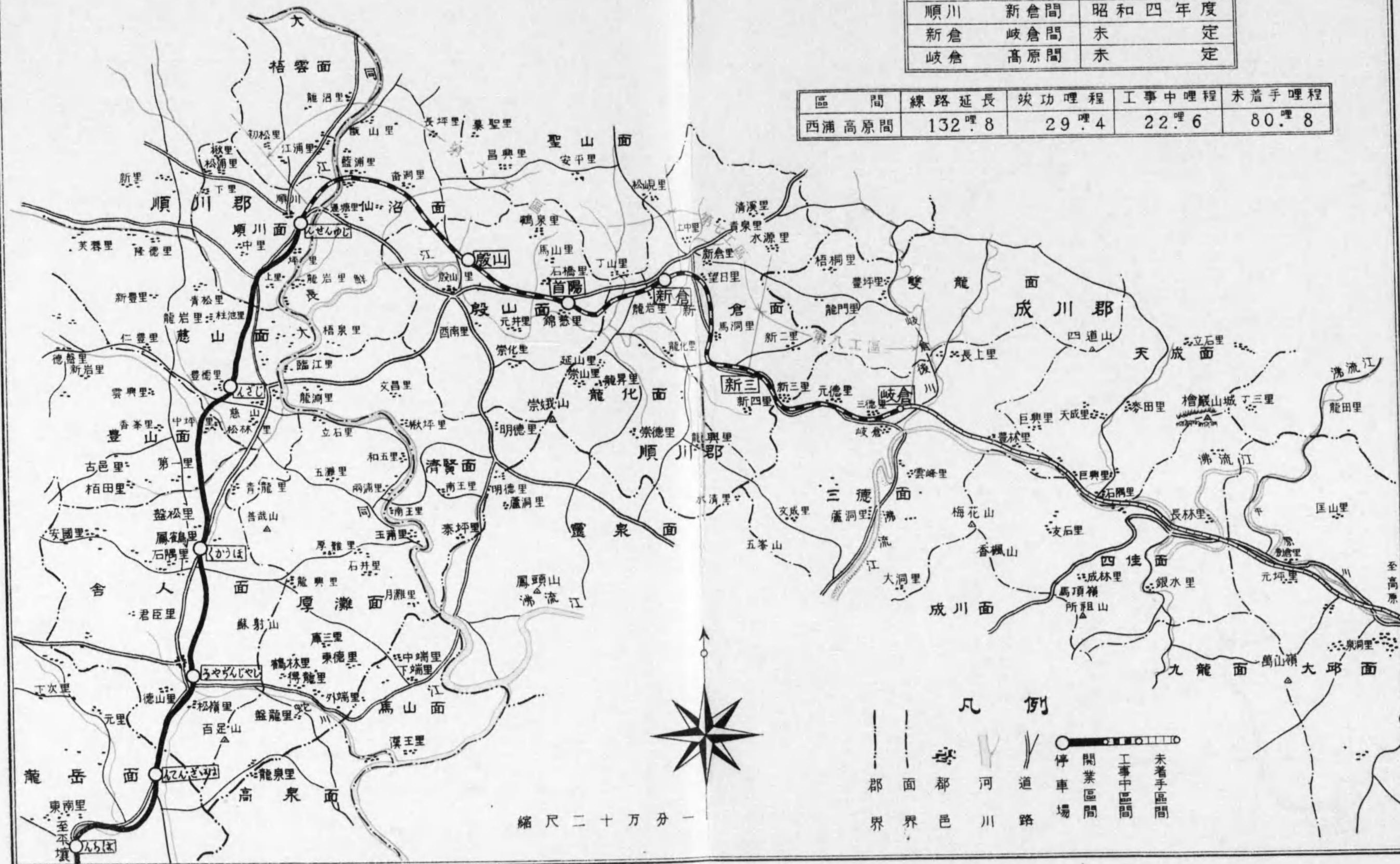
- 山嶺
- 郡界
- 都界
- 河川
- 道路
- 工事中區間
- 咸鏡本線

# 平元線西浦高原間建設工事工程圖

昭和四年三月三十一日

未開業區間開業豫定		
區間	開業豫定年度	
順川 新倉間	昭和四年度	
新倉 岐倉間	未定	
岐倉 高原間	未定	

區間	線路延長	竣功哩程	工事中哩程	未着手哩程
西浦高原間	132哩8	29哩4	22哩6	80哩8



縮尺二十万分一

- 凡例
- 區界
  - 郡界
  - 邑界
  - 河川
  - 道路
  - 鐵路
  - 停車場
  - 開業區間
  - 工事中區間
  - 未着手區間

# 圖們線 雄基 澗 建設 互事互程圖

昭和四年三月三十一日



未開業區間		開業豫定
區	間	開業豫定年度
雄基	新阿山間	昭和四年度
新阿山	澗關鎮間	未定

區間	線路延長	竣功哩程	工事中哩程	未着手哩程
雄基 澗關鎮間	97.哩0	17.哩0	48.哩2	31.哩8



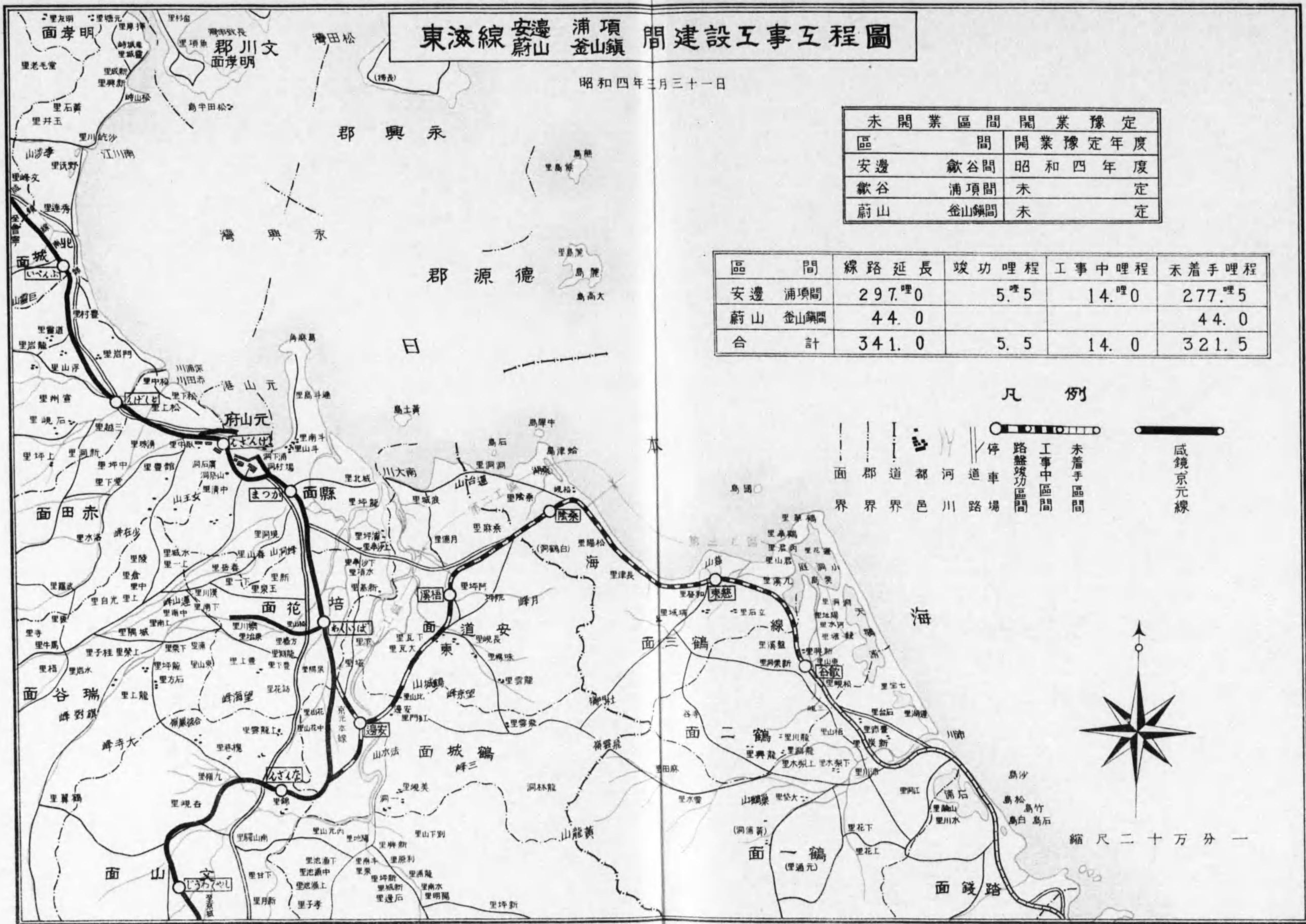
縮尺二十萬分一

## 凡例

- 面界
- 郡界
- 河川
- 道路
- 都邑
- 停車場
- 路竣功區間
- 工事中區間
- 未着手區間

# 東海線安邊 浦項間建設工事工程圖

昭和四年三月三十一日



未開業區間	開業豫定
區 間	開業豫定年度
安邊 歙谷間	昭和四年度
歙谷 浦項間	未 定
蔚山 釜山鎮間	未 定

區 間	線路延長	竣功哩程	工事中哩程	未着手哩程
安邊 浦項間	297.哩0	5.哩5	14.哩0	277.哩5
蔚山 釜山鎮間	44.0			44.0
合 計	341.0	5.5	14.0	321.5

## 凡 例

- — — — — 面 郡 道 都 河 道 車
- — — — — 界 界 界 邑 川 路 場
- ○ ○ ○ ○ 停 路 盤 竣 功 區 間
- — — — — 工 事 中 區 間
- — — — — 未 着 手 區 間
- — — — — 威 鏡 京 元 線



縮尺二十万分一

口 示 附

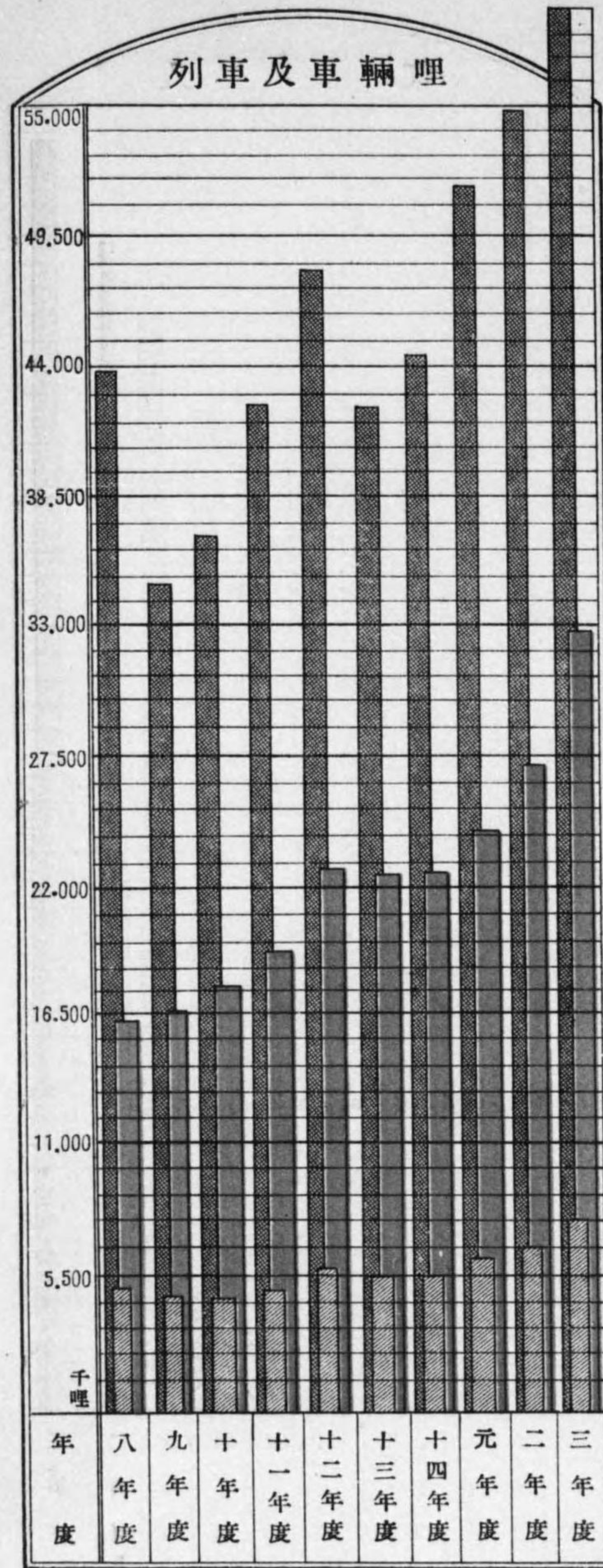
區 別	旅 客 線
單線區間	2534.0 <sup>KM</sup>
複線區間	12.0
計	2546.0



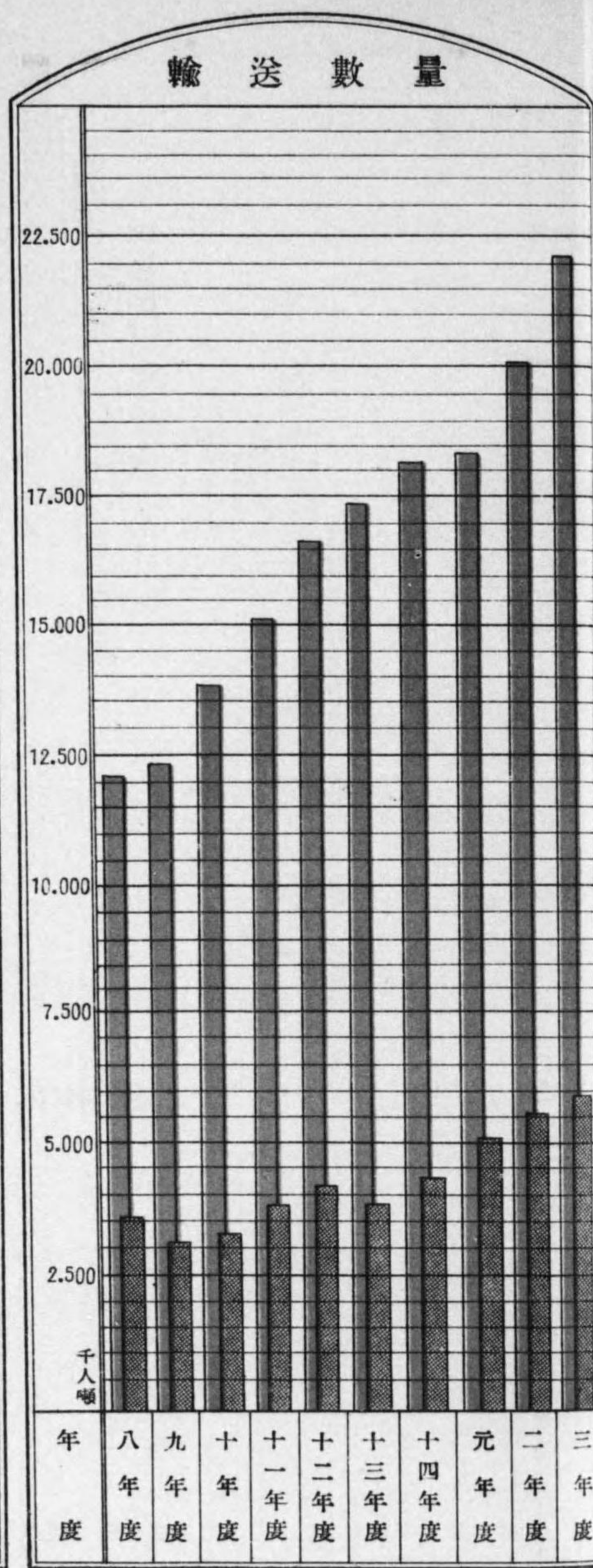


第一號圖表

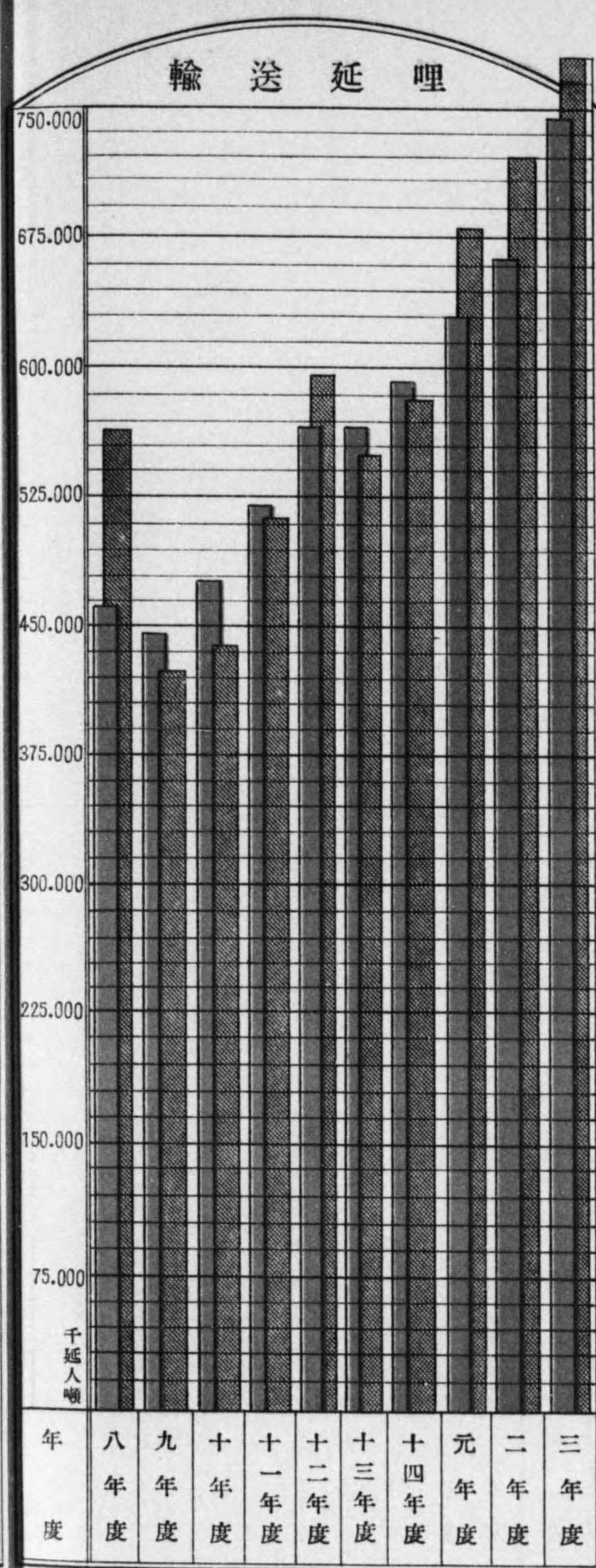
# 運輸成績累年圖表



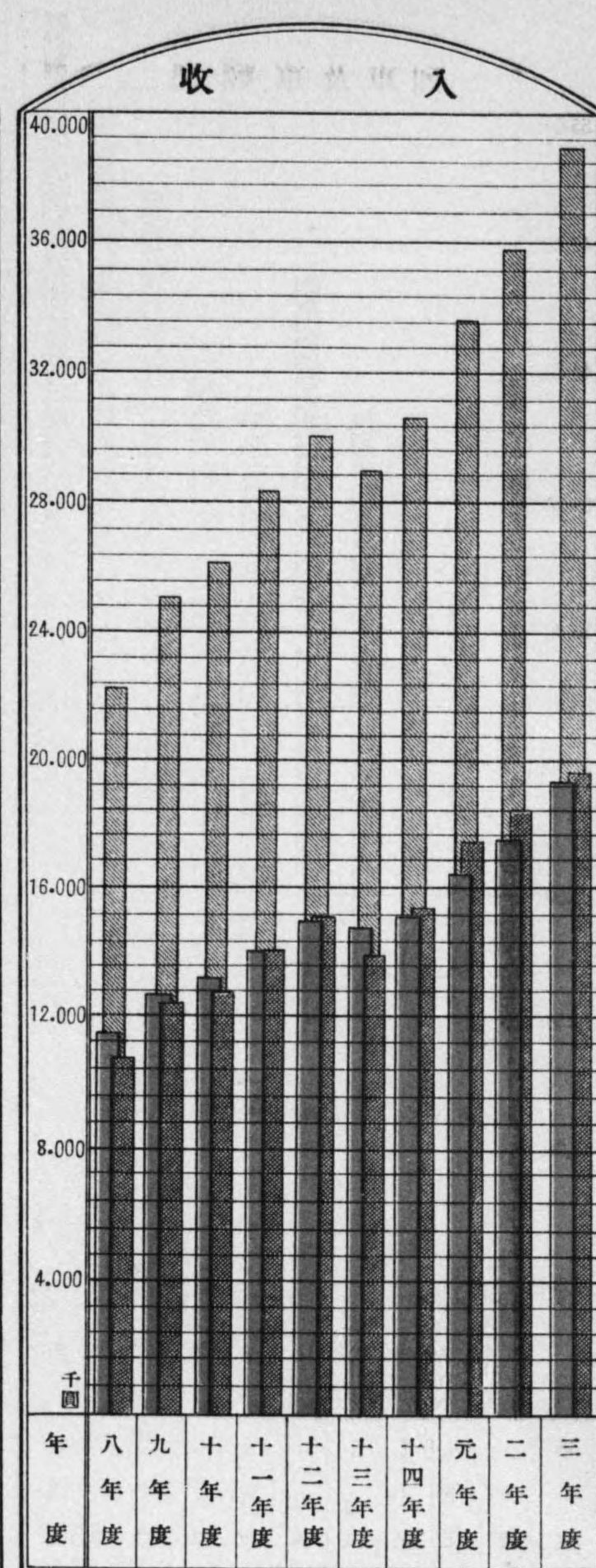
■ 列車哩 ■ 客車哩 ■ 貨車哩



■ 旅客人員 ■ 貨物噸數



■ 延人哩 ■ 延噸哩

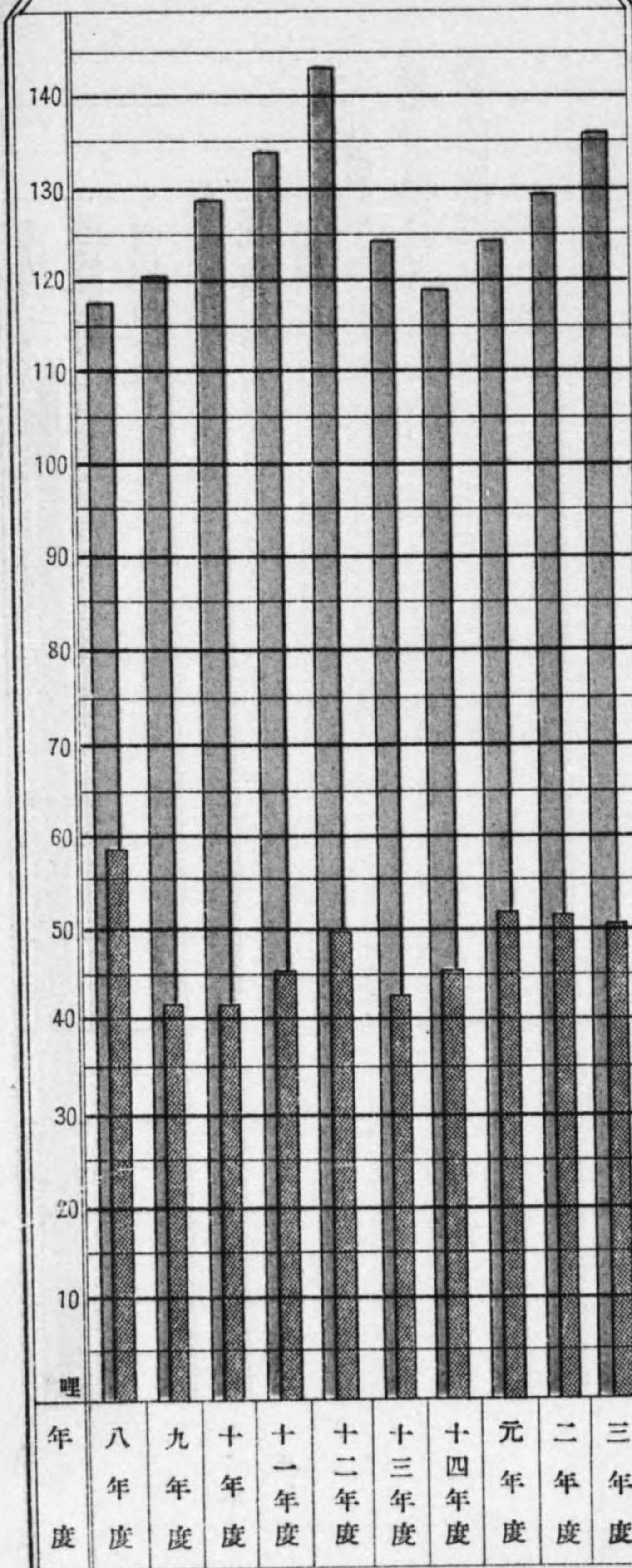


■ 旅客收入 ■ 貨物收入 ■ 旅客貨物收入

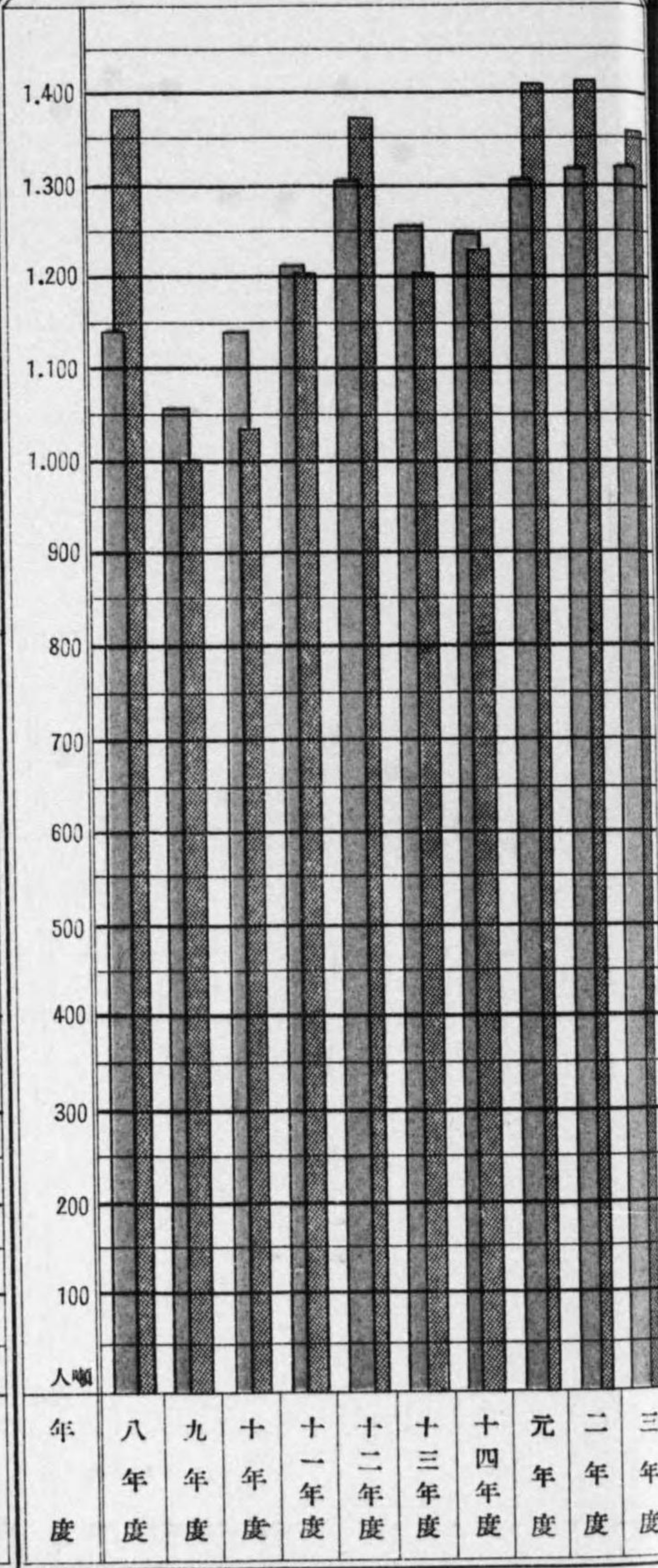
第二號圖表

# 運輸成績累年圖表

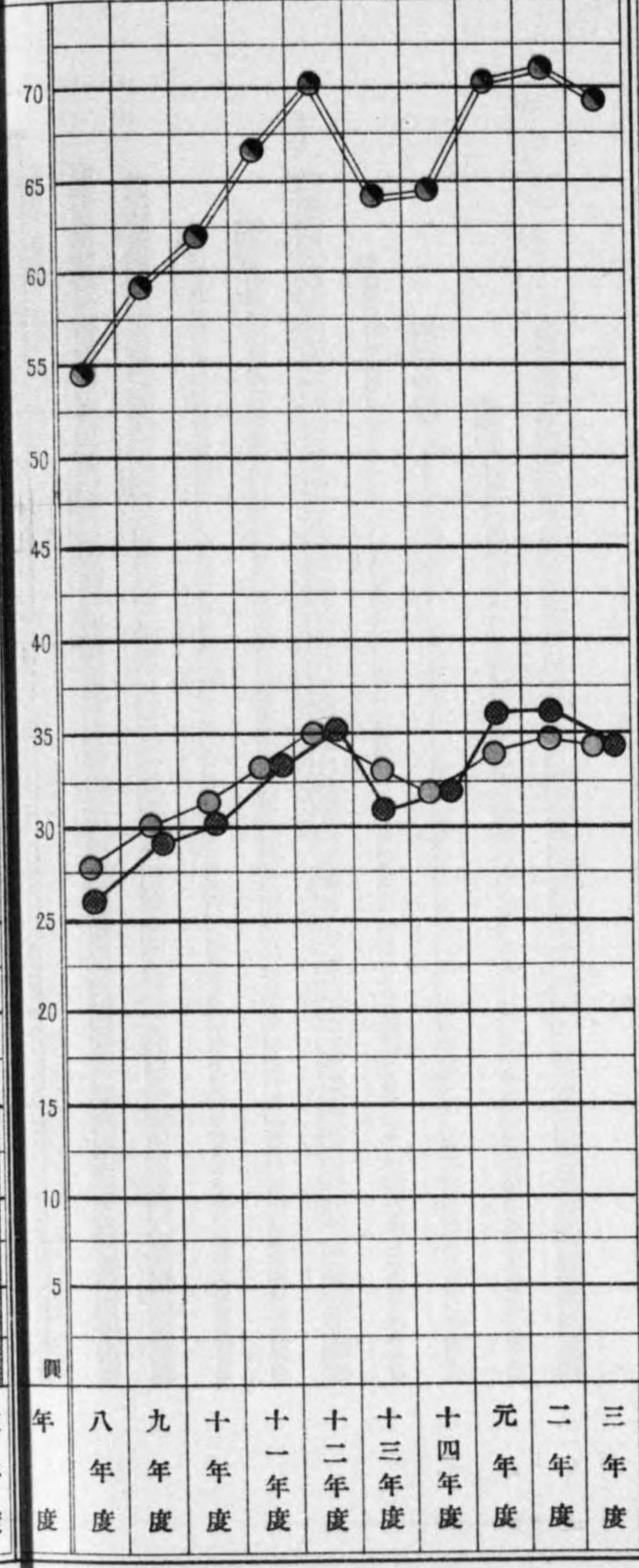
一車一日平均走行哩



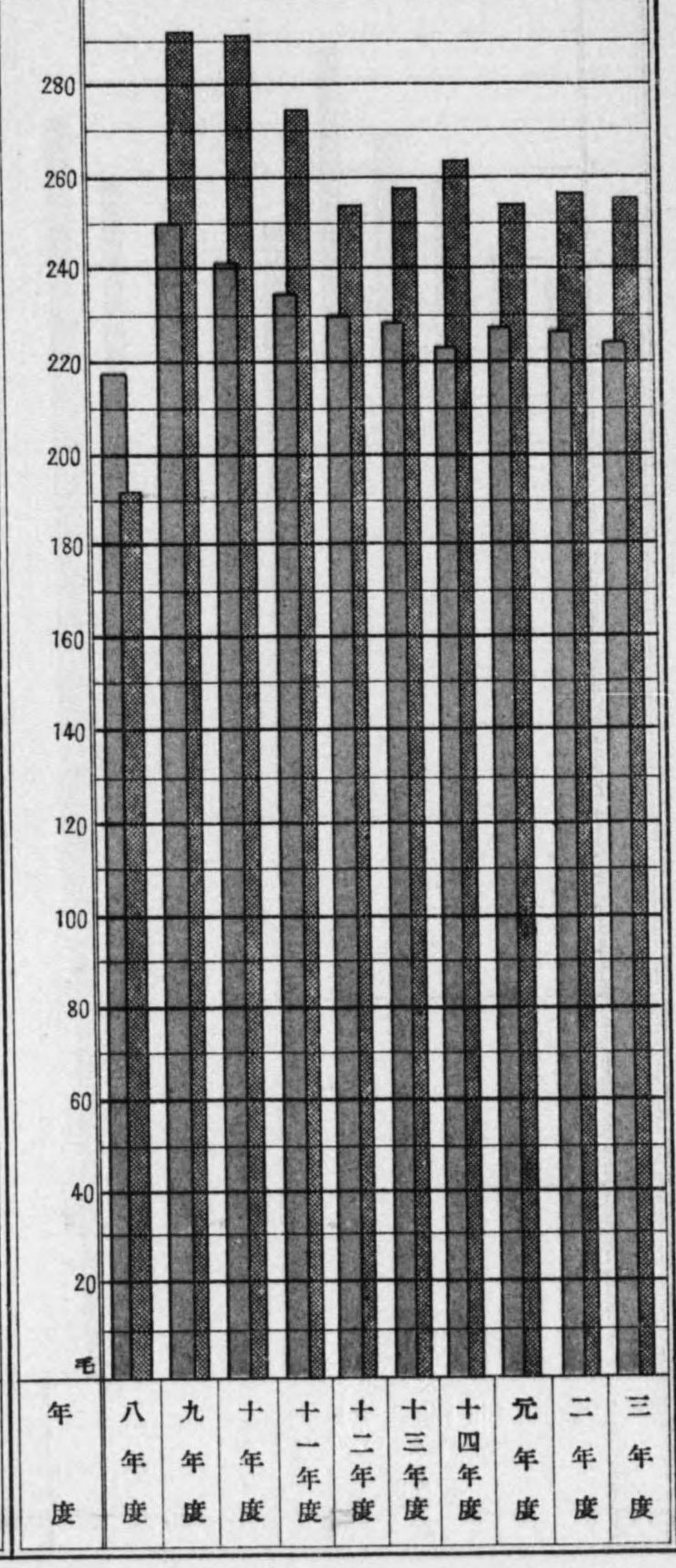
一日一哩平均數量



一日一哩平均收入



一人噸一哩平均運賃



客車哩 貨車哩

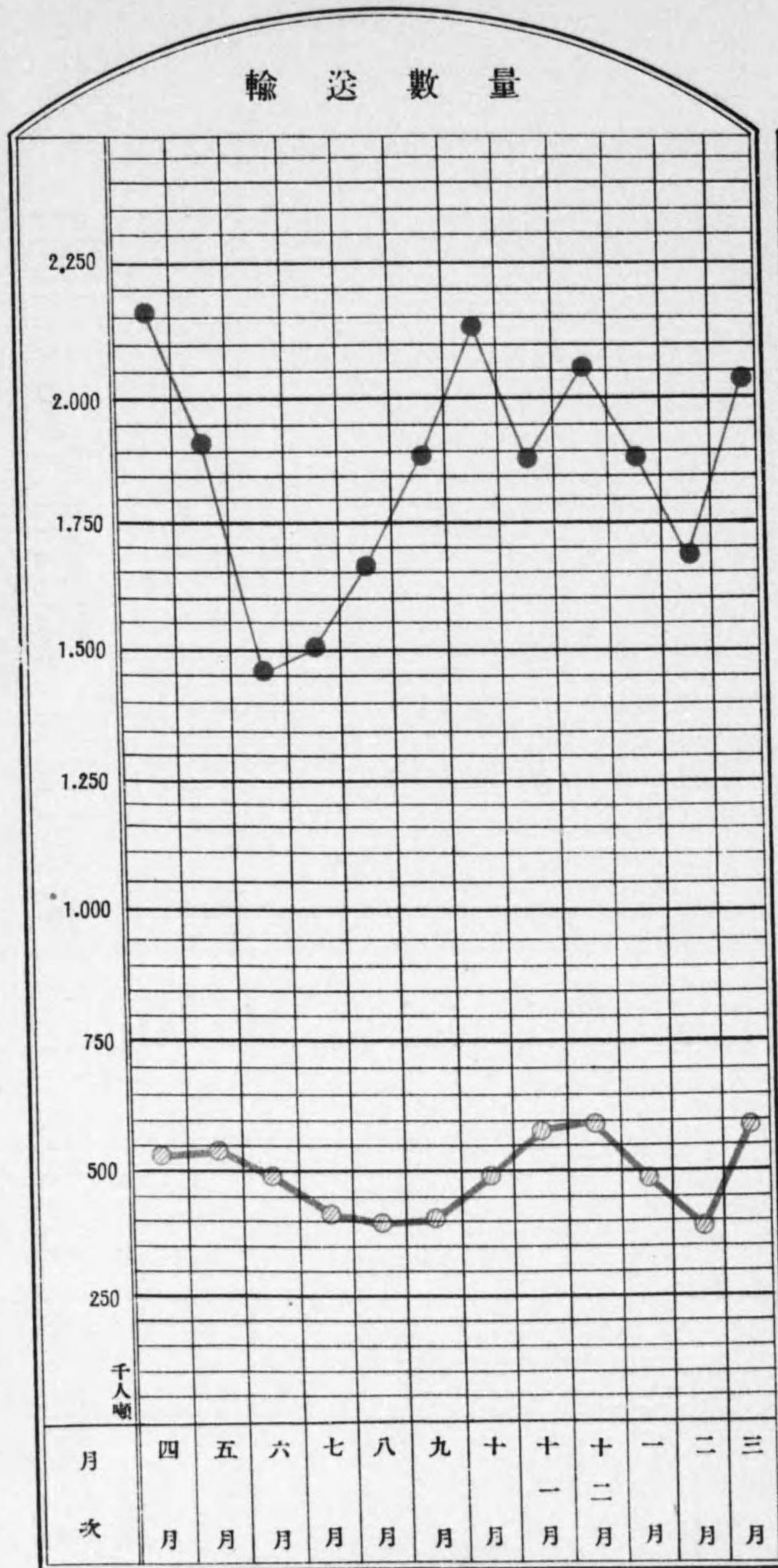
旅客人員 貨物噸數

旅客收入 貨物收入 旅客貨物收入

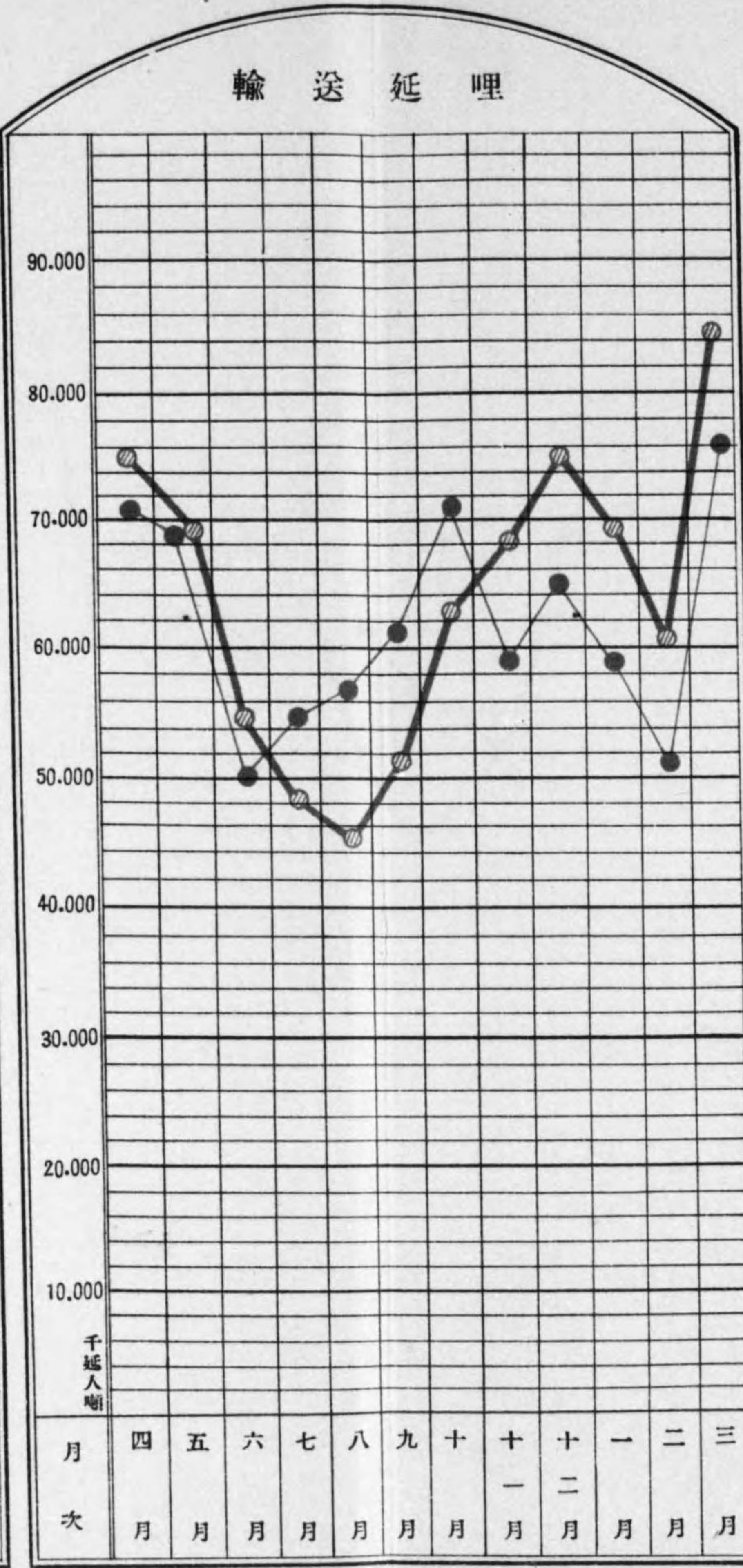
旅客 貨物

# 運輸成績月別圖表

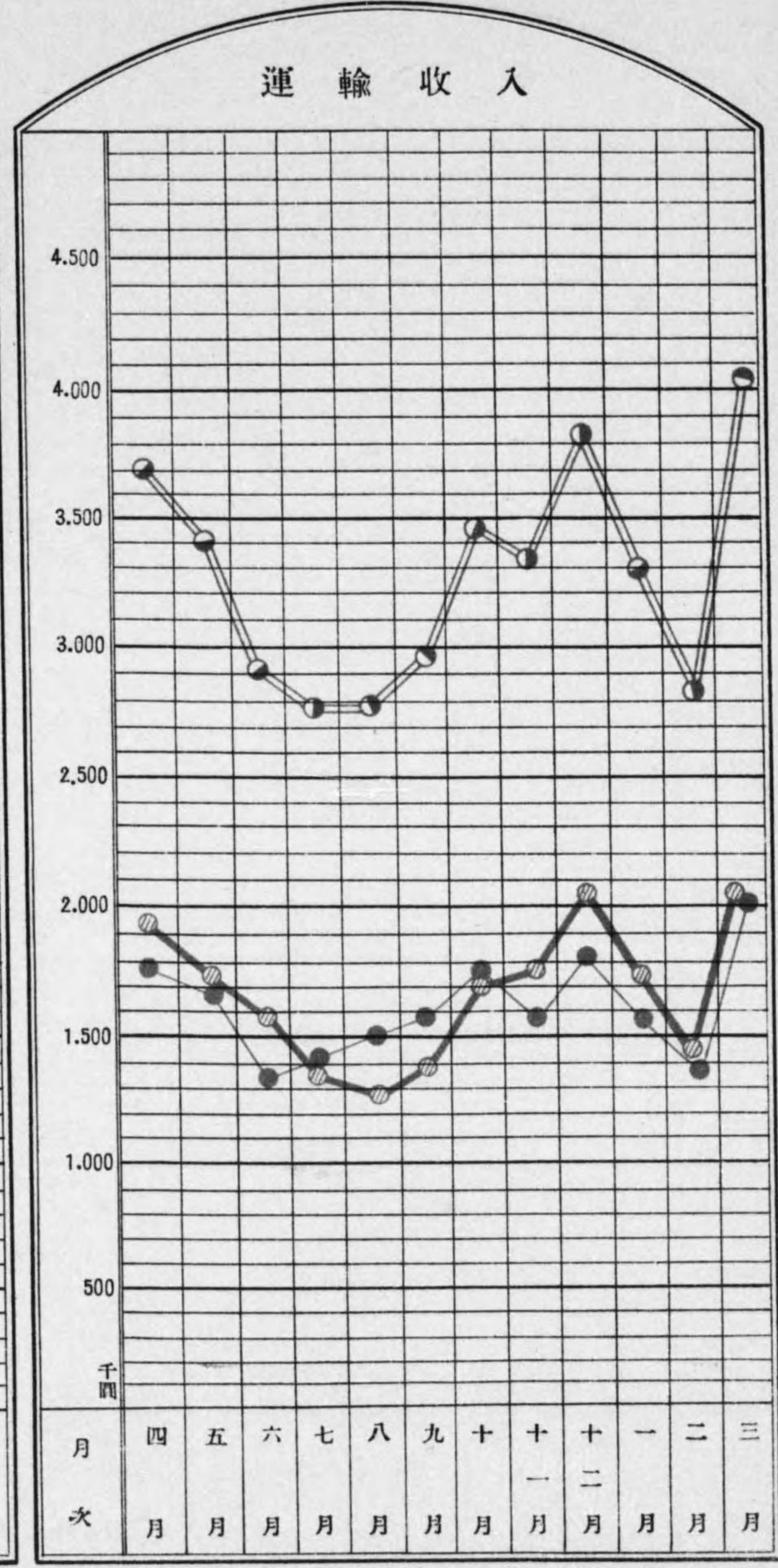
第三號圖表



●—● 旅客人員  
○—○ 貨物噸數



●—● 延人哩  
○—○ 延噸哩

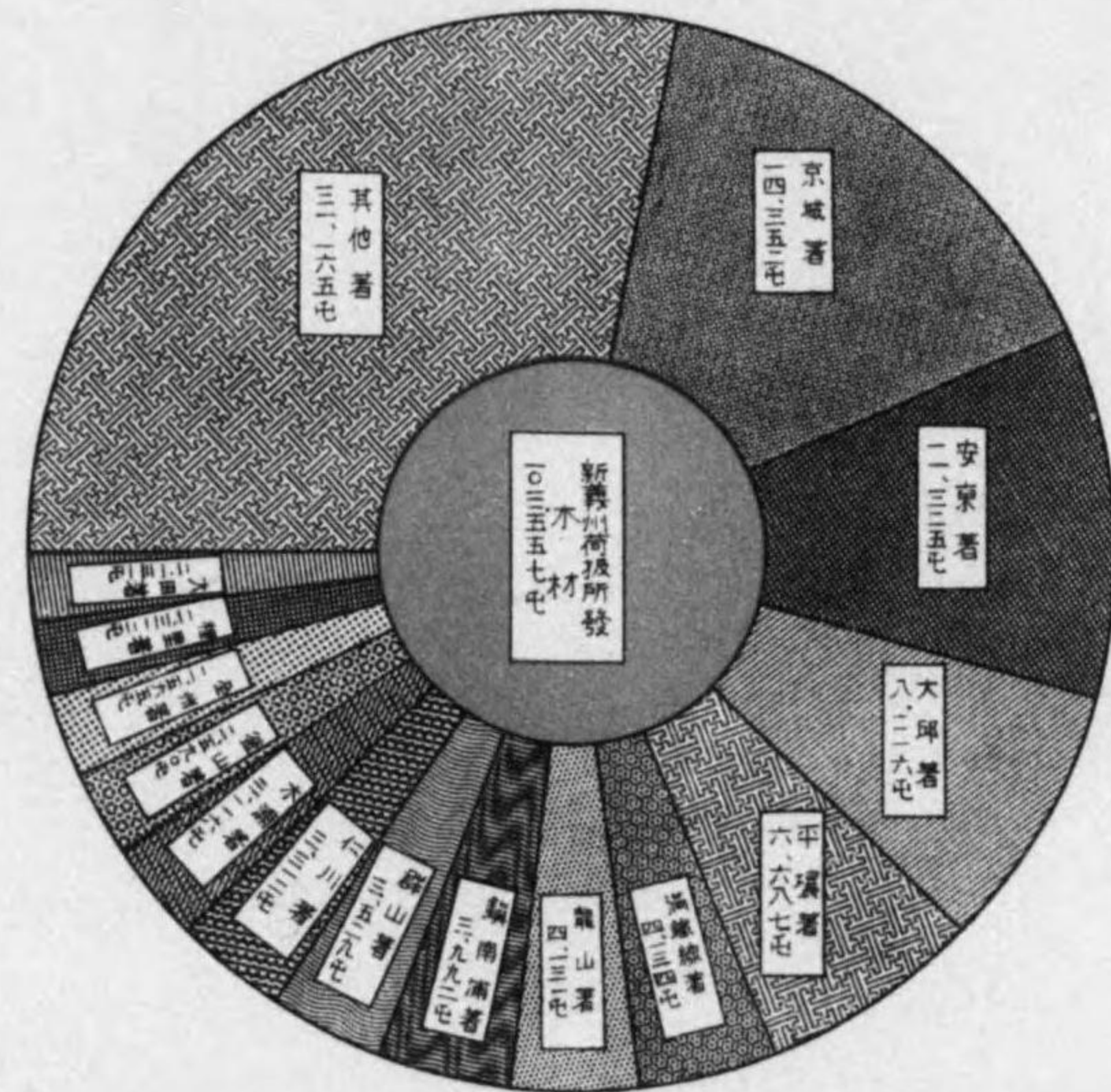
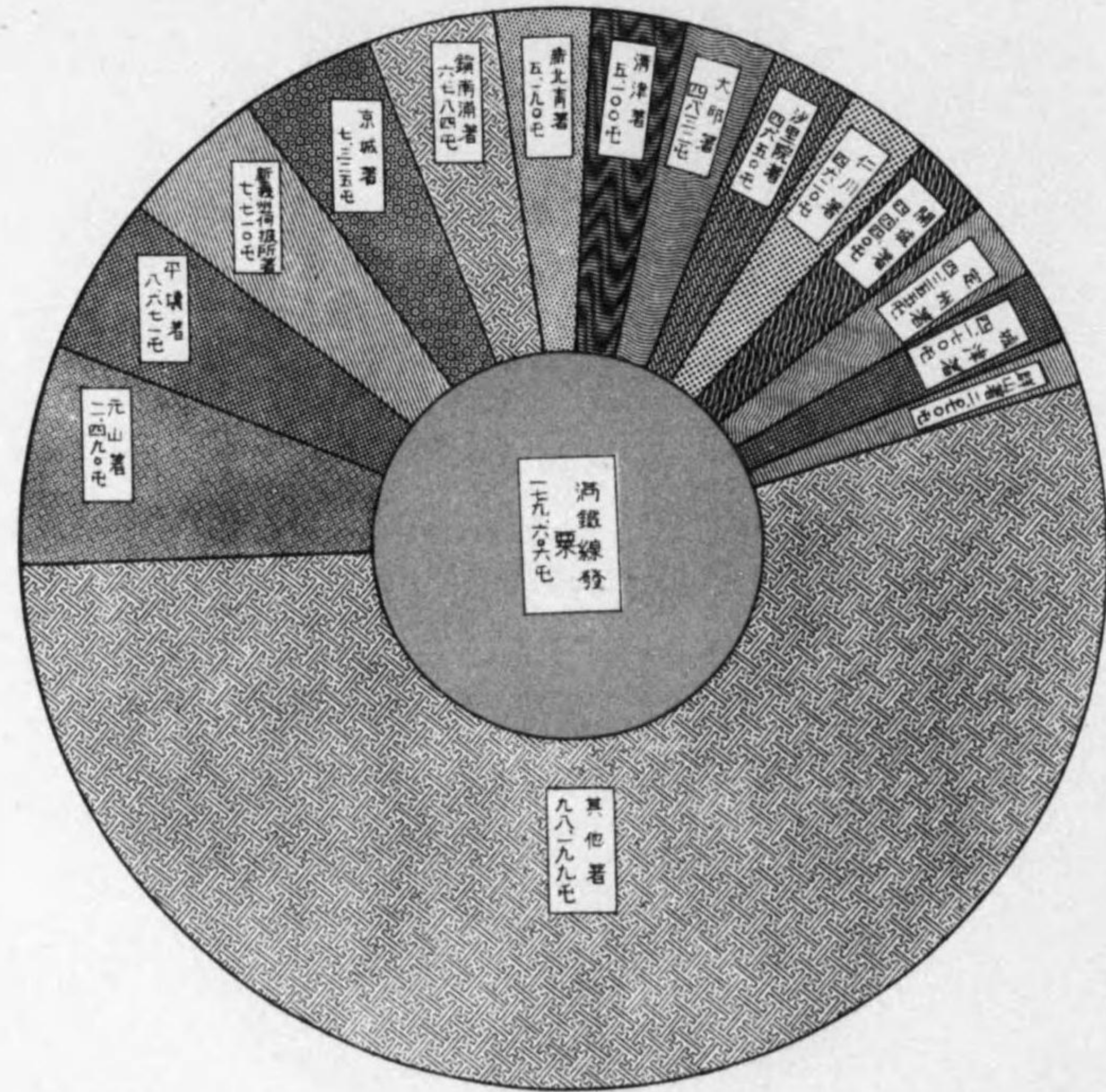
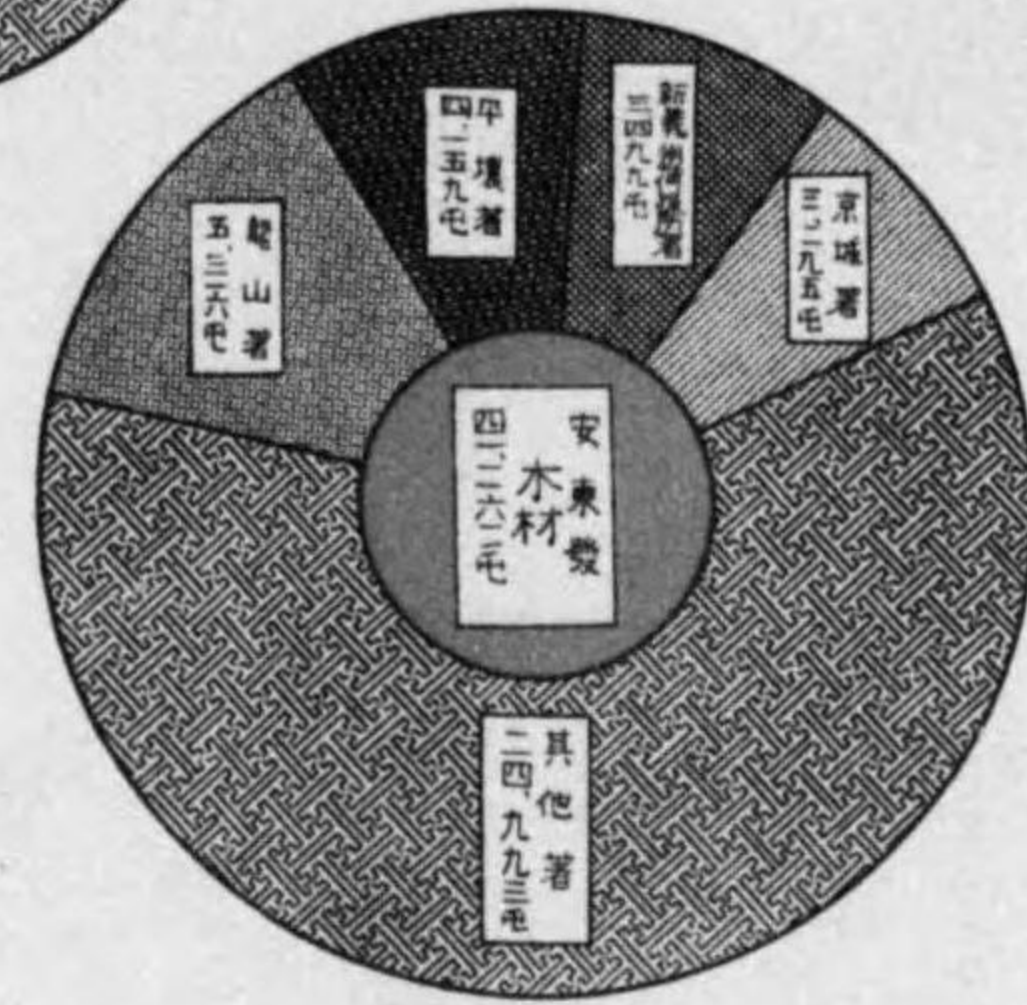
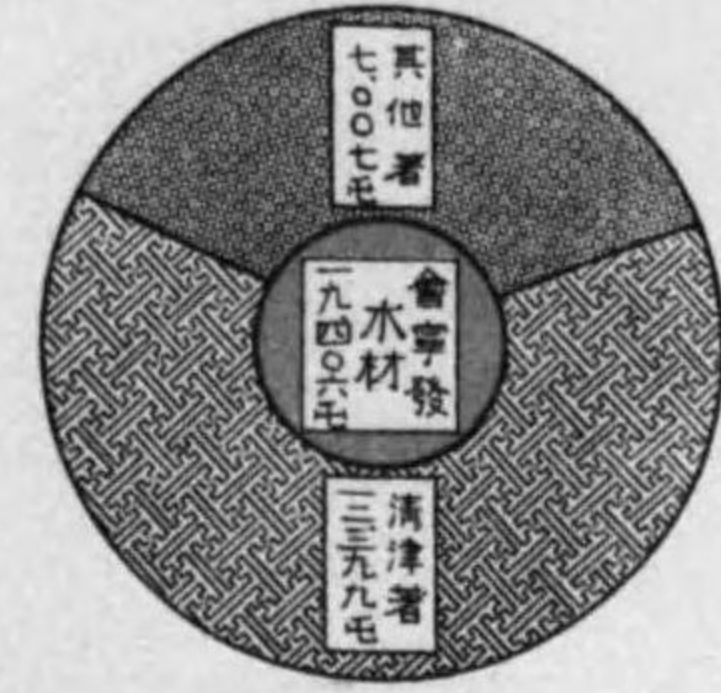
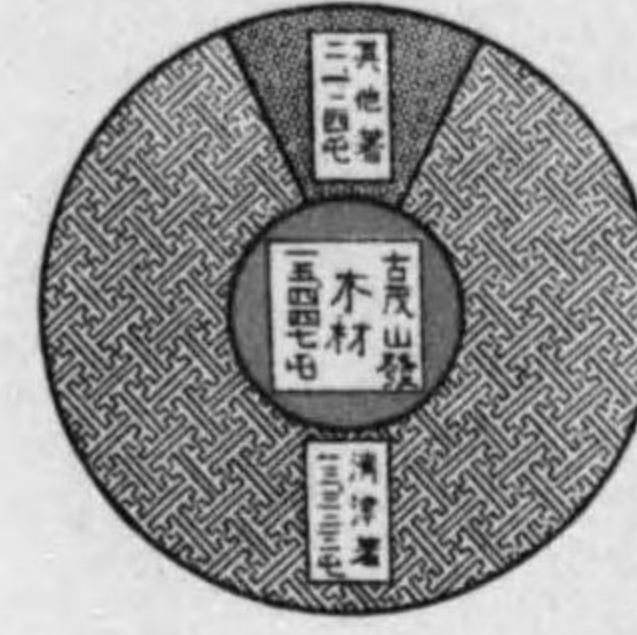
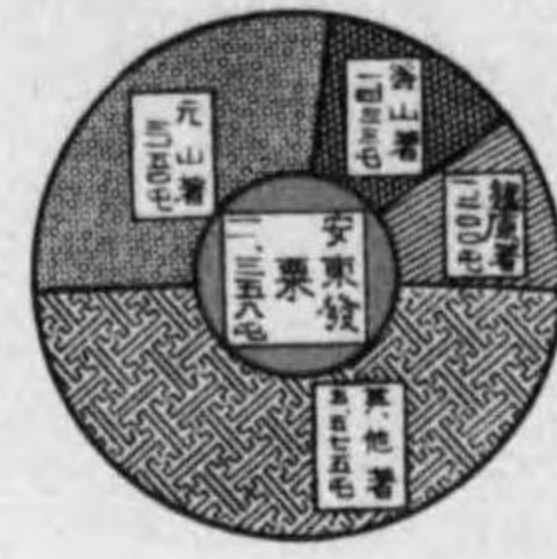
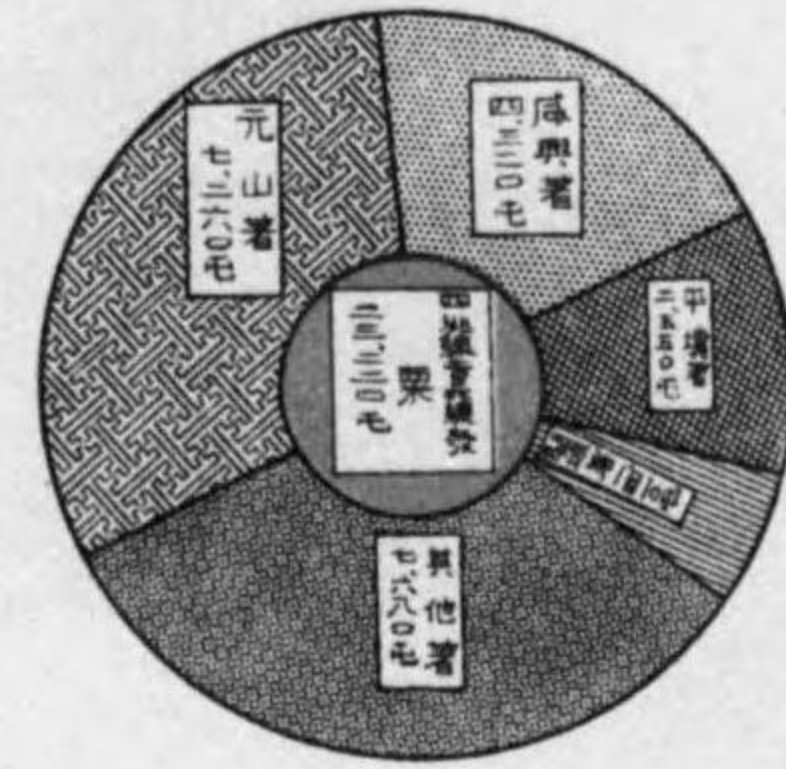


●—● 旅客收入  
○—○ 貨物收入  
○—○ 旅客貨物收入



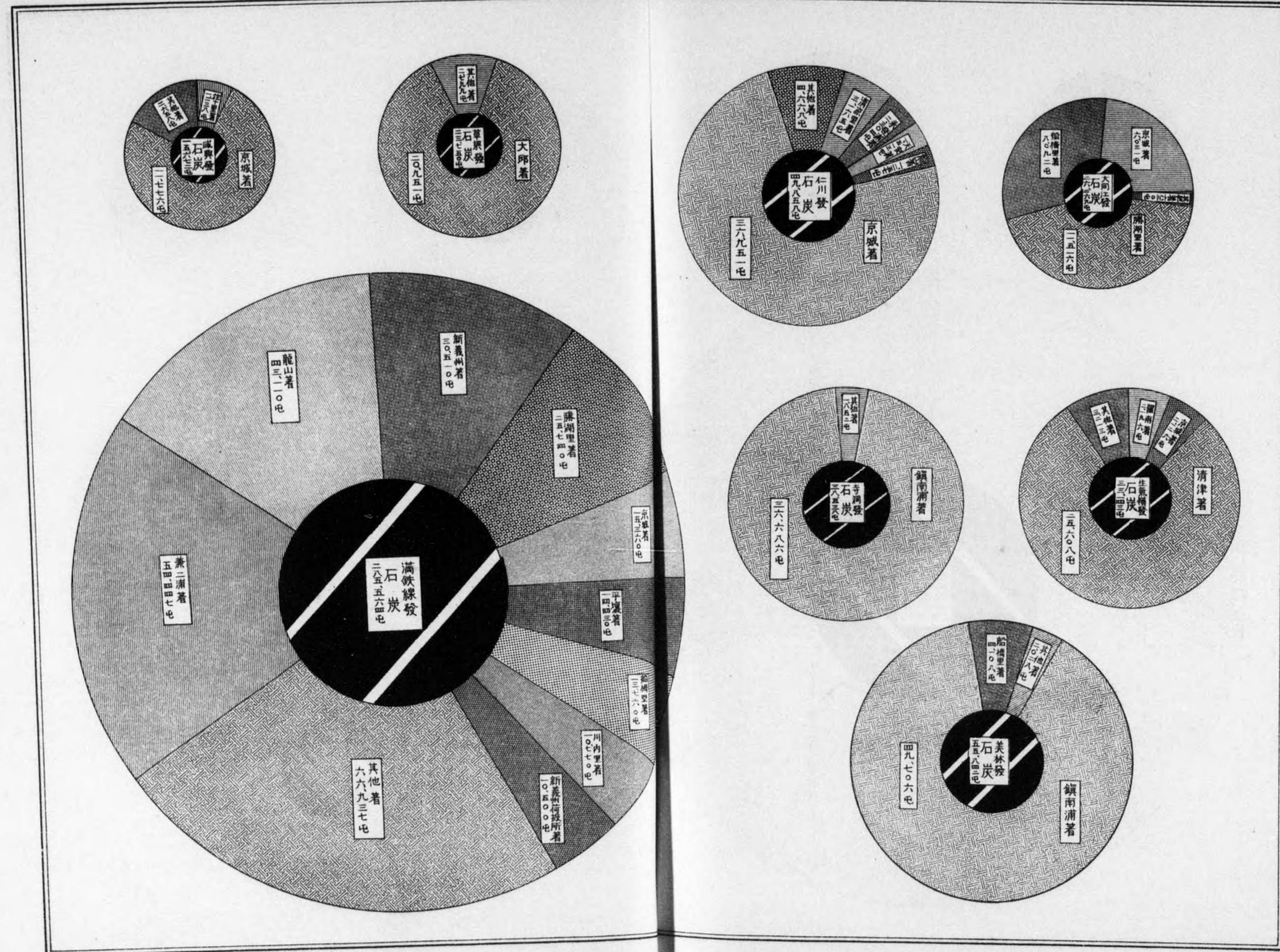
# 主要貨物發著圖表

第五號圖表



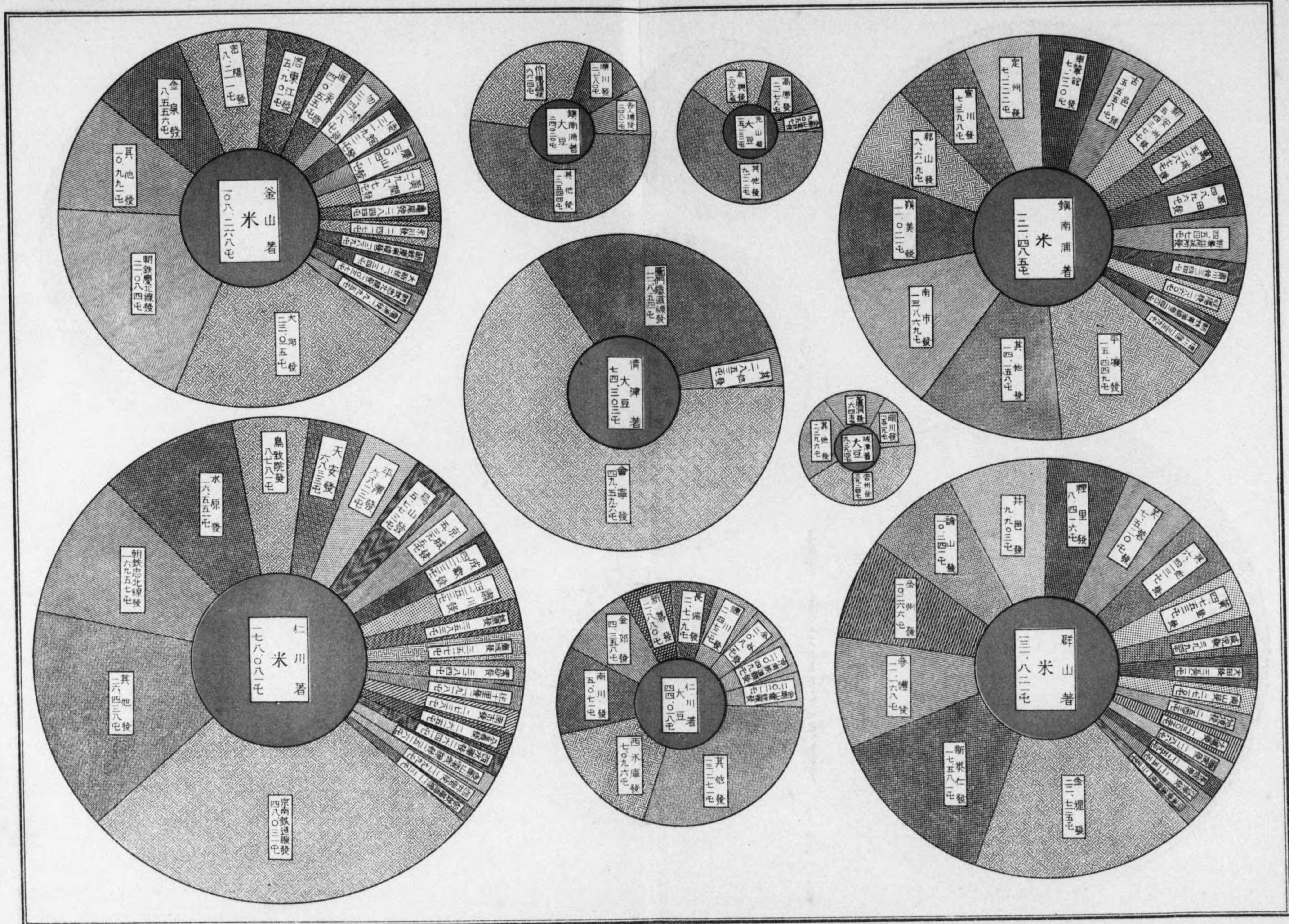
# 主要貨物發著圖表

第六號圖表

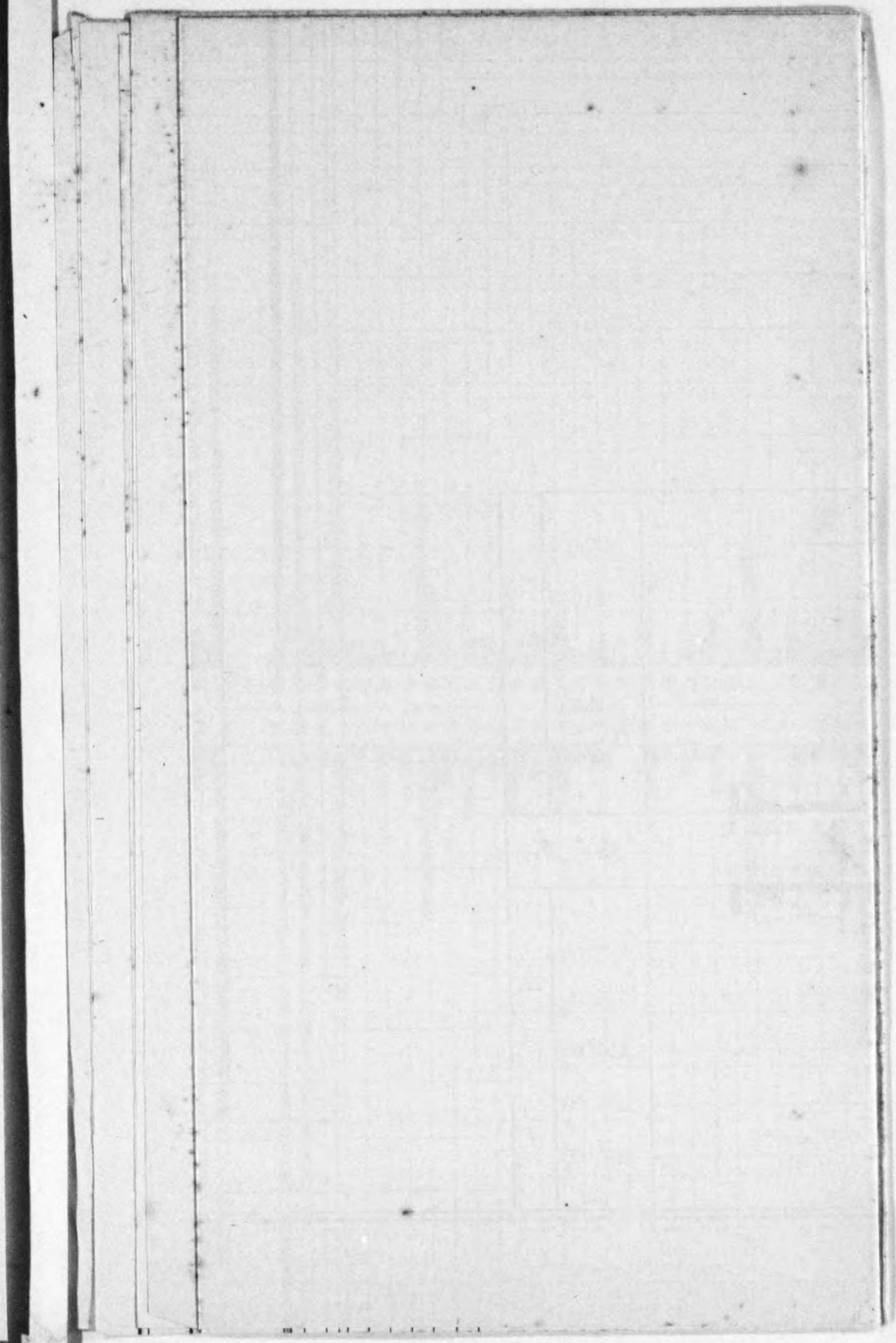
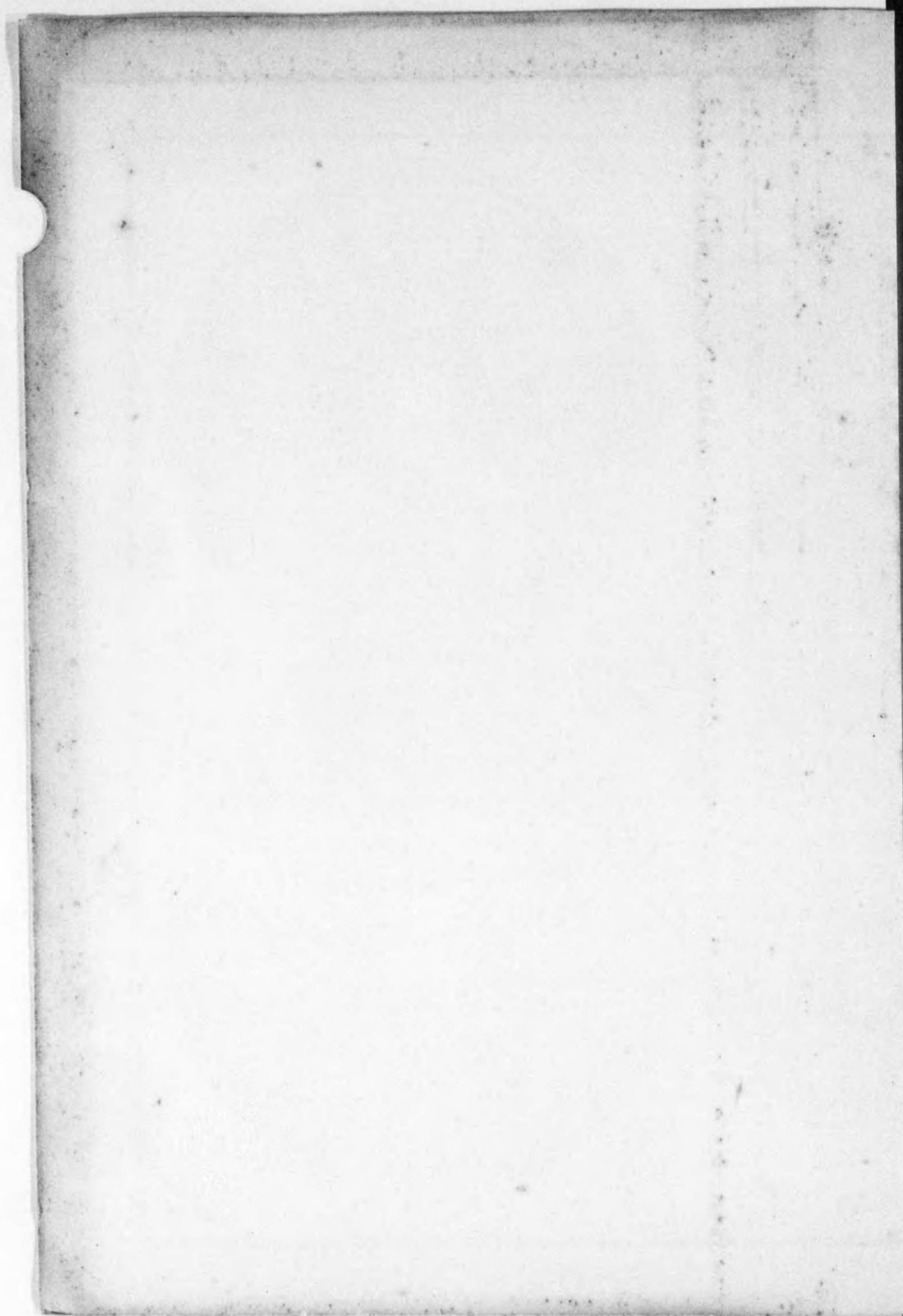


# 主要貨物發著圖表

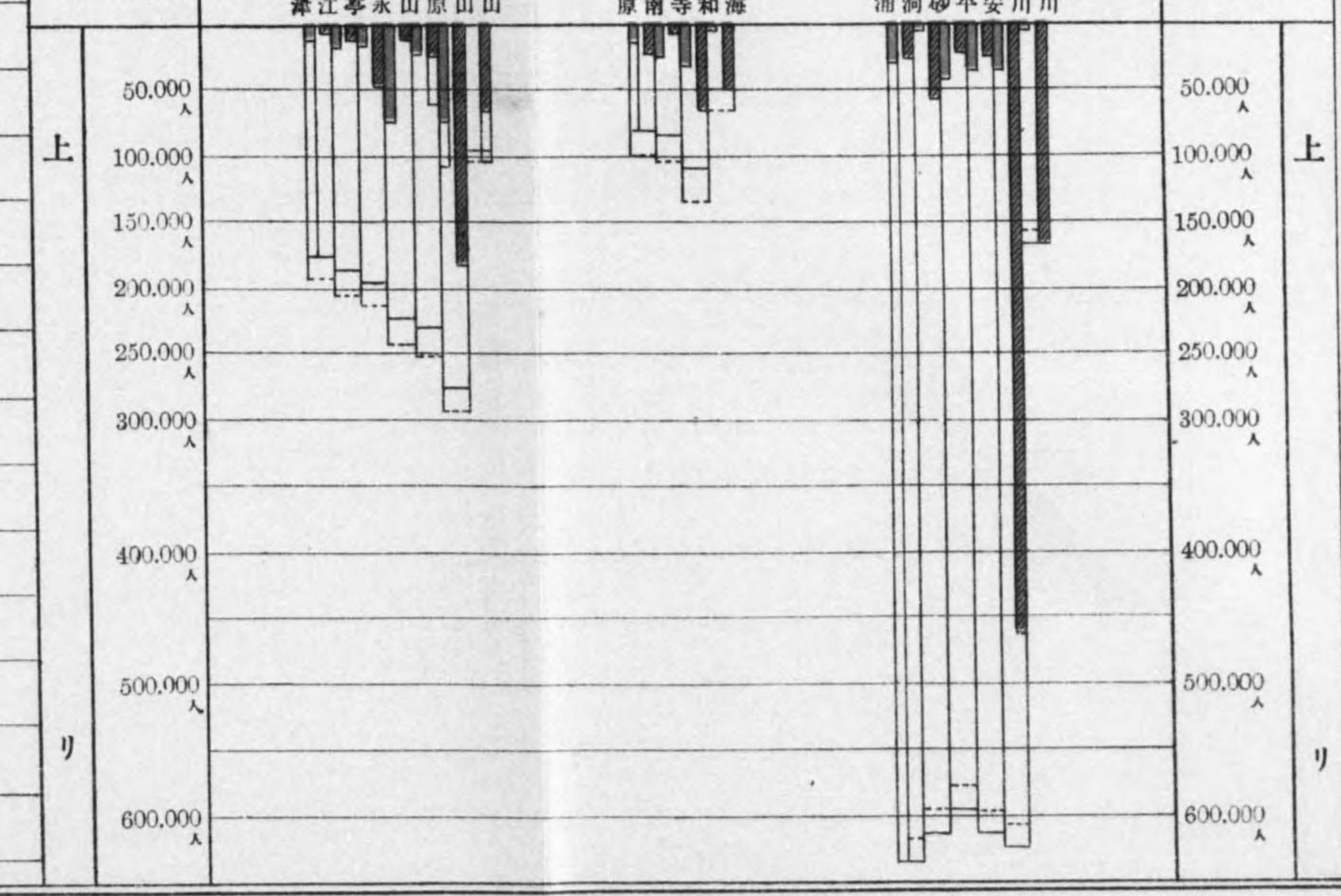
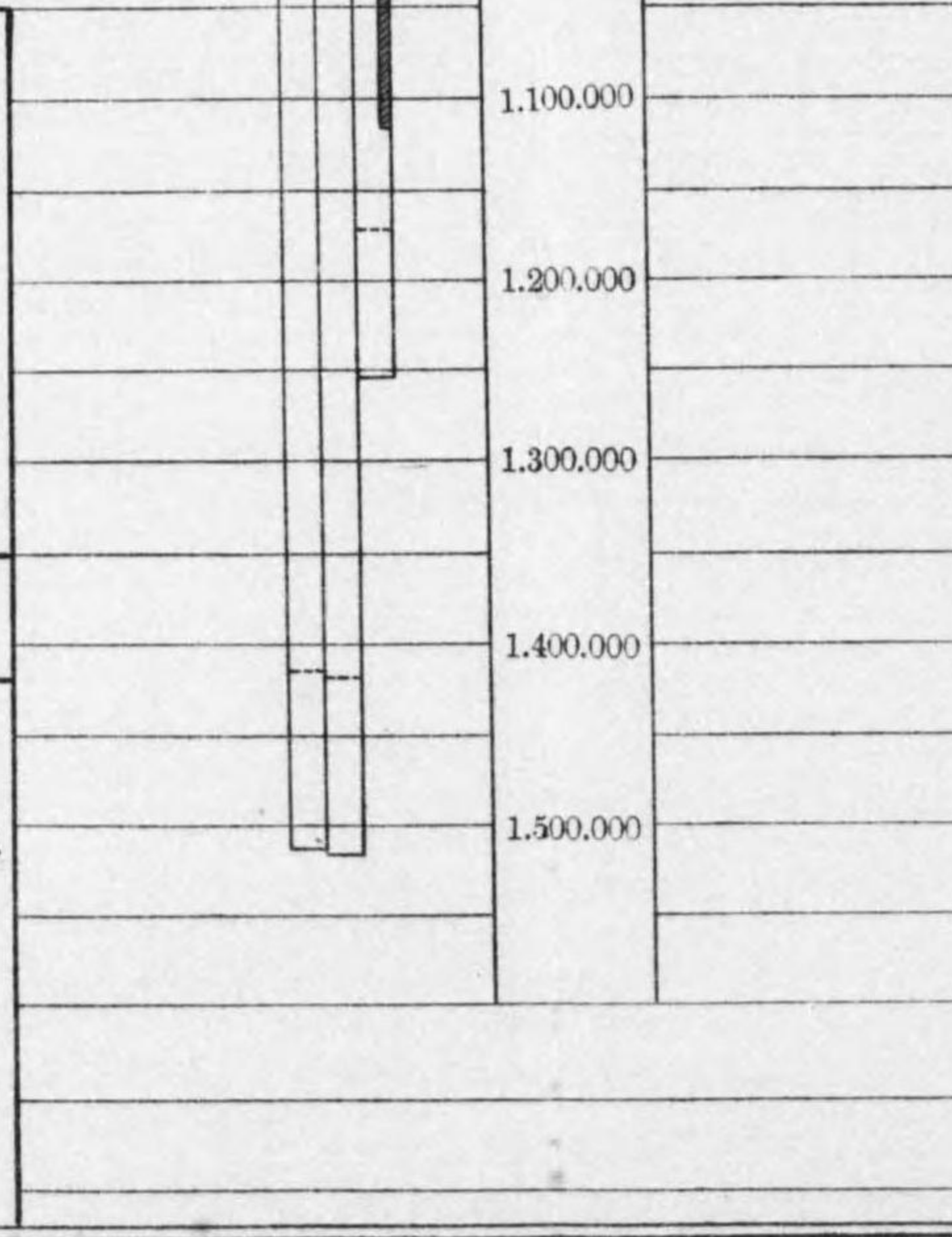
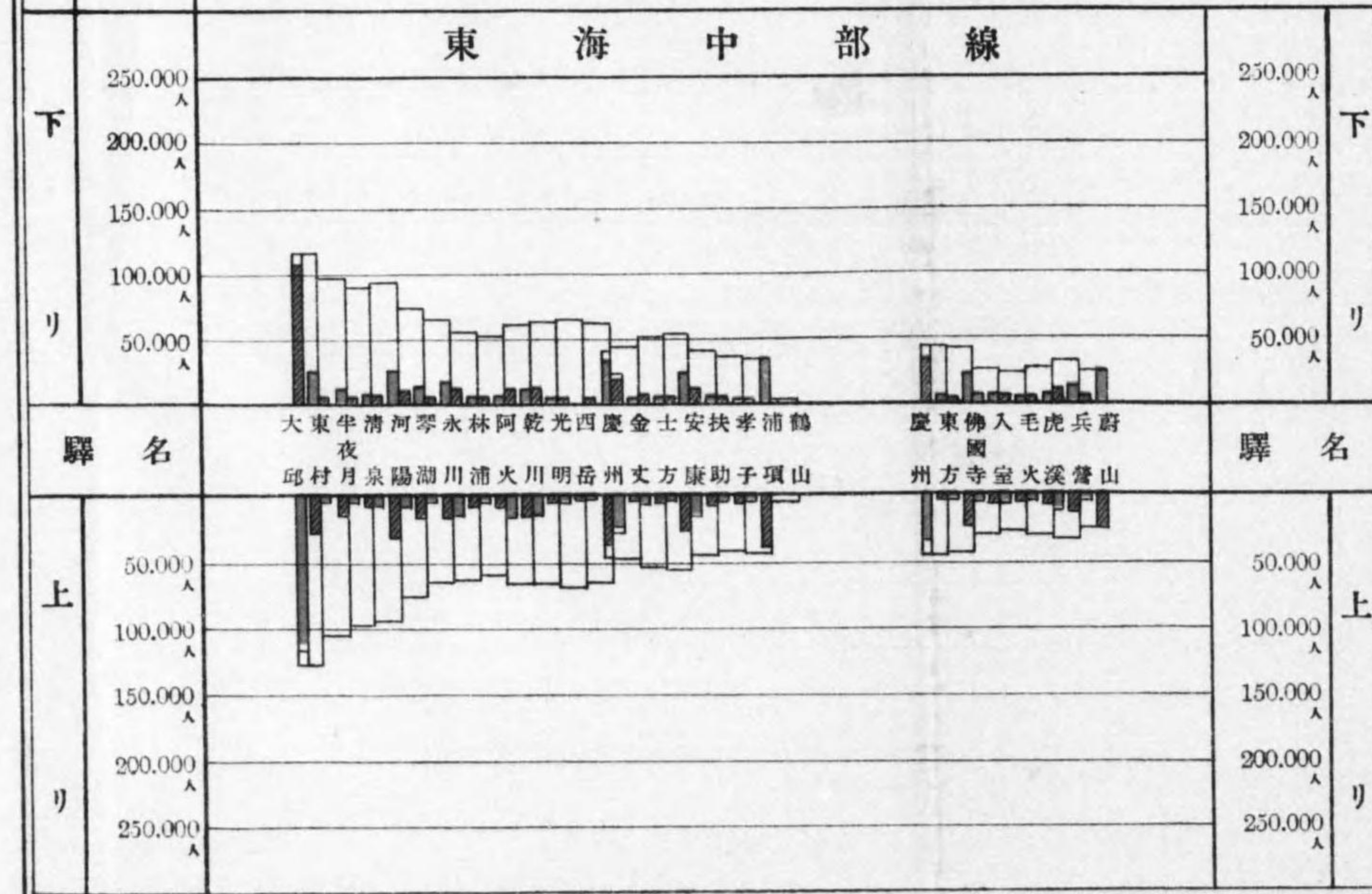
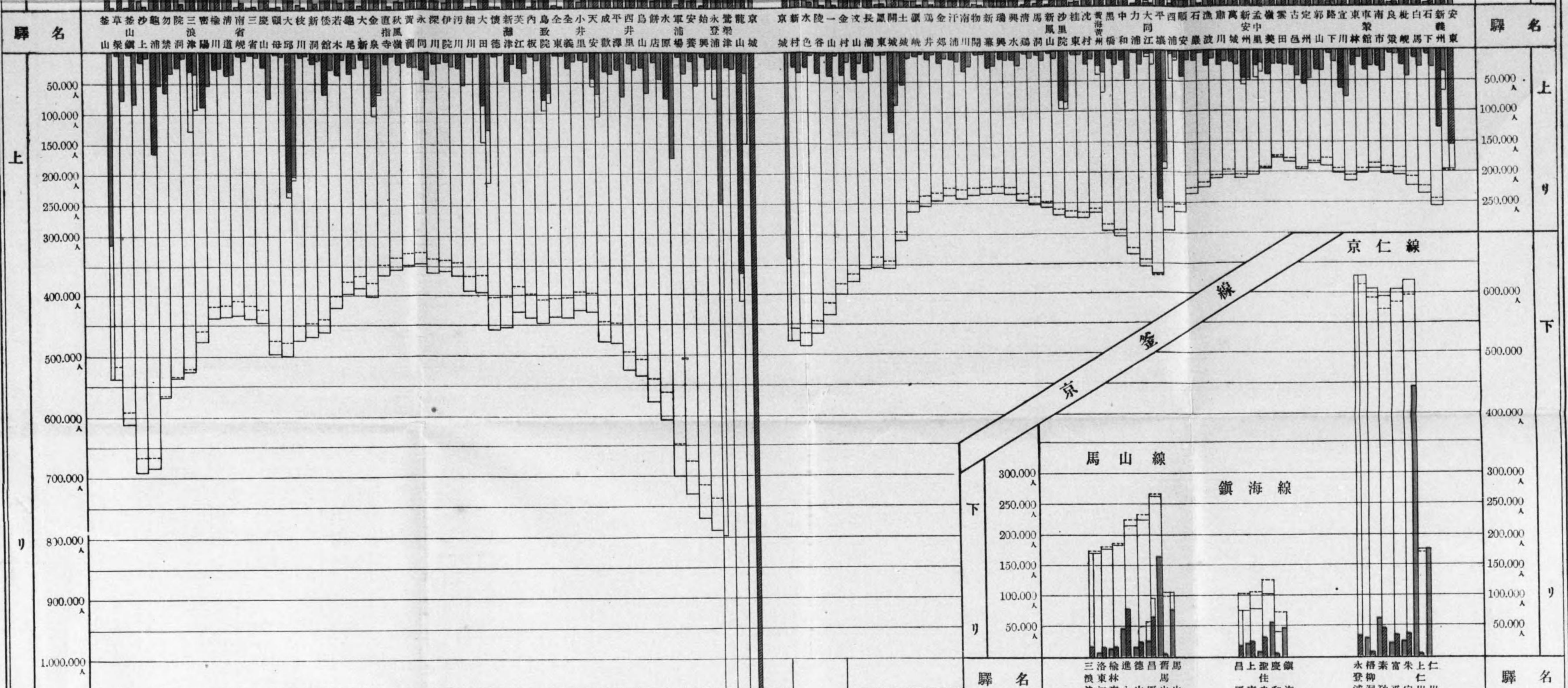
第七號圖表



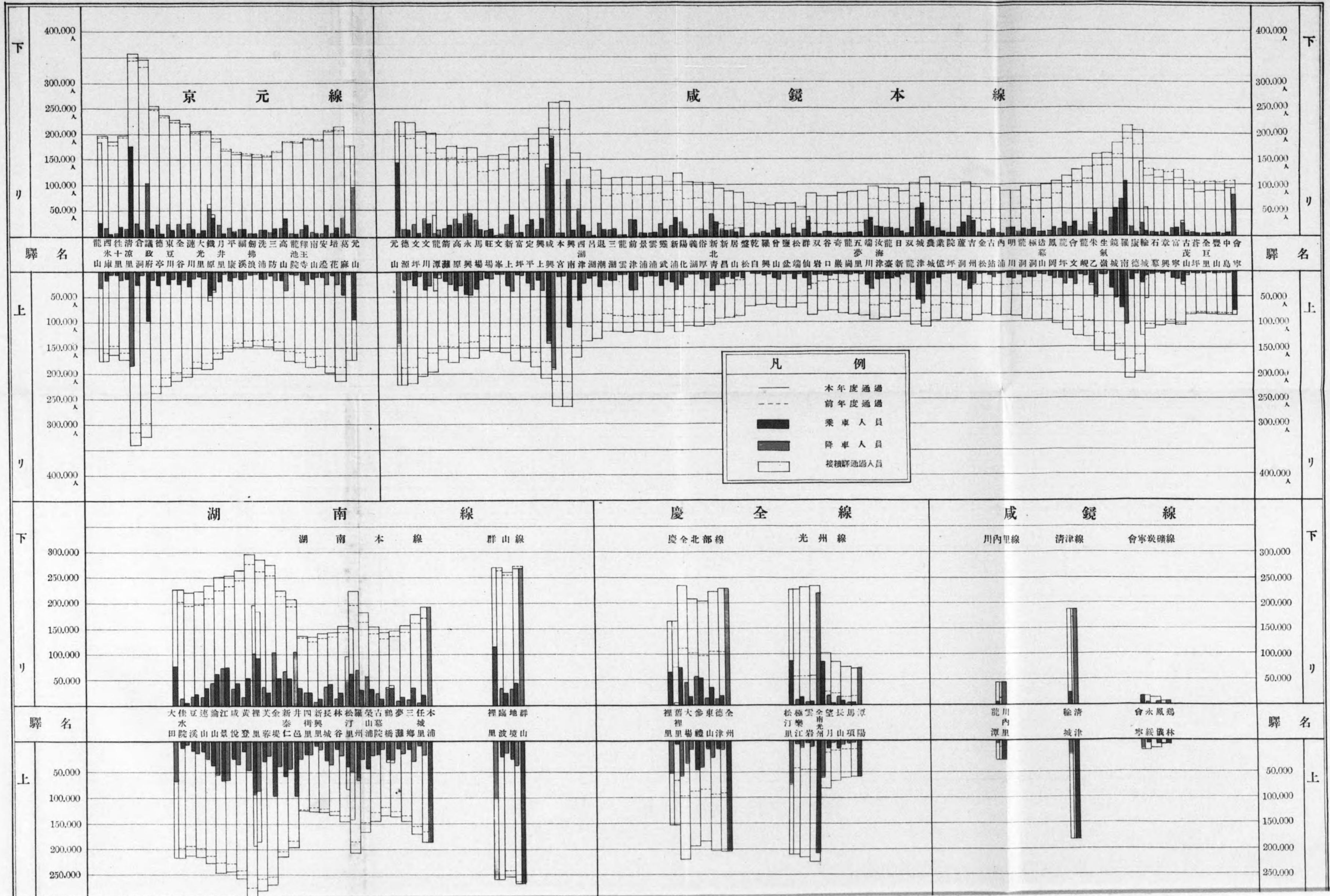


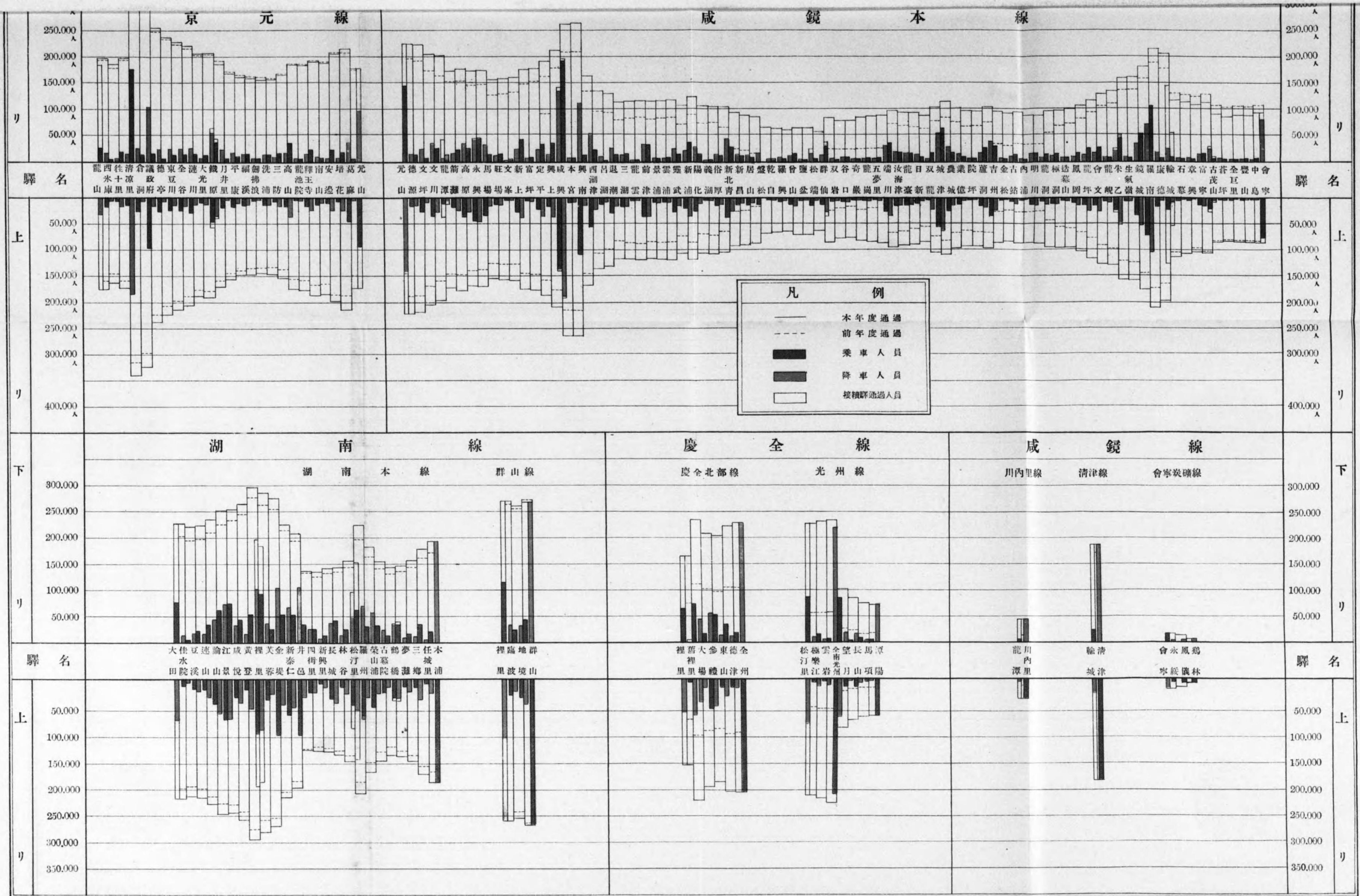






# 旅客通過圖表





京元線

咸鏡本線

湖南線

慶全線

咸鏡線

凡例

- 本年度通過
- - - 前年度通過
- 乗車人員
- 降車人員
- 接續通過人員

驛名

上

下

驛名

上

下

驛名

上

下

驛名

上

下

龍西往清倉議德東全漣大鏡月平福御洗三高龍輝南安培葛元  
水十涼政豆光井拂池王  
山庫里里洞府亭川谷川里原里廣溪浪浦訪山院寺山邊花麻山

元德文龍箭高永馬旺文新富定興成本興西昌退三龍前景雲靈新陽義俗新  
山源坪川潭灘原興場場峯上坪平上興宮南津湖湖雲津浦浦武浦化湖厚青昌山松自興山盆端仙岩口巖崗里川津臺新龍津城億坪洞州松站浦川洞洞山岡坪文岬乙嶺城南德城縣興寧山坪里山島寧

大佳豆連論江成黃裡美金新井四新長林松羅榮古鶴夢三任本  
水院溪山山景悅登里蓉堤仁邑里里城谷里州浦院橋灘鄉里浦  
里波境山

裡舊大參東德全  
里里場禮山津州

松嶺雲全望長馬潭  
汀樂里江岩州月山項陽

龍川  
內潭里

輪清  
城津

會永鳳鷄  
寧綏儀林





凡 例	
—	本年度通過
- - -	前年度通過
■	發送噸數
■	到着噸數
□	接續通過噸數

京仁線 平南線  
 兼二浦線 平壤炭礦線

驛名 永登浦 梧柳 素砂 富平 朱安 仁川  
 平壤 大平 降仙 岐陽 台城 眞城 葛池 眞南 銅洞  
 黃海州 長川 兼二浦 大里 船橋 寺洞 美林 青龍 勝湖 里龍

驛名

上

下

下

上

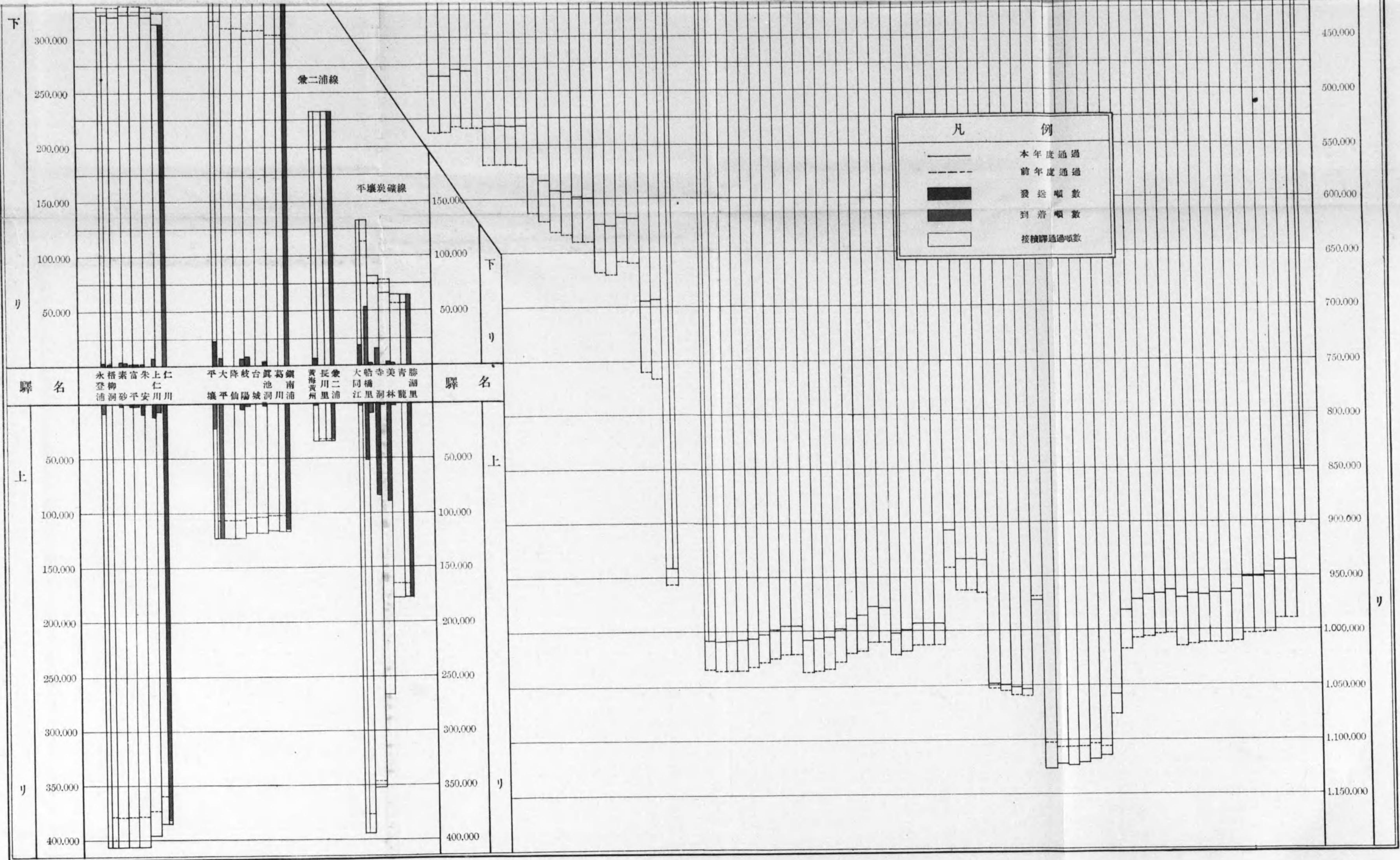
下

上

リ

リ

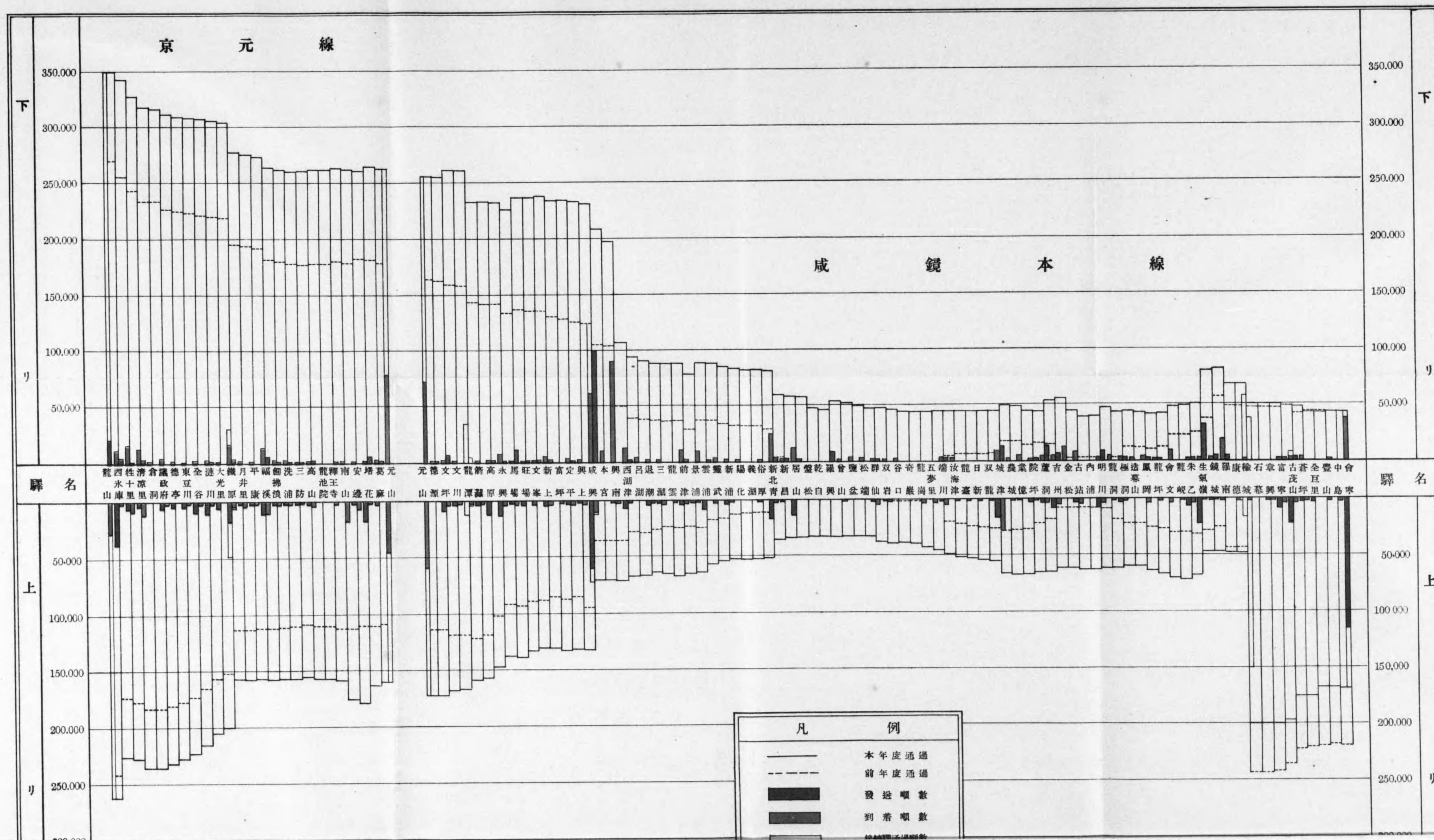
200,000  
 250,000  
 300,000  
 350,000  
 400,000  
 450,000  
 500,000  
 550,000  
 600,000  
 650,000  
 700,000  
 750,000  
 800,000  
 850,000  
 900,000  
 950,000  
 1,000,000  
 1,050,000  
 1,100,000

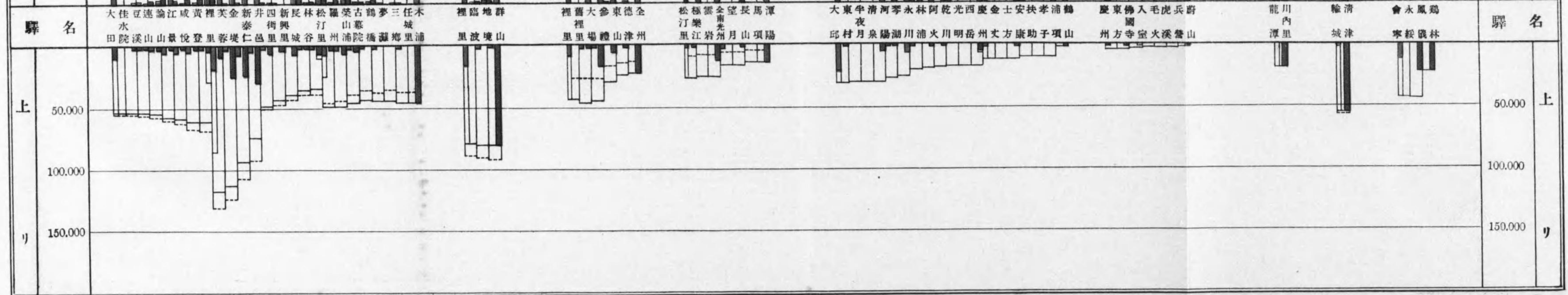
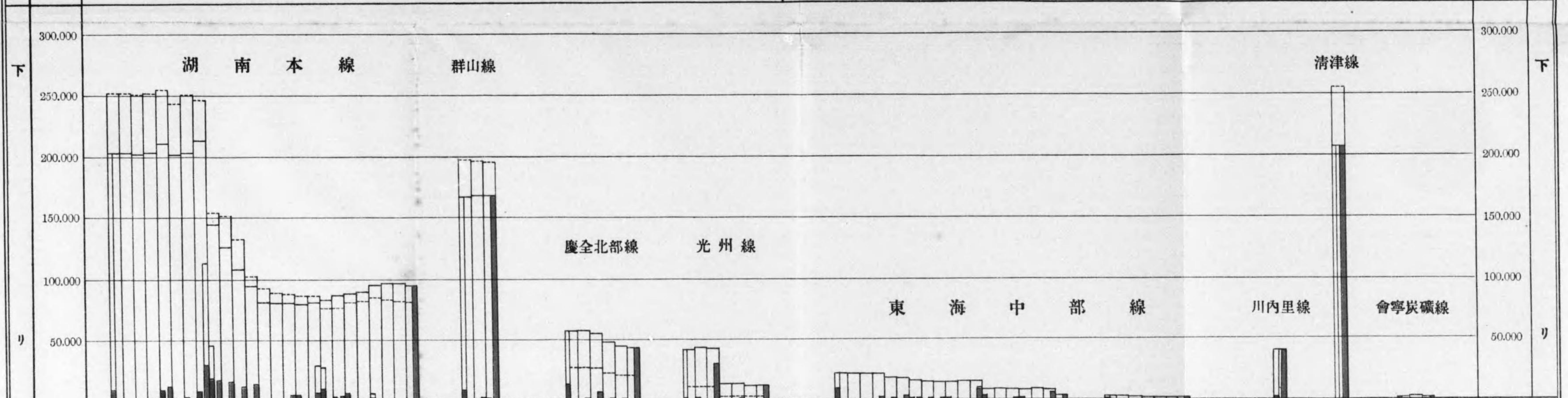
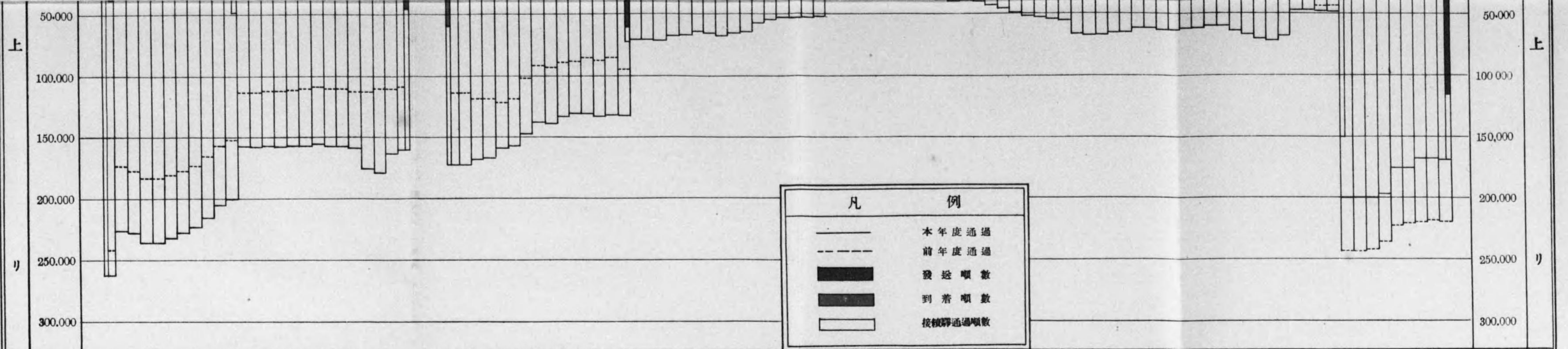


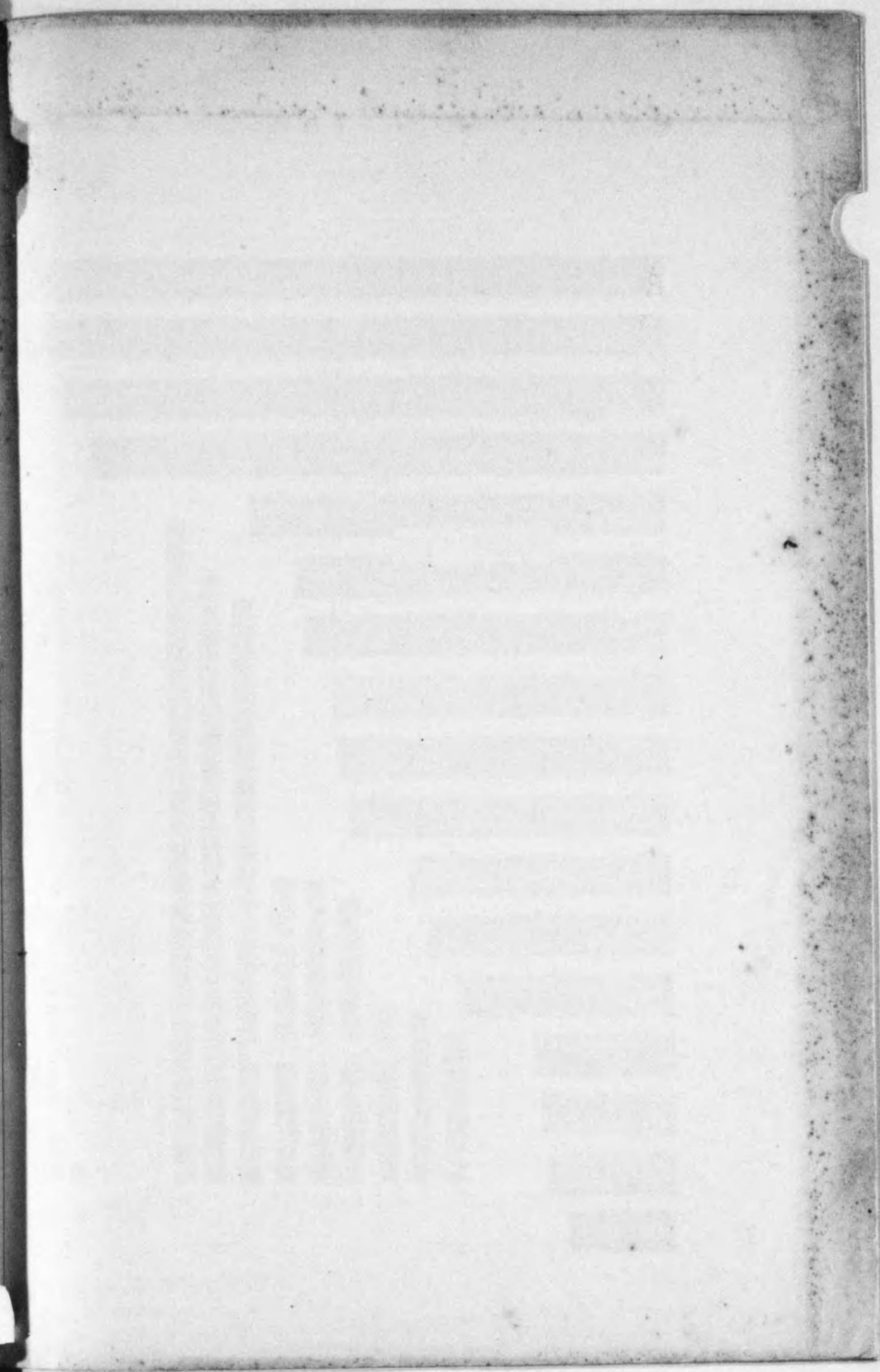
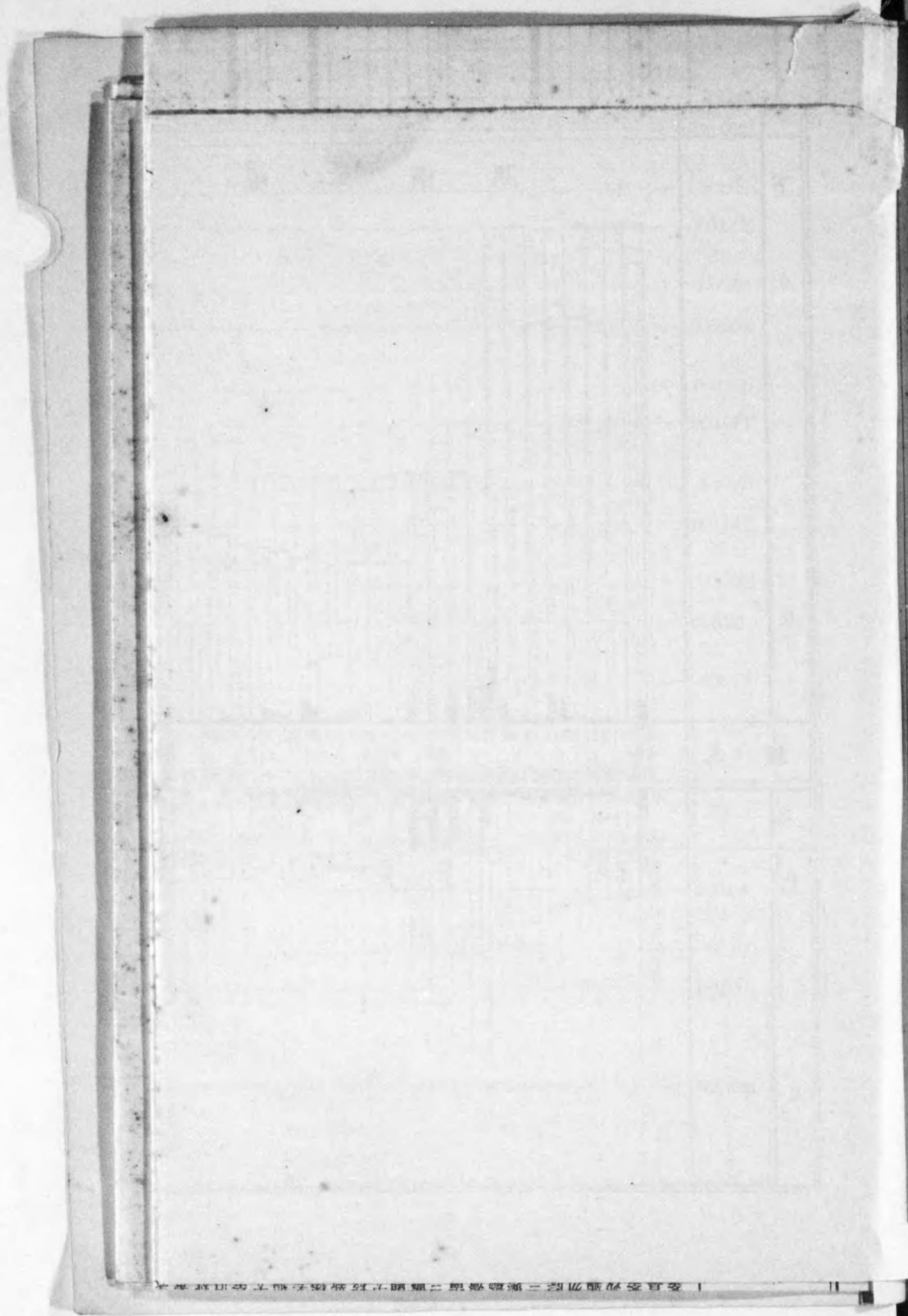


# 貨物通過圖表

其ノ二

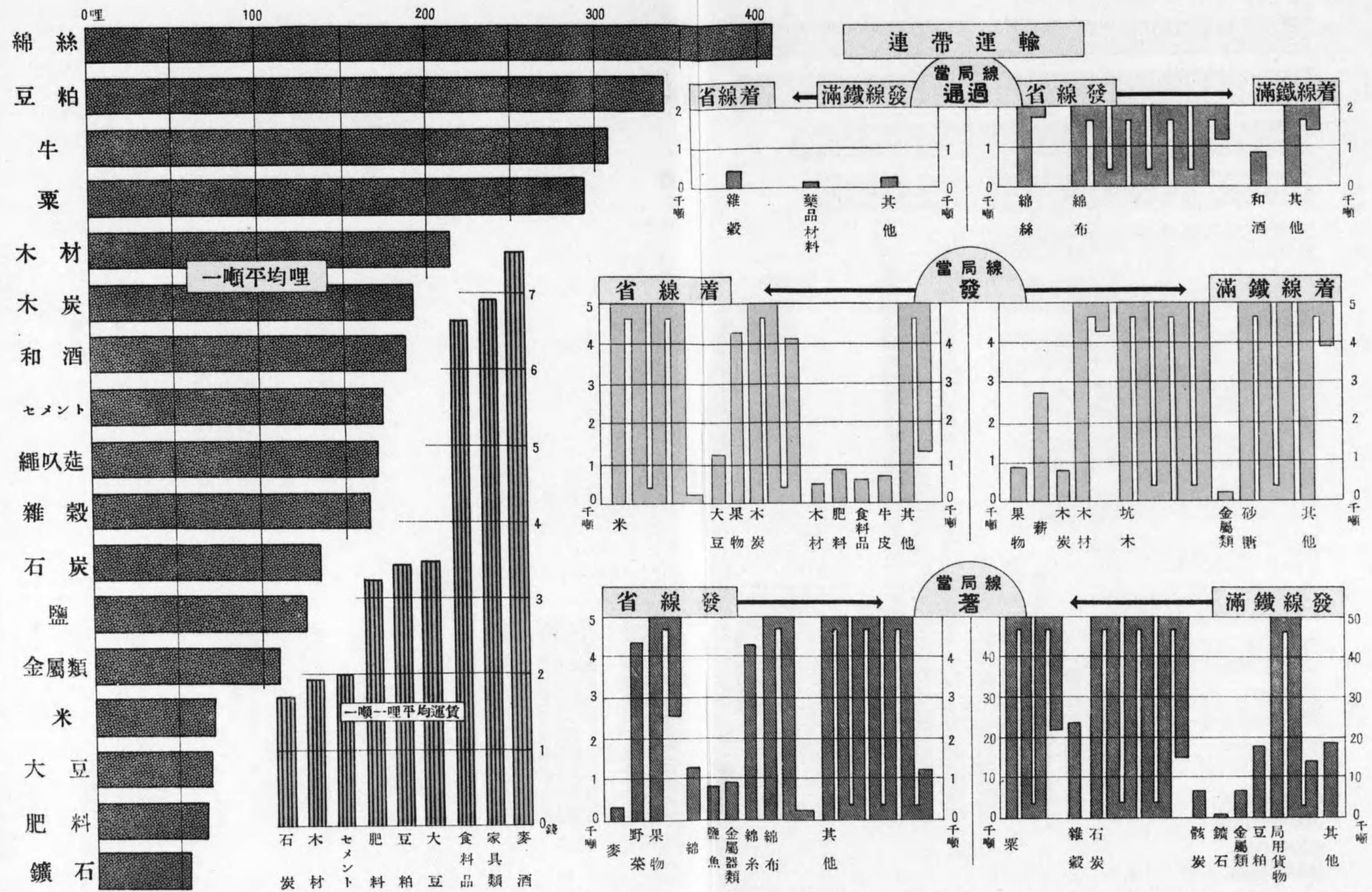






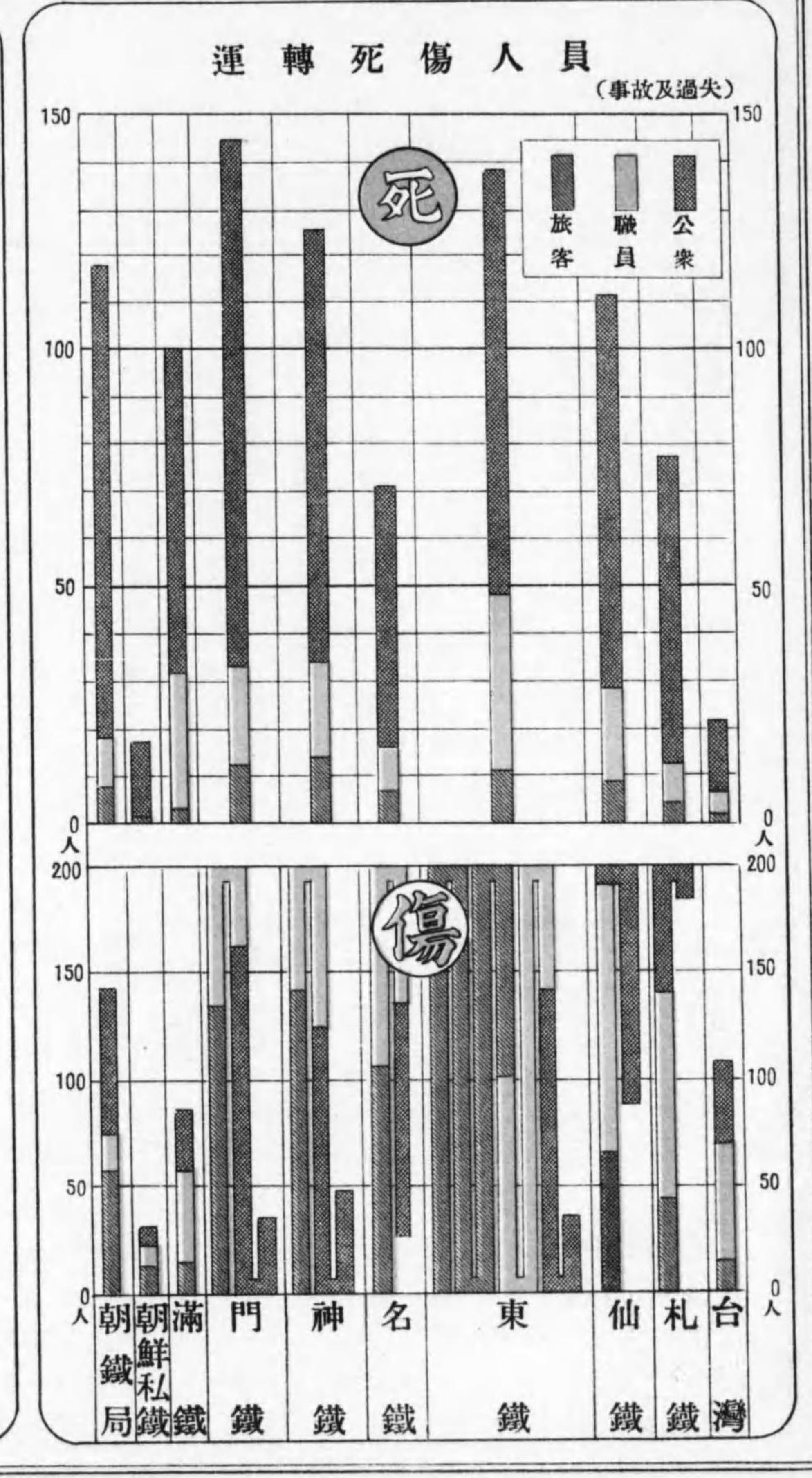
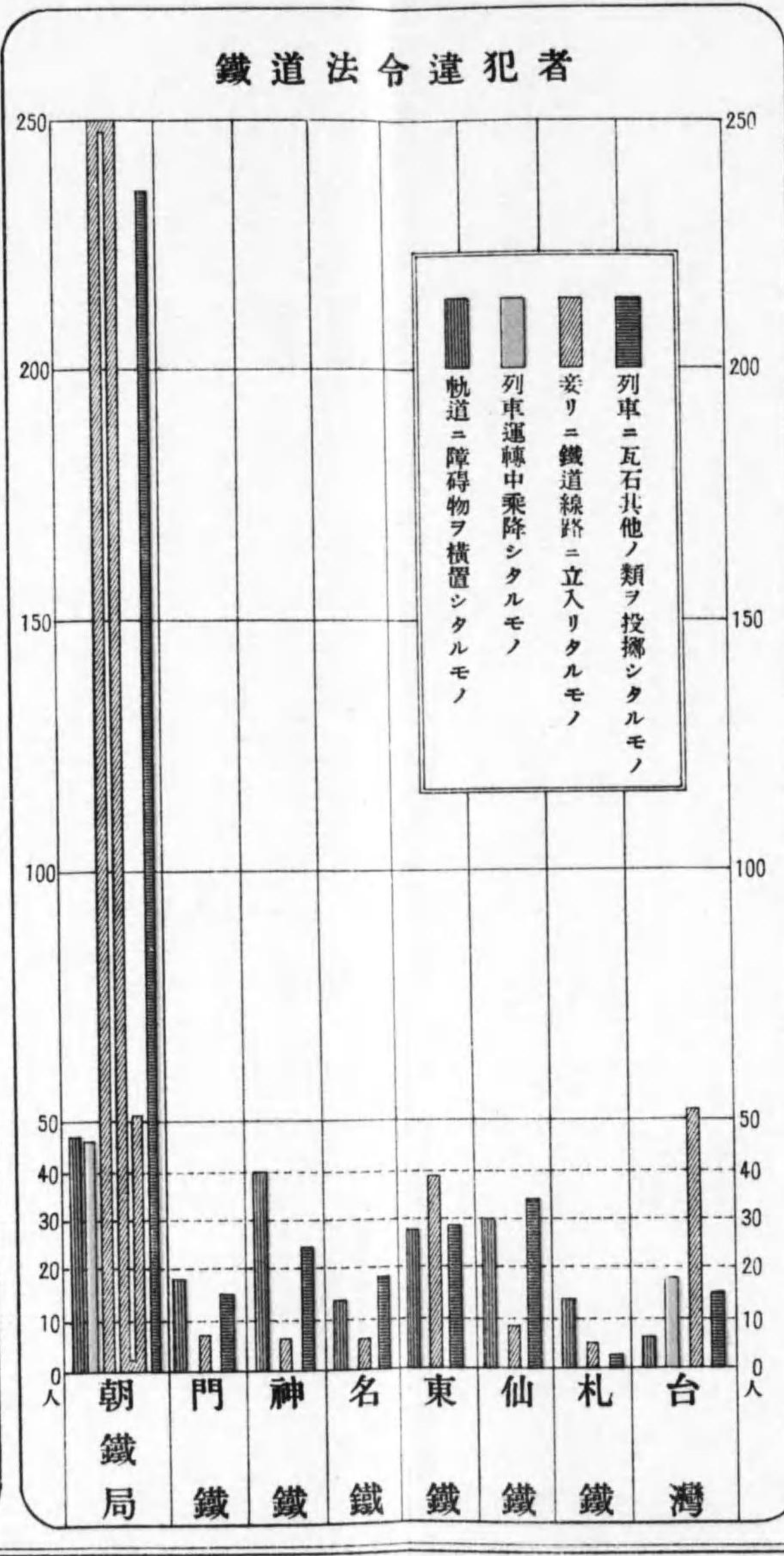
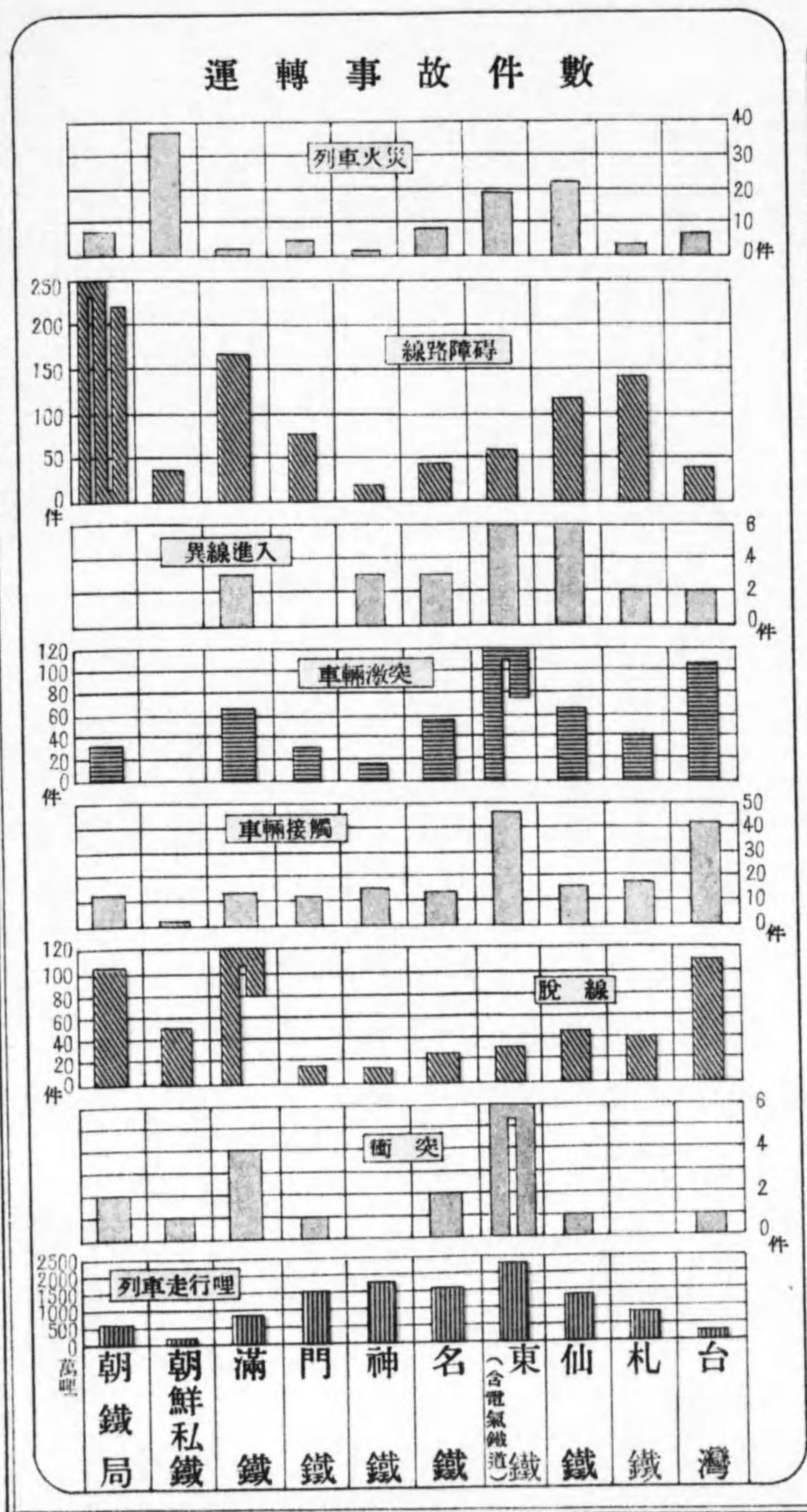
# 主要貨物運輸成績

(昭和三年度)



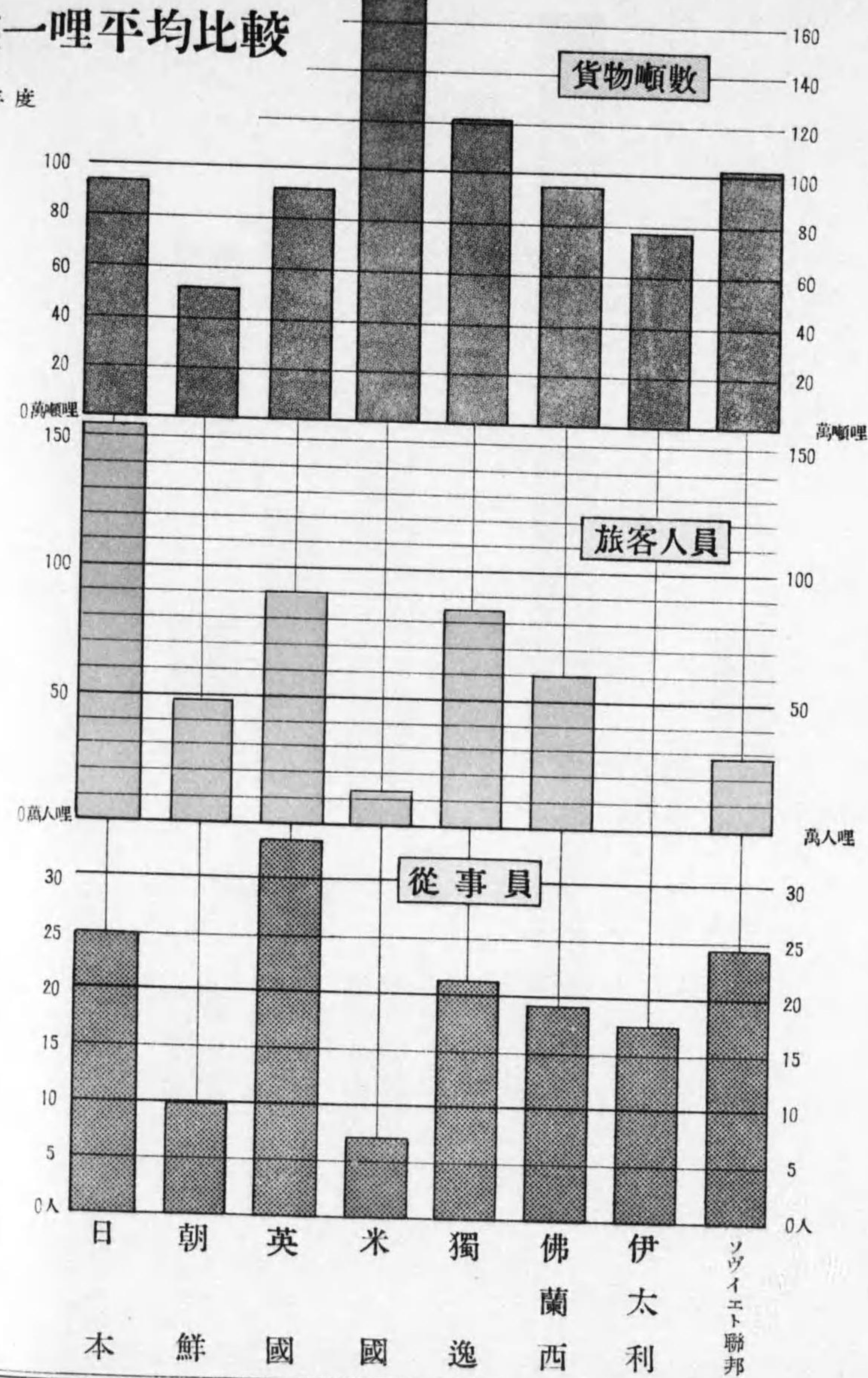
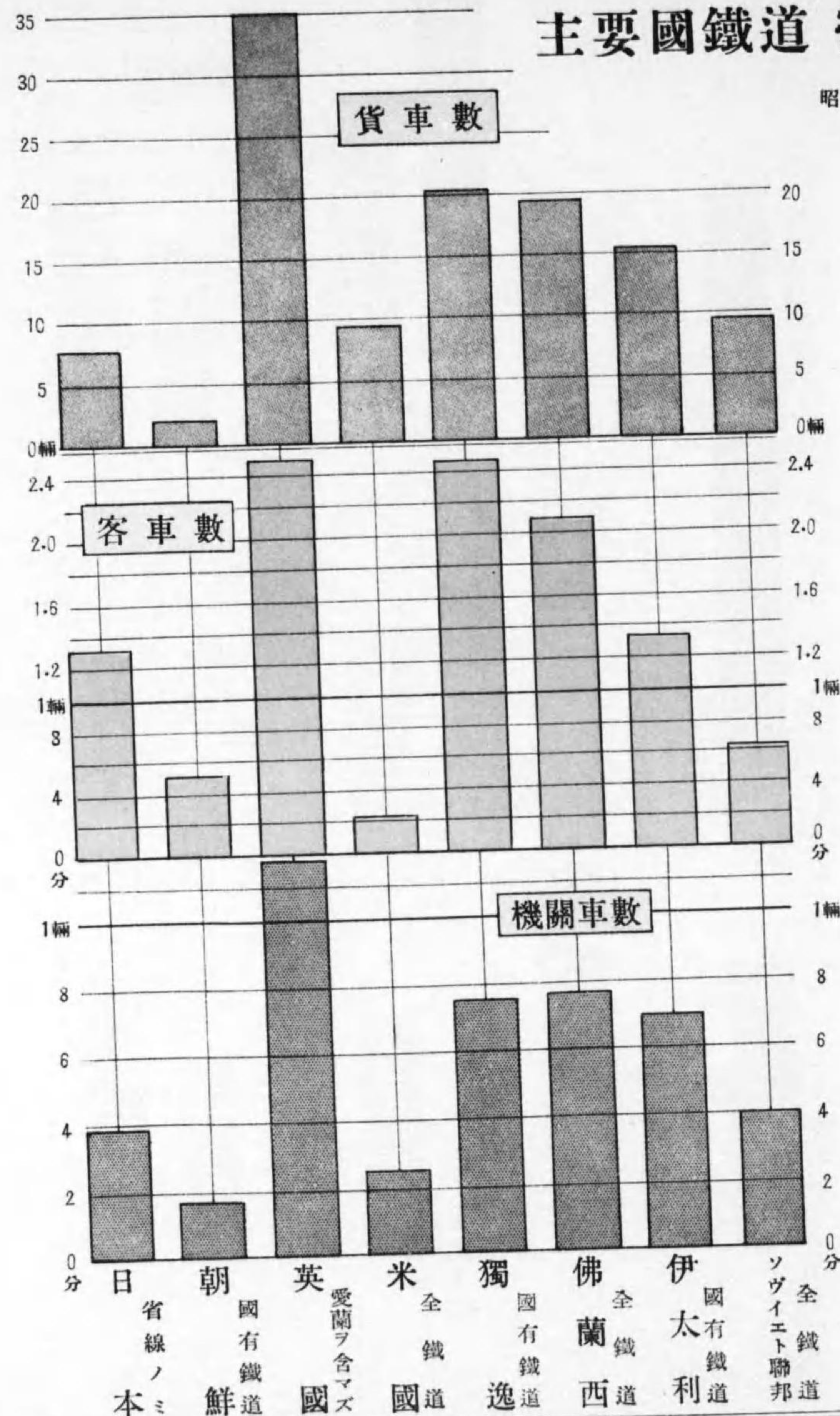
# 本邦鐵道事故比較

(昭和二年度)



# 主要國鐵道營業一哩平均比較

昭和二年度



概

況

# 昭和三年度年報概況目次

	頁
總 說.....	1
<b>第一編 總 務</b> .....	<b>5</b>
第一章 朝鮮鐵道經營ニ關スル主要法令並規程制定改廢ノ要旨.....	5
第二章 庶務.....	5
朝鮮總督府鐵道局組織一覽.....	6
新設又ハ改廢ノ箇所.....	6
年度末現在所管區域.....	8
第三章 人事.....	12
人事一般.....	12
従事員養成.....	13
第四章 共濟.....	13
共濟組合.....	13
附帶施設(貯金部).....	14
// (金融部).....	15
// (消費部).....	15
// (授産部).....	17
第五章 賠償並見舞金.....	18
第六章 保健慰安.....	18
保健.....	18
慰安.....	20
<b>第二編 運 輸</b> .....	<b>21</b>
第一章 運輸施設及成績ノ概要.....	21
第二章 旅客.....	22
運輸概況.....	22
月別概況及施設事項.....	23
第三章 貨物.....	27
運輸成績.....	27
月別概況及施設事項.....	27
主要貨物荷動狀勢.....	32



<b>第三編 附帶事業</b> .....	37
第一章 旅館・食堂車・及構内食堂 .....	37
第二章 倉庫營業 .....	37
<b>第四編 運轉</b> .....	37
第一章 列車運轉=關スル施設 .....	37
第二章 機關車運轉成績 .....	38
第三章 運轉事故 .....	39
<b>第五編 車輛</b> .....	44
第一章 機關車及其使用 .....	44
第二章 客車及其使用 .....	45
客車一般 .....	45
使用上ノ施設 .....	46
三等寢臺車 .....	47
第三章 貨車及其使用 .....	48
貨車一般 .....	48
使用上ノ施設 .....	49
<b>第六編 工務</b> .....	49
第一章 工務一般 .....	49
第二章 建設工事 .....	50
第三章 改良工事 .....	51
第四章 災害工事 .....	51
第五章 保存工事 .....	52
第六章 補充工事 .....	52
第七章 線路調査ノ狀況 .....	53
<b>第七編 工作</b> .....	59
第一章 工作概況 .....	59
第二章 工場設備 .....	62
第三章 工場生産費及勞働人工並賃金 .....	62
<b>第八編 電氣</b> .....	64
第一章 動力 .....	64
京城附近 .....	64
其他 .....	64

第二章 通信及信號 .....	65
年度末狀況 .....	65
通信上ノ施設 .....	65
電話線 .....	65
信號回線 .....	66
通信成績 .....	66
第三章 通信線路及機器 .....	66
線路及機器=關スル施設 .....	66
建設費=依ル工事 .....	66
改良費=依ル工事 .....	67
補充費及保存費=依ル工事 .....	67
第四章 障礙及電氣修繕 .....	68
第五章 照明 .....	68
建造物照明 .....	68
列車照明 .....	70
<b>第九編 經理</b> .....	70
第一章 經理一般 .....	70
第二章 營業=關スル收支豫算決算及損益計算 .....	71
第三章 建設及改良費 .....	73
第四章 災害費 .....	74
第五章 鐵道建設及改良費支出年度割 .....	75
第六章 投資額 .....	78
第七章 私設鐵道買收並補助費 .....	79
第八章 鐵道用地處分=關スル收支豫算決算 .....	79
第九章 鐵道用品資金 .....	80
第十章 其他ノ歲入歲出 .....	82
第十一章 用品購入 .....	82
<b>第十編 私設鐵道・軌道及專用鐵道</b> .....	84
第一章 私設鐵道 .....	84
第二章 各社別事業概況 .....	85
第三章 年度中線路ノ延長 .....	86

第四章 運輸成績	86
第五章 營業收支及補助成績	87
第六章 軌道總況	87
第七章 軌道營業成績	88
第八章 專用鐵道	88

## 昭和三年度年報概況ノ部

### 總 說

本年度ニ於ケル事業概述ニ先チ年度中主要事項ヲ摘記スレバ下  
ノ如シ。

1. 本年度末現在營業哩	計 2,053.7 <sup>〃</sup>	(前年度ニ比シテ 82.5 <sup>〃</sup> 増)
國有鐵道	1,585.7	( 129.2)増
私設鐵道	468.0	( 46.7)減
1. 年度末現在投資額	計 424,365,694 <sup>〃</sup>	(39,528,765 <sup>〃</sup> 増)
國有鐵道	348,388,239	(28,687,882)増
私設鐵道	75,977,455	(10,840,883)増
1. 旅客輸送人員	計 25,397,505 <sup>人</sup>	( 1,275,300 <sup>人</sup> 増)
國有鐵道	22,284,840	( 2,226,439)増
私設鐵道	3,112,665	( 951,139)減
1. 貨物輸送噸數	計 6,934,984 <sup>噸</sup>	( 257,533 <sup>噸</sup> 増)
國有鐵道	5,886,919	( 317,145)増
私設鐵道	1,048,065	( 59,612)減
1. 營業收入	計 63,465,108 <sup>〃</sup>	( 1,237,244 <sup>〃</sup> 増)
國有鐵道	58,479,297	( 1,194,725)増
私設鐵道	4,985,811	( 42,519)増
1. 營業支出	計 50,975,670	( 552,668)増
國有鐵道	46,977,220	( 315,565)増
私設鐵道	3,998,450	( 237,103)増
1. 益金	計 12,489,438	( 784,575)増

國有鐵道	11,502,077 <sup>円</sup>	( 879,160 <sup>円</sup> )増
私設鐵道	987,361	( 94,585)減

## 1. 一日一哩平均運輸收入

國有鐵道	69.78 <sup>円</sup>	( 2.02)減
私設鐵道	25.12	( 0.22)増

## 1. 建設事業中主ナルモノ

國有鐵道ニ咸鏡線ノ全通及十二箇年計畫ニ基ク各線ノ施設

私設鐵道ニ年度中設立會社南朝鮮鐵道及朝鮮京東鐵道ノ二社、其免許哩211.8<sup>哩</sup>、會社未設立ニシテ失效セシモノ全羅鐵道會社33<sup>哩</sup>。

而シテ主管事項ニ關シ法令ノ改正セラレタルハ私設鐵道資金難ヲ緩和スルタメ社債募集ノ限度ヲ擴張セラレタルヲ主ナル事項トシ、國有鐵道ニ於ケル營業線ノ延長ハ建設ニ依ルモノ36.7<sup>哩</sup>、買収ニ依ルモノ92.5<sup>哩</sup>、合計129.2<sup>哩</sup>ニシテ、右ニ伴ヒ新ニ驛舎ヲ設クルコト40<sup>所</sup>ニ及ビ旅客、貨物ノ輸送ニ關シテハ規程ノ整理、運賃ノ割引、取扱ノ改正等ヲ行ヒ朝鮮産業振興ノ一助タラシムルト共ニ客貨ノ誘致ニ資シタルガ、其成績ハ概ネ良好ニシテ輸送貨物ノ如キ前年度ニ比シ301<sup>千噸</sup>ヲ増加シ、其一日一哩平均收入ニ於テ前年度ヨリ2<sup>円</sup>餘ノ減少ヲ示セルハ、年度中狹軌線其他ニシテ低位ニアル收入ヲ總テ按分セルガタメニシテ、既設各線ニ付之ヲ見レバ概ネ増加シツ、アリ。

列車運轉ニ關シテハ新線ノ延長ニ伴ヒ其區間ヲ擴大シタル外、京仁線ニ於ケル輸送ノ狀況ニ鑑ミ旅客貨物ノ列車ヲ分離増發シ、尙東海中部線ニ於テハ、輕油動車ノ新造ヲ行ヒ蒸汽列車間ニ之レ

ヲ運轉シテ速度ノ向上ヲ圖ル等輸送上各種ノ施設ヲ行ヒ、運轉成績ハ列車ノ走行料ニ於テ増加シタルモ油脂ノ平均消費量ニ於テ減少セシメ、尙朝鮮産業獎勵上ノ施設タル鮮炭ノ使用ハ、機關車火室ノ改造、使用法ノ研究等ニ依リ逐年其量ヲ増加シツ、アリシガ、本年度ニ於ケル使用ハ172<sup>千噸</sup>ニシテ前年度ニ比シ約50<sup>千噸</sup>ヲ増加シ、運轉事故件數ハ列車回數ノ増加、及集計方法ノ改正ニヨリ前年度ニ比シ相當ノ増加ヲ示セルガ其間多數ノ人命財産ヲ損傷スルガ如キ重大事故ノ發生ヲ見ザリシハ幸トスル所ナリ、又咸鏡線ニ於ケル水害ハ其被害甚大ニシテ事實上ノ直通期ヲ遲延セシメタルノミナラズ、之ガ應急及復舊費ニ豫備金中ヨリ約300<sup>千円</sup>、保存ヨリ約170<sup>千円</sup>ヲ支出スルノ已ムナキニ至リシハ遺憾ナリ。

次ニ工事關係ニ在リテハ咸鏡線全通、平元西部線ノ延長ヲ行ヒタル外十二箇年計畫ニ基ク圖們及東海線ノ建設ヲ續行シ、慶全、惠山、滿浦各線ノ建設準備ヲ行ヒ、改良工事ハ買収狹軌線タル慶全北部線ノ廣軌改築工事ヲ續行シタル外、驛舎新設、重軌條交換、其他各所ニ於ケル必要工事ヲ施行シ、災害工事ハ大正十四年度水害ニ對スル昭和元年度以降三ケ年ニ至ル繼續事業タル復舊作業ヲ終了シタル外、咸鏡線ニ於テ特ニ頻繁ヲ極メ、其他各線ニ亘リ線路建造物ニ對スル保存、補充ノ諸工事ヲ施行シ、工作事業ハ業務ノ進展ニ應ジ各種車輛及線路用品ノ製修ヲ行ヒ、尙工場ニ於ケル各種設備ノ擴充ヲ施行シタルガ、京城工場ニ於テハ前年度ニ引續キ大型機關車1<sup>輛</sup>ノ新造ヲ行ヒタリ。

經理關係ニ於テハ本年度益金11,502<sup>千円</sup>ニシテ順調ノ成績ヲ舉ゲ、建設改良費決算額ハ19,248<sup>千円</sup>ニシテ各線ノ緩急ニ應ジ之ヲ支出シ、私設鐵道ノ買収ハ公債額面7,570<sup>千円</sup>ヲ以テ92<sup>%</sup>ヲ完了シ、同

補助費ハ六社合計4,389<sup>千圓</sup>ヲ支出シタリ。

其他電氣通信ニ關シテハ線路ノ延長ニ伴ヒ之ガ施設ヲ改正シ各所通信ノ速達ヲ圖リ、電力ニヨル作業ハ主トシテ各工場ニ於ケル動力ニ之ヲ使用セルコト前年度同様ナリ、現業員相互扶助ヲ目的トスル共濟組合ハ其附帶施設タル貯金部、金融部、消費部、授産部ノ事業ト共ニ着々發達ヲ示シ、従事員養成所ニ於ケル本年度卒業生ハ本科、講習科ヲ合シ272<sup>名</sup>ニ達シタリ。

次ニ私設鐵道ノ年度末現在經營者ハ八會社ニシテ、年度中新タニ營業ヲ開始セルモノ45.2<sup>名</sup>ニ達シタルガ、買收ニ依ル91.9<sup>名</sup>(買收後營業哩ヲ改正ス)ヲ減ジタルヲ以テ前年度ニ比シ46.7<sup>名</sup>ヲ減ゼルモ尙工事中ノモノ88.4<sup>名</sup>アリ。補助會社投資額ノ増加セルハ主トシテ拂込株金及借入金ノ増加シタルニ依ル、其營業狀態ハ逐年良好ニ向ヒ一日一哩平均收入ニ於テ0.22<sup>圓</sup>ヲ増加シ漸次堅實ナル發達ヲ示シツ、アリ、軌道ノ年度末ニ於ケル營業哩ハ47.5<sup>哩</sup>ニシテ前年度ニ比シ2.8<sup>哩</sup>ヲ延長シ、本年度建設費ニ對スル益金ノ割合ハ1.4<sup>割</sup>1<sup>分</sup>ニ當レリ。

之ヲ要スルニ本年度業績ハ國私兩鐵道共ニ概ネ順調ニシテ殊ニ建設事業ハ國有鐵道十二箇年計畫ニ依ル豫定事業ノ進捗及私設鐵道ニ於ケル新線ノ著工、會社ノ新設等ニ依リ運輸交通上一層ノ進歩ヲ示サントシ、經營ノ方針ハ朝鮮産業ノ興隆、文化ノ向上等統治ノ根本ニ準據シテ渝ル所ナカリキ。

以下各項目ニ付概述セントス。

## 第一篇 總 務

### 第一章 朝鮮鐵道經營ニ關スル主要法令

#### 竝ニ規程類制定改廢ノ要旨

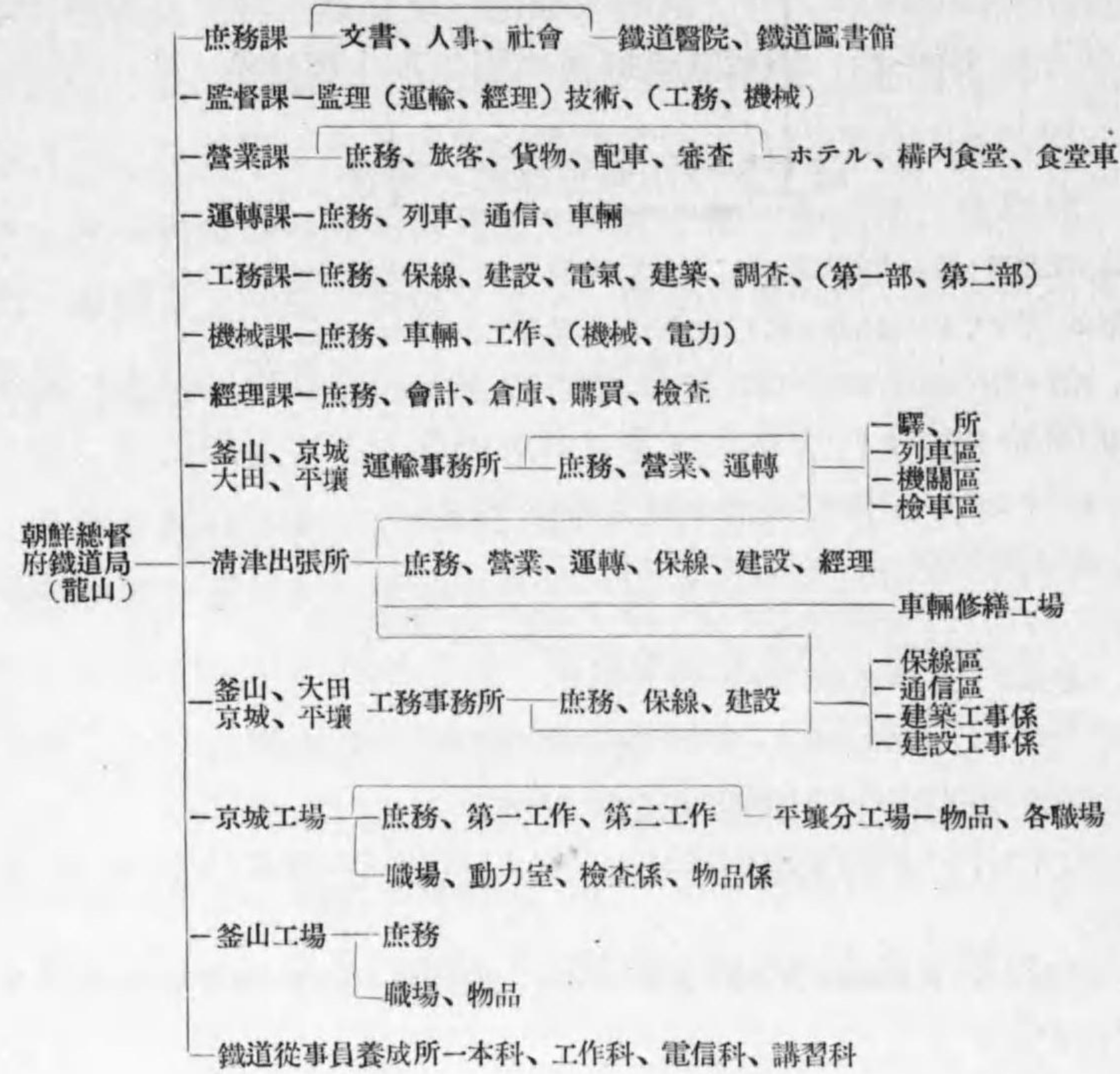
本年度主管事項ニ關シ法令及規程類ノ制定又ハ改廢セラレタル主ナルモノ次ノ如シ。

- (1) 昭和三年七月十日制令第一號ヲ以テ朝鮮私設鐵道令中改正セラル。  
要旨、朝鮮ニ於ケル經濟事情ノ現況ニ鑑ミ私設鐵道ノ資金難ヲ救助スルタメ社債募集額ノ限度ヲ從來ノ倍額ニ擴張シタリ。
- (1) 昭和三年七月十日制令第二號ニ依リ朝鮮財團抵當令中改正。  
要旨、私設鐵道令改正ニ伴フ必要アリタルニ因ル。
- (1) 昭和三年七月十日府令第四七號ニ依リ朝鮮私設鐵道施行規則中改正。  
要旨、私設鐵道令改正ニ伴ヒ必要アリタルニ因ル。
- (1) 昭和三年八月二十二日勅令第一九六號朝鮮總督府鐵道局官制中改正セラル。  
要旨、建設線ノ進展及事業ノ自然擴張ニ基キ定員ヲ増加ス。
- (1) 昭和三年九月三十日朝鮮總督府訓令第二十五號ニ依リ出納官吏及出納員ノ保管金額ニ關スル件中改正。  
要旨、咸鏡線全通ニ伴ヒ同線ニ食堂車ヲ營業スルタメ、出納官吏ノ手許資金ヲ増加スル必要アリタルニ因ル。
- (1) 昭和四年三月三十一日朝鮮總督府令第二十四號ニ依リ鐵道醫定員ニ關スル件中改正。  
要旨、鐵道醫療施設擴張ニ伴ヒ定員ヲ増加ス。

### 第二章 庶 務

本年度末ニ於ケル當局組織一覽及出張所、各事務所々管、竝ニ年度中ノ新設又ハ改廢箇所下ノ如シ。

### 組織一覽



### 新設又ハ改廢箇所 (括弧内ハ其年月日ヲ示ス)

開業線	線名	距離 (哩)	備考
開業線	東海中部線 = 大邱・鶴山間	66.7	(3.7.1買収、狹軌線)
	// 慶州・蔚山間	25.8	
	會寧炭礦線 = 會寧・鷄林間	6.6	(3.8.11)
	咸鏡線 = 盤松・群仙間	14.9	(3.9.1)
	平元西部線 = 舍人場・順川間	13.8	(3.10.15)
	京元線 = 安邊附近改良工事 = 依ル延長	0.5	(3.9.1)
	咸鏡線 = 各所改良工事 = 依ル延長	0.9	(3.9.1)
	計	129.2	

### 新設驛

×印ハ簡易驛ヲ示ス

東海中部線 = 東村、半夜月、清泉、河陽、琴湖、永川、林浦、阿火、乾川  
×光明、×西岳、慶州、金丈、士方、安康、扶助、×孝子、浦項、鶴山、×東方、佛國寺、入室、毛火、虎溪、×岳營、蔚山 (3.7.1買収 = 依ルモノ)

會寧炭礦線 = 永綏、鳳儀、鷄林 (3.8.11)

咸鏡線 = ×乾自、×羅興、會山、×鹽盆、松端 (3.9.1)

平元西部線 = ×鳳鶴、慈山、順川 (3.10.15)

京元線 = ×安邊 (3.9.1)

京釜線 = 砂上 (釜山鎮、龜浦間 3.11.1) 懷德 (大田、新灘津間 3.12.1)

### 新設係・區

全州工事係 (改良及建設) (3.6.11)

新阿山建設工事係 (圖們東部線) (3.6.20)

會山 // (遮湖線) (3.8.20)

慈東 // (東海北部線) (3.8.10)

新北青 // (北青線) (3.9.20)

新乾 // (圖們東部線) (4.1.20)

慶源 // ( // ) (4.1.20)

新倉 // (平元西部線) (4.2.10)

元德 // ( // ) (4.2.10)

慶州保線區 (東海中部線) (3.7.1)

順川 // (平元西部線) (3.10.15)

(平元西部線) 龍城驛 (3.6.1普通驛 = 變更)

(京元線) 倉洞、南山驛 (3.9.1 // )

(咸鏡線) 三湖、雲浦、汝海津、日新、農城、蘆洞驛 (3.9.1普通驛 = 變更)

(東海中部線) 光明驛 (3.12.10普通驛 = 改ム)

(咸鏡線) 興南驛 (3.7.21內湖驛ヲ興南 = 移轉改稱、普通驛トス)

(保線區) 前津保線區ヲ新北青保線區ト改稱シ (3.9.1) 新北青 = 移轉ス (3.10.20)

(線路名稱) 咸鏡南、北部線ヲ全通 = 依リ咸鏡本線ト改稱シ、其他ヲ川內里線、清津線、會寧炭礦線トス (3.9.1)

(工事係) 群仙建設工事係ヲ廢止ス (3.8.21)

順川 // (3.10.15)

安邊 // (4.3.3)



○大田工務事務所

- 線路** { 京釜本線中釜山起點 278<sup>尺</sup>ヨリ同 434<sup>尺</sup> = 至ル線路  
 湖南本線、群山線、慶全北部線、光州線ノ各既設線、及全州・院村間、潭陽・院村間建設線路
- 保線區 5** { 大田保線區=京釜本線釜山起點 278<sup>尺</sup>ヨリ同 347<sup>尺</sup> = 至ル線路、及湖南本線始點ヨリ大田起點 37<sup>尺</sup> = 至ル線路  
 成歡 // 京釜本線釜山起點 347<sup>尺</sup>ヨリ同 434<sup>尺</sup> = 至ル線路  
 裡里 // 湖南本線大田起點 37<sup>尺</sup>ヨリ同 105.400<sup>尺</sup> = 至ル線路、群山線及慶全北部線  
 井邑 // 同 上大田起點 105.400<sup>尺</sup>ヨリ同 185.900<sup>尺</sup> = 至ル線路  
 木浦 // 同 上大田起點 185.900<sup>尺</sup>ヨリ同終點 = 至ル線路及光州線
- 通信區 1** 大田通信區=事務所々管區域=同シ
- 建築工事係 1** 大田建築工事係=同 上
- 建設工事係 1** 全州工事係=慶全北部線花田里・全州間ノ廣軌改築及全州・龍岩里間建設線計 14.6 (23,487)
- 改良工事係 1** 裡里改良工事係=湖南本線裡里・芙蓉間ノ既設線改良、及慶全北部線裡里花田里間廣軌改築、計 15.6 (24,896)

○京城運輸事務所

		營業哩	428.1		
<b>線路及驛名</b>	京釜本線=永登浦・京城間	5.7	普通驛 4	簡易驛 0	
	京仁線=永登浦・仁川海岸間(永登浦ヲ含マズ)	19.4	// 6	// 0	
	京義本線=京城・新幕間(新幕 // )	95.2	// 13	// 3	
	京元線=龍山・元山間(龍山 // )	138.9	// 23	// 2	
	川内里線=龍潭・川内里間(龍潭 // )	2.7	// 1	// 0	
	咸鏡本線=元山・會山間(元山 // )	166.2	// 28	// 9	
		計	75	// 14	
<b>機關區 5</b>	仁川機關區=永登浦・仁川間(永登浦ヲ含マズ)				
	龍山 永登浦・新幕間(新幕ヲ含マズ)				龍山東豆川間及龍山城山里間
	福溪 // 東豆川・高山間(東豆川ヲ含マズ)				
	元山 // 高山・永興間(高山ヲ含マズ)及川内里線				
	咸興 // 永興・會山間(永興ヲ含マズ)				

列車區 1 京城列車區=事務所々管=同シ

檢車區 1 京城檢車區=同 上

○京城工務事務所

- 線路** { 京釜本線中釜山起點 434<sup>尺</sup>ヨリ同終點 = 至ル間、京仁線、京義本線始點ヨリ京城起點 143,700<sup>尺</sup> = 至ル線路、京元線、咸鏡本線始點ヨリ元山起點 268<sup>尺</sup> = 至ル線路、川内里線及東海線中元山・高城間ノ建設線路
- 保線區 7** { 龍山保線區=京釜本線釜山起點 434<sup>尺</sup>ヨリ同終點 = 至ル線路、京義本線始點ヨリ京城起點 38,600<sup>尺</sup> = 至ル線路、京元線龍山起點ヨリ 24<sup>尺</sup> = 至ル線路及京仁線  
 開城保線區=京義本線京城起點 38,600<sup>尺</sup>ヨリ同 143,700<sup>尺</sup> = 至ル線路  
 鐵原 // 京元線龍山起點 24<sup>尺</sup>ヨリ同 101,400<sup>尺</sup> = 至ル線路  
 福溪 // 同 上 101,400<sup>尺</sup>ヨリ同 178,600<sup>尺</sup> = 至ル線路  
 元山 // 同 上 178,600<sup>尺</sup>ヨリ同終點 = 至ル線路、及咸鏡本線始點ヨリ元山起點 56,300<sup>尺</sup> = 至ル線路、並ニ川内里線  
 咸興保線區=咸鏡本線元山起點 56,300<sup>尺</sup>ヨリ同 168,500<sup>尺</sup> = 至ル線路  
 新北青 // 咸鏡本線元山起點 168,500<sup>尺</sup>ヨリ 268<sup>尺</sup> = 至ル線路
- 通信區 1** 龍山通信區=事務所々管=同シ
- 建築工事係 1** 龍山建築工事係 //
- 建設工事係 4** { 慈東建設工事係=東海線熊津里・栗洞里間ノ建設線 8.2 (15,200)<sup>尺</sup>  
 會山 // 咸鏡線羅興・遮湖間 // 3.1 (4,948)<sup>尺</sup>  
 新北青 // // 新北青・北青間 // 6.1 (9,759)<sup>尺</sup>  
 桑陰 // 東海線月浦里・熊津間 // 5.4 (8,600)<sup>尺</sup>

○平壤運輸事務所

		營業哩	308.1		
<b>線路及驛數</b>	京義本線=新幕・安東間(安東ヲ含マズ)	215.0	普通驛 36	簡易驛 2	
	兼二浦線=黃州・兼二浦間(黃州 // )	8.1	// 1	// 1	
	平壤炭礦線=大同江・勝湖里間(大同江 // )	14.5	// 4	// 1	
	平南線=平壤・鎮南浦間(平壤 // )	34.3	// 4	// 3	
	平元西部線=西浦・順川間(西浦 // )	29.3	// 5	// 2	
	博川線=孟中里・博川間(孟中里 // )	5.8	// 1	// 1	
	新義州荷扱所線=新義州・荷扱所間(新義州ヲ含マズ)	1.1	// (荷扱所 1)		
	計	// 51	// 10		

- 機關區3 { 新幕機關區=新幕・黄海黃州間(黄海黃州ヲ含マズ)  
平壤 // 黄海黃州・新安州間(新安州ヲ含マズ)兼二浦線、平壤炭礦線、平南線及平元西部線  
定州 // 新安州・京義線終端間、新義州荷扱所線及博川線
- 列車區1 平壤列車區=事務所々管區域=同シ
- 檢車區1 平壤檢車區= //

○平壤工務事務所

- 線路 { 京義本線中京城起點 143,700 ヲリ同終點=至ル線路、兼二浦線、平壤炭礦線、平南線、平元西部線、博川線、新義州荷扱所線ノ各既設線路、及順川・岐倉間ノ建設線  
新幕保線區=京義本線京城起點 143,700 ヲリ同 197,200 =至ル線路  
黃州 // 同 上 197,200 ヲリ同 257,200 =至ル線路及兼二浦線  
平壤 // 同 上 257,200 ヲリ同 297,400 =至ル線路、平元西部線始點ヨリ西浦起點 1 =至ル線路、平南線及平壤炭礦線  
定州 // 京義本線京城起點 297,400 ヲリ同 389,800 =至ル線路及博川線  
新義州 // 京義本線京城起點 389,800 ヲリ同終點(鳴綠江橋梁ト安東驛ノ中間)=至ル線路及新義州荷扱所線  
順川 // 平元西部線西浦起點 1 ヲリ同終點=至ル線路

通信區1 平壤通信區=事務所々管區域=同シ

建築工事係1 平壤建築工事係=同 上

- 建設工事係3 { 殷山建設工事係=順川・新倉間ノ建設線 12.4 (19,942)  
新倉 // 新倉・新三間 // 4.9 (7,885)  
元徳 // 新三・岐倉間 // 5.2 (8,350)

第三章 人事

人事一般 年度末=於ケル現在員ハ高等官87、同待遇官7、判任官1,488、同待遇官233、雇員2,899、傭人10,860、囑託66、合計15,640ニシテ、此給料月額 1,017,017.04、一人平均65.02、營業一哩平均人員 9.9ナリ、今之レヲ前年度末ニ比較スルニ、人員ニ於テ高等官待遇ヲ減シタル外、高等官判任官 29、同待遇官 8、雇員 318、傭人 799、囑託 11、合計 1,161、給料月額 53,250.64、即チ人員

=於テ 8、給料月額 5.9ヲ増加セリ、營業一哩平均人員=在リテハ前年度ト異動ナク、一人平均給料月額ハ 1.54ヲ低下セリ。

上記ノ増員ハ本年度=於テ私鐵慶東線約92哩ノ買収、咸鏡線ノ全通、平元線ノ延長及新設線工事進捗等=伴フ増加ヲ主因トス、外=外國在留中ノ參事 1、技師3、及休職副參事 1、技師 1、書記 1、技手 1、計 8アリ。

從事員養成 昭和三年三月總督府令第十一號ヲ以テ養成所規定ノ一部改正セラレ從來ノ本科、工作科ノ二學期制ヲ三學期制トシ本年度ヨリ實施セリ。

本年度主ナル事業ハ本科、工作科、電信科ノ常時授業ノ外義務講習科(四ヶ月)機關講習科第一部(六ヶ月)檢車講習科(二ヶ月)ヲ各一回開催シ、從事員ヨリ撰拔入所セシメ、實務=必要ナル學科ヲ教授シタリ、本年度卒業生及入學志願者數下表ノ如シ。

生徒入退學數

(單位人)

科別	昭和二年 度末現在	入學	退學	卒業	昭和三年 度末現在
本科	76	31	5	42	60
業務科	73	40	7	25	81
運輸科	—	—	—	—	—
土木科	127	—	15	32	80
工作科	30	30	1	59	—
電信科	—	41	1	40	—
講習科	—	55	4	51	—
機關	—	23	—	23	—
檢車					
合計	306	220	33	272	221

備考 土木科ハ大正十三年度以降募集セズ、工作科ハ本年度募集セズ。

入學志願者數

(單位人)

科別	應募人員			入所許可人員			應募者=對スル入學者率
	内地人	朝鮮人	合計	内地人	朝鮮人	合計	
業務科	311	295	606	24	7	31	5%
運輸科	151	169	320	32	8	40	12%
第五回電信科	285	168	453	19	11	30	7%
合計	747	632	1,379	75	26	101	—

第四章 共濟

共濟組合 年度末現在組合員ハ甲種 13,632、乙種 71、總數 13,703、(内朝鮮人6,475)=シテ年度中新規加入者 2,447、脱退者 1,245、差引前年度=比シ 1,202、ヲ増加セリ。



組合ノ収入ハ政府給與金、組合員掛金、預金利息及雑収入ニ前年度責任準備金ヲ合シ總額2,248,460.75、支出ハ公傷、廢疾、療養、疾病、退職、遺族ノ各給付4,549<sup>円</sup>ニ對スル金額194,759.89ニ雜損其他ヲ合シ總額194,887.80ニシテ收支差引殘高2,053,572.95ハ本年度責任準備金トシテ全額之ヲ積立テタリ、之ガ詳細ハ別項統計表ノ如シ。

**附帶施設** 次ニ組合ノ附帶施設タル貯金部、金融部、授産部、消費部ニ付其ノ概況ヲ述ブレバ次ノ如シ。

**貯金部** 年度末預金總口數ハ團體貯金ヲ合シ24,688<sup>口</sup>ニシテ此金額7,250,168.07<sup>円</sup>ニ達シ、前年度末現在ニ比シ口數ニ於テ1,589<sup>口</sup>、金額ニ於テ1,119,418.54<sup>円</sup>ノ増加ヲ示シ、職員一口平均ハ210.67<sup>円</sup>ニシテ前年度ニ比シ45<sup>円</sup>ヲ増加セリ。

本年度ニ於ケル受拂ノ内譯ヲ示セバ次ノ如シ。

**貯金受拂表**

種別	前年度末現在		本年度受入額		本年度拂戻額		本年度末現在		
	口數	金額	件數	金額	件數	金額	口數	金額	
据置貯金	14,518	3,792,493.64	248,746	1,707,607.07	6,607	1,236,662.69	15,637	4,263,438.02	
普通貯金	8,581	2,338,255.89	99,195	2,680,144.04	16,531	2,031,669.88	9,051	2,986,730.05	
内訳	一般職員ノ分	8,578	1,062,547.20	98,151	857,209.75	14,902	982,758.00	9,048	936,998.95
	共済組合ノ分	1	1,266,190.23	315	962,607.45	253	197,779.68	1	2,031,018.00
	授産部ノ分	1	9,036.33	387	271,472.01	1,110	272,653.09	1	7,855.25
	金融部ノ分	1	482.13	342	588,854.83	266	578,479.11	1	10,857.85
計	23,099	6,130,749.53	347,941	4,387,751.11	23,138	3,268,332.57	24,688	7,250,168.07	

預り金ノ運用ニ就テハ消費部其ノ他ニ事業資金トシテ融通シタル外殆ソド全部銀行ニ預入シ利殖シツ、アリ。

其ノ内譯次ノ如シ。

**預り金運用表**

區別	前年度末現在	本年度中		本年度末現在
		預金又ハ貸付高	回収高	
銀行預金	5,390,678.46	15,534,358.75	14,763,395.10	6,161,642.11
消費部貸付金	460,000.00	1,470,000.00	1,460,000.00	470,000.00
金融部貸付金	—	320,000.00	30,000.00	290,000.00
授産部貸付金	113,000.00	—	—	113,000.00
團們鐵道株式會社貸付金	80,000.00	—	—	80,000.00
鐵道教養助成會貸付金	—	4,000.00	4,000.00	—
有價證券	—	1,905.00	—	1,905.00
計	6,043,678.46	17,330,263.75	16,257,395.10	7,116,547.11

預り金ノ利率ハ普通貯金日歩一錢四厘、据置貯金日歩二錢トシ共済組合ニ對シテハ日歩一錢七厘ヲ附シタリ。

本年度損益勘定ニ屬スル收入總額ハ455,406.12<sup>円</sup>、支出總額ハ449,831.29<sup>円</sup>ニシテ差引5,574.83<sup>円</sup>ノ利益ヲ得前年度利益繰越金17,380.72<sup>円</sup>ト合シ22,955.55<sup>円</sup>ヲ翌年度ニ繰越シタリ、年度末ニ於ケル資産負債ノ狀況次ノ如シ。

**資産負債表**

資産ノ部		負債ノ部	
科目	金額	科目	金額
現金	60.61	普通貯金	2,986,730.05
銀行預金	6,161,642.11	据置貯金	4,263,438.02
振替貯金	52.32	前期繰越金	17,380.72
有價證券	1,905.00	当期利益金	5,574.83
貸付金	933,000.00		
未收利息	176,463.58		
	<b>7,273,123.62</b>		<b>7,273,123.62</b>

**金融部** 本年度ノ業績ヲ見ルニ年度中貸付タル口數1,177<sup>口</sup>、金額319,056<sup>円</sup>、返済シタル回数20,190<sup>回</sup>此金額278,037.50<sup>円</sup>ニシテ、年度末現在口數1,610<sup>口</sup>、金額276,944<sup>円</sup>ニ達シタリ、之ヲ前年度ニ比スルニ口數ニ於テ90<sup>口</sup>、金額ニ於テ41,019<sup>円</sup>ヲ増加シ一人當平均ハ172.01<sup>円</sup>ニシテ、前年度ニ比シ16.80<sup>円</sup>ヲ増加セリ。

貸付資金ハ日歩二錢ノ利率ニ依リ貯金部ヨリ融通ヲ受ケ年度末現在270,000<sup>円</sup>ニ達シ、本年度損益勘定ハ收入利息20,594.32<sup>円</sup>、支拂利息18,916.10<sup>円</sup>、差引1,687.22<sup>円</sup>ヲ、本年度益金トシ之ニ前年度繰越金6,407.63<sup>円</sup>ヲ合シ8,085.85<sup>円</sup>ヲ翌年度ニ繰越シタリ、資産負債表下ノ如シ。

**資産負債表**

資産ノ部		負債ノ部	
科目	金額	科目	金額
預金	10,857.85	資金	270,000.00
貸付金	276,944.00	繰越金	8,085.85
		未拂利息	9,716.00
	<b>287,801.85</b>		<b>287,801.85</b>

**消費部** 年度初頭借入金現在高ハ460,000<sup>円</sup>ニシテ、年度内更ニ1,470,000<sup>円</sup>ノ融通ヲ受ケタルガ其間1,460,000<sup>円</sup>ヲ返還シ、年度末現在470,000<sup>円</sup>トナレリ。

右資金ヲ運用シテ購入シタル物品ノ總額ハ 3,063,783<sup>円</sup>ニシテ、之レガ配給高總計 3,306,868<sup>円</sup>ニ達シ、従事員一人一ヶ月平均購入高約 17.62<sup>円</sup>ニ當リ、本年度中新義州及慶州ニ配給所ヲ新設セリ、本年度資産負債勘定及主要品ノ箇所別配給額ヲ示セバ下ノ如シ。

資 産 負 債 表

資 産 ノ 部		負 債 ノ 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
本部物品	154,969.80	借入金	470,000.00
配給所物品	128,458.52	假受金	491.77
配給車物品	3,386.34	未拂金	154,596.42
未收金	316,251.98	損益	2,170.05
銀行預金	19,904.40		
地方送金	4,287.20		
計	627,258.24	計	627,258.24
前年増	61,036.98	前年増	61,036.98

箇 所 別 配 給 表

配給所別	白米	雜穀	酒類	煙草	薪炭	雜品	石炭	副産品	計
本部	9,261.12	1,278.12	58.04	27.00	481.09	21,634.55	7,234.46	5,001.13	45,015.51
配給車	—	—	—	—	—	173,555.42	—	—	173,555.42
龍山	169,481.43	5,235.48	8,408.46	6,753.52	19,455.12	150,241.69	45,647.01	17.53	435,279.54
京城	80,573.16	1,664.64	4,715.99	—	6,339.01	50,626.45	8,982.96	—	152,902.24
西大門	22,810.71	663.35	1,763.03	63.20	2,884.29	31,874.13	6,169.60	.10	65,618.41
錦町	40,731.60	2,484.97	2,508.11	582.70	7,120.29	50,878.00	8,634.70	.18	112,950.55
京城工場	119,598.21	325.62	1,072.74	9,461.01	1,908.53	31,167.98	6,564.79	—	170,338.93
仁川	30,994.58	1,251.77	2,632.81	2,722.43	2,211.85	25,030.54	3,515.19	53.01	68,412.18
草梁	122,723.26	6,691.00	3,031.31	3,277.10	28,006.51	73,043.63	3,039.59	147.39	239,360.19
馬山	18,548.99	1,138.44	1,749.25	1,449.68	3,336.01	29,732.59	283.23	8.35	56,246.54
大邱	44,113.48	5,435.35	3,054.48	2,338.67	4,700.30	64,543.57	2,530.07	32.14	127,078.09
慶州	8,762.20	548.31	1,408.68	729.55	568.00	15,509.23	356.82	—	27,912.79
大田	80,465.87	2,697.62	7,875.57	5,317.60	6,448.09	118,857.78	13,009.15	54.59	234,729.27
裡里	41,450.28	782.46	4,872.25	2,548.30	3,747.43	49,569.54	3,542.51	68.45	106,581.52
木浦	27,744.35	1,016.16	3,403.87	1,783.80	3,061.25	39,629.78	1,572.18	89.34	78,240.73
新幕	24,466.78	2,011.71	5,507.65	2,040.60	—	57,707.54	4,248.52	135.53	96,208.33
平壤	118,680.71	4,467.54	9,506.35	7,340.10	9,530.37	174,246.29	16,611.17	425.72	341,408.81

定州	42,373.13	2,021.25	3,126.58	1,515.80	—	54,550.53	4,676.26	73.10	106,236.98
新義州	14,713.99	128.10	2,941.01	1,164.73	125.44	20,453.23	3,945.75	7.50	43,509.75
福溪	23,121.36	638.00	5,640.98	—	199.47	40,049.78	3,129.13	18.55	72,787.27
元山	37,885.27	728.07	6,959.62	—	1,875.84	56,605.31	4,066.07	93.70	108,211.58
咸興	30,573.36	828.16	5,011.87	—	—	50,445.77	990.00	33.72	87,885.89
新北青	11,314.18	156.23	3,220.90	—	137.00	20,949.18	50.40	4.80	35,832.69
城津	33,093.00	1,448.35	4,647.54	3,652.10	1,002.67	35,973.00	1,822.65	126.95	81,166.59
清津	87,585.45	18,009.03	10,643.84	7,992.67	6,169.04	101,767.52	4,894.28	188.11	237,261.24
計	1,241,076.63	61,048.79	104,182.01	60,171.88	109,673.65	1,568,659.68	156,076.79	6,584.90	3,306,868.34
對前年度増減(△)	17,375.11△	8,368.45	8,840.34	3,896.08△	10,921.36	213,164.96	12,491.20	778.96	237,351.84

授産部 授産部ハ不具、廢疾ニ歸シタル従業員並ニ其家族ニ對シ簡易ナル職業ヲ授ケ生活ノ安定ヲ圖ラシムル爲設立セラレタルモノニシテ、本年度業績ハ裁縫部、印刷手工部、編物部、洗濯部ヲ通ジ就業延人員 70,200<sup>人</sup>、一日平均 195<sup>人</sup>、資金ハ 110,000<sup>円</sup>ニシテ、本年度生産高 189,636.75<sup>円</sup>ナリ。前年度ニ比シ生産高ニ於テ 13,088.94<sup>円</sup>ノ減少ヲ示セルハ本年度始メニ當リ洋服部ヲ廢止シタルニ因ルモノニシテ、純就業延人員ニ於テハ 720<sup>人</sup>ヲ増加シ設備ノ改善、諸掛費ノ節約、従業員ノ訓練等ト相俟ツテ逐年其成績良好ニ向ヒツハアリ、資産負債並ニ生産高下ノ如シ。

資 産 負 債 表

資 産 ノ 部		負 債 ノ 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
未收金	49,408.750	資 金	110,000.000
貯蔵品	21,151.188	未拂金	22,461.550
預金	6,106.210	假受金	600.000
備品	15,101.977		
製修落成品	36,334.741		
半成品	4,958.684		
計	133,061.550	計	133,061.550
對前年度増	7,828.02		7,828.02

製修物品生産高表

部 別	人 員		生 産 高	對 前 年 度 比 較 増 減(△)
	人 員	延 人 員		
洋 服 部	5	1,800	15,686.030	△ 36,367.530
裁 縫 部	81	29,160	110,774.290	13,063.330
印 刷 手 工 部	63	22,680	44,418.190	7,196.880
編 物 部	37	13,320	12,534.140	1,058.980
洗 濯 部	9	3,240	6,224.100	1,959.400
計	195	70,200	189,636.750	△ 13,088.940

第五章 賠償並見舞金

本年度=於ケル損害賠償並見舞金支出ハ總額 23,251.19 =シテ、之ヲ前年度=比スル= 8,736.48ノ増加ヲ示セリ。

今其内譯ヲ見ル=支出金額ノ最モ多キハ燒損ノ 5,742.20 =シテ、沿線火災ノ 4,080.90 =之次ギ、紛失 3,614.19、盜難 2,050.39、死傷 1,723.15、不著 1,705.95、減量 1,111.71、濡損 946.45、破損 919.73、腐敗 692.44、汚損 578.18、誤渡 63.61、變質 22.20ノ順位トナル、而シテ之ガ件數ハ減量=於ケル 71、不著=於ケル 43、死傷 33、濡損 32、沿線火災 27、破損 25、汚損 21、盜難 18、紛失 9、燒損 5、誤渡 2、變質、腐敗各 1ナリ。

其ノ内最モ甚ダシキモノハ燒損ノ 5,742.20、減量ノ 1,111.71、紛失ノ 3,614.19ナリトス。右ハ佳水院・豆溪間=於ケル貨車一車燒失、大邱驛、仁川驛=於ケル貴重品紛失等=依ルモノナリ。尙腐敗ノ 1、692.44ハ京城驛=於ケル生明太一車ノ腐敗=依ル。

第六章 保健、慰安

**保 健** 従事員健康ノ如何ハ業務能率=影響スル處大イナルヲ以テ、業務ノ進展=伴ヒ逐年全線=於ケル醫療機關ノ整備改善ヲ圖リ、且龍山鐵道醫院ノ直營ヲ行フ等各種ノ施設ヲ行ヒ來レリ。

**龍山鐵道醫院** 從來同仁會トノ契約=依リ委託經營ヲ行ヒ來リタル同醫院ハ、大正十五年四月以降直營=移シ、各種施設ノ改善ヲ行ヒタルガ、業務益々繁劇ヲ加ヘ建造物ノ狹隘ヲ感ズル=至リタルヲ以テ、昭和三年二月新=本屋ノ建築=着手シ、同年九月竣工、其後館内諸設備ヲ行ヒ昭和四年一月ヨリ新館=移轉シ診療ヲ開始シ、舊本館ハ内部ノ模様替ヲ行ヒ専ラ病室=充當ノ事トシ完成後ノ總敷地 11,000 平方米、内新館 2,600 平方米=シテ地中階一層二層ヲ有シ、建築費ハ諸設備其他ヲ合シ約 150 千ナリ。

昭和三年度末=於ケル従事員ハ醫院長以下 94 =シテ、年度中ノ診療人員其他主ナル事項下ノ如シ。

(1) 本年度中診療延人員ハ 147,703 (内入院 19,409)、之ガ一日平均ハ外來 351.5、入院 53.2ノ割合=シテ前年度=比シ延人員=於テ 2,015 増シ一日平均=於テ外來 1 増シ、入院 6.5 増セリ。

(2) 次=病類別=依ル診療人員ハ呼吸器病ノ 22,864 (内局員 20,427、總體=對スル比率 1.55)ヲ最高トシ、次ハ耳鼻咽喉ノ 21,222 (同上 17,342、同上 1.44)、結核、花柳病、マラリヤ、腸チブス等傳染性病ノ 19,600 (同上 17,430、同上 1.3)、消化器病ノ 15,649 (同上 13,982、同上 1.06)、外傷 15,458 (同上 13,949、同上 1.05) =シテ、尙 10,000 以上ノモノ眼科及泌尿器病アリ、最少ハ中毒 29 =シテ局外者トス。

(3) 診療人員ノ大部分ハ局員及家族=シテ之ガ延人員 127,150、局外者 20,553、計 147,703 (前年度=比シ 2,015 増)ヲ算ス、更=之レヲ内鮮別=示セバ局員及家族ノ内地人男 59,585 (前年度=比シ 1,819 減)、同女 48,109 (同上 2,801 増)、朝鮮人男 16,845 (同上 136 増)、同女 2,611 (同上 626 増)=シテ概シテ男=於テ減シ女=於テ増加シ居レリ。

**地方囑託醫** 明治四十年沿線主要地=囑託醫ヲ配置シテ以來漸次其數ヲ増加シ、現在全線=於ケル駐在地 35、囑託醫 42 (内無給 12) =シテ前年度=比シ駐在地 10 (馬山、慶州、浦項、蔚山、天安、水原、江景、高山、吉州及鐵原)ヲ増加シ 1 (漣川)ヲ減ズ、地方囑託醫ノ大部分=ハ、醫務室、及住宅ヲ貸與シ、沿線従事員ノ保健診療=資セリ。

三年度末=於ケル駐在地ハ

釜山、三浪津、馬山、大邱、慶州、浦項、蔚山、金泉、大田、天安、水原、永登浦、西大門、開城、新幕、沙里院、平壤、新安州、定州、新義州、木浦、松汀里、裡里、江景、鐵原、福溪、高山、元山、咸興、前津、城津、吉州、羅南、清津、會寧

=シテ、上記ノ外建設線專屬囑託醫九名(助手共)ヲ有シ、工事進行=伴ヒ従事員ト共=駐在地ヲ移轉ス、年度末駐在地次ノ如シ。

安邊、桑蔭、慈東、殷山、雄基、青鶴、新阿山、慶源、遮湖

**慰問婦** 醫療機關ノ施設ナキ地方従事員家族ノ爲、慰問婦ヲ巡回セシムルコト、シ、専ラ妊婦ノ相談、助産、病氣看護等=當ラシメ其定員ハ前年度=比シ 12 増シタル 21 =シテ、年度末現在駐在地ハ釜山、大邱、金泉、大田、裡里、松汀里、木浦、仁川、龍山、開城、新幕、沙里院、平壤、定州、新義州、福溪、元山、咸興、新北青、城津、清津ナリ。

**水質試験** 飲料水ノ試験ハ毎年春夏ノ候全線ノ井水ヲ取集メ龍山鐵道醫院=於テ詳細=試験シ、其結果ヲ夫レ夫レ關係ノ向=通知シ適當ノ施設ヲ行フ資料トセリ、此ノ外隨時要求=應ジ試験ヲ行ヒツ、アリ。

三年度定期試験井戸<sup>課所</sup> 285ニシテ内飲料ニ好適ノモノ110、<sup>課所</sup> 淺深濾過使用ヲ要スルモノ145、飲料不適ノモノ<sup>課所</sup> 30ナリ。

**慰安** 従事員慰安ニ關スル施設ハ主トシテ局友會ニ於テ之ヲ實施ス、本年度事業概要並ニ其收支下記ノ如シ。

(1) 運動會本支部ニ於テ従事員及其家族ノ慰安ヲ主トスル運動會並野遊會ヲ春秋ノ好季ニ於テ開催ス。

(2) 慰安

(イ) 娛樂機關ノ設備ナク平素、慰安ノ機會ニ乏シキ中間驛所在勤従事員及其家族ノ爲本部ヨリ慰問隊(活動寫眞、落語、音曲等)ヲ巡回セシム。

(ロ) 建設線現場員慰安ノ爲、活動寫眞班、藝人班ヲ派遣セル外各工事係ニ慰安費若干ヲ分配ス

(ハ) 鮮内各地ニ於ケル主要都市或ハ名勝地ヲ撮影、活動寫眞フィルムヲ作製シ宣傳ヲ兼ネ慰安映寫會ヲ開催ス。

(ニ) 本支部會場ニ於テ落語、活動寫眞、其他ヲ聘シ慰安會ヲ開催ス。

(ホ) 知名ノ士ヲ招聘シ沿線主要地ニ於テ修養ニ關スル講演會ヲ、又釜山ニ於テ二回修養團講習會ヲ釜山及龍山ニ於テ婦人修養講習會ヲ開催ス。

(ヘ) 支部管内慰安ノ爲蓄音機ノ廻送ヲ實施ス(現在<sup>課所</sup> 30ヲ各地ニ配置ス)。

(ト) 其他本支部所在地ニ於テ家事、料理等ニ關スル講習會ヲ時々開催ス。

(チ) 鮮人従事員及家族ノタメ嗜好ニ應ジタル特別慰安會ヲ催ス。

(3) 兒童保護、兒童保護ノ精神ニ基キ學校並家庭教育ト相俟テ兒童心身ノ健全ナル發達ヲ期スルヲ目的トシ、其主ナル事業ハ學齡未滿兒ノ保育並託兒ヲナシ、尙兒童ヲ一團トスル「子供ノ會」ヲ開ク、現在兒童遊園開設箇所ハ龍山、西大門、平壤及釜山ノ4トス。

**其他** 以上ハ局友會庶務部ニ於テ實施セラレタルモノナルガ、其他文藝部ニ屬スル雜誌(局友)ヲ毎月二回内鮮兩文併載ニテ發行シ、全従事員ニ對シ無代配布ヲ行ヒ年度末發行部數16,200部ニ達シタリ。

**會計** 昭和三年度ニ於ケル局友會收支狀況下ノ如シ。

收 入		支 出	
費 目	金 額	費 目	金 額
經常部		經常部	
會 費	48,641	總 體 費	58,773
鐵道局脚出金	30,000	運 動 部 費	24,182
寄 附 金	9,330	文 藝 部 費	27,392
收 入 利 息	11,643	娛 樂 部 費	17,768

浴 場 收 入	6,188	翌年度へ繰越利餘金	4,584
文 藝 部 收 入	6,246		
娛 樂 部 收 入	10,216		
前年度繰越金	6,487		
其他各收入	3,948		
合 計	132,699	合 計	132,699

## 第七章 鐵道圖書館

年度末ニ於ケル備付圖書總數ハ86,275<sup>冊</sup>ニシテ本館、巡回文庫、各課所、専用備付等ニ分ル、特ニ鐵道並ニ工學ニ關スルモノヲ多數蒐集セリ、本年度狀況ヲ見ルニ開館日數ハ322、館内閱覽圖書38,245<sup>冊</sup>、館外帶出冊數40,785<sup>冊</sup>ニ達シ、外ニ兒童圖書館ニ於ケル閱覽圖書ハ17,877<sup>冊</sup>、巡回文庫ノ閱覽冊數ハ0,580<sup>冊</sup>、家庭文庫ノ閱覽冊數ハ6,419<sup>冊</sup>ヲ算ス。

## 第二編 運 輸

### 第一章 運輸施設及成績ノ概要

(1) **運輸施設** 年度末停車場總數ハ<sup>課所</sup> 328(内簡易驛<sup>課所</sup> 58)ニシテ前年度ニ比シ<sup>課所</sup> 40ヲ増加シ使用車輛數ハ客車756<sup>輛</sup>(内狹軌線用70)貨車3,233<sup>輛</sup>(内狹軌線用222)ニシテ前年度ニ比シ客車85<sup>輛</sup>貨車322<sup>輛</sup>ヲ何レモ増加シタリ。

年度中施設ノ主ナルモノヲ舉グレバ(1)新線ノ延長ハ八月十一日會寧炭礦線<sup>課分</sup> 6.6、九月一日咸鏡線盤松群仙間<sup>課分</sup> 14.9、十月十五日平元西部線舍人場、順川間<sup>課分</sup> 13.8ヲ新ニ建設シ、尙京元、咸鏡兩線ニ於テ改良工事施行ノ結果<sup>課分</sup> 1.4ヲ増加シタル外、昭和二年度以降新規計畫ニ基ク買收豫定線中七月一日東海中部線<sup>課分</sup> 92.5ヲ買收シ合計<sup>課分</sup> 129.2ヲ延長シ右ニ伴ヒ會寧炭礦線<sup>課分</sup> 3、咸鏡線<sup>課分</sup> 5、平元西部線<sup>課分</sup> 3、東海中部線<sup>課分</sup> 26、其他既設線ニ新設シタルモノ<sup>課分</sup> 3、ヲ合計<sup>課分</sup> 40ヲ増加シ(2)旅客關係ニアリテハ(イ)規程ノ整理 從來當局線ト鮮内私設鐵道トノ相互間及汽船會社トノ旅客連帶運輸ハ各別ニ規程ヲ設ケ之ガ取扱ヲナシ居リシガ旅客及鐵道相互ノ利便ヲ考慮シ五月一日ヨリ當局私設鐵道及航路間ニ旅客並荷物連帶運送規則ヲ設ケ之ガ取扱ヲ統一シタリ、(ロ)連帶運輸ノ改善、客年開始セル歐亞連絡運輸ハ參加運輸機關中準備ノ整ハザル運輸機關アリシニ付不取敢日本側運輸機關トソウイエト國有鐵道トノ間ニ於テノミ之ガ取扱ヲ開始シ居リシガポーランド、獨逸、チェツコスロバキヤ、オーストリア、伊太利等ノ各國ニ於テモ準備整ヒタルニ付七月十五日ヨ

リワルソー及ベルリン迄又八月三十日ヨリブラーグ、ウイーン、ローマ迄取扱範圍ヲ擴張セル外  
 更ニ歐亞連絡客ノ便ヲ圖ルタメ十二月十五日ヨリ東支及西比利亞鐵道ノ列車發臺ヲ局線内ニテ豫  
 約シ得ルコトトセリ、又鮮内ノ連絡運輸ニアリテハ咸鏡線ノ全通ニ伴ヒ朝鮮郵船及大阪商船經營  
 ニ係ル元山、清津間航路トノ連絡運輸ヲ廢止シ一方北鮮方面トノ利便ヲ圖ルタメ朝鮮郵船經營ニ  
 依ル清津雄基間航路ト連帶運輸ヲ開始シ更ニ西部國境方面ト商取引ノ利便ヲ増進スルタメ十一月  
 十日ヨリ价川鐵道會社線ヲ介シ价川、江界間、自動車ト小荷物ノ連帶運輸ヲ開始セリ、(ハ)旅  
 客誘致施設、團體旅客ニ對スル運賃割引ハ乗車哩ノ長短ニ依ラズ單ニ乗車人員ノ多寡ニヨリテ  
 ミ之ヲ定メ居リシガ線路ノ延長ニ伴ヒ相當遠距離乗車ヲナス團體客ノ誘致ヲ必要ト認メタルニ付  
 五月一日ヨリ 70<sup>哩</sup>以上乗車ノ團體客ニ對シ之ガ割引率ヲ 3割乃至 4割引ニ改正セル外五龍背溫泉  
 行旅客誘致ノタメ七月一日ヨリ割引往復乗車券ヲ發賣スルコト、セリ。

(8) 貨物關係ニアリテハ咸鏡線全通ニヨリ輸送距離ノ增加ニ伴ヒ遠距離運賃率ノ適用範圍ヲ  
 900<sup>哩</sup>迄ニ改メ狹軌線各驛相互間發著車扱貨物及級外品貨物中一口ニ對スル最低運賃ヲ二割餘ノ引  
 下ゲテ行ヒ且ツ狹軌線ニ於ケル長尺貨物ノ取扱範圍ヲ擴張シ又冷蔵車新造ニ伴ヒ同車積載貨物ノ  
 最低噸數ヲ特定シ其他旅客ト同様ノ理由ニ依リ各連帶運輸ニ關スル規則ノ改正、米・石炭・石油・セ  
 メント・綿布・バルブ・砂糖・肥料等ニ對スル各種ノ特定貨ヲ設定シテ産業ノ發展ニ資シタリ

(2) 運輸成績 運輸收入ハ旅客貨物ヲ合シ總計 39,373<sup>千圓</sup>ニシテ、之ヲ前年度ニ比スルニ 3009<sup>千圓</sup>  
 ヲ増加シタルモ一日一哩平均收入ニ於テハ 69.78<sup>圓</sup>ニシテ前年度ニ比シ 2.02<sup>圓</sup>ヲ減ジタリ、其内譯  
 ヲ見ルニ(1) 旅客關係ニアリテハ輸送人員 22,284<sup>千餘人</sup>(前年度ニ比シ 1.1<sup>割</sup>強増)ニシテ此延人哩  
 745,291<sup>千餘人哩</sup>(同上 1.1<sup>割</sup>強増)手小荷物斤數ハ 64,119<sup>千餘斤</sup>(同上 1.0<sup>割</sup>強増)ニシテ其收入 19,377<sup>千餘圓</sup>  
 (同上 1.07<sup>割</sup>強増)ヲ算シ(2) 貨物關係ニアリテハ輸送數量 5,886<sup>千餘噸</sup>ニシテ之ガ延噸哩 766,978<sup>千餘噸哩</sup>  
 收入 19,995<sup>千餘圓</sup>ニシテ前年度ニ比シ數量ニ於テ 3.8<sup>割</sup>、延噸哩ニ於テ 6.6<sup>割</sup>、收入ニ於テ 5.9<sup>割</sup>ヲ何レモ  
 増加シタリ、一日一哩平均收入ノ減少ハ京釜、京義其他ノ既設各線ニ於ケル收入ハ増加セルモ買  
 收セル東海中部線ノ如キ營業哩相當長クシテ平均收入低位ニアル線路ヲ總テ合算按分セルガタメ  
 ニシテ、低位ニアル東海中部線ニ於テモ買收前ト買收後トヲ比較スレバ漸次増加シツ、アリ。

## 第二章 旅 客

輸送概況 本年度輸送概況ヲ上下半期ニ分ケ略述スレバ上半期ニ於テハ團體輸送、殊ニ内地ヨリ  
 ノ團體客増加セルト天候ニ恵マレタル爲遊覽及避暑客等例年ニ比シ相當多ク、下半期ニ於テハ十  
 月兵員ノ輸送ニ數箇列車ヲ運轉シタル外輸送上特記スベキ事項ナキモ咸鏡線全通、東海中部線ニ  
 於ケルガソリ自動車ノ運轉及新規各線ノ延長等ニ依リ自然増加ヲ示シ、全體ノ成績トシテハ順調  
 ニ進ミタリ。

### 月別概況及施設事項

四月 乗車人員 2,163,006<sup>人</sup>(精算數字前年同月ニ比シ(以下同シ)110,156<sup>人</sup>増)  
 旅客收入 1,781,860<sup>圓</sup>( " " )124,757<sup>圓</sup>増)

觀櫻期ニシテ例年ノ如ク各地觀櫻團ノ爲臨時列車ヲ運轉スル等輸送活況ヲ呈セリ。

施設事項ノ主ナルモノ

1. 一日ヨリ割引乗車券所持者ニ對スル上級乗換ノ取扱ヲ開始ス。
2. 一日ヨリ學校教員・學生・生徒ニ對スル割引證様式ヲ改正シ鐵道省・局線・滿鐵線共通使用  
ノコト、セリ。

五月 乗車人員 1,919,265<sup>人</sup>(218,653<sup>人</sup>増) 旅客收入 1,681,759<sup>圓</sup>(179,278<sup>圓</sup>増)

引續キ旅客多ク、殊ニ内外團體乘客ノ爲數回ノ臨時列車ヲ運轉スル等輸送相當繁忙ヲ呈セリ。

1. 一日ヨリ當局・私設鐵道及航路間ニ旅客・手・小荷物連帶運送規則・並ニ其手續ヲ制定實施  
ス。
2. 一日七百哩以上ヲ乗車スル普通團體ノ割引率ヲ一割宛引上ゲタリ。
3. 一日ヨリ十月三十一日迄三防行往復旅客ニ對シテ運賃三割引ノ取扱ヲナシ、且同期間中洗浦・  
三防間假乘降場ニ列車ヲ停車シ旅客・手荷物・附隨小荷物及牛乳ノ取扱ヲ開始ス。
4. 四日全州公立女子普通學校生徒 600<sup>名</sup>乗車ノ爲全州德津間ニ臨時旅客列車一往復ヲ運轉ス。
5. 十日ヨリ十月三十一日迄朝鐵黃海線長壽山簡易驛ヲ當局線ト旅客ノ一時限連帶驛ニ追加シ、  
往復乗車券及團體往復乗車券ヲ發賣ヲ爲ス。
6. 十一日、兵員、馬匹及軍需品輸送ノ爲福溪龍山間ニ臨時軍用列車ヲ運轉ス。
7. 十二日京城專賣局員約 1,500<sup>名</sup>京城・水原間乗車ノ爲同區間臨時旅客列車一往復ヲ運轉ス。
8. 十四日全州幼稚園兒及附添人 600<sup>名</sup>乗車ノ爲全州・德津間臨時旅客列車一往復ヲ運轉ス。
9. 十五日、朝鮮瓦斯電氣株式會社ト連帶シ東萊溫泉行割引往復乗車券ヲ發賣ヲ開始ス。
10. 十六日金剛山探勝連絡乗車券ヲ發賣ヲ開始ス。
11. 二十五日ヨリ二十八日ニ亙リ鐵道省敦賀運輸事務所主催北陸實業視察團乗車ノ爲釜山安東間  
臨時列車ヲ運轉ス。
12. 二十六日德津ニ於ケル全州民友會主催市民運動會參加員並觀覽客ノ便ヲ圖リ全州德津間ニ臨  
時旅客列車ヲ運轉ス。

六月 乗車人員 1,464,198<sup>人</sup>(119,861<sup>人</sup>増) 收入 1,338,206<sup>圓</sup>(117,865<sup>圓</sup>増)

引續キ輸送盛況ヲ示セルガ當月ハ入隊兵ノ輸送殊ニ目立テリ。

1. 五日ヨリ六日ニ亙リ敦賀運輸事務所主催北陸實業家鮮滿視察團輸送ノ爲安東仁川間・仁川釜  
山間ニ臨時旅客列車ヲ運轉ス。
2. 九日第二十師團各部隊入隊兵輸送ノ爲釜山大田間ニ臨時列車ヲ運轉ス。

- 3. 九日ヨリ十日ニ亙リ、第二十師團各部隊入隊兵輸送ノ爲釜山・平壤間ニ臨時列車ヲ運轉ス。
- 4. 十一日東京大相撲團體輸送ノ爲昌原三浪津間ニ臨時列車ヲ運轉ス。
- 5. 二十二日德津ニ於ケル水泳客ノ便ヲ圖リ全州・德津間臨時旅客列車ヲ運轉ク。

**七月** 乗車人員 1,503,339<sup>人</sup> (266,676<sup>人</sup>増) 収入 1,425,277<sup>円</sup> (199,270<sup>円</sup>増)

季節ニ依ル納涼割引及臨時列車ノ運轉ヲ行ヒ、東海中部線ノ買収及新線ノ延長等ニ依リ前年同月ニ比シ輸送成績極メテ良好ナリ。

- 1. 一日ヨリ大邱及平壤驛ニ於ケル入場者整理ノ爲之カ料金ヲ引上ク。
- 2. 一日ヨリ五龍背温泉行割引往復乗車券ノ發賣ヲ開始ス。
- 3. 内地ヨリ歸還ノ窮乏鮮人ニ對スル運賃割引期間ヲ十二月三十一日迄延期ス。
- 4. 九日ヨリ八月三十一日迄錦江水泳客ノ便ヲ圖リ新灘津・大田間ニ臨時旅客列車ヲ運轉ス。
- 5. 十日ヨリ八月三十一日迄元山・西湖津・新灘津・釜山・馬山・鎮海行旅客ニ對シ水泳客誘致ノ爲各運賃割引ヲ行フ。
- 6. 十五日ヨリ八月三十一日迄前項ノ理由ニ依リ仁川・松汀里行旅客ニ對シ運賃ヲ割引ス。
- 7. 十五日ヨリ歐亞連絡旅客及手荷物ノ取扱區間ヲベルリン迄擴張ス。
- 8. 十五日錦江ニ於テ開催ノ京城日報大田支局主催水泳大會行水泳客輸送ノ爲、大田・錦江橋梁間ニ臨時旅客列車ヲ運轉ス。
- 9. 二十一日ヨリ西湖津行海水浴客輸送ノ爲成興・西湖津間ニ臨時旅客列車ヲ運轉ス。
- 10. 二十九日木浦ニ於テ開催セル煙火大會觀覽會員ニ對シ運賃ヲ割引シ且會員輸送ノ爲木浦・全南光州間ニ臨時旅客列車ヲ運轉ス。
- 11. 二十九日朝鮮民報社主催松島海水浴客輸送ノ爲大邱・釜山間ニ臨時旅客列車ヲ運轉ス。

**八月** 乗車人員 1,676,722<sup>人</sup> (183,257<sup>人</sup>増) 収入 1,504,772<sup>円</sup> (131,559<sup>円</sup>増)

水邊ニ涼ヲ趁フ乗客ノ爲仁川・元山・西湖津・釜山等海水浴場行並ニ新灘津・松汀里等ノ水泳場行ニ對シ夫々之ガ施設ヲ行ヒ、月末成鏡線方面ニ於テ水害アリシ外、輸送量最多キ京釜義線ニ於テ差シタル被害ナク、且ツ一般ニ雨量少ク好晴續キナリシ爲相當旅客ヲ誘致シ得テ好成績ヲ示セリ。

- 1. 一日ヨリ日滿聯絡旅客ニ對シ經路外旅行(サイドトリツプ)往復券(割引券ヲ含ム)ヲ發賣スルコト、セリ。
- 2. 四日裡里ニ於テ開催セル群山日報裡里支社主催納涼煙火大會觀覽客輸送ノ爲裡里・井邑間ニ臨時列車ヲ運轉セリ。
- 3. 三十日ヨリ歐亞國際旅客及手荷物聯絡運輸ノ取扱範圍ヲブラーグ、ウイーン、ローマ迄擴張セリ。

**九月** 乗車人員 1,891,945<sup>人</sup> (275,308<sup>人</sup>増) 収入 1,562,150<sup>円</sup> (170,196<sup>円</sup>増)

涼氣加ハルニ從ヒ共進會・品評會等各地ニ開催セラレ、又團體旅行者モ漸次増加スル等輸送活況ヲ呈シ加フルニ成鏡線ノ全通ニ依リ北鮮方面行旅客ノ増加、鎮海ニ入港セル帝國聯合艦隊ノ拜觀者多數アリ極メテ好成績ヲ示セリ。

- 1. 九月一日ヨリ列車ノ寢臺裝置箇數及寢臺擔當驛ヲ改正セリ。
- 2. 九月一日ヨリ朝鮮郵船株式會社トノ旅客手・小荷物ノ連帶區域ヲ改正ス。
- 3. 九月一日ヨリ大阪商船株式會社トノ旅客・手・小荷物ノ連帶運輸ヲ廢止ス。
- 4. 九月一日ヨリ成鏡線 501・502・503・504 各列車ニ食堂車營業ヲ開始ス。
- 5. 九月十七日ヨリ十九日迄鎮海入港ノ帝國聯合艦隊拜觀者ニ對シ運賃割引ヲ開始ス。
- 6. 九月十七日軍艦拜觀者輸送ノ爲釜山・鎮海間ニ十二輛編成ノ臨時列車ヲ運轉ス。
- 7. 九月十七、八ノ兩日同上大邱・釜山間ニ臨時列車ヲ運轉ス。
- 8. 九月十九日同上慶州・大邱間及大邱・鎮海間ニ臨時列車ヲ運轉ス。
- 9. 九月二十日ヨリ朝鮮國有鐵道旅客及荷物運送規則並同取扱細則中ノ一部ヲ改正ス。

1. 九月二十日小荷物配達區域中一部ヲ改正ス。

- 1. 九月二十三元山毎日新聞社主催釋王寺行松茸狩團體輸送ノ爲元山・釋王寺間ニ臨時列車ヲ運轉ス。

**十月** 乗車人員 2,131,871<sup>人</sup> (372,082<sup>人</sup>増) 収入 1,752,785<sup>円</sup> (294,540<sup>円</sup>増)

前年同月ニ比シ人員、收入共著シク増加セルガ右ハ新線ノ延長及自然増加ニ依ル外、本秋ノ御大典ヲ期トシ博覽會、共進會等各地ニ於テ開催サレシ陸軍秋季演習ノ輸送多カリシニ基因ス。

- 1. 六日第七十四聯隊兵員馬匹及軍需品輸送ノ爲成興・新北青間ニ臨時軍用列車ヲ運轉ス。
- 2. 六日ヨリ十月二十二日ニ亙リ第十九師團秋季演習部隊輸送ノタメ客車増結及臨時軍用列車ヲ運轉ス。
- 3. 十七日朝鮮新聞社主催栗拾團體輸送ノ爲京城・安養間ニ臨時旅客列車ヲ運轉ス。
- 4. 十一日ヨリ大邱・慶州間ニ三等ガソリン動車ヲ運轉シ旅客ノ取扱ヲ爲ス。
- 5. 十三日ヨリ十月十四日迄平壤ニ於ケル卸商組合主催、全國優良品展覽會觀覽團體ニ對シ十人以上ニ割引二十人以上三割引ノ取扱ヲ爲ス。
- 6. 十三日ヨリ十一月四日迄白羊寺及內藏山觀風客ノ便ヲ圖リ四街里又ハ井邑驛行往復旅客ニ對シ運賃二割引ノ取扱ヲ爲ス。
- 7. 十七日ヨリ十月三十一日ニ亙リ第二十師團秋季演習部隊輸送ノ爲臨時軍用列車ノ運轉並客車増結ヲ爲ス。
- 8. 十七日ヨリ二十一日迄大田ニ於テ開催ノ忠清南道主催南鮮六道聯合畜産共進會觀覽團體ニ對シ十人以上ニ割引二十人以上三割引ノ取扱ヲ爲シ、同團體客輸送ノ爲臨時旅客列車ノ運轉及客車ノ増結ヲ爲ス。

- 9. 十八・十九兩日=互リ仁川入港ノ帝國練習艦隊出雲八雲艦乗組兵員輸送ノ爲仁川。京城間=臨時軍用列車ヲ運轉ス。
- 10. 二十一日ヨリ二十二日=互リ歩兵第七十四聯隊兵員輸送ノ爲羅南・咸興間=臨時軍用列車ヲ運轉ス。
- 11. 二十七日專賣支局職工團輸送ノ爲大邱・東村間=臨時旅客列車ヲ運轉ス。
- 12. 三十日第十九師團除隊兵輸送ノ爲羅南・清津間=臨時旅客列車ヲ運轉シ會寧・清津間=客車ヲ増結ス。

**十一月** 乗車人員 1,881,595<sup>人</sup> (167,327<sup>人</sup> 増) 収入 1,571,154<sup>円</sup> (140,071<sup>円</sup> 増)

旅行季節終リ=近付キ、且ツ寒氣次第ニ加ハリシヲ以テ旅行者漸次減少シ團體旅客等ノ見ルベキモノモナカリシガ、人員及收入ハ咸鏡線ノ全通其他=依リ前年同月=比シ増加セリ。

- 1. 十日ヨリ价川鐵道ヲ介シ國際運輸株式會社經營价川江界間自動車ト小荷物連帶運送ヲ開始ス。
- 2. 二十日ヨリ四洮鐵路局ト聯絡運輸ノ場合=旅客自用ノ自轉車ヲ附隨小荷物トシテ取扱フコト=改正ス。

**十二月** 乗車人員 2,055,181<sup>人</sup> (212,435<sup>人</sup> 増) 収入 1,803,411<sup>円</sup> (181,769<sup>円</sup> 増)

當月ハ冬季休暇=依リ學生生徒ノ歸郷旅行及井邑=於ケル普天教冬至祭參拜者ノ多カリシ等ヲ特記事項トス。

- 1. 一日溫陽溫泉行旅客=對シ運賃四割引ノ週末割引ヲ開始ス利用者相當多シ。
- 2. 一日ヨリ信川溫泉・溫陽溫泉・龍崗溫泉・朱乙溫泉・五龍背溫泉・東萊溫泉・儒城溫泉行旅客=對スル運賃割引ヲ三割引=改正ス。
- 3. 一日ヨリ日曜日祭日=限り京城驛ト溫陽溫泉驛間=直通列車ノ運轉ヲ開始ス。
- 4. 十日ヨリ第七、八列車ノ一等寢臺裝置箇數ヲ十二箇=増加ス。
- 5. 十五日ヨリ日滿及歐亞聯絡旅客=對シ局線内=於テ東支及西比利亞鐵道線内ノ寢臺豫約ヲ開始ス。

**一月** 乗車人員 1,883,239<sup>人</sup> (75,379<sup>人</sup> 増) 収入 1,572,622<sup>円</sup> (140,978<sup>円</sup> 増)

本月ハ南鮮地方豐漁=依ル鮮魚ノ發送増加セルト、北鮮地方ヨリ鮮魚及鹽・干魚ノ荷動=活況ヲ呈シ、且ツ安東發杵蠶糸多量ナリシ爲手・小荷物ノ增收ヲ見ル=至リ、乗客及乗車賃金ノ增收=關シテハ特筆スベキ事項ナキモ、京城・溫陽溫泉間直通車輛利用者相當多ク一月一日ヨリ以降十三日=至ル間=約 800<sup>人</sup>ヲ輸送シ尙増加ノ傾向アリ。

- 1. 宣川=於テ開催ノ朝鮮耶蘇教長老會平北長老會總會出席者=對シ運賃割引ヲナス。

**二月** 乗車人員 1,678,757<sup>人</sup> (63,617<sup>人</sup> 増) 収入 1,381,143<sup>円</sup> (37,372<sup>円</sup> 増)

本月輸送成績ハ前年同月=比シ人員=於テ <sup>千餘人</sup>63、收入=於テ <sup>千餘人</sup>37、ノ増加ヲ見タル=過キズ之ヲ地方

別=見レバ釜山管内=於テ同上人員=於テ 1<sup>割</sup>ヲ増加シ收入=於テハ東海中部線ノ買収=依ル増加ヲ加フルモ約 <sup>分</sup>6ノ減少ヲ示シ、大田管内ハ同ジク人員 <sup>分</sup>1.7 収入 <sup>分</sup>8ノ何レモ減少ヲ來シ、京城管内=於テハ人員約 <sup>分</sup>3.5 収入 <sup>分</sup>3ヲ増加シ、平壤管内=於テハ收入約 <sup>分</sup>4.5ヲ増加セリ、之ヲ要スル=中部以南=於テハ昨年旱害=基ク影響深酷ヲ加ヘ、京城以北=於テハ咸鏡線全通=伴フ增收ト鮮支人來往相當活況ヲ呈セルヲ其主因トス。

- 1. 廣島市開催昭和博覽會出品人關係役員=對シ割引ヲ實施ス。
- 2. 四日ヨリ九日迄小荷物及貨物ノ事故防止週間ヲ實施ス。

**三月** 乗車人員 2,035,722<sup>人</sup> (161,688<sup>人</sup> 増) 収入 2,002,287<sup>円</sup> (162,889<sup>円</sup> 増)

當月ハ大田管内=於テ普天教彼岸參集信徒約 1,600<sup>人</sup>ノ輸送アリシ外大團體ノ輸送ナク、前年同月=比シ人員及收入ノ増加セルハ線路延長其他=依ル自然増加ト認メラレ、施設事項ノ主ナルモノハ滋賀線主催齋田紀念全國農具共進會出品人及役員=割引ヲ實施セルコトナリ。

### 第三章 貨物

本年度貨物輸送成績ヲ上下兩半期=分ケ考察スル=上半期=アリテハ春季貨物大移動期以來夏枯期=向ヒ漸減ヲ辿リ例年ト大差ナキ情勢ヲ以テ推移セルガ、産米増殖計畫ノ進展=伴フ肥料ノ輸入増加、豐作後=於ケル移出米ノ好況、水利水電等諸工事ノ勃興=伴フセメント等ノ荷動=ヨリ大體好況ヲ示シタリ。

下半期=アリテハ十一月、十二月=於ケル新穀、石炭ノ出廻リ、年度末期陽春轉換期=於ケル肥料、セメント、木材等ノ移動=ヨリ相當繁忙ヲ呈シタルガ、大減收ト意外ナル相場安トノ關係ヨリ大宗貨物タル鮮米ノ荷動比較的振ハズ、滿洲粟ノ入荷亦米價安=壓セラレ、共=前年ノ盛況=及バズ之ガ爲全體輸送=於テ按外平凡ノ裡=經過シタルモ一般財界ノ不況期トシ、且ツ大宗産業タル鮮米大減收ノ年トシテハ相當ノ成績ヲ收メタリ。月別概況竝=主要貨物移動狀勢下ノ如シ。

### 月別概況

**四月** 輸送數量(精算以下同ジ) 532,201<sup>噸</sup> (前年同月=比シ(以下同ジ) 13,173<sup>噸</sup> 減)  
収入(精算以下同ジ) 1,931,031<sup>円</sup> (前年同月=比シ(以下同ジ) 202,019<sup>円</sup> 減)

**一般概況** 木材及セメントヲ主トスル建築材料=於テ殊=顯著ナル増加ヲ見、肥料モ亦豆粕以外ノ硫酸雜肥ノ増加=ヨリ前年同月=比シ好況ヲ示シタリ。然レドモ月ヲ通ジテノ環境不味=伴フ米價ノ膠著ヨリ米ノ出廻リ依然少ク、粟モ亦米價安=壓セラレ例年ヨリ早く三月末ヲ絶頂トシテ輸入衰退傾向ヲ現ハシタルヲ以テ、大宗貨物タル穀類=於テ著シク不振ヲ來シ、結局營業的=於テ減少ヲ來セリ、只局用品ハ營業品減少ノ結果輸送餘力相當存シ月初ヨリ輸送順調=行ハレ、輸送全體ハ相當繁忙ヲ呈シタリ。當月=於ケル施設事項下ノ如シ(以下同ジ)

1. 四月一日連帶線内貨物特定貨率ヲ定ム。
1. 四月五日味噌醬油=對スル特定運賃ノ發驛=釜山ヲ追加ス。
1. 四月十日ヨリ十日間荷物ノ事故防止旬間ヲ施行ス。
1. 四月十二日養鶏用配合飼料=對シ特定運賃ヲ制定ス。
1. 四月十六日省線發綿布=對スル特定運賃=福山發ヲ追加ス。
1. 四月十七日貨物等級表肥料ノ項=「ニトロフオスカ・イー・ゲー」四級ヲ追加ス。
1. 四月十八日朝鮮總督府鐵道、私設鐵道航路間貨物連帶運送規則並同細則ヲ制定ス。
1. 四月十九日兼二浦發鐵鐵、鋼材=對スル特定運賃ノ著驛ヲ局線及連帶線=改メ貨率ヲ統一ス。

**五月** 輸送數量 540,350<sup>噸</sup> (65,901<sup>噸</sup> 増) 收入 1,743,764<sup>円</sup> (125,804<sup>円</sup> 増)

**一般概況** 肥料及粟ハ季節ノ荷動ヲ見木材及ビセメントハ晴天續キノ工事進捗ヨリ異常ナル活況ヲ呈シ共ニ記録的ノ荷動アリ。搦テ局用品ノ大増送ニ依リ輸送全體ハ前月以上ニ繁忙ヲ呈シタリ、例年ノ情勢ヨリ觀レバ漸次夏潤閑散期ニ近ク月末漸減スルヲ例トセルモ、本月上旬議會閉會政局安定以來米價ノ昂騰ヲ示シタルト、粟ノ思惑入荷等行ハレタル爲月末却テ輸送増加ヲ來シタリ。

1. 五月五日江景=於テ開催ノ米穀貯藏共進會=出品ノ玄米=對シ特定運賃ヲ適用ス。
1. 五月二十五日養鶏用配合飼料=對スル特定運賃ヲ車扱=モ適用スルコトトス。
1. 五月二十五日勝湖里發内湖著セメント=對シ特定運賃ヲ設定ス。

**六月** 輸送數量 496,122<sup>噸</sup> (56,791<sup>噸</sup> 増) 收入 1,584,361<sup>円</sup> (44,412<sup>円</sup> 増)

**一般概況** 本月ニ入りテヨリハ流石ニ季節ノ影響濃ク豆粕ノ入荷激減セメント在荷拂底、下旬米價反落ニ加フルニ水田植付方面ニ於ケル勞力吸收等ニ原因シ、漸ク潤落ノ色現ハレ在荷輸送共ニ漸減シ來レルモ、天候ノ良好ナリシトモラトリアムノ影響漸ク深酷トナリ來レル前年同月ニ比シテハ先ヅ順調ノ成績ヲ示シタリ。

1. 六月四日釜山、草梁發仁川著石油=對シ特定運賃ヲ設定ス。
1. 六月十一日寺洞發嶺南浦著煉炭=對シ特定運賃ヲ設定ス。
1. 六月十五日安養發釜山著長石=對シ特定運賃ヲ設定ス。
1. 六月二十六日永登浦發金泉外十四驛著綿布=對シ特定運賃ヲ設定ス。
1. 六月二十六日貨物運送規則中同一狹軌線發著貨物ノ最低運賃ヲ改正ス。
1. 六月二十七日内地著綿絲、綿布=對スル特定貨率中重量ノ制限ヲ廢ス。
1. 六月二十七日當局、航路間貨物連帶區域=朝鮮郵船浦項經由ヲ追加ス。
1. 六月二十八日大阪、神戸發大邱著一、二、三、四、五級品混載=對シ特定運賃ヲ設定ス。

**七月** 輸送數量 415,732<sup>噸</sup> (104,080<sup>噸</sup> 増) 收入 1,351,130<sup>円</sup> (276,788<sup>円</sup> 増)

**一般概況** 米ハ相場安ト農繁トニヨリ出廻尠ク生果、野菜ハ未ダ大勢端境期ニ屬シ、石炭、薪、木炭

等ハ何レモ不需要絶頂期ニ當リ之等鮮内貨物ノ荷動低調ニ加ヘテ滿洲粟ノ入荷漸減豆粕ノ輸入終了等ニテ前月ニ比シ更ニ急劇ニ低下シ剩餘車約700輛ヲ出ス閑散ヲ示シタリ。只京義本線ニ、三日間ノ水害不通アリタル前年同月ニ比シテハ遙ニ良好ナル成績ヲ收メタリ。

1. 七月六日船橋里發砂糖=對スル特定運賃ノ著驛=東海中部線各驛ヲ追加ス。
1. 七月六日陸軍恤兵品ノ取扱ヲ制定ス。
1. 七月十日局用貨物運送規程ヲ制定ス。
1. 七月二十三日石炭=對スル特定運賃ノ發驛=鷄林、鳳儀驛ヲ追加ス。

**八月** 輸送數量 398,905<sup>噸</sup> (53,476<sup>噸</sup> 増) 收入 1,284,570<sup>円</sup> (160,208<sup>円</sup> 増)

**一般概況** 米價ノ昂騰ニ米ノ出廻尠クサレ、セメント・木材等ハ旱天續キノ工事進捗ニ荷動良ク繩・吠・蓮・生果・野菜等多少擡頭氣配アリタルガ大勢上夏潤深ク、且ツ大宗産業タル米作ノ早害大減收豫想ヲ春景ニ、地方農民ノ疲憊甚シク其ノ影響相當深刻ナルモノアリ、肥料等ノ季節貨物ノ減少ト共ニ前月ニ比シ更ニ閑散ヲ示セリ。

1. 八月二十日滿鐵線發碼頭、夢灘、臨陂、倉洞簡易驛著粟、豆粕ノ連帶運送ヲ爲スコトトス。
1. 八月二十三日冷藏車新設ニ付同車積載貨物ノ運賃計算最低噸數ヲ特定ス。

**九月** 輸送數量 400,880<sup>噸</sup> (11,060<sup>噸</sup> 増) 收入 1,388,970<sup>円</sup> (67,697<sup>円</sup> 増)

**一般概況** 本月ハ運輸交通上ノ一期劃ヲ爲スベキ咸鏡線ノ全通アリ、季節ハ漸ク夏潤期ヲ脱却シ一般貨物ノ出荷漸増期ニ入りタル關係ヨリ、繁忙期ノ先驅ノ荷動アルベク期待セラレタルガ、咸鏡線方面ハ前月末ニ引續キ近年稀ナル大豪雨ノ襲來ヲ受ケ豆滿江水材流失、炭坑浸水、地方道路ノ破壊、咸南・咸北・圖門各私鐵線ノ不通等一般ノ被害甚シク、殊ニ咸鏡本線ハ十二日ニ至リ漸ク事實上ノ全通ヲ見タル如キ状態ニテ、同方面ノ荷動沈滞ヲ極メ引續キ輸送不振ヲ示セリ。收入ノ増加ハ一般計算上ノ都合ニ依ル。

1. 九月一日兼二浦、勝湖里發清津會寧著セメント=對シ特定運賃ヲ設定ス。
1. 九月一日活牛=對スル特定運賃ノ著驛=城津ヲ追加ス。
1. 九月一日元山、羅南發味噌、醬油=對シ特定運賃ヲ設定ス。
1. 九月七日平壤、白馬發氷=對シ特定運賃ヲ設定ス。
1. 九月十四日文峰著杭木=對シ特定運賃ヲ設定ス。
1. 九月十九日當局ノ車籍ニ編入シタル私有貨車、及之ニ依リ運送スル貨物=對スル規定ヲ制定ス。

**十月** 輸送數量 477,576<sup>噸</sup> (24,570<sup>噸</sup> 増) 收入 1,716,056<sup>円</sup> (176,397<sup>円</sup> 増)

**一般概況** 米ノ市況不振ノ爲前年同月ニ比シ稍不振ナルモ既ニ新穀期ニ入りシコトトテ月末漸増ヲ示シ、セメント・木材等ハ前月水害ニヨル障害ノ補充ノ活躍アリ、其他石炭・薪・木炭・鹽・生果・野菜等何レモ出廻歩調ヲ揃ヘタルタメ在荷、輸送共ニ日々漸増ヲ迎リ來レリ。



- 1. 十月三日焼酎=對スル特定運賃發驛ノ制限ヲ廢ス。
- 1. 十月三日勝湖里發石灰原石=對スル特定運賃ノ著驛=安東及鎮南浦ヲ追加ス。
- 1. 十月四日消石灰=對スル特定運賃ノ發驛ヲ瀾峴、瑞興、勝湖里=限定シ且ツ貨率ヲ統一ス。
- 1. 十月四日澤山兄弟商會トノ連帶取扱發港=博多ヲ追加ス。
- 1. 十月十一日釜山、草梁著鬮榨粕=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 十月十一日會寧發竹浦炭=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 十月十六日昌道發仁川著重昌石=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 十月二十五日明川發龍田炭=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 十月三十一日大阪商船下關、門司、大阪、神戸港トノ連帶驛=新北青ヲ追加ス。

十一月 輸送數量 567,796 (22,425 増) 収入 1,768,363 (67,058 増)

一般概況 本月ハ曠古ノ御大典ヲ迎へ之ガ爲ニ一部貨物ハ更ニ荷動ヲ刺戟サレ、一部貨物ハ舉國  
的ノ奉祝氣分ニ商取引幾分閑却ノ状態トナリ滯滞シタルガ、大勢ハ米ト石炭トノ増加、建築材料  
棹尾ノ活躍ニ基調ヲ置キ輸送順調ニ進展シ、殊ニ御大典後ノ下旬ニ於テ活況ヲ呈シタリ。在貨ハ  
上旬平均 17,300 中旬 18,300 ノモノ下旬ニ入リテハ日々 22,000<sup>噸</sup>ヲ下ルコトナク、逐日急増シ月  
末裕ニ 28,000<sup>噸</sup>ヲ突破スル盛況ヲ示セリ。

- 1. 十一月一日大阪發釜山著鐵道省線内貨切扱貨物ノ鮮滿向轉送代辦取扱ヲ開始ス。
- 1. 十一月十日當局ト价川鐵道株式會社經由國際運輸株式會社ト自動車便ニ依ル荷物ノ連帶運送  
ヲ開始ス。
- 1. 十一月二十五日煉炭=對スル特定運賃ノ發驛=金泉ヲ追加ス。
- 1. 十一月二十九日仁川、木浦發朝鐵清安及京南長湍院著肥料=對シ特定運賃ヲ設定ス。

十二月 輸送數量 594,955 (2,602 増) 収入 2,039,028 (215,950 増)

一般概況 米・石炭・大豆・木材及節季用雜品ノ據頭ニヨリ輸送ハ本年度ニ於ケル最高記録ヲ作  
リタルガ、米ノ出廻リハ相場安ト減收トノ關係ヨリ前年同月ニ比シ甚ダ不振、十二月一日ヲ最高  
トシテ早クモ急減ヲ來セルヲ以テ、十一月下旬ヨリ十二月中旬末ニ至ルマデ濶々タル出荷アリ  
タル前年ニ比シ著シキ衰退ヲ示セリ。

- 1. 十二月六日兼二浦發仁川著鐵、銅=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 十二月八日新義州發仁川著バルブ、印刷料紙、包裝紙=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 十二月十日私設鐵道荷受ノ鐵道線路用品外五品=對スル特定運賃ニ煉炭ヲ追加ス。
- 1. 十二月十三日旱害救濟副業原料藥=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 十二月十五日當局ト私鐵及航路間貨物連帶運送ノ範圍中、對咸平軌道ニ全南光州ヲ、對澤山  
汽船ニ佐世保、三角ヲ、對阿波共同汽船ニ咸興、城津、羅南、會寧、清津及天津ヲ何レモ追  
加ス。

- 1. 十二月二十八日仁川、木浦發肥料=對スル特定運賃ノ發驛=清州・忠州間各驛ヲ追加ス。
- 1. 十二月二十八日朝鐵發大阪、神戸及尾道著米=對スル特定運賃=陰城、大召院、忠州發ヲ追  
加ス。
- 1. 十二月二十八日船橋里發糖蜜=對シ特定運賃ヲ設定ス。

一月 輸送數量 476,908 (61,636 増) 収入 1,722,674 (240,439 増)

一般概況 月初ト月末トノ兩度ニ少量ノ降雪アリタルノミテ頗ル平調ナル天候ナリシタメ例年  
見ル如キ嚴寒ニ基因スル荷役作業不能、雪害等殆ンドナク、他面セメント・木材等ノ前年ニ比シ  
幾分早キ荷動開始、天然氷ノ移送等ニ依リ月末ニ從ヒ出荷據頭シ、月末舊正月ヲ迎ヘタル前年ニ  
比シ遙ニ良好ナル成績ヲ示シタリ。

- 1. 一月十九日木浦發大邱外十一驛著綿布=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 一月十九日東海中部線兵營簡易停車場ニ於テ車扱及特種扱貨物ノ取扱ヲ開始ス。
- 1. 一月二十三日船橋里發元山、咸興、城津、羅南及清津著砂糖=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 一月三十日勝湖里發セメントノ特定運賃ヲ改正シ新ニ川内里發=對シ特定運賃ヲ設定ス。

二月 輸送數量 396,872 (79,660 減) 収入 1,439,659 (59,539 減)

一般概況 前月末ヨリ出荷據頭ノ情勢ヲ以テ本月ヲ迎ヘタルガ入月以來ノ形勢ハ安東方面ヨリノ  
豆粕ガ支那輸出關稅問題ノ成行ヲ懸念シ見越シ輸入ノ促進ニヨリ稍特異的ノ荷動アリシ外、一般  
ハ薪・木炭・石炭等ノ季節的需要減價安ニヨル鮮米出廻不振等ニテ豫期ノ發展ヲ示サズ、更ニ  
十日ヨリハ舊正月ニ入り地方全體の情勢トナリシタメ愈ニ勢ヲ加ヘタリ。下旬ニ入りテハ多少  
據頭セルガ未ダ好況ト云フニ至ラズ、前年同月ニ比シ著シク不振月計輸送量ハ本年度ニ於ケル最  
低ヲ示シタリ。

- 1. 二月四日ヨリ六日間荷物事故防止週間ヲ施行ス。
  - 1. 二月二十五日澤山汽船航路博多發貨物ノ連帶運送取扱ヲ爲スコトトセリ。
- 三月 輸送數量 2,026,337 (16,020 増) 収入 588,622 (7,237 増)

一般概況 輸入期ニ入りタル滿洲粟ノ入荷ハ前年ニ比シ比較的不振ナリシガ局線發送貨物ハ前月  
沈滞ノ後ヲ受ケ局用品・大豆・鹽干魚・石炭等ヲ除キ各品ノ出廻リ良ク殊ニ木材肥料等ノ躍進的  
増加ニテ在貨漸増ト共ニ輸送モ漸増一途ヲ辿リ大活況裡ニ趣年シタリ。

- 1. 三月十二日東支、吉長、四洸及滿鐵線粟=對スル特定運賃ノ著驛=城津、清津ヲ追加ス。
- 1. 三月十六日大官屯發、川内里著撫順粉炭=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 三月十八日黃洞、永同、咸昌發釜山、草梁著土狀黑鉛=對シ特定運賃ヲ設定ス。
- 1. 三月二十五日士方、扶助、慶州發慶州炭ヲ一般朝鮮炭ニ對スル特定運賃ニ據ラシムルコトト  
セリ。
- 1. 三月二十五日京城發清涼飲料水=對スル特定運賃ヲ設定ス。

### 主要貨物荷動狀勢

#### 米

**市況** 新穀期以來未曾有ノ大豊作ノ後ヲ受ケタル出廻リ旺盛ト、特別議會ノ形勢混沌ニ引續キ低調ヲ辿リ本年度ヲ迎ヘタル米價ハ、五月ニ於ケル對支出兵ニ因ル戰爭氣分ノ助長ト、六月南鮮方面ノ大旱魃トニヨリ幾分昂騰氣配ヲ示シタルガ、七月ニ入り内地方面ノ植付好順ト、折柄前年同期ニ比シ2,800<sup>千石</sup>以上ノ多量ヲ示ス内地残存米ノ發表トニヨリテ又復市況悪化シ、七月上旬ニ於テ仁川(四等)25.10<sup>円</sup>ト前年同期ニ比シ5<sup>円</sup>ノ安値ヲ示ス至レリ、然ルニ八月中旬ニ至リ東京清算市場ニ巨石ノ大買建ヲ行ヘル所謂買占團ノ活躍アリ、之ガ引當米トシテ内地ヨリノ正米注文殺到シ暴騰マタ暴騰、九月上旬ニハ早クモ28.90<sup>円</sup>ト上伸、僅々一箇月間ニ5<sup>円</sup>ノ大昂騰ヲ示シタリ。九月鮮米第一回收穫豫想13,500<sup>千石</sup>、十月ニハ内地米第一回收穫豫想61,296<sup>千石</sup>ノ發表アリ、鮮米ノ減收ニ反シ内地米意外ノ豊作ナリシ爲、内地不作ヲ唯一ノ基調トシテ導カレ、急昂騰シタル市況ニ打撃甚シク、之ヲ契機トシテ再び急速度ニ相場ノ低下ヲ來シ、十月中旬端境期ニ於テハ(四等)古米25<sup>円</sup>、新米25.50<sup>円</sup>ヲ唱フルニ至レリ、新穀期以後ハ年末決済期ヲ控ヘテ金融投物ノ市場出現ト全國的ノ古米豊富ニ押サレ、十二月ニ於ケル内地米500<sup>千石</sup>ノ買上開始モ差シタル好反響ナク依然軟弱一途ヲ辿リタリ。之ヲ要スルニ豊作尻ニ於ケル在米豊富ト一般財界ノ不況トニ一年ヲ通ジテ其上仲ヲ押ヘラレ前年ニ比シ平均値ニ於テ約2<sup>割</sup>安ク恐慌直後ノ大不況期大正十年以來ノ安値ヲ示シ、之ガ移出ハ前半期ニ於テハ漸減ヲ尙豊作尻ノ在米豊富ニ相當好況ヲ續ケ、後半期ハ新穀直後ノ出廻リニ更ニ旺盛ヲ示シタルガ一般米價安ト、在米薄ノ關係ヨリ前年ノ盛況ニ比シ幾分ノ不振ヲ示シタリ。

**輸送概況** 年初以來在米漸減ニ伴ヒ月々輸送低減シ四月73<sup>千噸</sup>アリタルモノ六月ハ51<sup>千噸</sup>ニ低下七月ハ相場安ト農禁トノ關係ヨリ更ニ不振ニ陥リ28<sup>千噸</sup>ト本年度ニ於ケル最低記録ヲ示スニ至レルガ、八月ハ相場ノ昂騰アリテ出廻リヲ刺戟シ再び擡頭機運ニ向ヒ、十月末新穀出廻開始ト共ニ著々増加シ十一月ハ早クモ136<sup>千噸</sup>ニ上リ十二月ハ更ニ141<sup>千噸</sup>ト本年度ノ最高ヲ示ス至レリ、年明一月ニ於テハ結氷、及正月休日等ノ關係ヨリ既ニ落潮ニ向ヒ91<sup>千噸</sup>ニ低下、二月ハ舊正月ニヨル地方全休ニ更ニ不振トナリ61<sup>千噸</sup>ト急減シタルガ、三月ニ入りテハ春暖變質期ヲ控ヘテノ處分物、肥料資金必要換金物等ノ出現ニヨリ再び84<sup>千噸</sup>ト擡グ越年シタリ。乃チ後半期ニ於テ全體ノ66<sup>割</sup>十一、十二、ノ兩月ニ於テ全體ノ32<sup>割</sup>ヲ輸送シ依然新穀期以後ニ於テ旺盛ヲ示シタルガ之ヲ前年ニ比較スレバ前半期ニ於テハ豊作尻ノ在米豊富ニヨリ増加シ、後半期ニ於テハ三年度産米大減收ノ結果、著シク減少シ一年合計ニ於テ約4<sup>割</sup>ノ減少ヲ示シタリ。

#### 粟

**市況** 年度初頭粟ノ輸入最盛期ニ於テハ米價ノ不發展見越シヨリ前年ニ引續キ京城渡遼陽物

一袋11.50<sup>円</sup>程度ノ軟調ナリシガ五月北支時局ノ急變以來産地出廻減少ト近年稀ニ見ル銀高トニ原價的ニ50<sup>円</sup>ノ高値ヲ示ス至リ、八月マデ漸騰ヲ辿リ、九月ニ入りテハ當地正期米ノ慘落ト官銀號ノ處分物ノ市場出現トニヨリ反落ヲ示シ、十一月新粟出廻早々、本年始メテ全通セル咸鏡線方面ノ買進ミニヨリ、又復反騰十二月ニ於テ13.30<sup>円</sup>ト強調シタリ。以後産地出廻漸増ニ伴ヒ幾分軟調トナリタルガ兎角例年ノ如キ順調ヲ示サズ前年同期ニ比シ一袋ニ付キ1<sup>円</sup>以上ノ高値ヲ唱へ、一年ヲ通ジテ之ヲ見ル時ハ前年及前々年ニ比シ差シタル逕庭ナキモ、鮮米ノ滔々タル落潮ニ比シテハ嘗テ見ザル割高相場ヲ現出シタリ。而シテ主トシテ鐵道輸送ニ現ル、滿洲粟ノ入荷ハ下半年ニ入り、鮮米大不作ノ後ヲ受ケケル異常ノ増加ヲ來スベク期待セラレ居タルニ、一般ノ米價安ト一部地方ニ於ケル大旱害、産米大減收後ノ購買力減少トニ因リ、此ノ期待ヲ裏切ラレ最近數年間ノ情勢ニ比シ大ニ減少シ、價格ノ昂騰ニ似ズ市況著シク活氣ヲ缺キタリ。

**輸送概況** 前年度末期ニ引續キ滿洲粟ノ入荷旺盛ニシテ四月ヨリ六月マデ月々35<sup>千噸</sup>乃至40<sup>千噸</sup>ノ輸送アリ、相當活況ヲ呈シタルガ七月新粟出廻開始ニ鮮米需要漸減スルト共ニ産地モ次第ニ品薄トナリ、輸送漸減ヲ來シ、八月ハ早クモ11<sup>千噸</sup>ニ低下、十月端境期ニ於テハ盛時ノ1/5、僅ニ5<sup>千噸</sup>ニ過ザル閑散ヲ示シタリ。十一月新粟期以後ハ再び擡頭、新ニ全通セル咸鏡線與方面ヘノ移送ニヨリ一月マデ漸増道程ヲ辿リ前年ニ比シ月々増加シタルガ、二月ニ入りテハ支那輸出關稅問題ノ突發ト共ニ舊正月ヲ迎ヘタル爲、意外ナル不振ヲ示シ、三月ニ入りテハ流石ニ輸入最盛期トシテ急激ニ擡頭シ輸送數量41<sup>千噸</sup>ト本年度ニ於ケル最高ヲ示シタルガ未ダ前年ノ盛況ニ及バズシテ經過シタリ一年ヲ通ジテ之ヲ見ルニ從來間島方面ヨリ相當供給ヲ受ケ居タル咸鏡線方面ニ對シ、全通ト同方面ノ水害諸農作物不作トヲ原因トシテ新ニ多量ノ荷動アリタルヲ除キ一般ニ豫期ニ反スル不振ヲ示シタリ。乃チ大正十年度ノ輸送數量58,817<sup>千噸</sup>以來滿洲粟ノ輸入増加ヲ最大原因トシテ逐年漸増ヲ辿リ、昭和元年度390,257<sup>千噸</sup>ト大躍進ヲナシ昭和二年度尙387,511<sup>千噸</sup>ノ優勢ヲ示シタルニ對シ、本年度ハ僅ニ272,297<sup>千噸</sup>前年ニ比シ大約30<sup>割</sup>ノ大減少ニテ近年ノ趨勢ニ比シ著シキ不振ヲ示シタリ。

#### 大豆

**市況** 昭和二年ニ於ケル大豊作人氣ニ依テ長端物13.90<sup>円</sup>ノ安値ニ陥落シタル大豆ハ、三年度ニ入りテヨリハ此ノ下ガ過ギ反動ニヨリ漸騰傾向ヲ辿リ四月ニハ17.50<sup>円</sup>ト上伸、六月ハ更ニ早魃人氣ニ煽ラレ19.20<sup>円</sup>ヲ唱ヘ七月中ハ高保合ナリシガ折柄ノ降雨ニヨリ筋物ノ出廻リ急増ヲ來スト共ニ漸次内地早生種ノ出市開始サル、及ビ轉向ハ下落シ、十一月新大豆ノ出廻最盛期ニ於テハ例年ノ安値ヲ示シ15.70<sup>円</sup>ヲ唱ヘタリ。以後三年度産大豆ノ凶作人氣ノ思惑ニヨリ漸次引返シ一月上旬17.90<sup>円</sup>マデ上伸セルガ金解禁説ノ擡頭ニヨリ滿洲大豆ノ牽制漸ク強ク、旁解氷期ノ近接鮮商方面ノ賣急品ノ出現等ニヨリ漸次軟調ヲ帶ビ越年シタリ。

乃チ大正九年三月ノ30.50<sup>円</sup>ヲ最高トシ、同年十二月ノ10.50<sup>円</sup>ヲ最低トスル近年ノ相場ニ對シ、本年ハ17.50<sup>円</sup>ヲ中心トスル上下ノ値中僅ニ4<sup>円</sup>内外ニ過ギズ、比較的波瀾ニ乏シク大觀シテ平値ヲ

示セリ、而シテ鐵道輸送=最モ關係多キ移出ハ内地各需要筋ノ滿洲大豆=使用熟練ノ結果、次第=市場ノ競争度ヲ強メツ、アルモ未ダ大體=於テ増加ノ道程ヲ辿レリ。

輸送概況 前年度末ニ引續キ間島大豆ノ出廻旺盛ニヨリ四月<sup>千噸噸</sup>21ノ豐富ヲ示シタルガ以後ハ地方在荷漸減ト共ニ輸送モ漸減シ六月ニハ<sup>千噸噸</sup>6八月<sup>千噸噸</sup>3ニシテ本年度ノ最低ヲ示セルモ、十月新大豆ノ出廻開始以來各方面ノ出荷急激ニ増加シ十一月ニハ<sup>千噸噸</sup>21、十二月ニハ更ニ躍進前年ノ最高同月ノ<sup>千噸噸</sup>34ヲ凌駕スルコト約<sup>千噸噸</sup>7ノ盛況ヲ示シ、一月尙<sup>千噸噸</sup>33ノ好況ヲ維持シ、二月出廻一巡ニテ氣勢次第ニ衰ヘ二月<sup>千噸噸</sup>18三月<sup>千噸噸</sup>14ト漸減裡ニ越年シタリ。乃チ後半期ニ於テ全體ノ<sup>千噸噸</sup>71十一月ヨリ一月マデノ三箇月間ニ於テ全體ノ<sup>千噸噸</sup>50ヲ輸送シ殊ニ十二月ニ於テ活況ヲ呈シタルガ、之ヲ前年ニ比較スルニ、二月及三月ニ於テ著シク不振ヲ示シ一年合計ニ於テ<sup>千噸噸</sup>12ヲ減少シタリ。之主トシテ間島及咸北方面ノ大不作ノ結果清津圏内ニ於ケル出廻減少セルニ因ルモノナリ。

木 材

市 況 朝鮮木材界ノ本流ヲナス鴨綠江材ハ春季以來近年ニナキ適水ニテ流筏作業頗ル順調ニ進展シ、十月末ニ於ケル總著筏ハ、朝鮮側總督府直營材<sup>千石</sup>920(前年ニ比シ<sup>増</sup>2.3)民間材<sup>千石</sup>750(前年ノ二倍)計<sup>千石</sup>1,720ノ好成績ニシテ、山元資金ノ不如意操練期ニ於ケル大刀會横行等ニ原因シ著筏減少セル安東側ノ不振ヲ補ヒ、一年ヲ通ジテ資材潤澤ヲ示シタルガ、更ニ内地經濟界ノ不振ヨリ内地ニ於ケル木材ノ消化思ハシカラズ、從來主トシテ内地方面ニ向ケラレタル北洋材ノ朝鮮ニ輸移入セララルモノ益増加スルニ至レルヲ以テ、愈供給過剩的ノ情勢ヲ馴致シ朝鮮全體トシテノ需要増加ニ拘ハラズ市價不振、一年ヲ通ジ軟弱一途ニ終始シタリ。

輸送概況 春暖需要期ヲ控ヘ前年度末期以來漸増道程ヲ辿リ輸送數量四月<sup>千噸噸</sup>28ヨリ五月更ニ<sup>千噸噸</sup>30ト擡頭、同時ニ本年度最高記録ヲ示シタルガ、六月以後ハ荷動稍緩漫トナリ十月マデ月々<sup>千噸噸</sup>26乃至<sup>千噸噸</sup>28ノ間ヲ往來シ尙相當活況ヲ呈シタリ。十一月ヨリハ需要縮少ニ伴ヒ輸送漸減シ結氷中心期一月ニ於テ<sup>千噸噸</sup>15ト本年度ニ於ケル最閑散ヲ示シタルガ陽氣ノ到來例年ニ比シ早く、二月末日ヨリハ早くモ擡頭ノ機運ニ向ヒ三月<sup>千噸噸</sup>29ト急増活況裡ニ越年シタリ。之ヲ前年度ニ比スルニ咸鏡線一帶ニ亘リ豪雨水害アリタル九月ニ於テ<sup>千噸噸</sup>1、舊正月ヲ迎ヘタル二月ニ於テ<sup>千噸噸</sup>2ヲ減少シタルノミニテ、其他ハ月々好況、多キハ<sup>千噸噸</sup>7少キモ<sup>千噸噸</sup>1以上ヲ増加シ一年ヲ通ジ大體良好ニ推移シ合計ニ於テ<sup>千噸噸</sup>12ヲ増加シ、關東地方大震災ノ結果トシテ異常ノ荷動アリタル大正十二年以來始メテノ大量ニ上リ各主要驛ノ發送ヲ見ルニ、安東、會寧等ノ漸減傾向アルニ對シ、新義州荷扱所・古茂山・咸興等ノ増加著シク、釜山・仁川・元山等ノ海港地亦相當ノ増加ヲ示セリ。

石 炭

市 況 日支關係ノ險惡化ヨリ對支輸出貿易ノ不振ヲ招來シ大阪方面ニ於ケル諸工場ノ活動鈍リ、之ニ關聯シテ工場用炭ノ需用減ヲ來シタルト、例年渴水期ニ於テ補充火力發電用トシテ相當アリタル水電方面ノ需要亦春以來ノ潤雨ノ影響ニ依リ減少シタル爲、兎角内地ニ於ケル消化不良

ナリシガ、更ニ輸出モ歐米ニ於ケル出炭順調ニ壓セラレ殊ニ、楊子江沿岸工場ノ相當長時日ニ亘ル工場閉鎖、罷業等ノ影響スルモノアリ全體的ニ炭況活氣ヲ缺キタリ。●日本鑛業聯合會ニ於テハ四月一日ヨリ五分ノ送炭制限ヲ實施シ八月更ニ之ヲ一割ニ引上げ、貯炭増加ヨリ來ル市況ノ惡化防止ニ努力シタルガ、全國貯炭ハ不需要絶頂期八月ニ於テ<sup>千噸噸</sup>2,500需要最盛期十二月ニ於テ<sup>千噸噸</sup>2,200ノ多量ニテ一年ヲ通ジテ過剩的情勢ヲ續ケ絶ヘズ市況ヲ壓迫シタリ。

朝鮮トシテハ新ニ無煙炭ノ採掘開始、咸鏡線全通ニ依ル咸北諸炭ノ中央進出等朝鮮炭擡頭ノ機會ニ當面シタルガ、内地炭況不況ニリードセラレ前年ニ比シ幾分ノ安値ヲ示シタリ。

輸送概況 年初ヨリ不需要期ニ向ヒ輸送漸減ヲ辿リ、四月<sup>千噸噸</sup>49アリシモノ、七月ニハ<sup>千噸噸</sup>38ト本年度ニ於ケル最閑散ヲ示シ、九月末ヨリ需要期ニ入り出荷漸次活氣付キ、十月ニハ<sup>千噸噸</sup>67ト急増十二月ニハ更ニ<sup>千噸噸</sup>85ト躍進本年度ニ於ケル最高記録ヲ示シタリ、而シテ一月ニハ尙<sup>千噸噸</sup>77ト豐富ナリシガ、陽氣ノ到來早く二月ニハ一般暖房用炭ノ減少ニヨリ既ニ<sup>千噸噸</sup>59ニ低下、三月漸減裡ニ越年シタリ。乃チ後半期ニ於テ全體ノ<sup>千噸噸</sup>62十月ヨリ一月マデノ四箇月間ニ全體ノ<sup>千噸噸</sup>46ヲ輸送シ、十二月ニ於テ例年ノ如ク最高ヲ示シタリ、之ヲ前年ニ比スルニ咸鏡線大水害ニ依リ八九月ニ於テ減少シタルノミニテ、其他ハ月々増加シ、殊ニ十月ヨリ一月マデノ四箇月間ニ於テ著シキ増加ヲ見タリ。乃チ無煙新炭坑ノ採掘開始及ビ咸鏡線全通ニヨル咸北諸炭ノ進出等ニヨリ活氣ヲ呈シ、主要炭坑所在驛中前年ニ比シ減少シタルハ船橋里・美林・咸興・院坪・鳳儀等ニ過ギズ、其他ハ何レモ増加ヲ示シ、前年對比ノ増加率ニ於テ好景氣ノ絶頂期タル大正八年<sup>千噸噸</sup>380ヨリ一躍<sup>千噸噸</sup>510ニ増加シタル大正九年以來始メテノ好成績ヲ收メタリ。

豆 粕

市 況 前年末期以來需要期接近ニ伴レ緩漫ヲ漸騰シ來レル豆粕ハ、四月早々對支出兵ト、原料大豆ノ按外ナル出廻薄トニヨリ益強調シ、五月十四日第三次出兵當日ニ於テハ安東貨車乗一枚<sup>円</sup>2.15ト躍進シ、六月内地相場ノ急落ヨリ一時<sup>円</sup>2程度ニ慘落シタルガ、七月内地方面ノ秋肥ノ買付開始ニヨリ引返シ、八月原料大豆ノ高値ニ益昂騰、再ビ<sup>円</sup>2.16ト上伸本年ノ最高値ヲ現出スルニ至レリ。以後ハ在荷薄ト實需ノ極減ニヨリ相場モ漸落シ十一月中旬<sup>円</sup>1.83ト本年ノ最低値ニ陥落シタリ。十二月ヨリハ原料大豆ノ出廻開始ト共ニ翌年準備トシテノ油房操業開始ヲ見タルガ、原料大豆ノ歐洲輸出筋ノ買付旺盛ノ爲、不斷ニ原料高ノ影響ヲ受ケ次第ニ昂騰、二三月朝鮮農會方面ノ大量入札愈本調子トナルニ從ヒ益擡頭、堅調裡ニ越年シタリ。乃チ大正五年ノ<sup>円</sup>1.30ヲ最低トシ、大正九年ノ<sup>円</sup>5.20ヲ最高トスル相場ニ對シ本年平均<sup>円</sup>2.03ニシテ前年ニ比シ平均<sup>円</sup>18ノ高値ヲ示シタリ。

朝鮮ニ於ケル金肥需要ハ三年度ニ於ケル輸移入ヨリ推算シ大約<sup>千円</sup>20,000ニテ産米増殖計畫ノ進捗ト共ニ逐年増加ノ道程ヲ辿リ居ルモ、最近ニ於テハ化學肥料ノ普及ニヨリ從來獨歩的ノ地位ニアリタル豆粕トノ競争漸ク激シク豆粕ノ割高相場ト共ニ、昭和三年度末期ニ於テ漸ク豆粕行詰リ情

勢ヲ馴致シタルハ最モ注目ニ値スルモノナリ。

輸送概況 例年ト大差ナク年度初頭ニ於テ輸送最旺盛ヲ示シ四月<sup>千餘噸</sup> 34 五月<sup>千餘噸</sup> 25 アリタルガ六月ニハ<sup>千餘噸</sup> 5 ト急減以後水田需要一段落ト共ニ沈衰一月マデ殆ド荷動皆無ノ状態ヲ續ケ、二月ヨリハ再ビ需要期ヲ迎ヘ<sup>千餘噸</sup> 7 ト擡頭三月<sup>千餘噸</sup> 23 ト活況裡ニ越年シタリ。乃チ四・五・六・二・三ノ五箇月間ニ全體ノ<sup>千餘噸</sup> 99 四・五及三ノ三ヶ月間に於テ全體ノ<sup>千餘噸</sup> 86 フ輸送シ四月ニ於テ最高ヲ示シ、前年ニ比シ五月及二月ニ於テ増加シ一年合計ニ於テ<sup>千餘噸</sup> 1 フ増加シタリ。五月ニ於ケル増加ハ前年同月ニ於テ全國モラトリアムノ實施アリ取引上ノ大打撃アリシ爲ニシテ、本年二月ノ増加ハ支那ノ輸出關稅問題ノ突發ヨリ農會斡旋物ノ輸入ヲ急ギタル爲ナリ。之ヲ要スルニ大正十一年<sup>千餘噸</sup> 15 ノ不勢ヨリ漸増ヲ迎リ昭和元年產米増殖計畫ノ現實的進行ニ伴ヒ飛躍的ノ増加ヲ示シタル豆粕ハ、本年亦前年ニ比シ僅少ヲ増加シ相當ノ好況ヲ維持シタルガ、一般肥料ノ増加發展ニ比シ著シク遜色アリタリ。

セメント

市況 需要擡頭季節トシテハ管テ見ザル大限產率<sup>割分</sup> 3.5 据置ニ好感ヲ得、市況次第ニ手堅ク本年度ヲ迎ヘ四・五月以來引續ク需要ノ旺盛ニヨリ、在荷漸減ト共ニ市價ノ漸騰ヲ促シ六・七月ニ於テハ在荷極減全國的ノ荷繰難ノ結果小賣價<sup>割分</sup> 6 突破ノ暴騰ヲ示シ、各地ニ契約品ノ不渡等ヲ惹起スルニ至レリ。聯合會ニ於テハ之ノ逼迫セル情勢緩和ノ爲ニ、限產率ヲ六月ヨリ<sup>割分</sup> 3.2 ニ引下ゲ九月ヨリハ更ニ之ヲ<sup>割分</sup> 2.5 ニ低下シタルガ折柄ノ需要減ト相俟チ次第ニ在荷潤澤ヲ告ゲ、漸ク頭打ちノ形勢ヲ馴致スルニ至レリ。十月ヨリ結氷期ノ近接ト共ニ市況次第ニ不振トナリタルガ、十二月又復限產率ヲ<sup>割分</sup> 3 ニ擴大シ在荷過剩ヨリ來ル市況ノ惡化防止ニ努メタルヲ以テ、不需要絶頂期一月<sup>割分</sup> 5.15 フ最低トシテ、以後ハ春暖需要期ヲ迎ヘ再ビ活氣付キ漸騰ノ裡ニ越年シタリ、乃チ一年ヲ通ジ高率ナル生産制限アリタルガ、鮮内トシテハ勝湖里工場ノ擴張、川内里工場ノ完成等生産力ノ増大ト共ニ、需要亦鐵道ノ建設・水電・水利・都市下水等ノ大工事アリテ、躍進的ニ増加シ昭和三年ノ全鮮消費量大約<sup>千餘噸</sup> 1,550 ニ達シ非常ニ活況ヲ呈セリ。

輸送概況 年度初頭ハ折柄ノ需要期ニテ輸送頗ル活況ヲ呈シ、四月<sup>千餘噸</sup> 25、五月<sup>千餘噸</sup> 24 ノ旺盛ヲ續ケタルガ、六月ニ入りテハ春以來ノ荷動ニヨリ、既ニ各地在庫品ノ沸底ヲ告グルニ至リ之ガ爲ニ輸送幾分緩漫トナリ、七・八月ニ於テハ内地品ノ大量移入アリテ各海港地ヨリノ出荷多ク再ビ擡頭シタルガ、九月咸鏡線方面水害ニ際會シ、從來水電其他ノ工事材料トシテ多量ニ同方面ニ移送サレ居タルモノノ發送ヲ手控ヘタル爲又復一沈滞ヲ來シ、十月ニハ前月水害ニヨル手控ノ補充の出荷アリ相當好況ヲ呈シタルガ、既ニ季節ニ需要期ヲ經過シタルコトトテ十一月ニハ早クモ下降ヲ開始シ、十二月ニ於テ<sup>千餘噸</sup> 9 ト本年度ノ最低ヲ示シ、二月ヨリハ新ニ工場完成セル川内里ヨリノ出荷アリ三月俄然激増シ<sup>千餘噸</sup> 25 ト本年度ノ最高ヲ示シ活況裡ニ越年シ、之ヲ前年ニ比スルニ減少シタルハ六月及十二月ノ二箇月ニ過ギズ其他ノ月ハ<sup>千餘噸</sup> 1 乃至<sup>千餘噸</sup> 9 フ増加シ、水利・水電・鐵道建設等ノ事業

勃興ニヨリ一年ヲ通ジ好況ヲ續ケ、大正八年ノ<sup>千餘噸</sup> 31 以來漸増一途ヲ辿リ十年間ニ於テ大約<sup>割分</sup> 8 以上ノ前年對比ノ増加率ニ於テモ近年ニナキ成績ヲ示セリ。

第三編 附帶事業

第一章 旅館、食堂車、構内食堂營業

本年度施設ノ主ナルモノヲ舉グレバ、釜山ニ於ケル公會堂食堂ハ釜山ステイションホテルニ於テ委任經營ヲ行フコト、ナリ、金剛山ノ深勝客及、避暑客増加ニ伴ヒ之ガ便ヲ圖ル爲、長安寺及溫井里ホテルノ開期ヲ六月十五日ニ繰上ゲ、尙長安寺ホテル「バンガロー」ヲ増設シテ五棟トセン外、更ニ「キャンブ」ヲ設備シ、食堂車營業ハ咸鏡線全通ニ伴ヒ九月一日ヨリ京城清津間ニ食堂車ヲ運轉スルコト、ナリタル爲、前年度ヨリ四個列車ヲ増加シ十二個列車トナリ、共收入<sup>千餘圓</sup> 1,008 ニシテ前年度ニ比シ<sup>割分</sup> 1.6 フ、宿泊客一日平均ハ<sup>割分</sup> 57.5 ニシテ<sup>割分</sup> 6.5 フ孰レモ増加シ、其他ノ成績概ネ良好ニ向ヒツ、アリ。成績ノ詳細ハ別項統計表所載ノ如シ。

第二章 倉庫營業

年度末現在倉庫營業個所ハ58個所（倉庫96棟、野積場6區）ニシテ前年ニ比シ變化ナク成績ハ入庫<sup>噸</sup> 70,250、收入總計<sup>圓</sup> 95,492 ニシテ前年度ニ比シ入庫噸數ニ於テ<sup>割分</sup> 2 餘ヲ減ジ、收入ニ於テ<sup>割分</sup> 1 ノ增收ヲ見タリ、收入ノ増加セルハ保管期間、特ニ野積期間ノ増大ニ因ルモノニシテ其延日噸數ニ於テ前年度ニ比シ<sup>割分</sup> 1.4 フ増加ヲ示セルハ荷動量ノ減少、荷足ノ遲鈍等一般經濟界沈滞ノ一證ト見ルヲ得ベシ。

第四編 運轉

第一章 列車運轉ニ關スル施設

本年度列車運轉ニ關スル施設ノ主ナルモノ下ノ如シ。

- 1、七月一日慶東線買収ニ伴ヒ之ヲ東海中部線ト改稱シ列車運轉時刻ヲ制定セリ。
- 1、七月一日京仁線列車運轉時刻ヲ改正シタルガ本線ハ當局線中最モ交通頻繁ナルヲ以テ從來施行シタル客貨混合輸送ノ不便ナルニ鑑ミ、客貨ノ輸送ヲ全然分離シ尙此機會ニ各旅客列車ノ速度ヲ急行速度ニ高メ一往復ヲ増設シ貨物列車ハ從來二往復ナリシヲ四往復ニ増設シタリ。
- 1、八月十一日會寧炭礦線（會寧・鷄林間<sup>割分</sup> 6.6）營業開始ニ伴ヒ同線ノ交通及貨物ノ輸送量等ヲ考

慮シ二往復ノ混合列車ヲ設定セリ。

1、九月一日全南光州・木浦間ニ於ケル交通及通學生等ノ便利ヲ圖ルタメ同區間旅客列車一往復ヲ増設シタリ。

1、九月一日咸鏡線盤松・群仙間<sup>14.9</sup>ノ竣工ニ依リ同線全通シタルヲ以テ京元線及咸鏡線ノ運轉系統ヲ改メ從來ノ途中自動車連絡ニ依リ京城・清津間旅客列車一往復ヲ直通セシメタル外、京城咸興間ノ旅客列車一往復ヲ會寧迄延長（之ガ爲清津・會寧間混合列車一往復ヲ減ズ）シ尙地方交通及貨物ノ輸送情況ニ鑑ミ福溪・元山間ニ客扱貨物列車一往復及元山・咸興間ニ混合列車一往復ヲ増設シ終端タリシ盤松停車場ハ全通ト同時ニ之ヲ閉鎖セリ。

1、十月十五日平元西部線ノ延長ニ伴ヒ運轉時刻ヲ制定セリ。

1、十一月一日釜山鎮・龜浦間ニ沙上停車場ヲ新設セルニ付草梁・龜浦間一部運轉時刻ヲ改正セリ。

1、十二月一日大田・新灘津間ニ懷徳停車場ヲ新設セルニ付大田・烏致院間一部運轉時刻ヲ改正セリ。

1、十二月十日東海中部線列車運轉時刻ヲ改正シタルガ其要旨左ノ如シ。

(イ) 近時慶古跡遊覽客ノ往復漸ク頻繁トナリタルモ狹軌線ノ關係上列車速度緩ニシテ不便ナルト一方自動車トノ關係モアリ豫テ計畫中ノ新造ガソリン自動車ヲ増設シタリ。

(ロ) 蒸汽列車ノ回数ハ從來通トシ内大邱・浦項間一往復ノ旅客列車ニ貨車連結ヲ禁ジ同時ニ線路ノ許ス範圍ニ於テ速度ヲ高メ以テ旅行客ノ便ヲ圖レリ。

### 第二章 機關車運轉成績

本年度機關車總數 307<sup>輛</sup>（内狹軌線用 22<sup>輛</sup>）ニシテ前年度ニ比シ 29<sup>輛</sup>ヲ増加シ狹軌線自動車及安東機關區ニ於ケル仕業ヲ除ク機關車走行行<sup>千餘行</sup>ハ 13,588<sup>千餘行</sup>ニシテ換算客貨車走行行<sup>千餘行</sup> 112,462<sup>千餘行</sup> 運轉用石炭消費高 339,413<sup>千餘噸</sup>、同油消費高 226<sup>千餘立</sup>ナリ、今之ヲ前年度ニ比スルニ機關車走行行<sup>千餘行</sup> 1.1<sup>割</sup>増、換算客貨車走行行<sup>千餘行</sup> 1.5<sup>割</sup>増、運轉用石炭<sup>千餘噸</sup> 2.5<sup>割</sup>増、同油消費高<sup>千餘立</sup> 9.5<sup>割</sup>減ヲ示セルガ、右増加ハ新線延長及私鐵買收並既設線ニ於ケル列車ノ増發等ニ依ルモノニシテ、油消費量ノ著シキ減少ハ標準消費量ヲ定メ消費節約ニ研究ヲ重ネタルガ爲ナリ、朝鮮産炭ノ使用ハ其量約 172<sup>千餘噸</sup>ニシテ全使用量ノ 5.1<sup>割</sup>ニ當リ前年ニ比シ 50<sup>千餘噸</sup>ヲ増加セリ。

各線別成績下ノ如シ。

種別	機關車	換算客貨車	運轉用石炭消費高	運轉用油消費高	運轉用石炭平均		機關車運轉用油消費高
					一當	百當	
京釜線	4,732,433.6	37,097,108.0	113,754,140	73,836.08	24.04	306.63	1.56
京義線	4,055,190.5	44,511,461.3	108,596,711	69,441.95	26.78	243.97	1.71
湖南線	1,422,689.7	8,066,769.1	24,877,430	21,835.61	17.49	308.39	1.53
京元線	1,116,322.0	8,977,975.1	31,604,360	20,700.48	28.49	354.25	1.85
咸鏡線	2,262,060.3	13,808,998.0	60,381,085	40,531.72	26.69	437.26	1.79
計	13,588,636.1	112,462,311.5	339,413,726	226,345.84	24.98	301.60	1.67
前年度比較							
増減(△)	1,352,053.6	10,641,437.3	57,651,417	△ 21,420.55	1.94	25.08	△ .39
京義線内安東機關區委託仕業	128,348.3	972,564.5	2,377,644	2,930.48	18.52	244.47	2.28
前年度比較	988.1	△ 179,518.1	△ 589,586	△ 2,318.64	△ 4.78	△ 13.08	△ 1.78
増減(△)							
合計	13,717,044.4	113,434,876.0	341,791,370	229,276.32	24.92	301.31	1.67
前年度比較	1,353,051.7	10,461,919.2	57,061,831	△ 23,739.19	1.89	24.80	△ .38
増減(△)							
東海中部線	151,508.5	1,178,776.9	1,264,911	1,774.49	8.35	107.31	1.17
東海中部線	417,217.0	2,720,713.4	3,829,179	5,641.12	9.17	140.74	1.35
軌計	568,725.5	3,899,490.3	5,094,090	7,415.61	8.95	130.63	1.30
前年度比較	500,526.9	3,351,361.6	4,388,834	6,001.25	△ 1.39	1.96	△ .77
増減(△)							
安東自動車仕業	12,673.8	17,260.0	276,415	1,271.50	21.81	601.47	10.03
前年度比較	△ 1,872.2	△ 2,654.6	△ 3,733	△ 1,044.24	2.55	194.72	△ 5.89
増減(△)							

備考 1、本表中ニハ東海中部線ニ於ケルガソリン自動車仕業運轉行 83,197.4、燃料ガソリン油 13,979.00、運轉用油 911.40<sup>立</sup>ヲ除ク。

2、安東自動車仕業中ニハ定州機關區自動車仕業機關車行 117.8 運轉用石炭 1,630 同油 3.5 及自動車代用ニ使用シタル滿鐵所屬機關車ダブ型仕業機關車行 103.2 換算客貨車行 98.3 運轉用石炭 4.2 同油 11.21<sup>立</sup>ヲ含ミ計上セリ。

3、建設工事仕業ヲ除ク。

### 第三章 運轉事故

一般概況 本年度事故件數ハ 3,672<sup>件</sup>、死傷人員 390<sup>人</sup>ニシテ前年度ニ比シ件數ニ於テ 1,107<sup>件</sup>、人員ニ於テ 53<sup>人</sup>ノ増加ヲ示セルガ件數ノ甚シキ増加ハ事故統計ノ單位ヲ細部ニ互ル如ク本年度ヨリ改正

セルガ爲ト前年度=比シ寒氣更=酷烈ナリシ=依ルモノニシテ、人員ノ増加ハ列車走行料ノ増加  
=基因スルモ、多數ノ人命財産ヲ損傷スルガ如キ重大事故ノ發生ヲ見ザリシハ幸トスル所ナリ、  
然レドモ線路通行者、惡戯=依ル列車投石其他、線路妨害等今尙其跡ヲ絶タズ投石ノ如キ反ツテ  
増加シツ、アルハ鮮内教育ノ相當普及セル今日甚ダ遺憾トスル所ナリ、本年度主ナル事故ヲ擧  
レバ次ノ如シ。

### 主ナル事故

【1】五月八日午前 6.48<sup>時分</sup> 頃京元線平康・月井里間龍山起點 104.6<sup>キ</sup> 附近=於テ上リ貨物第五四二列車  
運轉中、甚ダシキ衝動ヲ感ジ、急激停止スルト同時ニ、牽引機關車ヨリ第12輛目=連結セル  
「ワサ」第 1,791<sup>號</sup> ハ線路左側築堤下=顛覆次位ノ「コト」第 2068<sup>號</sup> ハ車體中央ヨリ折損シ、線  
路右側=横倒レトナリ、其次位「ワサ」1469<sup>號</sup> ハ同右側=脱線シ何レモ大破セリ。

右=依リ該列車ハ前部11輛ヲ牽引一旦月井里=到着復舊=著手シ、本牽引機及福溪ヨリノ救  
援機ヲ以テ順次列車ヲ運轉シ午前 11.40<sup>時分</sup> 開通セリ。

原因ハ前記「ワサ」第 1491<sup>號</sup> 「サイドベヤラー」取付「ボールド」古疵ヨリ折損セル爲  
「ブレーキギヤ」垂下シ、枕木=觸レツ、走行中現場手前 20<sup>キ</sup> ノ地點踏切板=衝撃シ車體持  
チ上リ、一軸脱線ノ儘進行セシ=依ル。

【1】五月二十五日午前 10.28<sup>時分</sup> 頃咸鏡線明川驛=於テ同驛迄運轉ノ混合第五一九列車ノ牽引機第  
220 號ガ給水採炭ヲ終リ、城津方面=向ツテ驛舎前方30間ノ位置=停止シ機關車乗務員ハ下車  
シ驛舎内=休息中、該機關車ハ蒸汽ヲ噴出シツ、突然進行ヲ始メ、約3町ノ地點=到ルヤ大音  
響ヲ發シテ破烈シ現場=ハ前部車輪2個ヲ殘シ他ノ車輪何レモ脱線横倒レトナリ左側水槽ハ  
中「ホーム」ノ待合室ヲ倒壊シテ 140 間ヲ去ル貨物倉庫前線路=横ハリ、機關室屋根ハ 263 尺  
ヲ距ル同驛改札口ノ屋根ヲ突キ破リテ墜落シ、機關車ノ後方=附著セル番號數字ハ約3町ヲ去  
ル普通學校庭=飛散セルガ恰モ兒童ハ庭内=遊戯中ナリシモ被害ナク、停車場寄校舎裏屋根=  
鐵片飛散シ小破2ヶ所ヲ生ジ、右側水槽ハ後方 125 尺ノ畑中=落下シ汽罐自體ハ最初縦=一廻  
轉シテ前方=突飛バサレ更=自轉シテ顛覆ス、原因ハ機關車構造及保守上ノ缺陷=依ルモ他列  
車ノ運轉=ハ別段ノ支障ナカリキ。

【1】六月五日午前 12.52<sup>時分</sup> 頃京南鐵道天安驛構内=停留中ノ同社所屬有蓋貨車「ナワエ」第 19<sup>號</sup> 暴  
風雨ノ爲京釜本線上リ線ヲ逸走シ釜山起點 350.5<sup>キ</sup> 上リ勾配附近=到リ前進力ヲ失ヒ後退セル  
ヲ第四列車機關士=於テ發見シ急激停止=努メタルモ及バズ約 2<sup>キ</sup> 進行シ釜山起點 350.7<sup>キ</sup> 附近=  
於テ衝突シ約 450 呎進行停止シタルモ之ガ爲該貨車ハ第一、二位共「トラツク」ヨリ脱線シ横倒  
レトナリ大破シ機關車ハ前部ヲ小破停止セリ。依ツテ機關車ト貨車ヲ引放シ列車ハ一旦退行セ  
シメ該貨車ハ應急手當ノ上手押天安驛=廻收シ午前 5.30<sup>時分</sup> 線路開通シ同列車ハ天安驛午前 5.39<sup>時分</sup>  
發車セルモ別=大田ヨリ第四列車ヲ特發セシメタリ、原因ハ暴風雨=際シ轉動防止裝置ヲ缺キ

タル=因ル。

【1】八月二十八日午後 9.48<sup>時分</sup> 頃京元線釋王寺・南山間龍山起點 196.3<sup>キ</sup> 附近=於テ下リ貨物(客扱)第  
五四三列車運轉中前部ヨリ10輛目=連結セル「ヤシ」第 1323<sup>號</sup> 突然軌條上=乗上ゲ線路左側=  
脱線ノ儘約 80<sup>キ</sup> 進行中前部ノ連結器分離シ惰力ノ爲後部車輛=押サレ其ノ前部ハ左側切取斜面  
=突當リ後端ハ右=押サレ殆ソ線路=十文字=横ハリ次位ノ「トシ」第 1526<sup>號</sup> 及「ワサ」第  
1690<sup>號</sup> ハ左右=折重ナリ何レモ顛覆大破シ四輛目「ワニ」第 323<sup>號</sup> ハ「ヤシ」ノ中央=殆ソ捧  
立=乗掛リ五輛目「ワニ」第 340<sup>號</sup> ハ一軸脱線シ分離セル前方車輛ハ約 15<sup>キ</sup> 離レテ停止セリ、之  
ガ爲最後部三等客車=乗車セル鮮人客9名衝動=因リ輕微ノ打撲傷ヲ負ヒタルモ應急手當=テ  
事済ミタリ、而シテ乗務員ハ不取敢前部九輛ヲ安邊驛=引キ上ゲ救援ノ手配ヲ爲シタルモ夜間  
ノ爲復舊作業意ノ如クナラズ元山ヨリ「レツキングクレーン」ヲ出動セシメ翌二十九日午前 9<sup>時分</sup>  
復舊セリ、原因=就テ適確ナルコト判明セズ審査中。

【1】九月十日午後 9.45<sup>時分</sup> 頃光州線下リ混合第一七列車松汀里・極樂江間松汀里起點 4.124<sup>キ</sup> 附近運  
轉中突然牽引機既車=激動ヲ感シタルヲ以テ機關士ハ急激停止=努メタルモ之ト同時=機關車  
第 61 號顛覆シ續テ次位ノ廻送「ハ 6」第 627<sup>號</sup> モ亦右側線路築堤下小田中=顛覆大破シ其ノ次  
位「ハ 8」第 221<sup>號</sup> 線路法肩=約 45<sup>度</sup> =傾倒レ4輛目「テユ」第 113<sup>號</sup> ハ2軸脱線シ線路ヲ大破ス尙  
右側軌條一本突キ立テラレ機關車ノ「ブレーキシリンダーカバー」破損シ「フレーム」間ヲ貫  
通屈曲セリ、幸=乗客=損傷ナク光州驛=急報、救助ヲ求メ現場ハ被害車輛ヲ線路外=押除キ  
殘餘ノ車輛ハ一先ツ松汀里驛=廻收シ、翌日午前 6.40<sup>時分</sup> 復舊セリ、原因ハ脱線現場附近右側軌條  
繼目板ノ「ボールド」二本ヲ何者カガ抜キ取り軌條ヲ押シ開キアリシ=因ル。

【1】十二月十一日午後 4.45<sup>時分</sup> 咸鏡線上リ混合第五二八列車古茂山驛九分延=テ出發シ富寧驛進入  
ノ際制動力ヲ失ヒ停止不能トナリ第一號轉轍器ヲ割出シ下リ場内信號機外約 1<sup>キ</sup> ノ地點=進出シ  
時恰モ進行シ來リタル下リ貨物(客扱)第五三一列車ト衝突シ、兩機關車相互喰ヒ合セトナリ  
大破シ第五二八列車牽引機關車第 389 號ノ次位=連結ノ枕木積「トシ」第 224<sup>號</sup> 第二位「トラツ  
ク」ヨリ脱落シ車體ハ機關車ノ「エンドビーム」=乗上ゲ積載枕木突出シテ機關車ノ「コール  
バンカー」ヲ押潰シ三輛目枕木積「トシ」第 213<sup>號</sup> ハ車體ノ第二位側ヲ破壞シ第二位「トラツク」  
車體中央部=異動セルモ脱セズ停止セリ而シテ機關士ハ衝動ノ際腰部=打撲傷ヲ負ヒ兩足大腿  
部ヲ「キャツプ」ノ「バツクプレート」ト「トライバント」間=挟マレ裂傷ヲ負ヒ機關車モ  
亦顔面=擦過傷ヲ負ヒタルモ輕傷ナリ、第五三一列車ハ衝突スルト同時=約 25<sup>キ</sup> 後方=押サレ  
牽引機關車第 293 號ノ次位=連結ノ「クトシ」一輛粉砕其ノ次位ノ「クトサ」二輛ハ左側築堤  
下=相互折重ナリ顛覆大破シ、四輛目「ワサ」第 1437<sup>號</sup> ハ機關車ノ「キャツプ」=突キ上ゲレ  
大破セリ、之ガ爲機關士ハ頭部及顔面=打撲裂傷ヲ負ヒタルモ、重傷ト云フ程度=アラズ、線  
路枕木 28 本電柱 1 本破損セルモ乗客=被害ナク、現場ハ顛覆ノ際電線ヲ切斷サレ章興方面ト

通信不能トナリ、携帶電話器ヲ使用シ出張所ニ急報シ救援ノ手配ヲ爲シ工場員、保線區員ニ於テ復舊作業ニ努メ此ノ間富寧驛ヲ待合セ中ノ第五三ー列車補機ヲ使用シ第五二八列車ノ車輛ヲ同驛ニ引上ゲ一方救援第三一五列車ハ現場ヨリ第三一六列車トナリ第五三ー列車ノ車輛ヲ章興驛ニ引キ上ゲ、翌午前 1 時 36 分 線路開通セリ、而シテ第五一六列車ハ章興驛到着後第五〇四列車牽引運轉シ之ガ爲章興・富寧間第五〇四列車及章興・會寧間第五一五列車並第五二八列車第五三八列車ハ何レモ現場限リ運轉休止セリ、原因ハ制動機ノ故障ニ依ルモノナルヤ又ハ機關士ニ於テ速度ノ調節ヲ誤リシニ基因スルモノナルヤ、古茂山驛ニ於テ貨物車連結ノ際各關係者ニ於テ規定ノ點檢々査ヲ欠キタル爲メ的確ノ調査困難ナルモ、要スルニ上記何レカノ理由ニ依リ以上ノ結果ヲ招クニ至リシモノナリ。

【1】 十二月十二日午前 9 時 40 分 頃東海中部線(狹軌)土方・安康間大邱起 87.2 附近ニ於テ上リ混合第七二六列車運轉中突然衝動ヲ感シタルヲ以テ機關士ハ急激停止ニ努メタルガ及バズ機關車第 42 號ハ左側曲線外方築堤ニ沿ヒ傾倒シ次位ノ「ナワ」第 157 號ハ後部車輛ノ惰力ニテ其上ニ重ナリ 3 輛目「ナワ」第 171 號ハ右側線路外ニ飛出シ横倒レトナリ、四輛目「ナロハ」第 101 號ハ全輪、5 輛目「ナハニ」第 133 號前輪 1 軸脱線セリ、而シテ安康驛ニ急報スルト共ニ慶州ヨリ救援ヲ求メ線路ヲ支障セル破損車輛ヲ取除キ後部車輛ハ慶州ニ引揚ゲ午後 2 時 10 分 復舊セリ、之ガ爲現場大邱間第七二六列車、土方・浦項間第七一ー列車ハ運休シ第七二六列車ノ乗客ハ第七二八列車ニテ輸送セリ、原因ハ線路不良ト機關車ノ横動揺ト相俟テ生ジタルモノナリ。

【1】 昭和四年一月二十二日午前 9 時 49 分 頃東海中部線慶州信號所・金丈間大邱起點 70.3 附近上リ混合第七二六列車運轉中牽引機關車ニ輕キ衝動ヲ感スルト同時ニ踏切上ニテ脱線ノ儘進行第二閉塞ヲ乘リ越へ築石ト激突シ後部車輛ノ惰力ニ押サレ機關車ハ前後轉向シ線路左側ニ横倒レトナリ、次位ノ「ナワニ」第 25 號モ亦機關車ト同様ノ状態ニ横倒シ第二位「ナワニ」第 62 號後部ヲ線路左側ニ傾斜シ横倒レトナリ、第三位「ナワニ」第 120 號前部ハ第二位車ノ後部ニ乗上ゲ全軸脱線シ第四位「ナハニ」第 163 號及五位「ナワニ」第 118 號並第六位「ナハニ」第 131 號ハ何レモ全輪脱線シ、線路ハ約 .3 間破損セラレ機關士ハ顛覆ノ際機關車ノ下ニ落込ニ顔面其ノ他ニ火傷ヲ負ヒタルモ乗客ニハ損傷ナシ、而シテ破損車輛ヲ線路外ニ取除キ先脱線車ヲ復舊セシメ何レモ慶州驛ニテ廻收シ第七二六列車ハ同驛ヨリ定時特發シ、旅客及手荷物ハ慶州信號所ニ於テ同列車ニ收容セリ、原因ハ線路不良ト機關車ノ横動揺トニ依ル。

【1】 昭和四年二月三日午後 5 時 15 分 頃慶全北部線參禮・大場間裡里起點 9.50 附近ニ於テ上リ臨時貨物第七七四列車運轉中突然機關車ニ動揺ヲ感シ急激停止ニ努メツツアル内機關車ハ線路右側ニ脱線横倒レトナリ次位ノ「ナトニ」第 28、32、43 號ハ何レモ顛覆シ折重ナリ次デ「ナトニ」第 29、33 號ハ何レモ脱線ノ儘停止セリ、而シテ裡里及參禮ニ急報シ救援トシテ參禮驛ニ到着ノ第三五〇列車ノ機關車ヲ以テ同驛現場間及全州驛ヨリハ現場迄臨時列車ヲ運轉シ被害車輛ヲ線

路外ニ取除キ午後 10.15 復舊セリ、之ガ爲臨時第七七四列車ハ現場裡里間第三五〇列車ハ參禮裡里間ヲ何レモ運轉休止ス、機關車顛覆ノ際機關方一名打撲傷ヲ負ヘリ、原因ハ審査中。

【1】 同三月二十一日午前 10.21 頃咸鏡線咸興・本宮間元山起點 129 附近ニ於テ下リ旅客第五〇三列車運轉中機關車ニ衝動ヲ感シ機關士ハ急激停止ニ取調ベタル處炭水車以下三等客車 3 輛及三等食堂車 1 輛三等寢臺 1 輛何レモ全輪脱線スルト共ニ約 35 度ニ傾斜セル爲、軌條及枕木ヲ大破セルモ乗客其ノ他ニ損傷ナク携帶電話ヲ以テ咸興驛ニ急報スルト共ニ救援ノ手配ヲ爲シ第五〇四列車ヲ現場迄進メ客荷ヲ接続セシメ第五〇三列車トナリ午後 1.20 分 發ニテ折返シ運轉セリ、其他現場・咸興間五往復ノ救援臨時列車ヲ運轉シ復舊ニ努メ午後 6.20 分 線路開通セリ、原因ハ解氷期ニ際シ線路軟弱トナリシ爲ナリ。

【水害】 次ニ本年度主ナル水害ハ咸鏡線ニ於ケルモノナルカ、其被害甚大ニシテ且ツ數十箇所ニ及ベルヲ以テ細部ニ關スル記述ヲ省略シ概況ヲ示セバ次ノ如シ。

### 咸鏡線北部

咸鏡線北部地方ハ七月下旬ヨリ屢々微雨アリシガ、八月二日午後ヨリ清津ヲ中心ニ豪雨アリ家屋ノ浸水甚ダシク、清津驛ニ於テハ營業倉庫ヲ開放シ従事員罹災者及家族ノ避難所ニ充ツ。

八月三日午前 6 時頃ヨリ清津・會文各驛區間築堤並ニ橋梁「アバツト」崩壞シ其他浸水ノタメ不通箇所多數ヲ生ジ清津發第五〇六列車ハ清起 2.4 附近ヨリ引返シ、一旦開通ヲ待合セ清津驛ヲ 2 時 12 分 延發セルニ、輪城以南開通ノ見込ニ立タザル爲同驛ヨリ第五〇七列車トナリ打返シ其他ノ各列車何レモ延著シ清津・羅南間ハ一時開通セシモ再び同區間ノ運轉ヲ休止シ第五一九列車ハ明川驛ヨリ第五〇六列車トシテ折返シタルモ輪城・明川間ノ運輸ヲ休止スルニ至リ、以後各列車運轉運休ト止ムナキニ至リ、羅南以南ハ電信電話不通トナリシモ、八月六日午後 12 時頃復舊シ第五〇三列車ヨリ開通セリ。

八月六日午前 7 時頃ヨリ吉州・蘆洞間不通トナリ第五二一列車ハ現場開通待合セノ爲清津驛ヲ 3.27 延著セリ。

八月七日午前 6 時頃輪城・康徳間不通トナリ、第五〇六列車ハ現場開通待合セノ爲清津驛ヲ 4 時 40 分 延發シ蒼坪・全巨里間、豐山・中島間モ亦不通トナリ、第五三ー列車ハ豐山ヨリ第五二二列車トナリ折返シタルモ正午復舊シ第五三二列車ヨリ開通セリ。

八月三十日午前 6 時頃清津・輪城間及章興・富寧間不通トナリ、各列車ハ折返シ運轉又ハ運轉ヲ休止セリ。

九月二日午前 1 時頃ヨリ城津・雙龍間不通トナリ、各列車何レモ休止ス。

九月四日午前 6 時頃ヨリ明川・龍洞間不通トナリ、各列車ハ何レモ龍洞驛ヨリ打返シ運轉ス。

九月五日午前 1 時頃明川・龍洞間復舊シ第五二二列車ヨリ開通セルモ午前 8 時頃ヨリ明川・吉州間不通トナリ第五二二列車ハ明川ヨリ第五三三列車トナリ何レモ折返シ運轉ス。

九月六日午前7時古茂山・蒼坪間ヲ殘シ全部復舊シ第五〇六列車ヨリ開通ス。

九月八日午後7時古茂山・蒼坪間復舊シ第五〇四列車ヨリ開通ス。

### 咸鏡南部線

八月二十八日 咸南地方ハ前日ヨリ豪雨ノ爲咸興ヲ中心ニ數日ニ亘リ大洪水トナリ家屋ノ浸水ト人畜ノ被害少ナカラズ、咸興以北ハ鐵道線路ノ被害モ亦甚大ニシテ咸興・西湖津間元起 128.7ヨリ 133.6 間不通トナリ現場以北ハ退潮ヨリ、以南ハ咸興ヨリ何レモ各列車折返シ運轉シ其ノ他ハ運轉ヲ休止セリ。

八月二十九日午前 1.20 頃前津附近西大川氾濫シ前津・呂湖間及午前6時頃呂湖・西湖津間不通トナリ、各列車ハ前津ヨリ折返シ又ハ盤松・咸興間、新北青・咸興間ノ運轉ヲ休止シ更ニ午前4時頃ヨリ咸興・興上間、正午ヨリ興上・定平間不通トナリ、第五〇三列車以後各列車ハ何レモ折返シ運轉シ其他各列車不通箇所ノ運轉ヲ休止シ三十一日ニ至ル迄同前ノ状態ナリキ。

九月一日ヨリ列車運轉時刻ヲ改正シ京城・會寧間ヲ直通運轉スル豫定ナリシモ咸興・退潮間開通ニ至ラズ、第五〇四列車ハ前津ヨリ折返シ其後復舊ニ伴ヒ區間運轉ヲ行ヒタリ。

九月四日午後3時呂湖・西湖津間復舊シ現場以北ノ折返シ列車ヲ五日ヨリ興南迄延長運轉ス。

九月七日午後6時咸興・本宮間開通シ第五〇一、五〇二列車ヨリ直通運轉セリ。

九月九日朝咸興・退潮間再ビ不通トナリ、各列車折返シ運轉ヲ行ヒ、其他八日夜來ノ豪雨ニ依リ被害ヲ生ジタルモ10時迄ニ咸興・興南間ヲ殘シ復舊ス。

九月十二日午前 8.25 咸興・興南間復舊臨第五七七列車ニテ試運轉ノ結果良好ニシテ同日五〇三及五〇四列車ヨリ運轉平常ニ復セリ。

十月四日會寧炭礦線ハ八月三日以來處々ニ被害アリ、二十日全通シタルモ其後再ビ不通トナリ十月四日ニ至リ漸ク平常運轉ニ復セリ。

## 第五編 車 輛

### 第一章 機關車及其使用

廣軌線ノ部 年度末現在 284 (内タンク 101、レッキング)ニシテ此ノ總走數ハ 29,106.86 ナリ之ヲ前年度ニ比スルニタンク 1ヲ減ジテンダー 13ヲ増加シ走數ニ於テ 2,021.76ヲ増加セリ。而シテ増加機關車ハミカド型 12 テンホキール型 1ニシテ減車ハブレリー型第二二〇號機關車事故破損ノ爲八月十三日廢車トセリ。次ニ本年度ニ於ケル機關車使用ノ概況ヲ述ベニ機關區ニ於ケル一日平均配屬車數 257.2 修繕ノ爲入場中ノモノ 15.6 他所貸渡中ノモノ 3.7 計 276.5ニシテ前年度ニ比シ配屬車數ニ於テ 12.5 修繕ノタメ入場中ノモノ 3.7ヲ増加シ、貸渡中ノモノ 0.6 減少セル

ガ、修繕入場車數ノ増加セルハ汽罐改造ノ爲ブレ型 9 ソリ型 5 及ビ咸鏡線全通後清津出張所管内ノブレ型 16ノ入場ニ依ルモノトス。而シテ機關區ニ於ケル一日平均使用車數ハ 172.6ニシテ使用機關車ノ一日一車平均運轉軒ハ 215.7ヲ算シ、修繕其他ハ 55.1ニシテ之ヲ前年度ニ比較スルニ使用車數ニ於テ 9.9 運轉軒ニ於テ 10.2ヲ孰レモ増加セリ。右ハ九月一日ヨリ咸鏡線全通ニ伴フ列車増發並ニ從來京釜、京義本線ニ於ケル機關車長距離運轉ヲ咸鏡線ニ於テ實施セルト同時ニ機關車ノ連續折返シ運轉ヲナシタルニ依ルモノニシテ、修繕其他ノ 8.6ノ増加ハ機關車ノ長距離運轉並ニ回歸軒ノ延長ニ伴フ機關區ニ於ケル定期檢査ノ施行及補修ヲ向上セシメタルニ基因シ、成績概シテ良好ナリ。

### 狹軌線ノ部

年度末現在數ハ 22 此ノ總走數 382.94ニシテ之ヲ前年度ニ比シ 16.305.94ヲ増加セルガ右ハ慶東線ノ買収ニ伴フモノトス。

### 特殊車輛ノ部

1. 狹軌ガソリン動車 東海中部線ニ十二月一日ヨリ五車ヲ配置シ運轉セリ。
2. レッキンククレーン機關車 五月三十一日京城工場ニ配置シ、構内作業並ニ運轉事故復舊作業ニ充當セリ。

## 第二章 客車及其使用

客車一般 年度末現在總輛數ハ廣軌線用 686 狹軌線用 70 計 756ニシテ營業 100 平均數ハ 47.67ナリ。之ヲ前年度末ニ比較スルニ廣軌線用ニ於テ新造車 33 狹軌線用ニ於テ朝鮮鐵道株式會社慶東線ノ買収ニヨリ 47 新規購入狹軌三等ガソリン動車 5 計 85ヲ増加シ、車種別ニヨル増減ノ内譯ハ下表ノ如クニシテ之ガ主因ハ營業線路ノ延長、買収並旅客ノ自然増加ニヨルモノトス。

而シテ廣軌線用客車ハ六輪ボギー車又ハ四輪ボギー車ニシテ總テ空氣制動機ヲ裝置シ其多數ハ蒸汽暖房、電燈裝置ヲ有シ定員ハ三等車ノ 104ヲ以テ最大トス、又貴賓ノ乗用トシテ展望室・特別室・寢臺・食堂車等ヲ有スル貴賓車及特別車・一般旅客ノ乗用トシテハ展望室・特別室・寢臺等ヲ有スル展望一等寢臺車・寢臺・喫煙室・荷物置場ヲ有スル二等寢臺車、清楚ナル室内裝飾ヲ施シ、新鮮ナル料理ヲ供スル食堂車、三等旅客ノ長途旅行ニ便利ナル三等寢臺車等アリ、右ハ主トシテ釜山奉天間ノ直通旅客列車並長距離旅客列車ニ運シ國際鐵道ノ客車トシテ遺憾ナカラシムベク努メツツアリ。

尙ガソリン汽動車ハ短距離急行旅客用單級車トシテ成績良好ニ付、次年度以後ニ於テモ相當増置ノ希望ナルガ朝鮮ニ於ケル使用ハ當局ヲ以テ嚆矢トス。



客車増減表

(單位輛)

車種	輛數		比較 増減	増減理由	
	本年度 末現在	前年度 末現在			
廣 軌 線 用	一 二 等 寢 臺 車	5	7	△ 2	二三等車 = 改造
	二 等 寢 臺 車	30	25	5	新 製
	三 等 寢 臺 車	20	12	8	"
	一 二 等 車	2	8	△ 6	二等食堂車 = 改造
	二 等 車	0	9	△ 9	二三等車 = 4輛三等車 = 5輛改造
	二 三 等 車	60	64	△ 4	二三等車10輛ヲ三等車 = 改造
	三 等 車	351	318	33	新製車18輛二三等車ヨリ改造10輛二等車ヨリ改造 5輛
	食 堂 車	11	9	2	六輪ボギー食堂車 2輛新製
	二 等 食 堂 車	14	8	6	一 二 等 車 ヨリ 改造
	三 等 郵 便 車	6	5	1	手荷物郵便車ヨリ改造
手 荷 物 郵 便 車	36	37	△ 1	三等郵便車 = 改造	
計	535	502	33		
狭 軌 線 用	特 別 車	1	0	1	朝鮮鐵道株式會社慶東線買收引繼
	二 等 車	3	1	2	
	二 三 等 車	11	3	8	
	三 等 車	39	10	29	
	手 荷 物 車	2	0	2	
手 荷 物 郵 便 車	5	0	5	新規購入 (東海中部線)	
三 等 「ガソリン」 動 車	5	0	5		
計	66	14	52		
合 計	601	516	85		

備考 本表ハ輛數ニ移動ヲ生ジタル車種ノミヲ掲グ△印ハ減ヲ示ス

使用上ノ施設 本年度客車使用ニ關シ主ナル施設事項下ノ如シ。

- 客車ノ保守並ニ監理ヲ確保スル爲從來局ニ直屬シタル客車ヲ各運輸事務所及出張所ニ配屬シ客車取扱手續ヲ制定シテ其分擔ヲ明ニシ四年四月一日ヨリ實施ノコトトセリ。
- 九月一日咸鏡線全通ト同時ニ下ノ施設ヲナシタリ。  
イ 二・三等寢臺車ノ直通  
ロ 三等食堂車ノ直通
- 十二月二日ヨリ九、一〇列車ノ編成客車ヲ京城溫陽溫泉間ニ直通運用ヲナシ溫泉行旅客ノ利便ニ供シタリ。

- 東海中部線ノ買收後旅客激増ニ付三年十二月十日列車時刻改正ト同時ニ旅客列車ノ速度ヲ高メ客車彈機ヲ改良シ別ニガソリン自動車ヲ運轉スル等趨勢ニ應ジ善處シタリ。
- 舊式二・三等合造車ヲ新式ニ改造シ、在來ノ舊式合造車ヲ三等車ニ改造スル方針ニテ本年度ヨリ繼續事業トシテ着手シタリ。
- 在來車ノ油燈電化促進計畫ニ着手シタリ。

**三等寢臺車** 乗客中ノ大多數ヲ占ムル三等旅客ニ對シ夜間旅行ノ安易ヲ期スル目的ヲ以テ施設セラレタル三等寢臺車ハ大正十二年一月京城工場ニ於テ製作セラレ、同年二月ヨリ之ガ使用ヲ開始シタルガ其定員ハ座席ニ於テ 88<sup>人</sup>乃至 90<sup>人</sup> 寢臺ニ於テ 70<sup>人</sup>乃至 72<sup>人</sup>ニシテ寢臺定員ト座席定員トノ差ヲ僅少ナラシムルタメ設計上相當苦心ヲ要シタリ。

而シテ該車ハ釜山奉天間直通旅客列車第1・2・7・8列車ノ外本年度ニ於テハ九月一日咸鏡線開通ト同時ニ同線旅客第502・503列車ニ、十一月三十日ヨリ釜山奉天間直通旅客第5列車ニ、十二月一日第6列車ニ何レモ連結ヲ開始シタリ。

三等寢臺使用月別成績表

(單位人)

列車別 月別	1		2		3		4		5		6		7		8		502		503		合計		
	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數	一 日 平 均	寢 使 用 臺 數
昭和3年3月	819	27	1,101	37	1,227	41	1,023	34	—	—	—	—	1,214	40	1,152	47	—	—	—	—	6,336	226	
4月	755	24	954	31	1,112	36	945	30	—	—	—	—	1,151	38	1,007	32	—	—	—	—	5,937	191	
5月	545	18	693	23	848	28	920	31	—	—	—	—	754	25	910	30	—	—	—	—	4,671	155	
6月	622	20	920	30	995	32	1,177	38	—	—	—	—	967	31	1,376	43	—	—	—	—	6,657	191	
7月	719	23	1,098	35	1,293	42	1,187	38	—	—	—	—	1,252	41	1,504	49	—	—	—	—	7,053	228	
8月	704	25	950	32	1,050	36	1,160	39	—	—	—	—	1,048	35	1,303	43	592	20	655	23	7,591	253	
9月	615	20	1,007	32	1,292	39	1,193	38	—	—	—	—	1,071	35	1,152	38	774	25	887	29	7,931	256	
10月	541	18	977	33	907	30	957	33	10	10	—	—	772	26	1,006	34	564	19	555	19	6,319	222	
11月	668	22	1,176	38	879	28	1,353	45	749	24	942	30	903	29	1,197	39	827	27	760	25	9,474	308	
12月	823	27	798	26	1,143	37	1,077	35	688	22	824	27	931	30	1,171	38	657	21	733	24	8,815	287	
計	630	23	819	28	881	31	1,046	37	691	25	746	27	855	32	1,026	37	553	21	663	24	7,970	266	
對前年度比較増減	1,011	33	1,224	39	1,750	56	1,614	52	1,364	41	1,441	46	1,225	40	1,690	55	1,006	32	1,168	38	13,373	432	
計	8,522	23	11,727	32	13,297	36	13,712	37	3,402	24	3,913	32	12,216	33	14,824	40	5,003	23	5,451	26	52,057	252	
對前年度比較増減	△ 5,221	△ 15	△ 5,264	△ 15	△ 8,634	△ 5	△ 9,415	△ 9	△ 3,402	△ 21	△ 3,913	△ 32	△ 1,105	△ 3	△ 1,532	△ 4	△ 5,003	△ 23	△ 5,451	△ 26	△ 27,970	△ 81	

(備考) 合計數ニ寢臺總使用數 + 365 日  
△印ハ減ヲ示ス  
第 5 列車ハ11月30日ヨリ  
第 6 列車ハ12月 1日ヨリ  
第502、503列車ハ 9月 1日ヨリ

### 第三章 貨車及其使用

**貨車一般** 年度末現在貨車數ハ 3,233<sup>輛</sup> 内廣軌線用有蓋車 1,554<sup>輛</sup> 無蓋車 1,457<sup>輛</sup> = シテ噸車及十四噸積四輪車 257<sup>輛</sup>ヲ除キ總テ「ボギー」式トシ積載量ハ 15<sup>噸</sup>乃至 50<sup>噸</sup>ナリ、而シテ其ノ輛數ヲ前年度 = 比スル = 新造 = 依ル有蓋車 4<sup>輛</sup> 無蓋車 149<sup>輛</sup>計 153<sup>輛</sup>ヲ増加シ此外當局ノ車籍 = 編入シタル私有貨車(石油槽車) 2<sup>輛</sup>アリ。

狹軌線用貨車ハ有蓋車 102<sup>輛</sup> 無蓋車 120<sup>輛</sup>計 222<sup>輛</sup> = シテ内有蓋車 81<sup>輛</sup> 無蓋車 88<sup>輛</sup>計 169<sup>輛</sup>ハ慶東線ノ買収 = 依ル増加輛數トス。

本年度狹軌線ヲ除キタル一日平均使用車數ハ 652<sup>輛</sup>(各驛 = 於テ使用サレタル貨車數ヲ毎日午後六時打切り計上シ車掌車、工車用車ヲ除ク) = シテ前年度 624<sup>輛</sup> = 比シ 28<sup>%</sup>(5)ノ増加 = 當リ季節 = 依ル使用數ハ全線ヲ通ジ十二月ノ 827<sup>輛</sup>ヲ最大七月ノ 521<sup>輛</sup>ヲ最少トシ前年度 = 比シ前者 = 於テ 70<sup>%</sup>後者 = 於テ 23<sup>%</sup>ヲ増加シタリ。

月別一日平均運用車及使用車成績下記ノ如シ。

運用貨車及使用車成績表

月別一日平均

(單位輛)

種別 月別	運 用 貨 車							使 用 車		
	整備	停泊	留置	専用	修繕	過渡段及 改修入込	計	本年度	前年度	比較増減(△)
(昭和三年)										
四月	1,275	687	157	318	232	84	2,753	698	661	17
五月	1,012	659	418	351	245	98	2,783	634	607	27
六月	900	594	589	394	175	135	2,787	578	532	46
七月	839	594	685	342	202	125	2,787	521	451	70
八月	828	586	691	290	246	146	2,787	524	487	37
九月	990	627	431	292	301	166	2,807	568	560	8
十月	1,221	604	312	304	240	146	2,827	684	634	50
十一月	1,320	641	268	261	183	172	2,845	774	744	30
十二月	1,442	683	148	258	187	125	2,843	827	804	23
(昭和四年)										
一月	1,173	702	402	269	208	87	2,841	667	615	52
二月	1,052	173	545	248	248	104	2,870	613	655△	42
三月	1,226	657	344	267	226	171	2,891	740	741△	1
計	13,278	7,707	4,950	3,594	2,693	1,559	33,821	7,828	7,491	337
一日平均	1,107	642	416	300	225	130	2,820	652	624	28

備考 1. 運用貨車ハ毎日午後 6時ヲ以テ締切計上シタルモノニシテ車掌車 112輛及狹軌用貨車ヲ含マズ

2. 使用車 = ハ車掌車工車用列車 = テ輸送ノ専用車及狹軌用貨車ヲ含マズ

### 使用上ノ施設

1. 「トシ」型無蓋車ノ内 20<sup>輛</sup>ノ側板ヲ取外シ無側車代用トシテ四月六日ヨリ使用セリ。
2. 「コイ」型小形無蓋車ノ内三枚側 14<sup>輛</sup>ヲ二枚側 = 改造シ工車用専用車トシテ六月十五日ヨリ使用セリ。
3. 新造「トシフ」型無蓋車 149<sup>輛</sup>ヲ四月三十日ヨリ使用セリ。
4. 「レイ」型冷藏車 4<sup>輛</sup>六月二日落成 = 付龍山、清津、釜山ノ三驛 = 常備セリ。
5. 「ワニ」型有蓋車 11<sup>輛</sup> = 對シ床板 = 棧木及排水孔ヲ設備シ中間車ト標記シテ一般貨車ト識別ヲ容易ナラシメ小口貨物輸送 = 便セリ。
6. 「ワニフ」型有蓋車 2<sup>輛</sup>及「ワニ」型有蓋車 9<sup>輛</sup>計 11<sup>輛</sup>ヲ「カサ」型車掌車 = 改造シ十一月二十日ヨリ使用セリ。
7. 「ワサ」型有蓋車 50<sup>輛</sup> = 對シ換氣窓及馬繫裝置ヲ施シ軍馬輸送 = 便セリ。
8. 石油槽車 2<sup>輛</sup>ノ私有貨車ノ製作ヲ承認シ落成後當局ノ車籍 = 編入シテ石油類輸送専用 = 充ツルコトトセリ。
9. 東海中部線 = 配屬ノ狹軌貨車ノ内有蓋車 10<sup>輛</sup> 無蓋車 2<sup>輛</sup>計 12<sup>輛</sup>ヲ慶全北部線 = 配置換ヲ爲シ十月五日廻送ヲ了セリ。

## 第六編 工 務

### 第一章 工 務 一 般

**線路審査** 線路審査ハ線路ノ保存並其作業狀態ヲ調査シテ業務ノ向上 = 資セントシ各工務事務所長 = 委託シテ行ヒタルガ、本年度ノ成績ヲ彼此綜合スル = 逐年良好 = 向ヒ優良保線區其他トシテ表彰セラレタルモノ下記ノ如シ。

優良保線區 城津・金泉・裡里・開城・福溪・新幕

優良保線丁場 清津・深川・始興・礪岬・前津・新安州

佳良保線丁場 龍崗・龍岬・石幕・楡林亭・新洞・蔚山・新灘津・大池里・長城・三郷・新村・東豆川北・三防・文川・興上・花間里・黑橋南・船橋里・良策・龍城

**工事係ノ新設改廢** 本年度建設改良工事ヲ行フ爲現場 = 於ケル工事係ヲ新設又ハ改廢セルモノ左ノ如シ。

慶全北部線改良殘區間施工ノ爲三年六月全州 = 工事係ヲ設置セリ。

咸鏡線工事竣成 = 伴ヒ群仙建設工事係ヲ三年八月廢止シ別 = 遮湖支線起工ノ爲會山 =、北青支線

起工ノ爲新北青=何レモ建設工事係ヲ設置セリ。  
 東海線北部=於テハ未著手區間起工=伴ヒ三年八月慈東=建設工事係ヲ設置シ、既設安邊建設工事係ハ線路竣工=伴ヒ廢止セリ。  
 平元線=於テハ四年二月新倉及元徳=建設工事係ヲ設置シ、既設順川建設工事係ハ線路竣工=伴ヒ之ヲ廢止セリ。  
 圖們線ハ三年六月新阿山、四年一月新乾及慶源=何レモ建設工事係ヲ設置シ工事ノ進捗ヲ圖レリ。

## 第二章 建設工事

**咸鏡本線** 本線ハ元山會寧間及輪城清津間 626.6<sup>キ</sup>ノ線路=シテ昭和三年六月會山・群仙間路盤工事ノ竣工ヲ最後トシ、全區間ノ工程完成ヲ告ゲ九月ヲ以テ全線=互リ運輸營業ヲ開始セリ、本年度工事概況左ノ如シ。

### (一) 盤松・群仙間

前年度末未開通區間ノ内乾自・會山間 8.2<sup>キ</sup>ハ大正十五年九月路盤工事=著手、昭和二年十月竣工、會山・群仙間 11.9<sup>キ</sup>ハ昭和二年四月著手、三年六月竣工セルヲ以テ引續キ軌道構成驛舎及官舎ノ新設其他諸設備ヲ施行シ、盤松・群仙間 24<sup>キ</sup>ハ三年九月ヲ以テ完成、茲=南北ヲ連絡セシメタリ。

### (二) 北青及遮湖引込線

新北青・北青間引込線 9.7<sup>キ</sup>ハ三年十月、會山・遮湖間引込線 5.1<sup>キ</sup>ハ同九月孰レモ路盤工事=著手シ四年九月竣工ノ豫定ナリ。

### (三) 營業區間殘工事

營業開始區間=於ケル殘工事ノ主ナルモノハ清津及元山=於ケル機關車庫新増築・元山・咸興・兩驛乘降車場上家及灰坑新設、高原柵内地築、三湖・雲浦・汝海津・日新・農城及章興驛ヲ普通驛=變更、清津列車區詰所新築、同機關車庫新築及暖房裝置工事等=シテ此ノ外全通=伴ヒ各驛乘降場延長、官舎増設其他諸設備工事ヲ施行シ、高原給水器新設、清津機關區詰所轉車臺新設、清津工場組立及旋盤工場、客車及挽立工場新築工事等ハ四年度=入り竣工ノ豫定ナリ。

**鎮海線殘工事** 本年度=於テ昌原・聖住寺及鎮海官舎新設、慶和驛本屋竝=貨物線新設、鎮海驛側線増設、懸洞引込線新設等ノ工事ヲ施行セリ。

**平元線** 本線ハ西浦・高原間 213.7<sup>キ</sup>ノ線路=シテ其西部=屬スル西浦・舍人場間 24.9<sup>キ</sup>ハ昭和二年度營業ヲ開始シ、舍人場・順川間 22.2<sup>キ</sup>ハ二年五月路盤工事=著手シタルガ内、舍人場・慈山間ハ三年六月、慈山・順川間ハ同八月竣工シ、三年十月十五日營業ヲ開始セリ。

而シテ以テ遠タル順川・岐倉間 35.7<sup>キ</sup>ノ路盤工事ハ其内順川・新倉間 19.8<sup>キ</sup>=對シ二年十一月著手シタルガ、四年十月營業開始ノ豫定=シテ、新倉・岐倉間 15.9<sup>キ</sup>ハ四年二月著手、五年度=竣工ノ豫定ナリ。

**圖們線** 本線ハ雄基・濱關間約 156.1<sup>キ</sup>ノ線路=シテ其内雄基停車場前後 7.6<sup>キ</sup>ハ三年九月、雄基・甌山間 23.5<sup>キ</sup>及甌山・阿吾地間 26.4<sup>キ</sup>ハ二年十月、阿吾地・新阿山間 15<sup>キ</sup>ハ三年六月孰レモ路盤工事=著手シ四年十一月營業開始ノ豫定=シテ引續キ新阿山・訓我間 38.1<sup>キ</sup>ハ四年二月路盤工事=著手セリ。

**東海線** 本線ハ蔚山・釜山鎮間及元山・浦項間約 548.7<sup>キ</sup>ノ線路=シテ内元山方面ハ安邊ヲ起點トシ安邊・梧溪間 10<sup>キ</sup>=對シテハ三年一月、熊津里・歙谷間 13.2<sup>キ</sup>=對シテハ三年九月孰レモ路盤工事=著手シ、四年度營業開始ノ豫定=テ進工中ナリ。

**惠山線** 本線ハ吉州・惠山鎮間約 141.6<sup>キ</sup>ノ線路=シテ本年度=於テ吉州及惠山鎮附近一部用地ノ買収ヲ爲セリ。

**滿浦線** 順川・滿浦鎮間約 286.5<sup>キ</sup>ノ線路=シテ本年度=於テ順川・泉洞間一部用地ノ買収ヲ爲セリ

**慶全線** 本線ハ晋州・全州間及院村・潭陽間約 251.1<sup>キ</sup>ノ線路=シテ内全州・館村間ハ既=線路ノ豫定ヲ了シ本年度=於テ一部用地ノ買収ヲ行ヒ、四年度=入り路盤工事=著手セムトス。

## 第三章 改良工事

**既設線改良** 本年度施行ノ主ナル工事ハ前年度著手セシ水原及沙里院驛々舎改築、京城工場鋼鉄工場新築、客貨車職場其他電燈設備、本年度著手セシ釜山第一棧橋乘船上家新設、釜山工場敷地土工、京城工場鐵鑄工場其他=監督員詰所新築、沙上・興南及懷德驛新設、松汀里驛本屋移築、仁川築港貨物積卸場増設、龍山及平壤乘降場上家増設、黃洞・永同・芙蓉・新泰仁・萬城・議政府及咸興貨物上家新増築、水原・徳山楡林亭及勝湖里貨物線路増設、新幕轉車臺改築、龜浦・院洞間其他土石墜落防止、清津船車連絡引込線上家改築其他、京釜・京義・馬山及湖南線一部=於ケル重軌條交換、京元線一部枕木増設、釜山・大邱間龍山・元山間及平壤・新義州間電話線増架工事等=シテ、釜山工場客貨車及挽立職場竝製材職場新築、京城工場鑄鐵工場新築徳山驛地築、鐵原驛本屋改築工事等ハ四年度=於テ竣工ノ豫定ナリ。

**買収線改良** 昭和二年度買収=係ル慶全北部線裡里・全州間狹軌線ノ廣軌改築工事ノ内萬頃江橋梁及其前後=於ケル土工々事ハ昭和二年十月著手、三年七月竣工、裡里・參禮間ハ三年四月、參禮・全州間ハ同六月土工々事=著手シ、四年十月廣軌線=ヨリ營業開始ノ豫定ナリ。

## 第四章 災害工事

大正十四年度=於ケル水害復舊及改良工事ハ昭和元年度以降三ケ年=互ニ繼續工事トシテ施行シタルガ本年度工事ノ主ナルモノハ、龍山第六益濟寮移改築、及六七等官舎 68<sup>キ</sup>ヲ錦町高地へ移築シ計 206<sup>キ</sup>ト爲シ、其他素砂驛本屋改築工事、孟中里・嶺美間源連川橋梁徑間増設及根固メ、枇峴・白馬間京城起點 473.800<sup>キ</sup>前後切取、法切擴、全谷・連川間龍山起點 70.678<sup>キ</sup>附近側溝石垣改築、洗浦・三

防間第四及第十三、三防隧道繼足工事等ニシテ孰レモ竣功セリ。

尙本年ニ入リテハ各線所々ニ降雨アリ其ノ損害大ナラザリシガ、八月ヨリ九月ニ亘リ咸鏡南北道ヲ襲ヒタル數回ノ豪雨出水ニヨリ、線路建造物ノ被害甚大ニシテ之ガ應急工事亦隨テ頻繁ヲ極メ、大部分之ヲ復舊セシメタルガ、一部ハ四年度ニ於テ施行ノ豫定ナリ。(概況別記)

### 第五章 保存工事

本年度施行ノ保存工事ハ腐朽枕木ノ交換、橋梁溝橋鋼桁ペイント塗替、鉸換及官舎其他疊表替工事等ニシテ此外線路、停車場官舎其ノ他諸建物及電線路ニ對シ必要ナル保存工事ヲ施行セリ。

### 第六章 補充工事

本年度ニ於テ施行シタル主ナル工事ハ龍山鐵道醫院本館増築(前年度ヨリ繼續)同電燈暖房衛生其他附帶諸設備、龍山局員集會所一部改築、京城驛ニ於ケル列車暖房裝置、石下・新義州間第三上村川橋梁徑間増設、鴨綠江橋梁橋脚捨石、福溪驛灰坑新設、倉洞及南山驛ヲ普通驛ニ改築、會寧炭礦線ヲ營業線ニ改築、金剛山長安寺ホテル附屬貨間新築其他工事等ニシテ、コノ外線路諸建物及電線路等ニ對シ必要ナル補充工事ヲ施行セリ。

### 咸鏡線水害狀況

八月二日夜來ノ豪雨ハ三日ニ至リ遂ニ咸鏡線北部ニ屬スル清津附近ヲ中心トシ、北ハ全巨里ヨリ南ハ龍坪ニ至ル約113間各所並會寧炭礦線ニ於テ線路被害ヲ生ジ、築堤流失線路土砂崩壊、及清津附近線路浸水並家屋ノ浸水セルモノ夥シク、各所ニ於テ區間折返シ運轉ヲ行ヒ之ガ復舊ニ努メタル結果會寧炭礦線ヲ除キ五日開通、各列車共運轉舊ニ復スルヲ得、六日夜來ノ豪雨ハ七日ニ至リ再び清津・會寧間及輪城・羅南間數ヶ所被害ヲ生ジタルモ應急工事ノ結果、幸ニシテ各列車ハ40乃至1ヲ遅延シテ復舊スルヲ得タリ。

會寧炭礦線ノ被害ハ起點側橋梁橋臺ヲ殘シ全部流失、其他各所築堤及橋脚ノ流失セルモノアリ、十八日ニ鳳儀・會寧間復舊二十日全通スルヲ得タリ。

然ルニ八月二十八日ニ至リ再度ノ暴雨ハ咸興以北ヲ襲ヒ、北部ニ於テハ章興・全巨里・古茂山ヲ中心トシ、雨水ノ瀧ハ土石ト共ニ樹木ヲ流シ線路切取内ニ流入、推積又ハ築堤ヲ缺潰スル等其被害甚シク、咸興方面ニ於テハ湖連川ト城川江トノ合流點附近ノ堤防ヲ缺潰セル爲、濁水ハ猛烈ニ線路ヲ襲ヒ本宮附近ノ平野ヲシテ全ク泥海ト化セシメタリ、之ガ爲咸興・興南間線路浸水シ最深軌條面上3.2ニ達シ本宮附近ハ軌條面2.6官舎床上2ニ及ビ咸興・本宮間築堤ノ流失セルモノ1本宮・興南間同シク2.3ニ及ビタリ、亦西湖津・呂湖間半日川橋梁ハ橋脚約十度ニ傾斜シ、西大川ノ氾濫ハ前津ノ官舎床上5ニ達シ咸興以北ノ電信電話全ク不通トナリタルヲ以テ孤立無援ノ狀態ニ陥リ、且ツ以南ニ於テモ興上・咸興間八下九里避溢橋、其他ノ袖石垣流失シ線路不通トナリタルヲ以テ龍山ヨリ

モ係員材料等ヲ輸送、徹宵應急工事ニ努力シ漸ク三十一日夕咸興迄開通セシメ、咸興本宮間ハ減水ヲ待チ三日一度復舊セシメタルモ同夜ノ豪雨ニ依リ再び築堤流失線路浸水等列車ノ運轉ヲ支障セルガ、其後復舊工事進捗シ七日ニ至リ漸ク京城・清津間上リ下リ各一列車ヲ直通セシメタルモ、八日夜來ノ豪雨ニ線路築堤流失セルモノ數十ヶ所ヲ生ジ、係員ノ努力モ水泡ニ歸シ、三度列車ノ運轉ヲ不能ナラシメタルガ其後天候ノ恢復セルト、當局所屬船塢丸ヲ運航シテ西湖津附近ニ係員及材料ノ揚陸ヲ行ヒタル等應急作業ノ進捗ニ依リ、北部ハ八日ヨリ南部本區間ハ十二日ニ至リ復舊、茲ニ咸鏡線全線ノ開通ヲ見ルニ至レリ。

會寧炭礦線ハ被害甚大且ツ橋梁ノ破壊セラレタルモノ多ク、復舊作業ヲ繼續シ會寧・鳳儀間ハ九月二十四日ニ開通、鳳儀・鷄林間ハ十月四日復舊シ漸ク全線ニ亘ル列車運轉ヲ開始セリ。

### 第七章 線路調査ノ狀況

朝鮮ニ於ケル鐵道線路ノ踏査並豫測ニシテ官廳ニ於テ施行セラレシハ、明治四十一年統監府鐵道局技師小城齊氏京元及平元線ノ踏査施行ヲ以テ嚆矢トス、爾來毎年度局部的ニ調査行ハレツ、アリシガ、大正六年朝鮮總督官房鐵道局設置サルルヤ、本事業又該鐵道局ニ於テ施行スル事トナリ、同年九月調査ニ著手シ、爾後主要ナル路線ノ調査ヲ實施シ、大正十年度ニ至ル約五ヶ年間ニ1,125餘約(1,810)ノ調査ヲ完了セリ、然ルニ時運ト共ニ朝鮮全般ニ亘ル統一の鐵道網ヲ決定シ、其ノ政府事業タルト民間事業タルトヲ問ハズ、鐵道敷設計畫上頗ル重要ナル資料ヲ提供センコトヲ期シ從來經常部ノ餘力ヲ以テ調査セシニ過ギザリシヲ、大正十一年度以降六ヶ年ヲ期シ臨時部トシテ線路調査費ヲ要求シ調査班ヲ増加シ地形調査ニ伴ヒ經濟調査ヲモ施行スルコトトシ著手シタルモ、大正十二年ニ於ケル行政及財政ノ整理ノ結果二ヶ年ヲ繰延ベ八ヶ年ノ繼續事業トシテ、一ヶ年約600(約1,000)ノ調査ヲ爲サン計畫ヲ以テ進ミ來リシガ、大正十四年度現鐵道局トナリテ以來經常部ノ一部トシテ其ノ計畫ヲ縮小シ調査ヲ續行スルコトトシタリ、斯ノ如クニシテ昭和四年三月末日迄ニ調査ヲ完了セルモノハ總計5,575餘、内廣軌調査線4,757餘、狹軌調査線818外ニ比較線其他1,819餘ナリトス。

線路調査年度別表

區 間	主要經過地	線路延長		最急勾配	最小曲線半徑	建設費概算	調査期間		従事員
		本線	比較線其他				出發	歸著	
大正六年度									
下汝坪、輪城	慶興、雄基	151.7	20.8	1/40	9	14,017,313	6. 9.13	6.11.20	雇員以上 7
南江、江東		23.0	27.4	1/80	20	1,916,761	6.10.12	6.11. 8	4
×鎮南浦、溫井	廣 築 灣	28.2	16.4	1/60	6	584,580			
×金泉、尙州		59.1	19.6	1/40	6	1,409,910	7. 2. 8	7. 4. 2	5
×金泉、居昌	知 禮	70.5	-	"	6	2,722,026			
×安義、三千浦	晉 州	101.8	9.0	"	6	2,655,150			

區 間	主要經過地	線路延長		最急勾配	最小曲線半徑	建設費	調查期間		從事員
		本線	比較線其/他				出發	歸著	
計		434.3	93.2						
<b>大正七年度</b>									
會寧、古乾原	鳳山洞	54.2	—	1/40	15	4,328,227	年月日	年月日	雇員以上
古乾原、訓戎	慶源	33.8	30.6	—	—	2,236,231	7. 9. 3	7.11.10	5
下汝坪、古乾原		34.9	—	—	—	2,796,352			
咸興、洪原	西湖津	—	53.7	1/80	20	7,869,879	7.11. 6	7.12. 6	4
計		122.9	84.3						
<b>大正八年度</b>									
梧柳洞、城內里		—	77.1	1/80	20	13,382,653	8. 3. 4	8. 4. 4	5
咸興、長津、江界	古土	242.3	33.3	1/40	—	44,072,033	8. 5. 9	8. 8.23	7
平壤、永興	新倉、孟山	—	254.9	1/80	—	35,665,043	8. 9. 3	8.12. 1	6
							9. 2.17	9. 4.29	7
							9. 2.24	9. 4.12	5
計		242.3	365.3						
<b>大正九年度</b>									
新倉、梧柳洞	岐倉	64.5	2.1	1/80	—	9,853,706	9. 7. 1	9. 8.16	5
鹽州、玄川	橫城	86.9	60.5	—	—	11,120,562	9.10. 5	9.12. 3	6
計		151.4	62.6						
<b>大正十年度</b>									
羅津、上三峰		112.0	—	1/40	15	14,742,094	10. 4. 1	10. 6. 5	6
玄川、江陵	珍富	114.6	1.9	—	—	24,449,420	10. 9.16	10.12.16	6
計		226.6	1.9						
<b>大正十一年度</b>									
新色、高原	梧柳洞、順子	106.2	—	1/44	15	14,997,501	11. 4.15	11. 6. 3	6
葛麻、襄陽	通川、高城	190.0	—	12.5/1,000	400	17,243,375	11. 5. 9	11. 7.12	6
熙川、滿浦鎮	江界	189.0	—	22.5/1,000	300	31,244,719	11. 6.24	11. 9.25	7
鐵城、訓戎	慶源	51.3	110.4	25.0/1,000	300	4,790,924	11. 9.20	11.11.27	6
裡里、大邱	全州、鎭安、居昌、高靈	223.8	38.3	—	—	24,692,311	11.11. 1	12. 1.14	6
河東、筏橋	光陽	57.4	—	—	—	5,297,932	12. 1.20	12. 3.20	6
求禮、順天、麗水		65.4	50.0	—	—	4,802,864	12. 1.20	12. 3.20	6
計		883.1	198.7						
<b>大正十二年度</b>									
浦項、盈德	興海、清河	46.7	6.1	12.5/1,000	400	5,260,255	12. 2.11	12. 4.11	6
醴泉、盈德	安東	108.5	—	25.0/1,000	300	10,397,442			6

孟中里、月林	博川、寧邊	102.8	6.0	12.5/1,000	400	11,017,825	12. 5. 1	12. 7. 6	雇員以上	5
新安州、熙川	安州、球場	97.0	13.3	—	—	9,647,014				
慈山、軍隅里	順川	48.2	—	—	—	3,433,907	12. 7.23	12. 8.23	外學生	3
定州、新安	大館、朔州	100.0	13.0	—	—	8,865,022	12. 6.14	12. 8.17	雇員以上	5
新義州、新安	清城鎮	79.3	6.0	—	—	7,867,139				
清涼里、春川	加平	91.8	9.7	25.0/1,000	300	8,197,547	12. 8.10	12.10.16	—	6
春川、金化	華川	74.8	6.8	30.0/1,000	180	7,326,824				
陶農、橫城	楊平	101.2	12.9	12.5/1,000	400	10,119,880	12.10.15	12.12.15	—	6
龍頭、甌里		49.2	2.2	30.0/1,000	180	5,020,437				
筏橋、龍頭	寶城、長興	114.3	54.2	25.0/1,000	300	8,255,004				
龍沼、三榮	月平	40.1	—	—	—	2,308,822				
康津、海南	永春	25.1	—	—	—	1,519,680	13. 1.16	13. 3.30	—	10
寶城、和順		43.3	—	—	—	3,223,750				
綾州、松汀里		29.4	19.3	—	—	1,823,929				
光州、筏橋	和順	74.4	21.4	—	—	6,441,641				
計		1,226.1	171.0							
<b>大正十三年度</b>										
南市新義州(複線)		44.7	11.9	30.0/1,000	20	2,434,854				
南市柳洞(同)		—	37.2	—	400	3,226,358				
楊市多獅島(單線)		18.8	4.6	—	—	1,107,236	13. 4.19	13. 6.13	—	5
臥毛多獅島(同)		—	11.3	—	—	1,004,244				
南市多獅島(同)		17.8	—	—	—	1,023,265				
昌道、花溪	縣里	27.5	—	25.0/1,000	300	1,097,931	13. 7.23	13. 8.21	外學生	3
安義、南原	咸陽	61.5	—	—	—	7,010,812				
仙川、南原	任實	43.3	—	—	—	3,272,008	13. 7.23	13. 9.22	雇員以上	5
梅谷、龍林		13.9	—	—	—	1,313,455				
河東、求禮	花開	—	36.8	—	—	3,452,055				
端川、惠山鎮	甲山	181.6	—	30.0/1,000	180	23,923,121	13. 8.23	13.11. 6	—	5
龍山、西水庫		—	4.7	1/80	19	463,008				
西水庫、長湖院	京安、利川	—	84.6	12.5/1,000	400	8,829,504				
八堂、京安	山谷	—	18.7	—	—	2,916,086	13.10.15	13.12.25	—	5
楊平、長湖院	利川、驪州	51.8	—	—	—	5,071,065				
梨浦、利川	玄方	—	15.4	—	—	905,056				
水原、驪州	金良場	71.3	5.4	—	—	5,243,455				
裡里、全州	參禮	—	26.2	25.0/1,000	300	2,016,799	14. 3.13	14. 3.28	—	6
裡里附近其/他		—	13.1	—	—					
長湖院、醴泉	忠州、丹陽	146.4	27.1	12.5/1,000	—	17,362,643	14. 1.14	—	3.22	5

區 間	主要經過地	線路延長		最急 勾配	最小曲 線半徑	建設費	調査期間		従事員
		本線	比較線 其ノ他				出 發	歸 著	
醴泉、大邱 石隅、倭館	安東、義城	136.7	16.9	$\frac{12.5}{1,000}$	400	13,360,962	14. 1.21	14. 3.21	雇員以上 5
計		815.3	341.4			2,099,221			
<b>大正十四年度</b>									
會寧、慶源	上三峰、鐘城	100.4	—	$\frac{12.5}{1,000}$	300	10,704,368	14. 6. 8	14. 8. 8	雇員以上 6
慶源、羅津	阿吾地、雄基	—	129.6	5.7	—	10,266,722	14. 8.20	14.10.28	雇員以上 5
阿吾地、下汝坪	—	—	7.2	—	—	484,021			
瓶山、西水羅	—	16.3	—	—	—	—			
計		116.7	142.5						
<b>大正十五年度</b>									
襄陽、蔚珍	江陵、三陟	168.5	10.8	$\frac{12.5}{1,000}$	400	17,467,980	15. 4.17	15. 7. 6	雇員以上 5
三陟炭礦支線	—	34.6	—	$\frac{30.0}{1,000}$	180	2,876,285			
釜山鎮、浦項	蔚山、慶州	143.7	5.7	$\frac{12.5}{1,000}$	400	10,356,305			
盈德、蔚珍	寧海	74.1	9.7	—	400	8,433,192	15. 5.13	15. 7.24	雇員以上 7
蔚山、長生浦	—	8.8	—	—	—	493,260			
吉州、惠山鎮	合水	141.7	—	$\frac{30.0}{1,000}$	200	12,545,524	15. 9.12	15.11.17	雇員以上 5
金泉、三千浦	居昌	—	182.4	$\frac{25.0}{1,000}$	300	16,607,150	2. 1.13	2. 3.12	雇員以上 5
計		571.4	208.6						
<b>昭和二年度</b>									
×白岩、楡坪	延岩	99.6	—	$\frac{30.0}{1,000}$	50	2,024,052	2. 5. 1	2. 7. 4	雇員以上 5
×長津、甲山	—	176.7	—	—	100	6,188,248	2. 9. 4	2.11.20	雇員以上 6
土城、海州	延安	76.7	33.3	$\frac{10.0}{1,000}$	300	4,695,084	2.10.27	2.12. 5	雇員以上 5
海州、龍塘	—	6.6	—	—	—	420,904			
泗川、統營	—	49.4	—	$\frac{30.0}{1,000}$	—	379,808	3. 2.29	3. 3.25	雇員以上 6
計		409.0	33.3						
<b>昭和三年度</b>									
×甲山、惠山鎮	—	52.6	26.6	$\frac{30.0}{1,000}$	100	1,478,325	3. 5. 1	3. 7.25	雇員以上 6
×楡坪、茂山	延社	88.1	—	—	—	3,299,425			
×江界、厚州古邑	七坪	141.4	—	—	—	6,455,079	3. 8. 3	3.10.27	雇員以上 6
義城、永川	義興	—	65.3	$\frac{12.5}{1,000}$	300	4,055,861	3.11.29	3.12.27	雇員以上 5
永川、附近	—	—	5.9	—	—	596,410			
清風、旌善	埋川、寧越	94.7	19.0	$\frac{25.0}{1,000}$	—	11,210,491	4. 2.14	4. 3.28	雇員以上 5
計		376.8	116.8						
總計		5,575.9	1,819.6						

内廣軌調査線本線 4,757.9 比較線 1,748.0

狭軌調査線本線 818.0 比較線 71.6

備考 1. ×印アルハ狭軌調査線トス。 2. 建設費ハ大正二年ノ時價ニ依ル。 3. 局部的比較線建設費ハ計上セズ。

昭和三年度調査概況

一、甲山・惠山鎮間及楡坪・茂山間調査概要

甲山・惠山鎮間ノ地形調査ハ前年度調査完了セル長津・甲山間ニ接続シ、平北江界ヨリ北部朝鮮ヲ横断シテ惠山鎮ニ出デ、惠山線ト滿浦線トヲ連接セシムベキ線路ノ一部ニシテ、甲山邑ニ起リ大體惠山鎮通路ト離レ虚川江岸ニ沿ヒ下降同江口ヨリ鴨綠江岸ニ沿ヒ上リ既定惠山鎮驛ニ達スル線路ナリル、延長 52.6<sup>分</sup>ノ本線ト途中光生里ヨリ分岐雲龍江ニ沿ヒ馬上嶺ヲ突破スルニ數ヶ所ノ「スキツチバツク」線ヲ有スル 26<sup>分</sup> 餘ノ比較線アリ、軌間 0.75 (2.6<sup>分</sup>) ノ狭軌線ニシテ、最急勾配 100<sup>分</sup>ノ 30 (約 3<sup>分</sup>ノ 1) 最小曲線半徑 100 (5<sup>分</sup>)、建設費 1,478,325<sup>円</sup> (大正二年ノ時價) 停車場(停留場ヲ含ム) ヲ設クルコト甲山及惠山鎮ヲ除キ五ヶ所ニシテ橋梁ヲ架スルコト十五ヶ所、此總延長 951<sup>分</sup> 餘、第四及第五虚川江橋梁ハ同ジク延長 171<sup>分</sup> 餘ナリ、隧道ハ狭軌線ナルヲ以テ極力之ヲ避ケ總數三ヶ所總延長 350<sup>分</sup> ニシテ最モ長キヲ船所隧道 230<sup>分</sup> トス。

楡坪・茂山間ハ前年度ニ調査シタル白岩(合水附近)楡坪間ノ線路ニ引續キ延社、上倉坪、興岩等ヲ經テ茂山ニ達シ朝鮮鐵道咸北線ニ連接シテ清會線ニ連絡スベキ所謂北鮮拓殖鐵道ノ東部豫定線ニシテ惠山線ト咸鏡線トノ西北一帯廣大ナル未開地ノ拓殖ヲ其主タル目的トシ線路延長 88.1<sup>分</sup> (白岩・茂山間ハ 116.7<sup>分</sup>) 最急勾配 1000<sup>分</sup>ノ 30 最小曲線半徑 100.75 狭軌輕便線ニシテ、此建設費概算 3,299,425<sup>円</sup> (大正二年ノ時價) ナリ、停車場(停留場ヲ含ム) ハ楡坪ノ外十二ヶ所ヲ置キ延社、上倉坪、興岩、茂山等ヲ其主ナル都邑トス。

而シテ本區間ノ橋梁ハ總數二十四ヶ所、總延長 1,465<sup>分</sup> 餘最モ長キハ第七延水面 190<sup>分</sup> 餘ノ橋梁ニシテ、隧道ハ總計七ヶ所、總延長 1,620<sup>分</sup> 篤所隧道 500<sup>分</sup> ヲ最大ナルモノトシ楡坪・延社間唐洞嶺(標高 1,300<sup>分</sup>) ノ嶮ヲ越スニハケ所ノ「スキツチバツク」線ヲ設クルモノトス。

二、江界・東興(厚州古邑間)調査概要

本線ハ北鮮拓殖輕便鐵道中部線ノ一部トナルベキ豫定線ニシテ軌間 0.75<sup>分</sup> ノ狭軌輕便鐵道ナリ既定滿浦線江界驛ニ起リ秃魯江ノ支流北川ノ流域ヲ厚昌街道ニ沿ヒ北進、江界厚昌兩郡界ニ聳立セル直嶺(標高 1,057<sup>分</sup>) ノ嶮ヲ越ヘ慈城江ノ流域ニ入り、七坪ニ於テ東ニ轉シ慈城江本流ヲ廻リ大興洞ニ於テ線路ハ更ニ北轉シ、慈城江ノ支流戲仙川ノ溪谷ヲ廻リ七坪、東興面界ニ蟠居セル火蟻嶺、(標高 1,420<sup>分</sup>) ヲ突破シ厚州川(南社水ト稱ス)ノ流域ニ出テ是ニ沿ヒテ下リ鴨綠江岸ナル東興(厚州古邑)ニ達スルモノナリ。

本調査區間ハ山林部所管林野中最モ優秀ナル森林ニシテ就中直嶺、火蟻嶺及厚州川流域ハ大密林ヲ形成シ調査作業上支障尠カラズ、樹木ノ伐採ニ多大ノ勞力ヲ要シ相當困難ナリシノミナラズ地勢錯雜ナリシヲ以テ先ヅ基線ノ測定ヲナシ是ニ依ツテ等高線圖ヲ調製シ圖上ニ於テ最急勾配1000<sup>分</sup>ノ30最小曲線半徑100<sup>米</sup>ノ「スキツチバツク」線ノ撰定ヲ爲シ専ラ工費ノ節約ヲ計リ調査ヲ完了シタリ。

江界・東興間總延長141<sup>分</sup>餘最急勾配1000<sup>分</sup>ノ30最小曲線半徑100<sup>米</sup>、建設費概算6,455,079<sup>圓</sup>(大正二年時價)ニシテ、停車場ハ江界ヲ除キ二十六ヶ所七坪、南社、東興寺ハ其主要ナル都邑トス。

本線中最難工事區間ハ直嶺及火蟻嶺ニシテ江界ヨリ下古介間ハ北川ノ沿岸ヲ縫ヒ進ミ都家附近ヨリ古介山麓ヲ繞レバ地勢愈々急峻トナリ最急勾配ナル1000<sup>分</sup>ノ30ヲ以テ連續登昇スルコト約3<sup>分</sup>ニシテ直嶺ノ麓ニ達シ、此峻嶮ヲ突破スルタメ「スキツチバツク」線路トシ勾配及曲線其度ヲ極メ幾多ノ深壑ヲ渡リ山角ヲ迂迴登攀第一直嶺隧道延長110<sup>米</sup>ヲ穿テ「スキツチバツク」六ヶ所ヲ設ケ愈々密林地ニ入り更ニ上昇スルコト約1<sup>分</sup>「スキツチバツク」二回ニシテ第二直嶺隧道延長1,130<sup>米</sup>ヲ穿テ直洞川流域ニ出ツルモノニシテ此間高差約200<sup>米</sup>線路延長7.2<sup>分</sup>(停車場ヲ含ム)ナリ、而シテ密林地帯ヲ下降スルコト約1.1<sup>分</sup>高差約31<sup>米</sup>餘ニシテ直洞停車場ニ至リ、更ニ「スキツチバツク」二回ニテ直洞川ノ左岸ニ進出シ地勢漸ク潤ケ沿道耕地ヲ見間モナク七坪停車場ニ達ス。

第二ノ難關タル火蟻嶺ハ海拔1,420<sup>米</sup>ニシテ稀ニ見ル密林ナリ、從ツテ嶺ヲ中心トシテ前後約三里間ニ一戸ノ人家アルノミ、行人稀ナル幽谷ニシテ此附近ヲ戲仙洞ト稱ス、線路ハ江界起點7<sup>分</sup>附近ヨリ上昇「スキツチバツク」ニテ勾配及半徑其極度ヲ用ヒ、山腹ヲ匍匐密林ノ間ヲ登攀シ益々千巒萬曲幾多ノ溪谷ヲ渡リ、山角ヲ迂迴或ハ隧道ヲ貫キ途中停留所ニテ所ヲ置キ嶺頂ナル第八火蟻嶺隧道延長1,140<sup>米</sup>ヲ穿ツ、此間高差約305<sup>米</sup>線路延長10.9<sup>分</sup>ニシテ厚州川流域ニ出ツルモノナリ。

上記調査區間141<sup>分</sup>餘ノ間ニ於ケル橋梁ハ五十四ヶ所延長1,098<sup>米</sup>餘、隧道十二ヶ所5.35<sup>分</sup>ノ延長ヲ有シ其外「スキツチバツク」ハ前後二十四ヶ所アリ、工事モ相當困難ナルベシ。

厚州川流域ニハ現ニ年約十二、三萬尺縮宛ノ木材ヲ筏出シツ、アリテ小厚州南社間ニハ約4<sup>分</sup>餘ノ運材軌道アリ板幕洞ニハ山地運材軌道約4<sup>分</sup>布設サレ、其後ハ同川ノ流筏ニ依ルモノニシテ所々ニ堰堤設ケラレアリテ近ク山林部ニ於テ此沿岸ニ森林鐵道ヲ布設シ年20<sup>分</sup>縮ノ伐材ヲ見ル豫定ナリ、然カモ此流域ハ紅松「タウヒモミ」類ノ最モ良材ニシテ且多量ヲ蓄積スルヲ以テ最モ重要視セラル、所以ナリ。

### 三、義城・永川間ノ調査概要

京城郊外清涼里ニ起リ大約楊平ヲ經テ漢江ヲ渡リ驪州、長湍院、忠州、丹陽ヲ經テ竹嶺ヲ突破シ醴泉ニ出テ安東、義城、軍威ヲ經テ多富院峠ヲ越ヘ大邱ニ結ブ約37<sup>分</sup>ノ豫定線ヲ俗ニ中央線ト稱ヘラレ、其ノ南部多富院ノ嶮ヲ避クル爲メニ義城ニ於テ分岐義興ヲ經テ東海中部線永川ニ結バントス約65<sup>分</sup>ノ比較線ハ即チ本調査區間トス、最急勾配ハ1,000<sup>分</sup>ノ12.5最小曲線半徑300<sup>米</sup>建設

費概算4,050,861<sup>圓</sup>(大正二年時價)停車場ヲ設クルコト義城及永川ヲ除キ六ヶ所橋梁ヲ架スルコト二十四ヶ所總延長988<sup>米</sup>餘、隧道一ヶ所延長120<sup>米</sup>ナリ、沿線都邑トシテハ義城、義興、新寧、永川ノ四ヶ所ニシテ義興附近ニハ平野連リ本線開通ニ依リ將來發展ノ餘地綽々タリ。

### 四、清風・旌善間調査概要

清風・旌善間線路ハ所謂中央線ノ一部トシテ既ニ調査完了セル長湍院・醴泉間線路ノ忠清北道堤川郡清風ニ起リ概ネ東北ニ進ミ堤川及寧越邑ヲ經テ南漢江ノ河岸ヲ縱走シ、江原道旌善郡旌善邑ニ達スル間ナリトス。

本線ハ更ニ延長シテ北東ニ進ミ、東ハ東海岸ニ出デ江陵ニ連絡セントシ西ハ忠州ニ於テ連絡シ以テ中部朝鮮ニ於ケル橫斷線ヲ形成シ京釜線ト東海線トヲ連絡スルノミナラズ、將來中央線ノ實現ト相俟ツテ朝鮮鐵道網上主要ナル使命ヲ有スル線路ニシテ清風・旌善間94.7<sup>分</sup>最急勾配1,000<sup>分</sup>ノ25最小曲線半徑300<sup>米</sup>建設費概算11,210,491<sup>圓</sup>(大正二年時價)停車場ヲ置クコト清風ヲ除キ十ヶ所堤川、寧越、旌善ヲ其主要ナルモノトシ、此間橋梁延長2,956.41ヶ所ニ及ビ南漢江ヲ渡ルコト實ニ十三回内最大ナルモノハ第一南漢江332<sup>米</sup>餘トス、隧道ハ合計21ヶ所延長7<sup>分</sup>ニ及ビ最モ長大ナルハ係水隧道1100<sup>米</sup>ナリ、沿線ノ主要地清風、堤川附近ハ農産物豊ニシテ寧越及旌善間ハ有梁山脈中ニ在リ現在交通ニ惠マレザルモ附近一帶炭田ヲ有ス。

## 第七編 工 作

### 第一章 工作概況

本年度京城工場、平壤分工場及釜山工場ニ於ケル製修工事ノ主ナルモノヲ擧グレバ製作ニアリテハ機關車1、炭水車12、客車33、貨車63、轉轆器各種12、轆叉14、等ニシテ修繕ニアリテハ機關車23、客車832、貨車2,274、狹軌機關車14、橋桁17、等ナリ。

尙局外註文ノ主ナルモノヲ擧グレバ製作ニアリテハ短艇2、トローリー6、等、修繕ニアリテハ機關車23、客車34、貨車8、等ナリ而シテ之ガ各工場別内譯ヲ示セバ下ノ如シ

#### 【一】 製 作

種 別	輛數又ハ件數	製 作 工 場
「テンホキール」機關車	1	京 城 工 場
「ミカド」型機關車(組立)	12	同 上
「レツキング、クレエン」(組立)	1	同 上
炭水車(ミカド型用)	12	同 上

客 車	二等寢臺車	5	同	上
	三等寢臺車	8	同	上
	三等車	10	同	上
	同上	8	釜山工場	
	食堂車	2	京城工場	
貨 車	狭軌三等「ガソリン」動車(組立)	5	釜山工場	
	無蓋車	10	京城工場	
	同上	9	平壤分工場	
	同上	40	釜山工場	
共ノ他	冷藏車	4	京城工場	
	轉轍器及轍叉各種	20	同	上
局外註文品	同上	6	釜山工場	
	機關車(組立)	6	同	上
	貨車(〃)	2	同	上
	短艇	2	京城工場	
	ト ロ リ ー	6	同	上

【二】修 繕

	種 別	輛數又ハ件數	修 繕 工 場
機 關 車	機 關 車	230	京 城 工 場
	同 上	9	釜 山 工 場
	狭 軌 機 關 車	14	京 城 工 場
客 車	客 車	345	同 上
	同 上	92	平 壤 分 工 場
	同 上	395	釜 山 工 場
貨 車	貨 車	995	京 城 工 場
	同 上	911	平 壤 分 工 場
	同 上	368	釜 山 工 場
共ノ他	橋 桁	17	京 城 工 場
	自 動 車	1	同 上
	同 上	1	平 壤 分 工 場
	ト ロ リ ー	9	平 壤 分 工 場
	ク レ エ ン	1	京 城 工 場

局外註文品	機 關 車	21	同	上
	同 上	2	釜 山 工 場	
	客 車	29	京 城 工 場	
	同 上	1	平 壤 分 工 場	
	同 上	4	釜 山 工 場	
	貨 車	2	京 城 工 場	
	同 上	4	平 壤 分 工 場	
	同 上	2	釜 山 工 場	
	客 車 電 燈 装 置	21	京 城 工 場	
電 動 車	1	同	上	

【三】車 輛 改 造

	種 別	輛數又ハ件數	改 造 工 場
機 關 車	「コンソリデーション」型機關車火室改造自動式扉取付單式「ポンプ」ヲ複式ニ取換	5	京 城 工 場
	「フレーター」型機關車火室改造	9	同 上
客 車	一、二等車ヲ二等食堂車ニ	6	同 上
	一、二等寢臺車ヲ二、三等車ニ	2	同 上
	二等車ヲ二、三等車ニ	4	同 上
	二等車ヲ三等車ニ	5	同 上
	二、三等車ヲ三等車ニ	10	同 上
	食堂車ニ冷室装置設備	1	同 上
	手荷物郵便車ヲ三等車ニ	1	同 上
	客車「スイッチボード」ヲ大理石蓄電池外箱及蓄電池ノ單式ヲ複式ニ改造	16	同 上
	同 上	16	釜 山 工 場
	客車「スイッチボード」ヲ大理石ニ改造	27	京 城 工 場
同 上	46	釜 山 工 場	
油燈装置客車ヲ電燈装置(母車)ニ改造	5	京 城 工 場	
同 上	3	釜 山 工 場	
油燈装置客車ヲ電燈装置(子車)ニ改造	6	京 城 工 場	
貨 車	小形無蓋車三枚側ヲ二枚側ニ改造	14	同 上
	有蓋車ヲ車掌車ニ改造	11	同 上



## 第二章 工場設備

本年度ニ於ケル工場設備ノ主ナルモノヲ擧グレバ京城工場ニ於テハ前年度ヨリ新築工事ニ着手中ノ鋼鉄工場(鐵骨造鐵板張平家建<sup>195</sup>)竣成シ七月ヨリ作業ヲ開始セル外旋盤製鐵工場監督員詰所新設組立、客貨車、仕上職場監督員詰所擴張、製鐵道具室ヲ鍛冶職場監督員詰所ニ改築、製鐵監督員詰所ヲ道具室ニ改築、各職場作業照明用電燈設備等竣成セリ又鐵鑄物工場ハ在來ノ職場狹隘ヲ告グルニ至リシヲ以テ之ヲ新築擴張スルノ計畫ヲ樹テ其ノ工事中ニシテ四年度ニ於テ竣成ノ豫定ナリ。

機械設備ニアリテハ新築鋼鉄工場ニ15、天井走行起重機プレスブレーキ、錐機械、噴砂機械、各1、ヲ新規設備セル外舊職場ヨリ錐機械外十餘臺ノ移轉据付ヲ爲シタリ尙旋盤製鐵工場ニターレットレース<sup>2</sup>、電動卷揚機械各1、仕上職場ニ6、旋盤<sup>2</sup>、パワープレス<sup>1</sup>、鑄物工場ニ眞鍮爐、湯口切斷機械各1、客貨車職場ニ7<sup>1</sup>/<sub>2</sub>、蒸氣運行起重機<sup>1</sup>、動力室ニ空氣壓搾機械<sup>1</sup>、材料試驗室ニ定溫乾燥機械<sup>1</sup>、等ヲ増備セリ。

年度末現在ニ於ケル原動機ハ電動機<sup>127</sup>、其ノ馬力數<sup>2,831.05</sup>ニシテ作業用諸機械總數<sup>557</sup>ナリ。平壤分工場ニ於テハ鐵工職場ニカーホキルレース<sup>1</sup>、木工職場ニ7<sup>1</sup>/<sub>2</sub>、蒸氣運行起重機<sup>1</sup>、動力室ニ空氣壓搾機械<sup>1</sup>、等ヲ新規設備セリ而シテ年度末現在ニ於ケル原動機ハ電動機<sup>16</sup>、其ノ馬力數<sup>251.9</sup>、ニシテ作業用諸機械總數<sup>77</sup>ナリ。

釜山工場ニ於テハ鐵工職場ニミーリング機械<sup>1</sup>、木工職場ニ電動卷揚機械<sup>2</sup>、電氣爐丸太切機械各<sup>1</sup>、等ヲ増備セリ而シテ年度末現在ニ於ケル原動機ハ電動機<sup>32</sup>、其ノ馬力數<sup>521.6</sup>、ニシテ作業用諸機械總數ハ<sup>145</sup>ナリ。

尙釜山工場ハ釜山鎮ニ移轉改築ノ計畫ニ依リ敷地<sup>127,531</sup>、ヲ工場豫定地トシ用地ノ買收並地築ヲ了リ職場其ノ他諸建造物ノ新築ニ着手セリ。

尙咸鏡線及圖們線ノ車輛ヲ修繕スル爲、清津ニ工場ヲ新築スルノ計畫ニ依リ敷地<sup>73,292</sup>、ノ買收並地築ヲ了リ職場其ノ他諸建造物ノ新築ニ着手セリ。

此ノ外清津出張所所屬トシテ清津車輛修繕工場、機關區附屬トシテ草梁、大邱、大田、龍山、新幕、平壤、定州、福溪、元山、裡里、木浦、光州、城津、慶州ノ十四個所ニ修繕工場ノ設備アリ。

## 第三章 工場生産額及勞働人工並賃金

**工場生産額** 本年度三工場ニ於ケル生産總額ハ<sup>6,180,017.86</sup>、其ノ内譯ハ工作費<sup>2,878,251.47</sup>、材料費<sup>3,547,145.51</sup>、工事直屬費<sup>254,620.88</sup>、ニシテ前年度ニ比較スルニ總額ニ於テ<sup>1,806,217.86</sup>ヲ増加シ工作費ニ於テ<sup>323,797.47</sup>、材料費<sup>813,725.51</sup>、工事直屬費ニテ<sup>178,694.88</sup>、ヲ孰レモ増加セリ其ノ主ナル原因ハ車輛製作、改造及車輛修繕ノ増加ニ因ルモノニシテ作業種別ニ因ル之ガ費額ヲ見ルニ車輛製作<sup>2,178,140.59</sup>、車輛改造<sup>248,083.84</sup>、車輛修繕<sup>3,165,478.81</sup>、其ノ他ノ工事

費ニ於テ<sup>588,314.62</sup>、ヲ算ス而シテ本年度内落成新製車一輛平均製作費額ハ二等寢臺車<sup>42,853.50</sup>、三等寢臺車<sup>25,055.71</sup>、三等車<sup>19,803.40</sup>、乃至<sup>21,766.45</sup>、食堂車<sup>35,807.25</sup>、無蓋車<sup>4,100.19</sup>、乃至<sup>4,552.98</sup>、冷藏車<sup>9,790.42</sup>、ニシテ車輛修繕一輛平均費額ハ機關車ニ於テ京城工場<sup>4,130.15</sup>、釜山工場<sup>862.16</sup>、客車ニ於テハ京城工場<sup>1,798.56</sup>、平壤分工場<sup>1,043.37</sup>、釜山工場<sup>721.60</sup>、貨車ニ於テ京城工場<sup>310.22</sup>、平壤分工場<sup>366.75</sup>、釜山工場<sup>169.83</sup>、ヲ示セリ今三工場ニ於ケル工事別ノ費額及工事人工ヲ示セバ次ノ如シ

## 京城工場

種別	人工	工作費	材料費	工事直屬費	合計
車輛製作	57,295.60	379,256.85	1,104,171.75	197,141.82	1,680,570.42
車輛改造	10,316.13	72,488.18	124,921.92	312.17	197,722.27
車輛修繕	157,542.30	1,018,609.44	1,217,474.22	7,304.49	2,243,388.15
其ノ他工事	62,674.12	295,858.40	138,137.54	24,852.88	458,848.82
合計	287,828.15	1,766,212.87	2,584,705.43	229,611.36	4,560,529.66

## 平壤分工場

種別	人工	工作費	材料費	工事直屬費	合計
車輛製作	3,000.89	20,058.29	66,579.57	1,247.34	87,885.20
車輛改造	966.78	5,845.93	3,622.66	19.05	9,487.64
車輛修繕	27,506.94	160,130.49	281,764.88	3,562.07	445,457.44
其ノ他工事	4,125.49	17,088.26	28,293.79	263.63	45,645.68
合計	35,600.10	203,122.97	360,260.90	5,092.09	568,475.96

## 釜山工場

種別	人工	工作費	材料費	工事直屬費	合計
車輛製作	14,570.62	86,223.91	319,791.90	3,669.16	409,684.97
車輛改造	1,872.48	11,121.18	29,626.31	126.44	40,873.93
車輛修繕	43,596.88	253,283.49	214,677.13	8,672.60	476,632.22
其ノ他工事	12,939.68	58,287.05	18,083.84	7,449.23	83,820.12
合計	72,979.66	403,915.63	582,179.18	19,917.43	1,011,012.24

**勞働人工並賃金** 本年度末三工場ニ於ケル工作方現在人員ハ<sup>1,789</sup>ニシテ年度中ノ延人工<sup>529,421.15</sup>、此ノ賃金<sup>1,163,658.38</sup>ニシテ之ヲ前年度ニ比較スルニ人員ニ於テ<sup>103</sup>ヲ増加シ、延人工ニ於テ<sup>44,423.66</sup>ヲ減ジ賃金ニ於テ<sup>85,956.35</sup>ヲ増加セリ。

賃金増加ノ原因ハ主トシテ京城工場ニ於テ年度初頭ヨリ實施セル請負作業ニ因ルモノトス、而シテ本年度ニ於ケル一日平均人員<sup>1,662.09</sup>ニシテ一日平均賃金<sup>3,802.81</sup>ヲ算シ前年度ニ比シ人

員=於テ10.67 賃金=於テ348.64 ヲ増加セリ、今三工場=於ケル之ガ内譯ヲ示セバ京城工場=於ケル年度末現在工作方人員1,319、年度中ノ延人工387,686、此ノ賃金 857,975.53 ヲ算シ一日平均人員 1,216.36、此ノ賃金 2,803.84 ナリ。平壤分工場=於テハ年度末現在工作方人員 146、年度中ノ延人工 44,871.65、此ノ賃金 94,478.19 ヲ算シ一日平均人員 139.30、此ノ賃金 306.74 ナリ。釜山工場=於テハ年度末工作方人員 324、年度中ノ延人工 96,863.50、此ノ賃金 211,204.66 ヲ算シ一日平均人員 308.55、此ノ賃金 697.05 =當レリ。

## 第八編 電 氣

### 第一章 動 力

**京城附近** 本年度電氣動力=依ル作業ノ主ナルモノヲ擧グレバ、從來京城電氣株式會社ヨリ送電々壓 11,000 **ヴォルト** =テ供給ヲ受ケシ電力ヲ京城工場構内變電所=設備セル變壓器 9 基（一次電壓 6,300 二次電壓 2,290 容量 100 <sup>K.V.A</sup> ノモノ 3基、75 <sup>K.V.A</sup> ノモノ 6基、何レモ **デルターデルタ** 接続）及周波數變換機（容量 500 <sup>K.V.A</sup> 發動機測定格 6,300 **ヴォルト** 60 **サイクル** 發電機測定格 2,200 **ヴォルト** 50**サイクル**）1基=依リ變發シ、夫々工場動力及京城龍山兩驛構内電燈動力、官舎電燈等=供給セシガ、工場動力ノ增加工場照明設備ノ新設等=依リ變電所設備容量=不足ヲ生ジタル=依リ、更ニ變壓器（容量 400 <sup>K.V.A</sup> 一次電壓 6,300 **ヴォルト** 二次電壓 2,200 **ヴォルト** 60 **サイクル**）3 基ヲ増設セリ、尙設備ノ完整ト共ニ工場内ノ自家發電ヲ中止シ、總テ京城電氣株式會社供給電力ヲ使用スルコトトセリ。

京城工場=於ケル年度末現在電氣設備ハ電動機總個數 172 共ノ馬力數 2,831.05 =シテ其ノ他蓄電池充電用、電弧熔接用及電鍍用トシテ直流發電機 5 67.8 <sup>K.W</sup> ヲ設備ス、之ヲ前年度末=比較スル=電動機 13 共ノ容量 374 <sup>馬力</sup> 直流發電機 1 5.5 <sup>馬力</sup> ヲ増加セリ、尙本年度=於テ京城工場各職場ノ作業照明用電燈設備完成シ其ノ設備電燈容量 13 <sup>W</sup>、球換算 14.985 燈=達ス。

京城工場外=於ケル動力ハ、工務課電氣修繕室京城及龍山驛、京城檢車區龍山機關區養成所實驗室等=使用サレ共ノ電動機個數 47 容量合計 302.5 <sup>馬力</sup> 及直流發電機 4 共ノ容量 62.3 <sup>K.W</sup> ヲ設備ス、又電燈ハ京城及龍山驛官舎廳舎全部=テ 13 <sup>W</sup> 球換算 26.657 燈ヲ設備ス、之ヲ前年度設備=比較スル=電動機 6 容量 76.97 <sup>馬力</sup> 電燈 13 <sup>W</sup> 球換算 180 燈ヲ増加セリ。

以上電氣設備=對スル京城電氣株式會社ヨリノ受電量ハ 3,241.182 <sup>K.W.H</sup> =シテ變電費其ノ他ヲ含ミタル 1 <sup>K.W.H</sup> 平均費額ハ 4 <sup>圓</sup> 6 =當レリ。

又朝鮮**ホテル**=於テハ直接京城電氣株式會社ヨリ送電ヲ受ケ電力機數 15 37.75 <sup>馬力</sup> 電燈 13 <sup>W</sup> 球換算 2,131 燈用ノ電力=充ツ、此ノ外朝鮮**ホテル**=ハ直流發電機 1 容量 4 <sup>K.W</sup> ヲ設備ス。

**其ノ他** 京城以外ノ地=於ケル動力及電燈用電力ハ孰レモ局外ヨリ供給ヲ受ケ其ノ動力施設ハ平

壤分工場=於ケル電動機 16 共ノ馬力數 351.90 直流發電機 4 1 <sup>K.W</sup> 平壤機關區電動機 2 10.50 平壤檢車區 3 電動機 1 大田機關區電動機 2 10.50 大田檢車區電動機 2 9.4 直流發電機 1、大邱機關區電動機 2.13、草梁機關區電動機 3 60.50、釜山工場電動機 23、521.60、直流發電機 4 26.55、釜山檢車區電動機 4 53.39、直流發電機 1 等=シテ本年度=於テ増備セシモノハ、木浦機關區電動機 1、7.50 福溪機關區 1、7.50 元山機關區 1、7.50 等ナリ。

此ノ外清津檢車區附屬充電所=於テハ 4 <sup>K.W</sup> 直流發電機 1 4 <sup>K.W</sup> 交流發電機 1 ヲ石油發動機=依リ運轉シ蓄電池充電及 3 <sup>馬力</sup> 電動機 1 ノ運轉用電力ヲ發電ス。

### 第二章 通信及信號回線

**年度末現況** 年度末電信取扱所數ハ 271 内公衆電信取扱所 90 =シテ前年度=比シ前者=於テ 39 ヲ増加シ後者=於テ 7 ヲ減少セリ、而シテ其種類別ハ電信機及電話機併置ノモノ 96 電話機ノミ=依ルモノ 175 ナリ、取扱所ノ増加ハ買收線並新線延長=依ルモノ=シテ公衆電信取扱ノ減少ハ一山、永同、興水、金郊、古茂山、黑橋、白馬、郭山ノ 8 ヲ廢止シ古站驛 1 ヲ新設シタル=依ル、次ニ通信及信號回線ハ電信回線 33 電話回線 1,413 信號回線、452 合計 1,898 回線=シテ前年度=比シ電信回線 1、電話回線 152、信號回線 40、ヲ増加セリ。

**通信上ノ施設** 「電信回線」ハ東海中部線ノ買收=伴ヒ大邱慶州間=信話双信法=依ル電信一回線ヲ構成シ大邱、永川、及慶州ノ 3 驛=於テ附近各驛ノ電報ヲ中繼セシムルコト、シ、又咸鏡線全通=伴ヒ龍山、居山線ヲ龍山新北青線トナシ、群仙、清津線ハ之ヲ新北青、清津線トシ平元西部線ノ延長=伴ヒ在來ノ平壤、舍人場線ヲ順川=延長シ、又京城對永登浦、仁川驛トノ通信ヲ敏速ナラシムルタメ龍山、仁川線=京城驛ヲ接続シ、且龍山木浦線中裡里驛=自働中繼盤ヲ裝置スル等必要=應ジ回線ノ施設變更ヲナセリ。

**電話線** 慶州驛=50 回線用單式電話交換機ヲ裝置スルト同時=大邱、慶州電信線ヲ利用シテ信話双信法=依リ大邱・永川・慶州・永川ノ兩交換線ヲ構成シタル外、大邱慶州、慶州鶴山慶州浦項、慶州蔚山ノ各交換線ヲ新設シテ東海中部線=於ケル通話ノ便ヲ圖リ、且大邱電話交換機ヲ 100 回線用單式=改メタリ、又咸鏡線全通=伴ヒ在來線ノ一部ヲ改正シテ元山、清津交換線ヲ構成シ次テ龍山元山間=交換 2 番線ヲ新設シテ在來線ヲ 1 番線=改メ此ノ 2 回線ヲ利用シテ電話二重法=依ル 3 番線ヲ構成シ、以テ龍山ト清津方面トノ通話ヲ利便ナラシメ、尙清津朱乙交換線及曾山・群仙線ヲ新設シ、清津、古茂山外 4 線ノ接続箇所ヲ變更シ 清津電話交換機ヲ 100 回線用單式=改メ平元西部線=於テハ營業用線ヲ延長セリ。

此ノ外業務ノ進展=伴ヒ京義線=於テ平壤新義州間= 2 番線ヲ新設シ、在來線ト本回線トヲ利用シ電話二重法=依ル 3 番線トシ長距離通話ノ緩和ヲ圖リ平壤、順川外 3 線=於ケル接続箇所ヲ變更シ又京釜線=於テハ大邱釜山、釜山馬山、大田懷德、各 2 番線外 8 回線ヲ新設シ別=在

來線ノ1部ヲ改正シテ龍山釜山、釜山鎮海、釜山清道各交換線ヲ構成シ其他各種施設ノ改正ヲ行ヒ通話能率ノ向上ヲ圖レリ。

以上ノ外建設線=アリテハ清津雄基線、元山桑陰線、新北青北青線、外7回線ヲ新設シ専ラ建設工費用=供シ、又仁川外7構内電話線ヲ新設シテ連絡ノ便=供セリ、保線専用電話=アリテハ西浦・順川線ヲ新設シ、在來線ヲ變更シテ永同・金泉2番線ト金泉・龜浦線ノ2回線=改メ灰嶺居山線及豫備線ヲ以テ灰嶺・新北青線、新北青・曾山線ノ2回線ヲ構成シ其他回線名ノ變更ヲナシタルモノ8線アリ。

**信號回線** 咸鏡線ノ全通及平元西部線ノ延長=依リ居山、群仙間=3回線、舍人場順川間=2回線及新=普通驛トナリタル沙上外12驛=24回線合計29回線ノ閉塞線ヲ新設シ、群仙、汝海津、日新、蘆洞驛=反應線各1回線ヲ、又慶州・輪城・明川・新北青驛構内=各2回線、大邱・羅南驛構内=各1回線ノ電鈴回線ヲ、清津及會寧驛=ハ時報回線ヲ何レモ新設シ其他必要=應ジ施設又ハ變更ヲ爲シタルモノ亦尠カラズ。

**通信成績** (1) 電報取扱通數ハ鐵道電報 6,001,925、公衆電報 426,677、合計 6,428,602ニシテ前年度=比シ $\frac{13}{213}$ ヲ增加セリ、又1取扱所=於ケル1日平均通報ハ鐵道電報 61 公衆電報 13ニシテ前年度=比シ前者=於テ $\frac{3}{2}$ 、後者=於テ $\frac{2}{7}$ ヲ孰レモ増加シ取扱總通數ノ割合ハ發信 $\frac{365}{376}$ 、著信 $\frac{259}{259}$ ニシテ前年度=比シ發信=於テ $\frac{18}{7}$ 著信=於テ $\frac{7}{7}$ ヲ減シ中繼信=於テ $\frac{25}{25}$ ヲ增加セリ、(2) 公衆電報取扱料金總額ハ 19,003.10ニシテ1取扱所平均 211.14.6ニ當リ前年度=比シ前者=於テ $\frac{58}{14}$ 後者=於テ $\frac{14}{14}$ ヲ增加セリ。

### 第三章 通信線路及機器

**線路及機器ニ關スル施設** 年度末現在電線路互長ハ 3,016.580、其延長 36,281.267、電柱數 57,784、腕木 189,170、碍子 682,357ニシテ前年度=比シ互長 289.342、延長 2,676.785、電柱 5,951、腕木 16,029、碍子 57,144ヲ增加シタルガ右ハ電線路ノ改修及雄基調戎間、順川、新倉間、桑陰歙谷間、曾山遮湖間、北青新北青間=於ケル建設工費用電話線新設、並新線延長、私鐵買収=依ル増設、驛舎電燈設備ノ新增設等=因ルモノニシテ電柱ハ主トシテ「クームヒン」浸漬柱ヲ使用シタル、而シテ機器年度末現在數ノ前年度=比シ増加セルモノハ電話機 553、電話交換機 3、司令電話機 2、閉塞機 38、電氣反應器 9、電鈴 202、表示器 3ニシテ何レモ業務進展=依ル自然増加ナリ、今費目別=依ル工事概要ヲ敘述スレバ下ノ如シ。

#### 建設費ニ依ル工事

- (1) 咸鏡線全通=伴ヒ居山、群仙間=2.9 硬銅線 3ヲ架渉ス、其延長 77.131、ニシテ居山、曾山、松端、群仙ノ各驛=通票閉塞機及電話機ヲ裝置ス。
- (1) 曾山、遮湖間、新北青、北青間、= 4.5 鐵線 4 其延長 56.316ヲ建設シ電話機 16ヲ各所

=取付ケ建設工費用通話=供ス。

- (1) 平元西部線延長ノ爲 4.5 鐵線ヲ舍人場順川間=3、西浦順川間=1、其延長 138.361ヲ架渉シ新設各驛=通票閉塞機及電話機ヲ裝置スルト共=舍人場驛裝置ノ電信機ヲ順川驛=移設ス次=建設工費用進捗=伴ヒ大同江見張所新倉間=2.9 硬銅線 2、其延長 35.642ヲ新設シ股山工事係外 2=電話機各 1ヲ取付ケ順川工事係トノ通話ヲ開始シタル外新倉、岐倉間電線新設工事=着手セルモ年度内=竣工セザリキ。

- (1) 圖們線建設工費用進捗=伴ヒ阿吾地調戎間=2.9 硬銅線及 4.5 鐵線各二條其延長 217.600ヲ新設シ清津及雄基方面トノ通話ヲ開始セシム。

- (1) 東海北部線、桑陰・歙谷間=3.5 硬銅線及 4.5 鐵線各 2 其延長 60.400ヲ新設シ元山方面トノ通話=供ス。

- (1) 汝海津外 11 驛ヲ普通驛=改正ノタメ通票閉塞機 22ヲ新設ス。

- (1) 其他業務ノ進展=伴ヒ會寧鶴林間=3.2 鐵線 1ヲ架渉シ複線式電話回線=改メ又端川吉州間=4.5 鐵線 1ヲ架渉シ在來ノ信話双信法ヲ解除シタル。

#### 改良費ニ依ル工事

- (1) 釜山大邱間=司令電話線トシテ使用中ノ 2.0 硬銅線ヲ 3.5 硬銅線=改メ通話能率ヲ増進セシメ在來線ヲ以テ同區間交換電話回線ヲ構成ス。

- (1) 三浪津、馬山間=2.0 硬銅線、昌原、鎮海間=4.5 鐵線各 1ヲ架渉シ在來ノ保線電話ヲ複線=變更ス。

- (1) 平壤新義州間=3.5 硬銅線 2ヲ架渉シ既設回線ノ利用=依リ電話重信回線ヲ構成ス。尙本施設ハ電線架設競技トシテ平壤新義州ノ2班=分チ双方同時=着手施工ノ結果工費ノ節約期間ノ短縮等其成績良好ナリキ。

- (1) 又龍山元山間=3.5 硬銅線 2ヲ架渉シ既設電話回線ヲ利用シ重信回線トシ通話ヲ緩和セリ

- (1) 沙上懷徳ノ兩驛新設=依リ通票閉塞機及電話機ヲ裝置シ、尙沙上驛=電氣信號反應器ヲ、大田懷徳間=ハ 2.9 硬銅線 2ヲ架渉シ電話回線ヲ新設ス。

#### 補充及保存費ニ依ル工事

- (1) 東海中部線慶州驛=50 線用磁石式單式電話交換機ヲ設置シ又大邱平壤驛ノ既設 50 線用磁石式單式電話交換機ヲ 100 線用磁石式單式電話交換機=變更セリ。

- (1) 懷徳新灘津間=2.9 硬銅線ヲ架設シ大田懷徳電話線ヲ新灘津=延長シ回線ノ接續變更ヲナス。

- (1) 其他清津驛構内=電話線用「ケーブル」架設、京城龍山間京町踏切=自動警報器ノ設置、裡里驛=電信用自動中繼裝置ヲナセル外各所腐朽電柱ノ建替等必要=應ジ施設變更ヲナシタルモノモ亦尠カラズ。

## 第四章 障碍及電気修繕

通信回線ノ障碍ハ全線ヲ通ジテ 551 其ノ不通時分 3,443.5 = シテ平均 1 不通時分 6.13 = 當リ之ヲ前年度ニ比スレバ回数 44、障碍不通時分 953.55、平均 1 回不通時分 = 於テ 1.18、ヲ増加セルモ之ガ原因ハ主トシテ 8 月下旬ヨリ 9 月上旬ニ亘ル各所ニ於ケル水害ニ依ルモノニシテ被害回数 40 障碍不通時分 939.20、電柱ノ倒壊流失セルモノ咸興西湖津間 69 本、龍雲前津間 11 本、俗厚新北青間 6 本、古茂山蒼坪間 41 本ヲ主トシ極力回線ノ復舊ニ努メタルモ尙不通時分 184 = 及ベルモノアリ、尙障碍回数ヲ線路及機械別ニスレバ線路 293、機械 258 = シテ線路 100 = 付 1.3 機械 100 = 對シ 4.6 ノ割合ナリ。

電気修繕作業ノ主ナルモノハ通票閉塞機ノ改修 77 = シテ前年度ニ比シ 4 ヲ増加シ逐年研究改修ヲ加ヘツツアリ、閉塞機ノ現地修理ハ 111 = シテ前年度ヨリ 36 ヲ減シ專ラ現用機械ノ改良補修ニ努メタリ、通信機器ニ於テハ磁石式壁掛電話機ニ換算シ 1.705 = シテ前年度ニ比シ 344 ヲ増加シ、強電流機器ニ在リテハ 378 = シテ同シク 7 ノ増加ナリ、而シテ鍍金研磨ノ部ハ電気機器ノ修繕ニヨルモノノ外各ホテル及食堂ノ食器類 3,688 點ノ作業ヲナセリ、修繕作業人員ハ 21 名ニシテ前年度ニ比シ 3 名ヲ増加セリ。

## 第五章 照 明

### 建 造 物 照 明

年度末現在驛舎數ハ簡易驛ヲ含ミ 327 = シテ其内照明設備ヲ有スル箇所 97 ヲ算シ前年度ニ比シ 16 ヲ増加シ、驛舎官舎、其他ノ建造物ニ對スル取付電燈數ハ 24,651 = シテ前年度ニ比シ 4,356 ヲ増加セリ右増加ハ沙上、永同、水原、鶴橋、長城、潭陽、新幕、興南、文川、文坪ノ各驛並ニ驛舎官舎ノ改修ニ伴フモノ及ビ龍山工場並ニ龍山鐵道病院等ノ新增設、東海中部線ノ買収ニ伴フ慶州、浦項、蔚山、兵營ノ電燈増加ニ因ルモノニシテ其ノ施行概要ヲ各區間ニ就キ敘述スレバ次ノ如シ。

#### 京城工務事務所管内

- 龍山鐵道醫院本館増築ニ伴フ電燈設備トシテ外線路ニ一部變更ヲナシ本館藥局裏 =  $\frac{(K.V.A)}{30}$  ノ變壓器 1 ヲ設備シ屋内ハ全部金屬管工事トシ從量燈トセリ、燈數ハ 153 ヲ取付ケタル外埋込「レセプテークル・ブラツグ・スキウチ」ノ取付 80 豫備配線 21 ヲ裝置ス。  
尙本館裏ニ電力線ノ引込ヲナシ變壓器  $\frac{(K.V.A)}{5}$ 、 $\frac{(K.V.A)}{2}$  及電動唧筒ヲ取付ケタリ。
- 京城工場ニ於テハ從來一小部ノ照明設備ニ止マリ實用ニ適セザルヲ以テ作業能率増進ノ爲メ之ガ改良ニ努メ、内部ノ線種及配線ノ變更、新設ノ上各職場ニ照明設備ヲナシ使用器具ハ「パイペンダント」ヲ主トシ「ブラケット」手提燈「コードペンダント」及「スタンドラムプ」等ニシ

テ 713 ヲ設備シタル外 137 ノ埋込「レセプテークル・ブラツグ・スキウチ」及電熱器ヲ設備セリ。  
以上ノ工事ニ伴ヒ外線路ノ新設、變更ヲナシ  $\frac{(K.V.A)}{30}$ 、 $\frac{(K.V.A)}{7}$ 、 $\frac{(K.V.A)}{25}$ 、 $\frac{(K.V.A)}{2}$ 、 $\frac{(K.V.A)}{3}$ 、 $\frac{(K.V.A)}{2}$  ノ變壓器及油入開閉器 2 ヲ取付ク。

- 龍山錦町官舎ノ増築ニ伴フ電燈施設ハ架空式ニ依リ外燈 28 屋内燈 242 ヲ取付ケ更ニ新築セル局員集會所ニ於ケル照明設備ヲナセリ。
- 興南驛ニ於ケル電燈新設ハ架空式ニ依リ朝鮮水力電氣會社ヨリ受電シ 48 ヲ驛、官舎其他ニ設備ス。
- 文川及文坪驛ニ於テハ何レモ元山水力電氣會社ノ送電ヲ受ケ架空式ニ依リ計 95 ヲ驛官舎其他ニ設備ス
- 新北青驛、北青電氣會社ヨリ受電シ變壓器 3 ヲ取付驛及機關車庫、官舎益濟寮其他ニ配線ス取付ケ燈數 176 ナリ。
- 其ノ他溫井里「ホテル」ニハ 3.5  $\frac{(K.W)}{}$  發電機ヲ直結セル、超「ディーゼル」小型六馬力原動機ヲ掘付ケ同時ニ屋内燈 18 ヲ増設シ從來ノ照明ヲ更新シタル外必要ニ應ジ電燈ノ増設増燭ヲナセルモノ尠カラズ。

#### 釜山工務事務所管内

- 沙上驛新設ニ伴フ電燈施設ハ所要電柱ノ中 7 本ヲコンクリート柱トシ一部地下線其他ヲ架空線ニ依リ朝鮮瓦斯電氣會社龜浦送電線ヲ驛附近迄延長受電シ、低壓ヲ以テ 58 ヲ驛舎及官舎其他ニ設備ス。
- 永同驛ニ於ケル設備中 18 本ヲコンクリート電柱トシ地下線及架空線ニ依リ大興電氣永同支店ヨリ低壓受電シ 84 ヲ驛官舎其他ニ設備ス。
- 釜山構内電燈ハ從來朝鮮瓦斯電氣會社ヨリ 7 ノ分岐引込ニ依リ受電シタルモ電燈増設、燭光變更ト共ニ配電線路益々複雑トナリ、從テ電壓降下夥シク且ツ絶縁覆ノ腐蝕垂下スル等保守上不便ニ付之ガ引込ヲ 1 所ニ變更シ、夫々配線ノ改廢ヲナシ專ラ照明能率ヲ増進セシメタリ。

#### 平壤工務事務所

- 新幕驛ニ於ケル電燈施設ハ開城電氣會社線ヨリ受電シ架空式ニ依リ  $\frac{(K.V.A)}{3}$  變壓器各 2 ヲ設備シ各所ニ接続配線ス、取付燈數 395 ナリ。
- 平壤驛前廣場ニ鐵柱 3 本ヲ建植地下配線トシ照明更新ヲ行ヒタル外第一乗降場上屋増築ニ伴ヒ配線ノ變更ト同時ニ使用器具並ニ取付位置ヲ變更ス
- 其他沙里院驛及新義州荷扱所ノ改築ト共ニ電燈設備ノ變更ヲナセリ。

#### 大田工務事務所

- 水原驛舎改築ニ伴ヒ水原電氣會社ノ送電線ヨリ地下線ヲ以テ低壓引込、驛舎、官舎等 109 = 受電シ鐵柱 2 本ニ外燈ヲ取付ク。

- 1. 成歡驛ハ從來稷山金鑛成歡發電所ヨリ受電セルモ6月上旬金鑛廢止シタルヲ以テ成歡驛給水所<sup>(CK,W)</sup>ニ3瓦斯發動發電機ヲ裝置シ電線路ノ一部ヲ改築ノ上直營トセリ。  
而シテ右ハ4年4月ヨリ天安電氣會社ニ於テ元成歡發電所ヲ買収送電ノ管。
- 1. 鶴橋驛ハ架空式ニ依リ木浦電氣會社ヨリ低壓受電シ<sup>63</sup>ヲ驛舎及官舎其他ニ取付ク。
- 1. 長城及潭陽ニ於テハ大興電氣會社ヨリ受電シ<sup>133</sup>ヲ驛官舎其他ニ取付ク。

清津出張所

- 1. 清津機關區員詰所、同機關車庫、同附屬倉庫、靜山洞官舎、同局員集會所及雄基構内電燈設備ハ工事施行中ニシテ本期間竣工ニ至ラズ。  
其他必要ニ應ジ電燈ノ増廢變更ヲナシタリ。

列車照明

客車

年度末ニ於ケル電燈裝置車數ハ客車現在數中<sup>579</sup>ニシテ發電機裝置車廣軌(ストーン)式<sup>408</sup>狹軌(グイツカー)式<sup>3</sup>ナリ。

發電機ハ直流<sup>V</sup>24、容量最大<sup>KW</sup>3.5、最小<sup>KW</sup>.48ニシテ總出力<sup>KW</sup>503.22、(狹軌、72、廣軌502.50、)ナリ。

電燈ハ<sup>CP</sup>8、<sup>CP</sup>12、<sup>CP</sup>16、ノ三種ヲ使用シ電球ノ總數<sup>9,952</sup>之ガ<sup>CP</sup>10換算<sup>11,344</sup>ナリ

機關車

年度末現在ニ於ケル電燈裝置ヲ有スル機關車數ハ機關車總數<sup>284</sup>(狹軌機關車及レツキング・クレーンヲ除ク)ノ内<sup>195</sup>ヲ算シ發電機ハ直流<sup>V</sup>3.2主トシテバイルナショナル式<sup>K-2</sup>型ヲ使用シ、其ノ他同式<sup>E</sup>型、川崎式等ヲ使用ス、其ノ容量<sup>バイルナショナル式 K-2</sup>型及川崎式ハ<sup>500</sup>バイルナショナル式<sup>E</sup>型ハ<sup>1,500</sup>ナリ。

ヘッドライトハ<sup>250</sup>ノ光力ヲ有シ機關室照明其ノ他ハ<sup>10</sup>電球ヲ使用セリ。

第九編 經理

第一章 經理一般

昭和三年度營業收支ハ引續ク一般財界ノ不況米價安等ノ關係上貨物ノ移動著シク減少シ爲ニ運輸收入モ從テ減少セシモ、經費ノ節約ニ依リ大體豫定益金タル<sup>11,502</sup>ヲ舉クルヲ得、建設改良費ニ在リテハ既定計畫ニ基キ平元、圖們、東海、各線ノ工事著々進捗シ多年ノ懸案タリシ咸鏡線ハ幾多ノ難關橋壁ヲ突破シ昭和三年九月其ノ全通ヲ見、其ノ支出額ハ<sup>19,234</sup>ニシテ、右建設工事ト相待テ朝鮮鐵道網ヲ形成スル私設鐵道ノ買収ハ三年七月一日慶東線<sup>92</sup>ニ對シ實施シ交付公債額面<sup>7,570</sup>ヲ

支出シ私設鐵道補助額ハ本年度六社<sup>4,389</sup>ニ達セリ。亦用品資金特別會計ノ資金及豫算ハ前年度同額ニシテ工事方面ノ増大ニ伴ヒ依然資金ニ相等困難ヲ感シタルモ、極力其運轉ヲ敏活ニシ一般經理上支障ナキヲ得タリ。

第二章 營業ニ關スル收支豫算決算及損益計算

三年度歳入歳出豫定額ハ歳入<sup>62,360,955</sup>歳出<sup>49,918,122</sup>差引超過額(假益金ト稱シ以下單ニ益金ト云フ) <sup>12,442,833</sup>ナリ、之ニ對スル決算額ハ歳入 <sup>58,479,298</sup>歳出<sup>46,977,220</sup>差引益金 <sup>11,502,078</sup>ニシテ豫定額ニ比シ <sup>940,755</sup>ヲ減少スルモ、決算額ノ内歳出ニ於テ前年度所屬諸拂戻立替金ノ支出ヲナシタルモ<sup>887,578</sup>アルヲ以テ、之ヲ控除セル額 <sup>53,177</sup>ハ全ク豫定額ニ比シ減少シタル金額ナリ其ノ本年度ノ益金 <sup>12,389,656</sup>前年度益金 <sup>10,966,937</sup>ニ比較スレバ<sup>1,392,719</sup>ノ増加トナル其ノ收支計算下ノ如シ。

歳入

科 目	豫 算 額	調 定 済 額	收 入 済 額	不 納 欠 損 額	收 入 未 済 額	豫 算 額 = 比 比 收 入 済 額 差	
						増	減
鐵 道 收 入	62,360,955.000	58,702,492.767	58,478,519.057	17,633,940	206,039,770	0	3,882,135,943
鐵 道 收 入	62,190,315.000	58,562,515.017	58,338,841.307	17,633,940	206,049,770	0	3,851,473,693
運 輸 收 入	40,971,639.000	39,775,034.528	39,603,875.728	0	171,158,500	0	1,367,763,272
旅 客 收 入	19,509,248.000	19,394,686.548	19,358,211.848	0	6,474,700	0	121,036,152
貨 物 收 入	21,462,391.000	20,380,347.980	20,245,663.880	0	164,684,100	0	1,246,727,120
雜 收 入	1,928,791.000	1,837,420.740	1,786,360.930	17,633,940	33,425,870	0	142,430,070
倉 庫 收 入	87,000.000	95,705.590	95,705.590	0	0	8,705,590	0
旅 館 收 入	898,167.000	1,007,008.770	1,007,008.770	0	0	108,841.770	0
病 院 收 入	87,050.000	99,224.150	99,224.150	0	0	12,168,150	0
雜 收 入	856,568.000	655,482.230	584,422.420	17,633,940	33,425,870	0	272,145,550
假 收 入 及 立 替 金 受 入	19,289,885.000	16,959,059.749	16,948,604.649	0	1,455,100	0	2,341,280,351
運 送 運 輸 收 入	7,339,379.000	6,145,235.969	6,145,235.969	0	0	0	1,194,143,021
荷 物 引 換 代 金 受 入	6,584,749.000	8,243,967.550	8,243,958.790	0	8,700	1,359,200,760	0
立 替 金 受 入	5,065,757.000	2,560,556.230	2,559,409.890	0	1,446,340	0	2,506,347,110
鐵 道 受 託 工 事 收 入	170,640.000	139,977.750	139,977.750	0	0	0	30,662,250
鐵 道 用 品 資 金 過 剩 金 繰 入	0	478,730	478,730	0	0	478,730	0
合 計	62,360,955.000	58,702,971.497	58,479,297.787	17,633,940	206,039,770	0	3,881,657,213
參 照							
昭 和 二 年 度	53,483,952.000	57,344,756.264	57,284,571.974	0	60,214,280	3,800,619,974	0
大 正 十 五 昭 和 元 年 度	51,767,407.000	51,828,329.890	51,811,749.130	0	26,590,760	641,342,130	0
大 正 十 四 年 度	50,994,556.000	47,342,265.500	47,302,137.470	0	40,068,330	0	3,632,718,530

歳 出

科 目	豫 定 額	豫備金及豫 備金外臨時 支 出 額	流 用 増 減(△)額	豫定現額	支 出 金 額	不 用 額
鐵道作業費	49,912,662.000	0	0	49,912,662.000	46,971,830.941	2,940,831.059
俸 給	2,192,540.000	0	0	2,192,540.000	2,074,653.010	117,886.990
勅任俸給	31,360.000	0	0	31,360.000	28,529.730	2,830.270
奏任俸給	251,846.000	0	△ 315.570	251,530.430	174,494.800	77,035.630
判任俸給	1,909,234.000	0	0	1,909,234.000	1,571,022.910	338,211.090
休職俸給	0	0	315.570	315.570	315.570	0
事業費	28,156,937.000	0	0	28,156,937.000	26,584,691.202	1,572,245.798
總 係 費	881,632.000	0	△ 13,412.000	868,220.000	810,220.222	58,019.778
保存費	6,717,579.000	0	△ 129,952.490	6,587,626.510	6,041,758.470	545,868.040
車輛修繕費	3,552,154.000	0	14,704.600	3,566,858.600	3,566,858.600	0
汽 車 費	8,564,533.000	0	△ 692,523.130	8,172,009.870	7,597,770.590	574,239.280
運 輸 費	5,001,559.000	0	530,725.520	5,532,284.520	5,532,314.520	0
旅 館 費	576,650.000	0	161,787.610	1,038,437.610	1,038,447.610	0
病院及療養費	218,700.000	0	0	218,700.000	217,173.700	1,526.300
特別給與金	560,000.000	0	13,412.000	573,412.000	573,412.000	0
接 待 費	10,000.000	0	0	10,000.000	9,560.580	439.420
補 充 費	700,000.000	0	125,247.590	825,247.590	825,247.590	0
共濟組合	203,411.000	0	0	203,411.000	231,558.670	28,147.670
鐵道受託費	170,640.000	0	0	170,640.000	139,977.750	30,662.250
工 事 費	19,562,185.000	0	0	19,562,185.000	18,012,456.729	1,549,728.271
諸拂戻立替金	7,329,379.000	0	△ 132,356.900	7,207,022.100	6,145,235.969	1,061,786.131
及欠損補填金	370,000.000	0	132,356.900	402,356.900	402,356.900	0
過誤納拂戻及割戻金	6,834,749.000	0	1,559,274.370	8,394,023.370	8,444,023.370	0
荷物引換代金	5,065,757.000	0	△ 1,559,274.370	3,506,482.630	3,020,840.490	485,642.140
立 替 金	3,300.000	0	0	3,300.000	0	3,300.000
缺損補填金	5,460.000	0	0	5,460.000	5,359.400	100.600
諸 支 出 金	5,460.000	0	0	5,460.000	5,359.400	100.600
諸 支 出 金	5,230.000	0	0	5,230.000	5,230.000	0
死亡賜金	200.000	0	0	200.000	129.400	70.600
官吏療治料	49,918,122.000	0	0	49,918,122.000	46,977,220.341	2,940,901.659
合 計	49,918,122.000	0	0	49,918,122.000	46,977,220.341	2,940,901.659
參 照						
昭和二年度	43,013,670.000	4,448,592.000	0	47,462,262.000	46,061,634.977	800,627.023
大正十五年度	41,818,929.000	0	0	41,818,929.000	40,702,108.536	1,116,820.464
昭和元	42,169,930.000	0	0	42,169,930.000	39,079,468.450	3,090,461.550

損 益 計 算

損 失	金 額	利 益	
		種 目	金 額
鐵道作業費	46,971,830.941	鐵道收入	58,478,819.057
諸支出金	5,389.400	朝鮮鐵道用品賣入金	478.730
小 計	46,977,220.341		
差引益金	11,502,077.446		
合 計	58,479,297.787	合 計	58,479,297.787
參 照			
昭和二年度益金	10,622,916.997	〔本金額ノ外前年度所屬支拂額及債務繰越額ヲ加除セル額374,020圓アルヲ以テ純益金ハ10,996,937圓トナル〕	
大正十五年度益金	11,109,640.594	〔本金額中ニハ貸出豫算ノ關係上債務繰越額1,261,598圓ヲ包含スルヲ以テ純益金ハ9,848,043圓トナル〕	
大正十四年度益金	8,222,669.020		

備考 本益金ノ外前年度所屬支拂額 867,578圓アルヲ以テ純益金ハ12,389,656圓トナル

第三章 鐵道建設及改良費

昭和三年度ニ於ケル建設及改良費ハ既定計畫ニ基キ各工事ヲ進メタルガ内威鏡線ハ本年度ニ於テ之ヲ全通セシメ各種竣工ノ翌年度以降施行ノコト、シー部ノ經費ヲ國防並ニ經濟上急務ヲ要スル區間、東海線ニ流用シ各工事ヲ進メタリ、而シテ本年度豫定額19,000,000及前年度繰越額248,690合計19,248,690ニ對シ決算額19,224,546ニシテ殘14,144ハ之ヲ翌年度ニ繰越シタリ、今名義別ニ其ノ概要ヲ述フベシ。

(1) 威鏡線 大正三年度以外繰越工事中ナリシ威鏡線ノ經費額 80,853 (車輦費及修繕費ヲ除ク)ニシテ其ノ間豫算ノ改定年度ノ繰越等幾多ノ障害ヲ經、三年度ニ於テ全通セシメタルガ本年度迄ニ支出シタル金額ハ前年度以來工事中ナリシ未開通區間竣工、北青引込線及逆瀬川引込線合計9ノ建設費ヲ加ヘ(車輦費、修繕費ヲ除ク) 86,987,740ニシテ殘額 3,866,000ハ四年度以降右引込線ノ完成其ノ他ノ殘工事は充當ノ事トセリ。

(2) 平元線 第四十五議會ノ協賛ヲ經タル本線ハ經費額 46,521,754 (其ノ後更訂増減ヲ爲シ現在俸給事務費等ヲ除キ 46,021,376アリ)ニシテ三年度ニ於テハ前年度着手ノ舍人場・順川・新倉間26ノ工事を續行シ同年十一月舍人場、順川間13ノ營業ヲ開始シ更ニ新倉岐倉間10餘ノ用地買収等ヲ行ヒ經費額1,916,551ヲ支出セリ。

(3) 圖伊線 本線ハ第五十二議會ニ於テ經費額14,977,177 (俸給車輦費等ヲ除ク)ヲ昭和二年度以降五ヶ年度ニ亘ル繼續費トシテ協賛ヲ經タルガ國防警備及經濟上急務ヲ要スル線トシテ東海線ト共ニ専ラカマシ之ニ注シ他ノ費目ヲ流用シ雄基阿吾地間 25ハ前年度既ニ着工シ、更ニ阿吾地間

29餘ノ線路選定ヲ了シ總額 5,615,730<sup>円</sup>ヲ以テ三ケ年度ニ亘リ完成スル豫定ニテ之ヲ三工區ニ分チ何レモ本年度工事ニ着手シ本年度ニ於ケル支出額 4,392,570<sup>円</sup>ナリ。

(4) 東海線 本線ハ總額 55,473,291<sup>円</sup>(俸給車輛費ヲ除ク)ヲ以テ昭和二年度以降十二ケ年度ノ繼續費トシテ前記圖們線ト共ニ第五十二議會ノ協賛ヲ經タルモノニシテ安邊、歙谷間約20<sup>里</sup>三工區ニ分チ工事進行中ニアリ、而シテ本年度 2,612,269<sup>円</sup>ヲ支出セリ。

(5) 滿浦線 總額42,137,322<sup>円</sup>(俸給、事務費、車輛費ヲ除ク)ニシテ昭和二年度以降十二ケ年度ノ繼續費トシテ協賛ヲ經タルガ前年度ニ引續キ用地買収等ヲ行ヒ其ノ支出額 25,803<sup>円</sup>ナリ。

(6) 惠山線 總額 17,206,199<sup>円</sup>(俸給、事務費、車輛費ヲ除ク)ヲ以テ昭和二年度以降十二ケ年度ニ亘ル繼續費トシテ協賛ヲ經タルガ本年度ニ於テ用地購入等ヲ行ヒ73,492<sup>円</sup>ヲ支出セリ。

(7) 慶全線 總額 24,729,914<sup>円</sup>(俸給、事務費、車輛費ヲ除ク)ニテ昭和二年度以降八ケ年度ニ完成セントシ本年度ニ於テ全州・館村間 14<sup>里</sup>餘ヲ總額 2,235,000<sup>円</sup>ヲ以テ三ケ年度ニ亘リ竣功スル豫定ニテ線路ヲ選定シ用地買収等ノ爲 129,368<sup>円</sup>ヲ支出セリ。

(8) 車輛費 前各項新線ノ延長ニ伴ヒ要スル車輛ノ本年度ニ於ケル製作完了又ハ購入ヲ爲シタルモノ機關車 14 客車 33 貨車 153ニシテ總額 3,082,585<sup>円</sup>ヲ支出セリ。

(9) 改良費 本年度ニ於テハ前年度起工ノ買収全北線ノ改良、京城、釜山工場ノ擴張工事、既設線々路及停車場改良、信號所新設、乗降場延長及海陸連絡工事並車輛改造等ノ工事ヲ施行シ其ノ支出額改良工事費 3,125,611<sup>円</sup>車輛費 529,956<sup>円</sup>ナリ。

### 第四章 災 害 費

昭和三年度ノ災害費ハ既定計畫ニ依ル繼續工事ト咸鏡南北兩道水害ニ依ル復舊、應急工事トニシテ各豫定ノ工事ヲ完了セリ、以下兩費ニ付其ノ大様ヲ記スベシ。

(1) 既定繼續費 大正十四年度ニ於ケル大水害ニ對シ之ガ復舊及改良工事ヲ要シ總額 3,899,840<sup>円</sup>ヲ大正十五年度以降三ケ年度ノ繼續費トシテ第五十一議會ノ協賛ヲ得大正十五年度 2,000,000<sup>円</sup>昭和二年度 1,000,000<sup>円</sup>ヲ支出シ本年度ハ其ノ最終年度ニシテ 899,840<sup>円</sup>ヲ豫定シ前年度繰越額ト合シ 916,068<sup>円</sup>ヲ以テ前々年來引續ク漢江橋梁ノ改良(105,125<sup>円</sup>)ヲ完了シ龍山官舎ノ移築其他(357,016<sup>円</sup>)並築堤保護工事等ヲ施行セリ而シテ本年度決算額ハ 915,821<sup>円</sup>ナリ。

(2) 咸鏡南北兩道水害ニ依ル應急復舊工事 昭和三年八月、咸鏡南北兩道ニ於ケル水害ハ北鮮未曾有ノ大慘害ヲ極メ築堤ノ崩壞線路ノ埋沒、橋梁破損其他ノ被害頗ル大ナリシヲ以テ之ガ應急、復舊工事費トシテ 300,000<sup>円</sup>ヲ第二豫備金ヨリ支出ノ勅裁ヲ仰キ 299,601<sup>円</sup>ヲ支出シ外ニ經常費中保存及補充費ヨリ 171,000<sup>円</sup>餘額ヲ支出セリ。

以上建設改良費災害費本年度支出計算ヲ示セバ下ノ如シ。

建設改良費及災害費支出計算表 (△印減)

科 目	豫 定 額	前 年 度 繰 越 額	豫 算 外 支 出 額	流 用 増 減(△)額	豫 定 額	支 出 額	零 年 度 繰 越 額	不 用 額
鐵道建設及改良費	19,000,000,000	218,639,502	0	0	19,218,639,502	19,224,545,900	11,143,602	0
建 設 費	15,300,000,000	128,995,640	0	0	15,428,995,640	15,423,043,990	5,951,650	0
俸給及諸給	345,303,000	10,000,000	0	△ 37,560,610	317,742,390	317,742,390	0	0
事 務 費	219,974,000	16,000,000	0	△ 17,898,620	218,075,380	218,075,380	2,000,000	0
特別給與金	26,000,000	39,302,000	0	3,844,000	63,146,000	69,146,000	0	0
成 鏡 線	8,098,230,000	0	0	△ 5,628,574,690	2,459,655,310	2,457,263,660	2,451,650	0
平 元 線	1,960,177,000	0	0	△ 43,625,620	1,916,551,380	1,916,551,380	0	0
圖 們 線	1,653,199,000	30,693,640	0	3,308,677,660	4,392,570,300	4,392,570,300	0	0
惠 山 線	191,376,000	0	0	△ 117,833,600	73,492,400	73,492,400	0	0
滿 浦 線	46,900,000	0	0	△ 21,096,660	25,803,340	25,803,340	0	0
東 海 線	718,391,000	30,000,000	0	1,863,878,330	2,612,269,330	2,612,269,330	0	0
慶 全 線	240,450,000	0	0	△ 111,082,320	129,367,680	129,367,680	0	0
車 輛 費	2,400,000,000	0	0	682,585,130	3,082,585,130	3,082,585,130	0	0
鎮 海 線	0	3,000,000	0	128,737,000	131,737,000	130,237,000	1,500,000	0
改 良 費	3,700,000,000	119,693,862	0	0	3,819,693,862	3,811,501,910	8,191,952	0
俸給及諸給	107,191,000	10,000,000	0	△ 15,278,510	101,912,490	99,712,490	2,200,000	0
事 務 費	60,371,000	15,000,000	0	△ 29,760,570	45,610,430	43,610,430	2,000,000	0
特別給與金	9,000,000	4,236,000	0	0	13,236,000	12,612,000	624,000	0
工 事 費	3,023,438,000	39,722,492	0	62,450,138	3,125,610,630	3,125,610,630	0	0
車 輛 費	500,000,000	50,735,370	0	△ 11,411,058	539,324,312	529,956,360	3,367,952	0
災 害 費	899,840,000	16,228,170	300,000,000	0	1,215,068,170	1,215,421,760	0	646,410
鐵道線路其他水害復舊及改良費	899,840,000	16,228,170	0	0	916,068,170	915,821,090	0	247,080
奏任俸給	4,844,000	0	0	△ 3,430,320	1,413,680	1,166,600	0	247,080
列任俸給	12,800,000	0	0	△ 2,517,880	10,282,020	10,282,020	0	0
事 務 費	16,833,000	1,000,000	0	△ 7,769,550	10,063,450	10,063,420	0	0
工 事 費	865,363,000	15,228,170	0	13,717,880	894,309,050	894,309,050	0	0
鐵道線路其他風水害復舊及應急費	0	0	300,000,000	0	300,000,000	299,600,670	0	399,330
鐵道線路其他復舊費	0	0	66,443,000	47,995,420	114,438,420	114,438,420	0	0
鐵道線路其他應急費	0	0	233,557,000	47,995,420	185,561,580	185,162,250	0	399,330
合 計	19,899,840,000	264,917,672	300,000,000	0	20,464,757,672	20,449,967,660	14,143,602	646,410
參 照								
昭和二年度	20,000,000,000	164,617,122	0	0	20,164,617,122	19,899,699,450	264,917,672	0
大正十五年度	17,000,000,000	93,615,132	0	0	17,093,615,132	16,928,998,010	164,617,122	0
昭和元 年	10,863,157,000	119,832	536,843,000	0	11,400,119,832	11,306,412,100	93,615,132	92,600
大正十四年度	15,000,000,000	1,961,442	200,000,000	0	15,201,961,442	15,201,705,550	119,832	5,000,136,030
大正十三年度	15,250,200,000	1,865,442	248,394,000	0	15,506,459,442	15,534,490,000	1,961,442	8,000

### 第五章 鐵道建設及改良費支出年度割

鐵道建設及改良費ハ明治四十四年度ヨリ昭和十三年度迄ノ繼續費ニシテ其ノ年度割左ノ如シ





第六章 鐵道投資額

昭和三年度=於ケル投資額ハ鐵道建設及改良費19,234,545.90、災害費 1,215,421.76、補充工事費 825,247.89、私設鐵道買收費7,570,000 合計28,845,215.550 ナルモ鐵道用地 拂下代ヲ歳入=編入セル 爲減少シタル金額157,332.60 アルヲ以テ差引|28,687,882.95 ヲ増加シ本年度末=於ケル投資額總計 ハ348,388,239ニシテ右ニ對スル本年度純益金ノ割合ハ三分五厘ニ當リ、總督府設置以來ノ投資額 240,937,920(京釜鐵道買收其他ヲ除ク)=對シテハ五分一厘ニ當レリ。本年度内譯下ノ如シ

種別	鐵道建設及改良費	土木費	水復舊費 災害費	用品資金	建設及改良 費所屬物 件賣拂代	小計	補充費	合計
鐵道特別會計 以前	—	—	—	—	—	—	—	—
元京釜鐵道會 社買收價格	20,016,500.000	—	—	—	—	20,016,500.000	—	20,016,500.000
同追加	107,300.000	—	—	—	—	107,300.000	—	107,300.000
同連成工事費	2,200,000.000	—	—	—	—	2,200,000.000	—	2,200,000.000
元京釜鐵道會 社貸付金	1,580,000.000	—	—	—	—	1,580,000.000	—	1,580,000.000
同社債金	10,000,000.000	—	—	—	—	10,000,000.000	—	10,000,000.000
同京仁線買收 貸付金	1,097,062.651	—	—	—	—	1,097,062.651	—	1,097,062.651
軍事費支出 京義	29,120,655.520	—	—	—	—	29,120,655.520	—	29,120,655.520
同馬山線	2,262,560.053	—	—	—	—	2,262,560.053	—	2,262,560.053
小計	66,384,078.224	—	—	—	—	66,384,078.224	—	66,384,078.224
自三十九年度 至四十三年度	25,948,358.343	—	2,537,212.409	700,000.000	—	29,185,570.752	273,071.478	29,458,642.230
四十四年度	8,418,015.956	—	595,358.744	—	—	9,013,374.700	220,366.510	9,234,241.210
元年度	8,767,647.431	—	612,832.511	—	—	9,380,320.942	262,584.544	9,643,424.486
二年度	8,469,357.368	—	—	—	—	8,469,357.368	192,260.193	8,661,647.561
三年度	7,321,953.475	—	225,812.767	—	—	7,547,766.241	86,351.408	7,634,117.649
四年度	7,618,076.190	—	261,253.430	—	—	7,879,329.620	125,103.030	8,004,432.650
五年度	7,434,504.530	—	—	—	—	7,434,504.530	270,006.318	7,705,110.848
六年度	5,770,301.665	230,193.375	—	21,513.212	2,087.390	6,019,920.862	132,104.830	6,152,025.692
七年度	9,667,913.707	82,212.363	—	—	—	4,797.320	9,745,328.750	1,348,553.706
八年度	14,950,222.036	96,245.254	—	—	—	11,269.430	15,065,297.860	684,412.755
九年度	15,327,828.730	—	544,093.050	—	—	14,187.630	15,838,334.150	471,037.380
十年度	18,287,157.570	—	—	—	—	24,913.440	18,262,244.130	593,256.160
十一年度	21,710,989.040	—	607,335.600	—	—	445,075.470	21,573,259.170	1,093,937.700
十二年度	14,989,904.000	—	534,536.000	—	—	254,402.590	15,250,066.410	1,195,180.050
十三年度	10,001,841.610	—	199,863.970	—	—	297,370.910	9,904,334.670	402,337.270
十四年度	9,906,504.700	—	1,049,097.840	1,000,000.000	—	304,379.010	11,651,223.530	366,575.480
大正十五年度	14,948,337.360	—	1,950,669.150	—	—	291,091.740	16,637,906.270	1,098,776.172
昭和元年度	23,367,357.770	—	1,003,111.650	—	—	297,029.240	24,073,470.210	1,217,054.170
昭和二年度	26,504,545.900	—	1,215,421.760	—	—	157,332.600	27,822,635.060	825,247.890
總計	326,134,966.165	408,750.992	11,367,789.910	1,721,513.212	2,203,937.770	337,529,052.449	10,959,157.084	348,388,239.533

備考 鐵道建設及改良費中ニハ私設鐵道買收費昭和二年度 4,470,800圓 昭和三年度 7,570,000圓ヲ含ム

第七章 私設鐵道買收並補助

本年度=於テ私設鐵道ノ買收ヲ爲シタルハ朝鮮鐵道株式會社慶東線九十二哩ニシテ昭和三年度七 月一日買收引繼ヲ了シ交付公債額面 7,570,000ヲ交付シ營業ヲ續行セリ。

次ニ私設鐵道補助豫定額 4,300,000 及前年度繰越額 945,424.090、合計5,245,424.090ニシテ之ニ 對スル決算額ハ4,389,683.550ナルヲ以テ差引|855,740.540ハ之ヲ翌年度ニ繰越シタリ。

科目	豫定額	前年度 繰越額	豫定現額	支出済額	翌年度 繰越額	不用額
補助費						
私設鐵道補助	4,300,000.000	945,424.090	5,245,424.090	4,389,683.550	855,740.540	—
參照						
昭和二年度	4,300,000.000	769,188.740	5,069,188.740	4,123,764.650	945,424.090	—
大正十五年度	4,300,000.000	359,770.470	4,659,777.470	3,890,581.730	769,188.740	—
昭和元年度	4,000,000.000	251,261.190	4,251,261.190	3,891,490.720	359,770.470	—

今年度補助額ヲ各會社別ニ示セバ下ノ如シ。

朝鮮鐵道株式會社	2,554,259.880
朝鮮京南鐵道株式會社	937,894.200
金剛山電氣鐵道株式會社	602,881.350
圖們鐵道株式會社	114,578.840
价川鐵道株式會社	42,854.190
南朝鮮鐵道株式會社	137,215.090
合計	4,389,683.550

第八章 鐵道用地處分ニ關スル收支豫算決算

本年度鐵道用地處分ニ關スル收支豫算決算下ノ如シ。

歳入

科目	豫定額	調定額	收入済額	不納欠損額	收入未済額	豫定額=比 シ收入済額 ノ増減(△)
官有物拂下代						
土地拂下代	150,000.000	162,840.770	157,332.600	—	5,472.170	7,332.600
參照						
昭和二年度	250,000.000	305,794.990	297,029.240	—	8,765.750	4,729.240
大正十五年度	250,000.000	301,414.860	291,091.740	—	10,323.120	41,091.740
昭和元年度	250,000.000	312,639.510	304,379.010	—	8,260.500	54,379.010

歳 出

科 目	豫 定 額	支 出 済 額	不 用 額
地籍整理及國有地處分費 鐵道用地處分費	14,909.000	13,215.300	1,693.700
參 照			
昭 和 二 年 度	17,184.000	13,284.330	3,899.670
大 正 十 五 年 度	17,184.000	16,828.260	355.740
大 正 十 四 年 度	17,181.350	15,345.760	1,835.590

第九章 鐵道用品資金

本會計=屬スル資金ハ前年度ト同ジク 1,721,513.210 =シテ歳出豫算モ亦前年度同額ノ 18,056,380.ナルヲ以テ其ノ資金運轉ノ困難ナルハ前年度ト同一状態ナリ依テ極力資金ノ運轉ヲ敏活ニシテ面  
前受金=依リ仕拂元金=充當シ以テ經理ノ圓滑ヲ計レリ。

本會計ノ昭和三年度決算額ハ歳入ノ収入済額14,807,272.220 =シテ歳出ノ支出済額15,273,492.540  
ナリ。故=歳出ノ歳入=超過スルコト 466,220.320 ナリト雖右ノ外收入勘定=屬スルモノ

歳入収入未済額	660,104.560
翌年度へ繰越物品ノ價格	2,798,109.750
同上工場勘定=屬スルモノ	164,191.550
前年度繰越支出未済額	897,685.770
前年度前受金ノ精算未済額	761,426.040
前年度代價収入済物品未渡ノ價格	11.460
合 計	5,281,529.130

支出勘定=屬スルモノ

歳出支出未済額	1,430,774.320
前年度繰越物品ノ價格	1,872,620.370
同上工場勘定=屬スルモノ	29,710.710
前年度繰越収入未済額	995,713.730
前受金ノ精算未済額	485,938.550
代價収入済物品未渡ノ價格	72.400
合 計	4,814,830.080

ナルヲ以テ之ヲ差引計算スレバ 478.730 ノ過剩ヲ生ズ該過剩額ハ大正十四年法律第十八號朝鮮鐵道  
用品資金會計法第四條=依リ之ヲ昭和三年度朝鮮總督府特別會計歳入=繰入レ本年度ノ決算ヲ結了

セリ下=本會計ノ歳入歳出損益計算及受拂勘定ヲ掲記ス。

昭和三年度鐵道用品資金會計歳入歳出決算

歳 入

科 目	豫 定 額	調 定 済 額	收 入 済 額	不 納 欠 損 額	收 入 未 済 額	豫算額=比シ 収入済額ノ差 増(△)
朝鮮鐵道用品收入	18,056,350.000	15,467,370.750	14,807,272.220	0	660,104.560	△ 3,249,107.780
用品及工作收入	17,954,079.000	15,342,397.350	14,655,819.500	0	656,577.850	△ 3,298,259.500
用品賣拂代	14,259,079.000	8,793,567.190	8,435,892.250	0	357,674.910	△ 5,823,186.720
用品修繕料	3,725,000.000	6,548,830.160	6,249,927.220	0	298,902.940	2,524,527.220
雜 收 入	72,301.000	124,979.430	121,452.720	0	3,526.710	49,151.720
雜 入	72,301.000	124,979.430	121,452.720	0	3,526.710	49,151.720

歳 出

科 目	豫 定 額	前 年 度 繰 越 額	流 用 増 減(△)額	豫定現額	支出済額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額
朝鮮鐵道用品費	18,056,350.000	897,685.770	0	18,954,035.770	15,273,492.540	1,430,774.320	2,249,768.910
俸給及諸給	399,313.000	4,815.000	0	404,128.000	383,856.050	2,494.730	17,647.190
奏任俸給	51,240.000	0	△ 3,374.020	47,865.980	31,956.790	0	15,879.190
判任俸給	192,000.000	0	3,374.020	195,374.020	195,366.290	7.730	0
死亡賜金	973.000	0	0	973.000	240.000	400.000	333.000
特別給與金	155,000.000	4,815.000	0	159,815.000	156,293.000	2,067.000	1,435.000
用品及工作費	17,657,167.000	892,870.770	0	18,550,037.770	14,889,666.460	1,425,279.590	2,222,151.720
用品費	15,345,670.000	767,405.800	0	16,113,075.800	12,641,567.740	1,338,321.890	2,133,256.070
工作費	2,299,501.000	79,429.660	△ 199,451.970	2,179,478.630	1,993,800.770	87,112.210	95,865.650
諸拂戻金	11,696.000	45,945.370	199,451.970	257,093.340	254,247.950	2,845.390	0

昭和三年度鐵道用品資金損益計算表

損 種 目	失		利 益	
	金 額	金 額	種 目	金 額
朝鮮鐵道用品費	15,273,492.540		朝鮮鐵道用品收入	14,807,272.220
支出未済額翌年度繰越額	1,430,774.320		収入未済額翌年度繰越額	660,104.560
前年度繰越収入未済額	995,713.730		前年度繰越支出未済額	897,685.770
前年度繰越物品ノ價格	1,902,331.080		翌年度へ繰越物品ノ價格	2,962,301.300
翌年度繰越前受金	485,938.550		前年度繰越前受金	761,426.040
翌年度繰越物品未済額	72.400		前年度繰越物品未渡額	11.460
計	20,088,322.620		計	20,088,801.350
差引過剩金(朝鮮總督府特 別會計へ繰入)	478.730			
合 計	20,088,801.350		合 計	20,088,801.350

昭和三年度鐵道用品資金受拂勘定表

受 種 別	入 金 額	拂 種 別	出 金 額
歳入ノ収入済額	14,807,272.220	歳出ノ支出済額	15,273,492.540
歳入ノ収入未済額	660,104.560	歳出ノ支出未済額	1,430,774.320
資金=屬スル現金持越高	482,591.670	資 金 額	1,721,513.210
總貯藏品物品ノ價格	17,160,617.750	前 受 金	486,010.950
		代價収入済物品ノ價格	13,593,726.250
		代價収入未済既出物品ノ價格	604,590.200
合 計	33,110,586.200	合 計	33,110,107.470

備 考

受入ノ拂出=對スル超過額 478.73 円 過剩金トシテ昭和三年度朝鮮總督府特別會計歳入=繰入レタリ

第十章 其ノ他ノ歳入歳出

前各項ノ外本局取扱歳入歳出左ノ如シ。

歳 入

科 目	豫 算 額	調 定 済 額	收 入 済 額	收 入 未 済 額
南滿洲鐵道株式會社納金	341,876.000	341,876.000	341,876.000	0

歳 出

科 目	豫 算 額	支 出 済 額	不 用 額
臨時朝鮮語獎勵費	370.000	329.670	40.330
臨時特別手當	19,513.000	19,417.780	95.220

第十一章 用品購入

本年度=於テ購入、製作、加工、修理註文及契約ヲ締結シタル物品ノ總金額ハ 18,848,917.32 円 =シテ前年度=比シ 2,330,420.77 円ヲ増加セリ、其内譯ヲ示セバ壹口 1,000.00 以上ニシテ隨意契約=依リシモノ 17,540,111.86 円、1,000.00 未滿隨意註文ヲ爲シタルモノ 1,307,905.46 円ニシテ更ニ主ナル物品ノ産地別數量金額竝ニ之ガ比率ヲ示セバ左ノ如シ。

産 地 別 内 譯 (錢位省略)

種 別	朝 鮮 産		内 地 産		滿 洲 産		外 國 産		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
石炭ノ部										
塊及切込炭	171,200	1,383,055	30,766	387,577	110,208	1,128,067	25,000	302,200	337,174	3,200,929
骸 炭	—	—	2,715	80,941	230	7,797	—	—	2,945	88,738
煉 炭	13,700	207,930	—	—	—	—	—	—	13,700	207,930
計	184,900	1,591,015	33,481	468,518	110,438	1,135,864	25,000	302,200	333,819	3,497,597
枕木ノ部										
竝 枕 木	1,036,008	2,035,924	148,089	314,569	—	—	—	—	1,184,097	2,350,494
轉轆器用枕木	21,022	75,495	—	—	—	—	—	—	21,022	75,495
橋上用枕木	11,224	49,232	—	—	—	—	—	—	11,224	49,232
右 計	1,068,254	2,160,652	148,089	314,569	—	—	—	—	1,216,343	2,475,222
セメント(大樽)	85,239	395,000	133,750	709,620	—	—	—	—	219,009	1,104,620
地 金	1,050	51,303	6,506	1,002,205	230	15,576	108	75,368	8,856	1,144,753
機 關 車	—	—	14	1,080,400	—	—	—	—	14	1,080,400
車 輜	—	60,930	12	317,400	—	—	—	—	15	378,330
橋 桁	—	105,575	11	225,344	—	—	—	—	22	330,919
木 材	185	161,221	19	104,520	144	427,069	11	299,550	359	992,361
車輪及車軸	—	—	102	417,799	—	—	—	—	102	417,799
軌條及屬品	2	4,928	47	1,762,169	—	—	1	4,762	50	1,771,859
油 脂	—	—	1,161,609	197,532	7,200	1,150	405,040	71,365	1,573,840	270,379
電氣用品	—	27,663	308	451,475	4	4,187	52	21,999	372	505,226
制 服 類	—	—	57	159,685	—	9,828	—	—	57	169,513
絲 屑 類	—	—	292,100	97,561	—	—	—	—	292,100	97,561
彩 料 類	—	—	131	140,272	—	—	—	—	131	140,272
機 械 類	—	—	57	198,356	—	—	26	91,549	83	289,906
帳 表 類	1,593	100,449	17	22,404	—	—	—	—	1,610	122,853
雜 品	2,841	644,932	27,651	2,728,601	42	23,922	167	654,573	30,101	4,052,030
合 計	—	5,303,650	—	10,405,036	—	1,617,928	—	1,521,370	—	18,848,917

主要購入品産地別比率表

品名	年度	金額				計	数量				計
		朝鮮	内地	滿洲	外國		朝鮮	内地	滿洲	外國	
石炭	三年度	46	13	32	9	100	52	10	31	7	100
	二年度	35	15	40	10	100	43	11	38	8	100
枕木	三年度	87	13	—	—	100	88	12	—	—	100
	二年度	61	34	5	—	100	62	33	5	—	100
セメント (大樽)	三年度	36	64	—	—	100	39	61	—	—	100
	二年度	46	54	—	—	100	43	52	—	—	100
橋桁	三年度	32	68	—	—	100	72	28	—	—	100
	二年度	96	4	—	—	100	95	5	—	—	100
木材	三年度	16	11	43	30	100	52	5	40	3	100
	二年度	38	6	32	24	100	71	9	15	5	100
全購入品合計	三年度	28	55	9	8	100	—	—	—	—	—
	二年度	25	59	9	7	100	—	—	—	—	—

第十編 私設鐵道、軌道及専用鐵道

第一章 私設鐵道

昭和四年三月末現在私設鐵道免許總延長ハ 1,184.2<sup>哩分</sup>ニシテ其ノ内譯下ノ如シ

開業哩	468.0 <sup>哩分</sup>
工事施行認可線	工事中線 88.4 <sup>哩分</sup> (工事認可實哩 99.3 <sup>哩分</sup> )
	工事未著手線 142.8 <sup>哩分</sup> (// 141.9 <sup>哩分</sup> )
工事施行未認可線	485.0 <sup>哩分</sup>
計	1,184.2 <sup>哩分</sup>

經營者 現在私設鐵道ノ經營者ハ朝鮮鐵道株式會社、朝鮮京南鐵道株式會社、金剛山電氣鐵道株式會社、价川鐵道株式會社、圖們鐵道株式會社、南朝鮮鐵道株式會社、朝鮮京東鐵道株式會社及朝鮮瓦斯電氣株式會社ノ八社ナリ、以上八會社中朝鮮瓦斯電氣株式會社ヲ除クノ他七社ハ朝鮮私設鐵道補助法ニ依ル補助ヲ受クルモノナルガ其ノ資本總額ハ 103,100,000<sup>圓</sup>ニシテ内 41,100,000<sup>圓</sup>ノ拂込ヲ了シテ外ニ資金トシテ社債及借入金 34,532,000<sup>圓</sup>ヲ有ス。

上記ノ外川内里鐵道會社線(川内里、龍潭間<sup>2.7</sup>哩分)アルモ國ニ於イテ借上ゲ營業中ノモノナルニ付之ヲ本章私設鐵道ノ記述中ヨリ除ケリ。

第二章 各社別事業概況

- 朝鮮鐵道株式會社、本社ヲ京城ニ、支社ヲ東京ニ、清州、金泉、馬山、沙里院、咸興及古茂山ニ出張所ヲ置ク、資本總額 54,500,000<sup>圓</sup>ノ内 17,650,000<sup>圓</sup>ノ拂込ヲ了シテ外ニ社債及借入金 24,150,000<sup>圓</sup>アリ、免許線總延長 670<sup>哩分</sup>ニシテ内 269<sup>哩分</sup>ハ開業線ナリ。
- 朝鮮京南鐵道株式會社、本社ヲ天安ニ支店ヲ東京ニ置ク、資本金 10,000,000<sup>圓</sup>内 8,000,000<sup>圓</sup>ノ拂込ヲ了シテ外ニ資金トシテ社債借入金 6,760,000<sup>圓</sup>アリ、免許線ハ全南群山對岸ヨリ天安・安城ヲ經テ驪州ニ至ル延長 136<sup>哩分</sup>ノ蒸氣鐵道ニシテ内 90<sup>哩分</sup>ヲ開業線トス。
- 金剛山電氣鐵道株式會社、本社ヲ鐵原ニ出張所ヲ東京、京城及中臺里ニ置ク、資本金 12,000,000<sup>圓</sup>ニシテ内 6,750,000<sup>圓</sup>ノ拂込ヲ了シテ外ニ 3,170,000<sup>圓</sup>ノ社債借入金ヲ有ス、免許線ハ鐵原ヨリ化川ニ至ル 63<sup>哩分</sup>ト昌道ヨリ分岐シテ金剛山麓長淵里ニ至ル 30<sup>哩分</sup>合計 93<sup>哩分</sup>ノ電氣鐵道ニシテ自社發電ニ依ル現在開業線 42<sup>哩分</sup>ナリ。
- 价川鐵道株式會社、本鐵道ハ當初日本製鋼所ノ所有ニシテ藤野葛樹鐵道及附屬物件一切ヲ借受ケ營業中ナリシモ大正十五年十一月株式組織ニ改ム、公稱資本金 1,000,000<sup>圓</sup>全額拂込済ナリ、免許線ハ新安州ヨリ泉洞ニ至ル 23<sup>哩分</sup>ノ蒸氣鐵道ニシテ全線開業セリ。
- 圖們鐵道株式會社、本鐵道ハ本社ヲ東京ニ支店ヲ會寧ニ置キ資本金 3,600,000<sup>圓</sup>全額拂込済ニシテ借入金 452,000<sup>圓</sup>ヲ有ス、免許線ハ會寧ヨリ潼關鎮ニ至ル 36<sup>哩分</sup>ト上三峯ヨリ圖們江橋梁中心間 9<sup>哩分</sup>ノ蒸氣鐵道ナリ。
- 南朝鮮鐵道株式會社、本鐵道ハ本社ヲ東京ニ置キ資本總額 20,000,000<sup>圓</sup>ニシテ内 4,000,000<sup>圓</sup>ノ拂込ヲナセリ、免許線ハ全南驪水ヨリ木浦對岸龍塘ニ至ル間及龍沼ヨリ榮山浦附近三榮ニ至ル間並ニ寶城ヨリ光州ニ至ル總延長 175<sup>哩分</sup>ナリ。
- 朝鮮京東鐵道株式會社、本鐵道ハ本社ヲ水原ニ支店ヲ東京ニ置キ資本金 2,000,000<sup>圓</sup>内 400,000<sup>圓</sup>ノ拂込ヲナセリ、免許哩ハ水原・驪州間 43<sup>哩分</sup>ナリ。
- 朝鮮瓦斯電氣株式會社、本社ハ私設鐵道トシテ釜山鎮・東萊間 5.8<sup>哩分</sup>ノ開業線ヲ有スルモノナリ、釜山府内軌道ト合セテ電車ヲ運轉ス。

私設鐵道免許哩表

會社名	軌間	開業哩		未開業哩	合計
		哩	哩		
朝鮮鐵道株式會社	4.85	269.9	400.1		670.0
朝鮮京南鐵道株式會社	4.85	90.2	46.5		136.7
金剛山電氣鐵道株式會社	4.85	42.0	51.0		93.0
价川鐵道株式會社	2.6	23.0	—		23.0
圖們鐵道株式會社	2.6	37.0	—		37.0
南朝鮮鐵道株式會社	4.85	—	175.5		175.5
朝鮮京東鐵道株式會社	2.6	—	43.1		43.1
朝鮮瓦斯電氣鐵道株式會社	2.6	5.9	—		5.9
合計	—	468.0	716.2		1,184.2

資金表 (各社會計年度=ヨル)

會社名	資本總額	資		金
		拂込	社債及借入金	
朝鮮鐵道株式會社	54,500,000	17,650,000	24,150,000	41,844,581
朝鮮京南鐵道株式會社	10,000,000	8,000,000	6,760,000	14,760,000
金剛山電氣鐵道株式會社	12,000,000	6,750,000	3,170,000	9,920,000
价川鐵道株式會社	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000
圖們鐵道株式會社	3,600,000	3,600,000	452,874	4,052,874
南朝鮮鐵道株式會社	20,000,000	4,000,000	—	4,000,000
朝鮮京東鐵道株式會社	2,000,000	400,000	—	400,000
合計	103,100,000	41,400,000	34,577,455	75,977,455

備考 朝鮮瓦斯電氣會社ノ分ハ軌道ト區分シ得ザルニ付軌道ノ部ニ揚上ス

第三章 線路ノ延長

本年度中=新=開業セシモノハ朝鮮鐵道忠北線清安・忠州間<sup>哩分</sup>29.4<sup>哩分</sup>及慶北線店村・禮泉間<sup>哩分</sup>15.8<sup>哩分</sup>計<sup>哩分</sup>45.2<sup>哩分</sup>=シテ之レヲ前年度ノ延長=比スル=8.6<sup>哩分</sup>ヲ減少セリ

第四章 運輸成績

旅客 本年度=於ケル旅客運輸成績ハ(朝鮮瓦斯電氣會社ヲ除ク以下同シ)平均營業哩<sup>哩分</sup>457.6<sup>哩分</sup>人員<sup>人</sup>3,112,665<sup>人</sup>。延人哩<sup>哩分</sup>41,235,677<sup>哩分</sup>。賃金<sup>円</sup>1,598,972<sup>円</sup>=シテ前年度=比シ人員<sup>人</sup>951,139<sup>人</sup>。延人哩<sup>哩分</sup>8,541,527<sup>哩分</sup>。賃金<sup>円</sup>229,549<sup>円</sup>ヲ減少セルハ朝鮮鐵道全南線慶東線及全北鐵道ヲ國=於テ買収セシヨル

更=一人平均=付見ル=乘車哩<sup>哩分</sup>13.2<sup>哩分</sup>。賃金<sup>円</sup>51<sup>円</sup>=シテ乘車哩=於テ<sup>円</sup>1.賃金<sup>円</sup>6<sup>円</sup>ヲ増加シ<sup>人</sup>1.1<sup>人</sup>ノ平均賃金ハ<sup>円</sup>3.88<sup>円</sup>=當ル

貨物 輸送噸數<sup>噸</sup>1,048,064<sup>噸</sup>。延噸哩<sup>噸哩</sup>27,246,631<sup>噸哩</sup>。賃金<sup>円</sup>2,409,843<sup>円</sup>=シテ前年=比シ噸數<sup>噸</sup>59,612<sup>噸</sup>ノ減少ヲ示セルモ延噸哩=於テハ<sup>噸哩</sup>1,160,429<sup>噸哩</sup>ヲ増加シ、賃金=於テハ<sup>円</sup>42,780<sup>円</sup>ヲ減少セルモ旅客運輸=比シ遙カ=良好ナル成績ヲ得タリ、次=一噸平均=就テ見ル=輸送哩<sup>哩</sup>26<sup>哩</sup>。賃金<sup>円</sup>2.30<sup>円</sup>一噸=哩平均賃金<sup>円</sup>8.8<sup>円</sup>=當レリ

第五章 業營收支及補助成績

營業收支 本年度=於ケル營業收入ハ<sup>円</sup>4,985,808<sup>円</sup>支出<sup>円</sup>3,998,450<sup>円</sup>差引<sup>円</sup>987,358<sup>円</sup>ノ益金ヲ舉ゲ、之ヲ前年度=比スル=收入=於テ<sup>円</sup>142,516<sup>円</sup>支出<sup>円</sup>237,103<sup>円</sup>ヲ増加シ、益金=於テ<sup>円</sup>94,587<sup>円</sup>ノ減少ヲ示セリ

補助成績 今大正十年度以降ノ補助金豫算決算額ヲ表示スレバ下ノ如シ

年 度	豫 算 額	繰 延 額	計	決 算 額
大 正 十 年 度	1,565,000	—	1,565,000	1,346,060
大 正 十 一 年 度	2,500,000	218,940	2,718,940	1,837,466
大 正 十 二 年 度	2,550,000	881,474	3,431,474	2,752,034
大 正 十 三 年 度	2,830,000	679,438	3,559,438	3,258,177
大 正 十 四 年 度	4,000,000	251,261	4,251,261	3,891,491
大 正 十 五 年 度	4,300,000	359,770	4,659,770	3,890,582
昭 和 元 年 度				
昭 和 二 年 度	4,300,000	769,188	5,069,188	4,123,765
昭 和 三 年 度	4,300,000	945,423	5,245,423	4,389,684

第六章 軌道總況

昭和三年度末現在朝鮮=於ケル軌道ノ總延長ハ<sup>哩分</sup>169.0<sup>哩分</sup>=シテ現在開業哩其ノ他下ノ如シ

開 業 哩	47.5
未 開 業 哩	121.5
計	169.0

尙之ヲ動力別=示セバ電氣軌道 三・ガソリン軌道二・手押軌道 五・人力牛力=ヨルモノ 一。=シテ内未開業ガソリン軌道 一・手押軌道 一。ナリ

今各社事業概況ヲ示セバ

京城電氣軌道、京城電氣株式會社ノ經營=係リ開業線<sup>哩分</sup>20.4<sup>哩分</sup>=シテ軌間<sup>哩分</sup>3.6<sup>哩分</sup>ナリ

釜山電気軌道、本軌道ハ朝鮮瓦斯電気會社ノ經營ニ係リ開業線<sup>〇.〇</sup>6.1ニシテ外ニ私設鐵道ノ取扱ヲ受ケル釜山嶺、東萊間<sup>〇.〇</sup>5.9ヲ合セ營業ス、軌間ハ<sup>〇.〇</sup>2.6ナリ

平壤電気軌道、本軌道ハ平壤府ノ經營ニ係リ開業線<sup>〇.〇</sup>7.5ニシテ軌間ハ<sup>〇.〇</sup>3.6ナリ

咸平軌道 本軌道ハ咸平軌道株式會社ノ經營ニ係リ開業線<sup>〇.〇</sup>3.8軌間ハ<sup>〇.〇</sup>3.6動力ハガソリントス  
各手押及牛力軌道、現在營業シツツアル江景、金堤、倭館、生氣嶺、靈武ノ各軌道ハ何レモ軌間

<sup>〇.〇</sup>2ニシテ開業線合計<sup>〇.〇</sup>9.7ナリ

### 第七章 軌道營業成績

軌道ノ本年度ニ於ケル營業成績ハ旅客人員<sup>〇</sup>50,730,645<sup>〇</sup>貨物噸數<sup>〇</sup>23,125<sup>〇</sup>ニシテ收入<sup>〇</sup>2,533,559<sup>〇</sup>支出<sup>〇</sup>1,740,709<sup>〇</sup>ヲ算シ收入ニ對スル支出ノ割合ハ<sup>〇.〇</sup>6.9ニシテ軌道建設費ニ對スル益金ノ割合ハ<sup>〇.〇</sup>1.41ニ當リ、之ヲ前年度ニ比較スルニ人員ニ於テ<sup>〇</sup>2,038,992<sup>〇</sup>ヲ増加シ、貨物噸數ニ於テ<sup>〇</sup>32,474<sup>〇</sup>ヲ減少セルモ收入<sup>〇</sup>210,989<sup>〇</sup>ヲ増加シ、益金ニ於テ<sup>〇</sup>96,057<sup>〇</sup>ヲ増加セリ

### 第八章 專用鐵道

本年度末現在敷設免許總延長ハ<sup>〇.〇</sup>82.6<sup>〇</sup>内運輸營業ヲ行ヒツツアルモノ<sup>〇.〇</sup>78.2<sup>〇</sup>ニシテ工事材料、工事原料並生産品等ノ運送ニ使用サル  
(終)

表  
類

釜山電気軌道、本軌道ハ朝鮮瓦斯電気會社ノ經營ニ係リ開業線<sup>10</sup>ニシテ外ハ私設鐵道ノ取扱ヲ受クル釜山鎮、東萊間<sup>11</sup>ヲ合セ營業ス、軌間ハ216センチ

平康電気軌道、本軌道ハ平康府ノ經營ニ係リ開業線<sup>12</sup>ニシテ軌間ハ216センチ

咸平軌道 本軌道ハ咸平軌道株式會社ノ經營ニ係リ開業線<sup>13</sup>ニシテ軌間ハ216センチ動力ハガソリントス

各手押及牛力軌道、現在營業ニツツアル江景、金堤、低館、生氣嶺、嶺武ノ各軌道ハ何レモ軌間<sup>14</sup>ニシテ開業線合計<sup>15</sup>ナリ

第七章 軌道營業成績

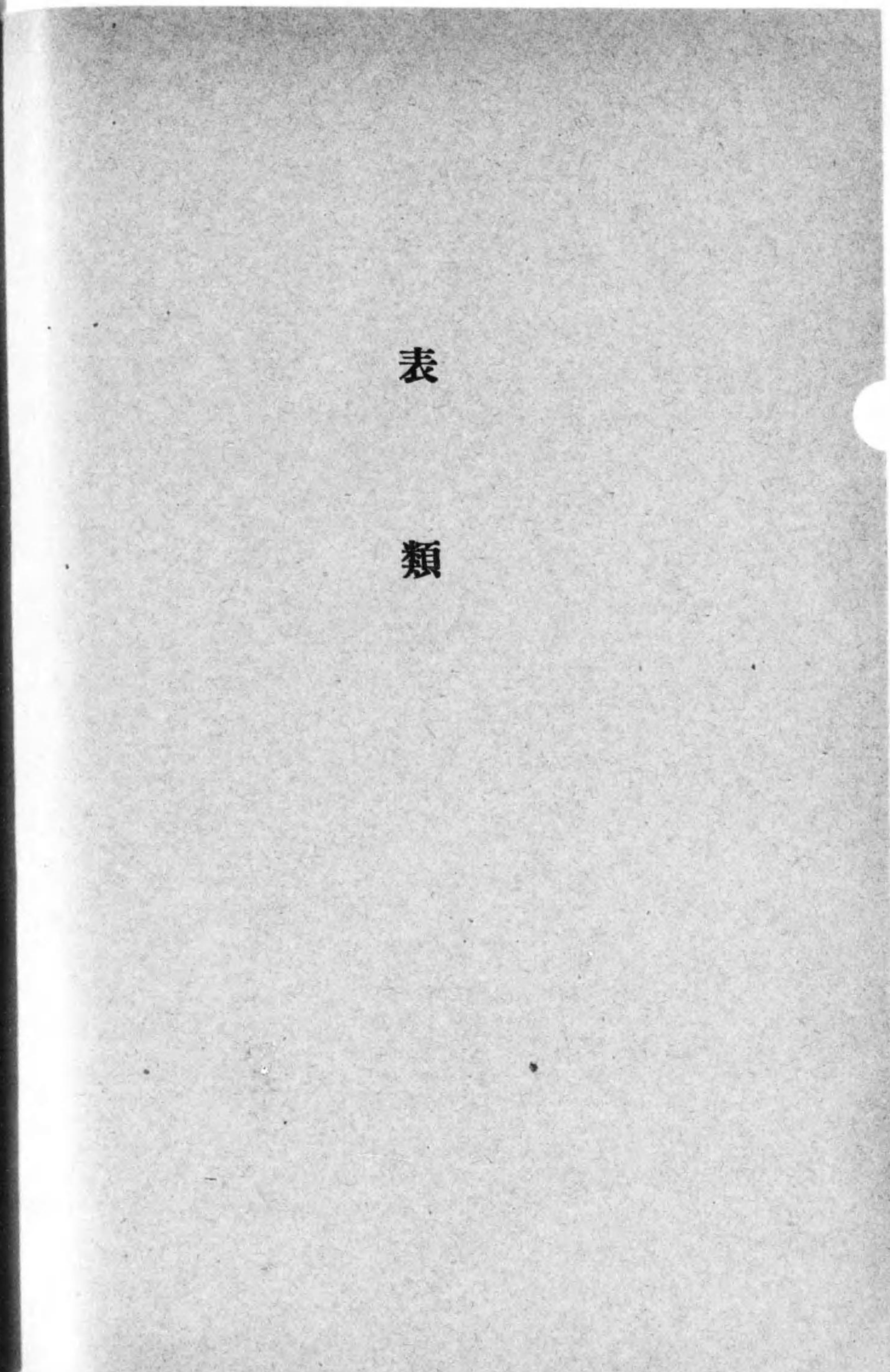
軌道ノ本年度ニ於ケル營業成績ハ旅客人員<sup>16</sup>50,730,045 貨物噸數<sup>17</sup>23,125 電氣力<sup>18</sup>2,539,559 出<sup>19</sup>1,710,709 ヲ算シ收入ニ對スル支出ノ割合ハ<sup>20</sup>100ニシテ軌道建設費ニ對スル益金ノ割合ハ111ニシテ、之ヲ前年度ニ比較スルニ人員ニ於テ2,048,002ヲ増加シ、貨物噸數ニ於テ42,171ヲ減少シ、電氣力<sup>21</sup>219,989ヲ増加シ、益金ニ於テ96,957ヲ増加セリ

第八章 專用鐵道

本年度ニ現在敷設免許總延長ハ<sup>22</sup>66ノ内運輸營業ヲ行ヒツツアルモノ<sup>23</sup>7ノニシテ工事材料、鄂原自産生産品等ノ運送ニ使用セラル

(終)

表類



## 昭和三年度年報表類ノ部目次

	頁
第一號表 鐵道總表.....	1
<b>運 輸</b>	
第二號表 運輸成績表.....	2
第三號表 客車成績表.....	4
第四號表 貨車成績表.....	8
第五號表 旅客貨物運輸哩別成績表.....	12
第六號表 連帶運輸成績表.....	14
第七號表 運輸成績月別表.....	18
第八號表 各驛運輸一覽表.....	24
第九號表 旅客貨物通過表.....	38
第十號表 特種乘車券其他發賣成績表.....	44
第十一號表 主要貨物運輸成績表.....	46
第十二號表 主要貨物運輸哩別成績表.....	48
第十三號表 主要貨物連帶運輸成績表.....	50
第十四號表 主要貨物運輸成績月別表.....	52
第十五號表 主要貨物發著驛別表.....	54
<b>旅館及食堂車並構內食堂</b>	
第十六號表 旅館營業成績表.....	114
第十七號表 食堂車及構內食堂營業成績表.....	116
第十八號表 旅館營業成績月別表.....	117
第十九號表 食堂車及構內食堂營業成績月別表.....	117
<b>倉 庫</b>	
第二十號表 倉庫營業成績表.....	118
第二十一號表 倉庫營業成績月別表.....	122
第二十二號表 倉庫貨物品種別表.....	123
<b>運 轉</b>	
第二十三號表 列車別機關車運轉成績表.....	122
第二十四號表 種類別機關車運轉成績表.....	129
第二十五號表 運轉用主要消耗品拂高機關區別表.....	131
第二十六號表 運轉用主要消耗品用途別表.....	134



第二十七號表	機關區別機關車運轉成績表.....	140
第二十八號表	車輛輸送成績表.....	142
<b>事 故</b>		
第二十九號表	鐵道運轉事故件數表.....	144
第三十號表	鐵道法令違反者表.....	144
第三十一號表	鐵道死傷者人員表.....	144
第三十二號表	損害賠償並見舞金其他.....	146
第三十三號表	營業事故件數表.....	148
<b>工 作</b>		
第三十四號表	機關車現在表.....	149
第三十五號表	客車現在表.....	150
第三十六號表	貨車現在表.....	151
第三十七號表	機關車改造修繕成績表.....	153
第三十八號表	客車改造修繕成績表.....	153
第三十九號表	貨車改造修繕成績表.....	153
第四十號表	機關車改造修繕成績月別表.....	154
第四十一號表	客車改造修繕成績月別表.....	154
第四十二號表	貨車改造修繕成績月別表.....	155
第四十三號表	主要新製物件表.....	155
第四十四號表	主要修繕物件表.....	156
第四十五號表	局外註文物件表.....	156
第四十六號表	工場使用金屬類使用高表.....	157
第四十七號表	工場主要消耗品消費高表.....	157
第四十八號表	工場使用品價格表.....	158
第四十九號表	工場木材使用高表.....	159
第五十號表	工場製修工事費額表.....	160
第五十一號表	工作方勞働人員並賃金表.....	163
<b>通 信</b>		
第五十二號表	通信信號回線表.....	163
第五十三號表	通信信號機表.....	164
第五十四號表	通信及信號機接續驛所數表.....	165
第五十五號表	電線障礙表.....	167

第五十六號表	電報通數表.....	167
第五十七號表	公衆電報取扱料金表.....	167
第五十八號表	電力機械表.....	168
第五十九號表	通信及電燈電力線路表.....	168
第六十號表	電柱腕木及碼子施設表.....	170
第六十一號表	電燈表.....	172
第六十二號表	電氣機械器具修繕表.....	173
第六十三號表	電氣動力表.....	174
第六十四號表	變電成績表.....	174
<b>工 務</b>		
第六十五號表	營業線路條數表.....	175
第六十六號表	營業線施設物表.....	176
第六十七號表	用地調表.....	182
第六十八號表	線路並施設物保修表.....	184
第六十九號表	枕木配置別線路延長表.....	200
第七十號表	枕木更換員數表.....	208
第七十一號表	燒損枕木取替員數保線區別月別表.....	212
第七十二號表	軌條重量別轉轍器及轍叉表.....	213
第七十三號表	軌條重量別線路延長表.....	214
第七十四號表	軌條及附屬品更換表.....	218
第七十五號表	線路補足砂利撒布表.....	228
第七十六號表ノ一	構桁ベイント塗抹年度別面積(平方米)表.....	230
第七十六號表ノ二	飯桁ベイント塗抹年度別面積(平方米)表.....	231
第七十六號表ノ三	工桁ベイント塗抹年度別面積(平方米)表.....	233
第七十七號表	軌道及橋梁用材使用高表.....	235
第七十八號表	保存主要工事成績一覽表.....	248
第七十九號表	補充主要工事成績一覽表.....	248
第八十號表	災害主要工事成績一覽表.....	250
第八十一號表	改良主要工事成績一覽表.....	250
第八十二號表	建設主要工事成績一覽表.....	254
第八十三號表	委託主要工事成績一覽表.....	258
第八十四號表	鳩丸運行成績表.....	258

經理

第八十五號表	營業收入累年表	259
第八十六號表	營業經費累年表	261
第八十七號表	建設及改良費並災害費線路別表	270
第八十八號表	工場勘定收支表	272
第八十九號表	貯藏品受拂表(品種別)	272
第八十九號表	貯藏品受拂表(倉庫別)	274

庶務

第九十號表	職員表	276
第九十一號表	現業從事員表	288
第九十二號表	職務死傷者表	297
第九十三號表	從事員賞罰人員表	297
第九十四號表	共濟組合人員表	298
第九十五號表	共濟掛金受入表	300
第九十六號表	共濟給與金一覽表	302
第九十七號表	試算表	304
第九十八號表	龍山鐵道醫院診療人員表	305
第九十九號表	龍山鐵道醫院各科別診療人員料金表	305
第百號表	全鮮病類別診療人員表	306
第百一號表	龍山鐵道醫院病類別診療表	312
第百二號表	鐵道從事員養成所生徒表	314
第百三號表	生徒本籍地訓表	314
第百四號表	鐵道從事員養成所生徒父兄職業別表	314
第百五號表	同 夜學部修了及卒業者員數表	314
第百六號表	同 卒業生員數表	315
第百七號表	同 生徒入退學及卒業人員表	315
第百八號表	同 應募人員並入所人員表	315
第百九號表	圖書館藏書表	316
第百十號表	圖書館成績表(館內閱覽)	316
第百十一號表	圖書館成績表(館外帶出)	318
第百十二號表	圖書館成績表(兒童圖書館)	318
第百十三號表	圖書館成績表(巡回文庫)	319

第百十四號表	圖書館成績表(家庭文庫)	319
第百十五號表	圖書館成績表(月賦圖書取次販賣)	320

私設鐵道

第一號表	朝鮮私設鐵道經營者一覽表	321
第二號表	私設鐵道總表	322
第三號表	私設鐵道客車成績表	326
第四號表	私設鐵道貨車成績表	328
第五號表	本年度中開業線路表、開業線動力別軌間別表、免許哩增減表	330
第六號表	車輛現在表	330
第七號表	政府補助金及利益金處分	331
第八號表	營業收支表	333
第九號表	私設鐵道建設費總表	332
第十號表	私設鐵道建設費區間別表	334
第十一號表	私設鐵道各線別運輸收入表	338
第十二號表	私設鐵道營業收入表	340
第十三號表	私設鐵道營業費表	341
第十四號表	機關車及列車並車輛走行哩表	342
第十五號表	運轉用燃料消費額表	344
第十六號表	運轉用油脂消費額表	345
第十七號表	私設鐵道月別運輸成績表	346
第十八號表	旅客貨物發著及通過表	352
第十九號表	主要貨物成績表	356
第二十號表	年度末現在貯藏物品表	368
第二十一號表	私設鐵道事故表	368
第二十二號表	私設鐵道死傷者表	369
第二十三號表	私設鐵道水害事故一覽表	370
第二十四號表	私設鐵道職員表	371
第二十五號表	軌道總表	372
第二十六號表	專用鐵道表	374

運

輸

鐵道總表

第一號表

種別	本年度	前年度	種別	本年度	前年度			
營業哩數	1,585.7	1,456.5	換算車輛走行哩	112,462,311.5	101,820,874.2			
線	軌條延長	3,340.7	轉運轉用石炭	339,413,726	281,762,309			
	橋梁延長	64,776.9	運轉用油	226,345.84	247,766.39			
	隧道延長	63,234.2	車					
	建物坪數	722,402.0	機關車	307	278			
路	用地坪數	80,643,256.32	客車	756	671			
			貨車	3,233	2,911			
			汽動車	2	3			
			電					
所	普通停車場	267	230	鐵道電報取撥譯所	271	232		
	簡易停車場	58	57	電報通數	6,428,602	5,301,223		
	荷拔所	1	1	通信線路延長	35,812,993	33,203.80		
	信號場	1	—	(變電機) 發電量	3,241,182	2,606,656		
	市內營業所	1	—	經	投資額	348,388,240	319,700,357	
	機關區	19	18		營業收入	58,479,297	57,284,572	
	列車區	5	5	營業費	46,977,220	46,661,655		
	保線區	25	23	理	損金	—	—	
	通信區	5	5		益金	11,502,077	10,622,917	
	建築工事係	5	5	工	建設費	14,411,820	14,709,378	
	改良工事係	0	1		改良費	3,550,578	3,131,982	
	建設工事係	13	7		災害費	1,170,087	948,336	
檢車區	5	4	保存費		4,809,487	5,029,743		
旅館	6	6	費	補充費	825,248	1,217,054		
構內食堂	1	1		用品資金	18,848,017	1,721,513		
營業倉庫	58	58	貯藏物品價格	2,798,109	1,872,620			
工場	3	3	品	工場半成品	164,191	29,710		
運	列車走行哩	7,727,135	6,681,401	從	人員	15,640	14,479	
	客車走行哩	32,756,090	27,322,903		給料月額	1,017,017	963,766	
	貨車走行哩	59,315,386	54,677,395	共	組合員	內	7,228	6,616
	旅客人員	22,284,840	20,058,401			計	6,475	5,885
	延人哩	745,291,627	666,456,124			收入	13,703	12,501
	貨物噸數	5,886,919	5,569,777	收	入	734,203	651,077.79	
	延噸哩	766,978,131	720,514,620		支	194,887	123,266	
旅客收入	19,377,426	17,496,821	濟	責任準備金	2,053,572	1,514,257		
貨物收入	19,995,943	18,866,728						
收入合計	39,373,369	36,363,549						
運	機關車走行	13,588,696.1	12,236,632.5					

運輸

第二號表

種別	線					慶全		
	京釜線	京義線	湖南線	京元線	咸鏡線	慶全 慶北線		
營業	337.6	374.0	176.5	138.9	398.7	15.5		
	123,224.0	136,510.0	64,422.5	50,622.0	142,236.9	5,657.5		
平均營業	337.6	374.0	176.5	138.7	389.7	15.5		
列車	旅客	704,774	704,786	373,418	203,352	432,710	198	
	貨物	678,230	1,094,434	13,244	233,882	311,870	8,227	
	混合	709,737	459,196	317,976	157,111	488,509	67,870	
	汽動	—	2,221	—	—	—	—	
	ガソリン	—	—	—	—	—	—	
計	2,437,741	2,260,637	704,638	594,345	1,233,089	76,295		
一日平均列車	6,678.7	6,193.5	1,930.5	1,628.3	3,378.3	209.0		
一日平均列車回数	19.8	16.6	10.9	11.7	8.7	13.5		
一列車平均連結車數	旅客列車	客車	8.4	7.9	4.8	7.0	6.0	7.5
		貨物	.1	.2	2.3	1.9	.4	—
	計	8.5	8.2	7.0	9.0	6.4	7.5	
	貨物列車	客車	1.5	1.2	.1	1.5	2.2	1
貨物		15.1	21.3	11.0	11.2	9.3	9.7	
計	16.6	22.4	11.1	12.6	11.5	9.8		
混合列車	客車	3.8	3.3	3.1	3.2	3.3	6.2	
	貨物	7.3	10.0	6.8	12.4	6.5	5.2	
計	11.1	13.3	9.9	15.6	9.8	11.4		
客車	旅客列車連結	8,867,231	5,582,765	1,779,163	1,431,106	2,607,936	1,485	
	混合列車連結	2,727,715	1,495,907	988,440	508,130	1,611,616	420,329	
	貨物列車連結	1,024,715	1,304,524	1,163	340,783	689,890	776	
	汽動	—	8,868	—	—	—	—	
	ガソリン	—	—	—	—	—	—	
計	12,619,661	8,392,064	2,768,766	2,280,019	4,909,442	422,590		
貨車	貨物列車連結	10,207,539	23,258,048	145,592	2,615,359	2,886,280	79,741	
	混合列車連結	5,163,173	4,609,717	2,159,176	1,950,569	3,180,488	354,881	
	旅客列車連結	80,968	175,720	840,683	394,093	159,128	—	
	計	15,451,680	28,043,485	3,145,451	4,960,021	6,225,896	434,622	
合	28,071,341	36,435,549	5,914,217	7,240,040	11,135,338	857,212		
一日平均客車	34,574	22,992	7,586	6,247	13,451	1,158		
一日平均貨車	42,333	76,831	8,618	13,589	17,057	1,191		
收入	旅客收入	8,669,308	4,433,205	1,836,242	1,353,495	2,470,957	167,416	
	貨物收入	6,350,364	8,345,789	1,222,745	1,608,244	2,176,700	83,977	
	計	15,019,672	12,778,994	3,058,987	2,961,739	4,647,657	251,393	
一日平均收入	41,149.79	35,010.94	8,380.79	8,114.35	12,733.31	688.75		
一哩平均收入	44,489.55	34,168.43	17,331.37	21,353.56	11,926.24	16,218.90		
一日一哩平均收入	121.89	93.61	47.48	58.51	32.68	44.44		
列車一哩平均收入	6.16	5.65	4.34	4.98	3.77	3.30		

備考 一、收入へ連帶運輸係係モノヲ分割加除シ諸拂戻金(過課納拂戻金)ヲ控除セリ  
 一、大正十二年十月一日ヨリ貨物運賃改正ノ結果貨率中ニ發着手数料ヲ包括セシムル事トナリシ爲  
 一、列車哩中汽動車哩ハ四輛ガソリン動車哩ハ一輛ヲ以テ一列車ニ換算セリ  
 一、各平均數ハ各別ニ四捨五入セシムル計ニ符合セサルモノアリ以下諸表亦同シ  
 一、一日平均ハ計算方法ヲ改正シ曆日數ヲ以テ除スル事ニ改メタルヲ以テ十四年度以前ノ年報面ト  
 一、東海線ハ七月一日買収、咸鏡線ハ九月一日全通セリ

成績表

線	東海線		平元線		合計	二年度	元年度	十四年度	十三年度	十二年度
	光州線	慶北線	慶北線	慶北線						
22.7	92.5	29.3	1,585.7	1,456.5	1,341.6	1,309.1	1,300.3	1,189.0	1,189.0	
8,285.5	25,345.0	7,975.9	564,279.3	506,441.2	481,970.2	475,938.3	453,128.6	433,156.2	433,156.2	
22.7	92.5	21.9	1,546.0	1,383.7	1,320.5	1,303.9	1,241.4	1,183.5	1,183.5	
34,162	42,635	—	2,841,035	2,450,202	2,252,877	2,110,418	2,080,760	2,073,104	2,073,104	
599	1,460	16	2,341,962	2,190,852	2,107,155	1,886,277	1,834,476	2,172,583	2,172,583	
56,511	216,127	63,806	2,536,843	2,037,383	1,779,988	1,674,184	1,612,912	1,547,036	1,547,036	
—	—	—	2,221	2,964	2,956	—	—	9,310	9,310	
—	5,074	—	5,074	—	—	—	—	—	—	
91,272	265,296	63,822	7,727,135	6,681,401	6,142,976	5,673,836	5,528,148	5,802,033	5,802,033	
250.1	968.2	174.9	21,170.2	18,255.2	16,830.1	15,544.8	15,145.6	15,852.5	15,852.5	
11.0	10.5	8.0	13.7	13.2	12.7	11.9	12.2	13.4	13.4	
3.0	4.4	—	7.2	7.2	7.1	7.0	7.1	7.3	7.3	
.6	—	—	.6	1.2	1.3	1.0	.9	.9	.9	
3.6	4.4	—	7.8	8.4	8.4	8.0	8.0	8.1	8.1	
—	.4	—	1.4	1.2	1.2	1.3	1.4	1.0	1.0	
6.0	11.8	17.5	16.7	16.9	16.4	15.9	15.6	15.7	15.7	
6.0	12.2	17.5	18.2	18.1	17.7	17.2	17.0	16.7	16.7	
3.0	3.2	2.7	3.5	3.5	3.3	3.3	3.3	3.6	3.6	
1.5	4.0	1.0	7.3	7.2	7.9	7.4	7.2	8.0	8.0	
4.5	7.2	3.7	10.7	10.7	11.2	10.7	10.6	11.6	11.6	
101,591	187,604	—	20,558,881	17,536,333	15,982,181	14,761,755	14,756,574	15,091,964	15,091,964	
168,059	685,188	169,749	8,775,133	7,082,335	5,922,867	5,557,591	5,378,108	5,569,373	5,569,373	
—	65	—	3,362,506	2,692,379	2,628,922	2,407,023	2,554,191	2,266,800	2,266,800	
—	—	—	8,868	11,856	11,822	11,822	—	37,236	37,236	
—	50,702	—	50,702	—	—	—	—	—	—	
269,650	924,149	169,749	32,756,090	27,322,903	24,545,792	22,738,191	22,688,873	22,965,373	22,965,373	
3,591	17,163	280	39,213,593	36,993,824	34,616,386	30,007,604	28,568,821	34,113,050	34,113,050	
83,548	862,863	63,432	18,427,847	14,705,690	13,986,933	12,425,718	11,685,951	12,341,134	12,341,134	
21,651	1,703	—	1,673,946	2,977,881	2,966,146	2,129,105	1,874,498	1,786,516	1,786,516	
108,790	881,729	63,712	59,315,386	54,677,395	51,569,465	44,562,427	42,129,270	48,240,700	48,240,700	
378,440	1,805,878	233,461	92,071,476	82,000,298	76,115,257	67,300,618	64,818,143	71,206,073	71,206,073	
739	3,373	465	89,743	74,653	67,249	62,296	62,161	62,747	62,747	
298	3,218	175	162,508	149,392	141,286	122,089	115,423	131,805	131,805	
129,047	266,643	51,113	19,377,426	17,496,821	16,414,789	15,298,879	14,935,945	15,155,938	15,155,938	
55,484	125,349	27,291	19,995,943	18,866,728	17,396,057	15,409,943	14,091,921	15,215,170	15,215,170	
184,531	391,992	78,404	39,373,369	36,363,549	33,810,846	30,708,822	29,027,866	30,371,108	30,371,108	
505.56	1,430.63	214.81	107,872.24	99,353.96	92,632.45	84,133.76	79,528.40	82,981.17	82,981.17	
8,129.12	4,237.75	3,580.09	25,467.90	26,279.94	25,604.58	23,551.52	23,383.17	25,662.11	25,662.11	
22.27	15.47	9.83	69.78	71.80	70.15	64.52	64.06	70.12	70.12	
2.02	1.48	1.23	5.10	5.44	5.50	5.41	5.25	5.23	5.23	

十二年度分ハ發着手数料ヲ貨物收入ニ加算通覽ニ便セリ

符合セス

第三號表 (其一)

客 車

種 別	京 釜 線	京 義 線	湖 南 線	京 元 線	成 鏡 線	慶 全 線	
						慶 全 北 部 線	光 州 線
營 業 哩	336.6	374.0	176.1	138.9	398.7	15.5	22.7
延 日 哩	122,859.0	136,510.0	64,276.5	50,622.0	142,236.9	5,657.5	8,285.5
平 均 營 業 哩	336.6	374.0	176.1	138.7	389.7	15.5	22.7
列 車 哩	1,348,499	862,109	357,715	220,402	650,552	37,230	65,957
客 車 哩	12,619,661	8,392,064	2,768,766	2,280,019	4,909,442	422,590	269,650
客 車 座 席 人 哩	630,059,037	440,261,646	150,755,692	126,857,908	262,986,957	14,818,568	15,978,620
客 車 利 用 率	494	412	486	435	377	446	401
一 日 一 哩 平 均 通 過 車 輛	102.7	—	43.1	45.0	34.5	74.7	32.5
延 日 客 車 數	—	—	—	—	—	—	—
一 車 一 日 平 均 哩	—	—	—	—	—	—	—
旅 客 人 員	一 等	5,935	3,716	—	—	—	—
	二 等	136,250	58,238	33,795	21,949	42,231	11,738
	三 等	8,112,489	5,198,455	3,092,240	1,387,125	3,631,537	697,758
	計	8,254,674	5,260,409	3,126,035	1,409,074	3,673,768	709,496
一 日 平 均 人 員	22,616	14,412	8,564	3,860	10,065	1,944	1,864
延 人 哩	一 等	1,270,444	959,997	—	—	—	—
	二 等	15,271,588	8,375,253	2,016,652	2,492,518	3,164,966	128,355
	三 等	294,393,472	171,838,889	71,232,957	52,640,528	95,979,697	6,473,779
	計	310,935,504	181,174,139	73,249,609	55,133,046	99,144,663	6,602,134
一 人 平 均 哩	一 等	214.1	258.3	—	—	—	—
	二 等	112.1	143.8	59.7	113.6	74.9	10.9
	三 等	36.3	33.1	23.0	37.9	26.4	9.3
	計	37.7	34.4	23.4	39.1	27.0	9.3
一 哩 平 均 人 員	923,754	484,423	415,955	397,499	254,413	425,944	282,306
一 日 一 哩 平 均 人 員	2,531	1,327	1,140	1,089	697	1,167	773
一 列 車 平 均 人 員	230.6	210.2	204.8	250.1	152.4	177.3	97.2
一 車 平 均 人 員	24.6	21.6	26.5	24.2	20.2	15.6	23.8

成 績 表

東 海 線	平 元 線	合 計	二 年 度	元 年 度	十 四 年 度	十 三 年 度	十 二 年 度
92.5	29.3	1,584.3	1,455.1	1,340.2	1,307.7	1,298.9	1,186.5
25,345.0	7,975.9	563,768.3	505,928.8	481,459.2	475,427.3	452,550.5	432,241.2
925	21.9	1,544.6	1,382.3	1,319.1	13,025	1,239.9	1,181.0
143,862	45,116	3,731,442	2,972,208	2,640,632	2,566,956	2,568,644	2,533,740
924,149	169,749	32,756,090	27,322,903	24,545,792	22,738,191	22,688,873	22,965,373
29,477,897	11,012,492	1,682,208,817	1,362,656,721	1,257,049,154	1,190,155,406	1,168,513,090	1,223,296,509
358	189	443	489	502	499	486	464
36.5	21.3	58.1	54.0	51.0	47.8	50.1	53.1
—	—	241,402	211,256	198,343	192,929	182,404	160,386
—	—	135.7	129.3	123.8	117.9	124.4	143.2
—	—	7,052	7,095	8,461	9,574	9,319	10,519
2,470	768	246,304	241,961	231,696	227,236	251,683	312,088
667,718	154,508	22,031,484	19,809,345	18,217,320	18,004,252	17,226,872	16,437,876
670,188	155,276	22,284,840	20,058,401	18,457,477	18,241,062	17,487,874	16,760,483
2,446	425	61,054	54,804	50,568	49,976	47,912	45,794
—	—	2,230,441	2,200,220	2,164,664	2,675,100	2,961,025	3,263,371
70,062	15,481	31,586,625	29,207,513	28,714,684	27,529,297	28,424,986	32,018,384
10,488,185	2,070,461	711,474,561	635,048,391	600,002,406	563,097,828	536,695,205	532,038,371
10,558,247	2,085,942	745,291,627	666,456,124	630,881,754	593,302,225	568,081,216	567,320,126
—	—	316.3	310.1	255.8	279.4	317.7	310.2
28.4	20.2	128.2	120.7	123.9	121.1	112.9	102.6
15.7	13.4	32.3	32.1	32.9	31.3	31.2	32.4
15.8	13.4	33.4	33.2	34.2	32.5	32.5	33.8
114,143	95,248	482,514	482,136	478,267	455,510	458,167	480,373
417	262	1,322	1,317	1,310	1,248	1,255	1,313
73.4	46.2	199.7	224.2	238.9	231.1	221.2	223.9
11.4	12.3	22.8	24.4	25.7	26.1	25.0	24.7

第三號表 (其二)

客 車

種 別	全 線						慶 全 線	
	京 釜 線	京 義 線	湖 南 線	京 元 線	咸 鏡 線	慶 全 北 部 線	光 州 線	
旅 客 收 入	一 等	78,707	63,545	—	—	—	—	—
	二 等	606,370	297,737	82,016	82,961	111,178	5,639	3,252
	三 等	6,446,746	3,477,426	1,609,188	1,112,668	2,205,408	150,501	114,789
	計	7,131,823	3,838,708	1,691,204	1,195,629	2,316,586	156,140	118,041
	急 行 料 金	197,083	84,466	—	—	—	—	—
	寢 臺 料 金	201,686	87,746	6,320	25,523	7,852	—	—
	手 小 荷 物	896,241	334,380	99,274	95,526	89,873	8,999	8,291
	郵 便 物 運 賃	122,111	56,320	25,974	30,299	38,722	868	803
	入 場 料	75,300	21,822	9,208	4,170	10,433	947	1,393
	雜 收	45,064	9,763	4,262	2,348	7,491	462	519
合 計	8,669,308	4,433,205	1,836,242	1,353,495	2,470,957	167,416	129,047	
一 日 平 均 收 入	23,751.53	12,145.77	5,030.80	3,708.21	6,769.75	458.67	353.00	
一 哩 平 均 收 入	25,755.52	11,853.49	10,427.27	9,758.44	6,340.66	10,801.03	5,684.89	
一 日 一 哩 平 均 收 入	70.56	32.48	28.57	26.74	17.37	29.59	15.58	
列 車 一 哩 平 均 收 入	6.43	5.14	5.13	6.14	3.80	4.50	1.96	
客 車 一 哩 平 均 收 入	687	528	663	594	503	396	479	
一 車 一 日 平 均 收 入	—	—	—	—	—	—	—	
一 人 平 均 運 賃	一 等	13.26	17.10	—	—	—	—	—
	二 等	4.45	5.11	2.43	3.78	2.63	.48	.62
	三 等	.79	.67	.52	.80	.61	.22	.17
	計	.86	.73	.54	.85	.63	.22	.17
一 人 一 哩 平 均 運 賃	一 等	620	662	—	—	—	—	—
	二 等	397	355	407	333	351	439	628
	三 等	219	202	226	211	230	232	181
	計	229	212	231	217	234	236	184
手 小 荷 物 斤 數	小 荷 物	—	—	—	—	—	—	—
	手 荷 物	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—	—
一 日 平 均 手 小 荷 物 斤 數	—	—	—	—	—	—	—	

備考 一、列車哩ハ通結セル客貨車走行哩ノ比ニ分割セルモノヲ計上セリ貨車成績表亦同シ  
 二、旅客人員ハ二線以上通シテ輸送シタルモノハ各線ニ於テ各別ニ計上セルヲ以テ之ヲ集計スルモ

成 績 表

東 海 線	平 元 線	合 計	二 年 度	元 年 度	十 四 年 度	十 三 年 度	十 二 年 度
—	—	142,252	143,123	128,346	150,088	172,777	192,611
2,706	574	1,192,433	1,141,564	1,118,699	1,072,941	1,103,885	1,254,484
242,913	49,066	15,408,705	13,861,445	13,062,801	12,013,988	11,673,378	11,618,572
245,619	49,640	16,743,390	15,146,132	14,309,846	13,237,017	12,950,040	13,065,667
—	—	281,549	269,774	275,771	293,216	267,244	310,623
—	—	329,127	272,536	214,986	167,803	148,257	146,341
19,136	970	1,552,690	1,398,519	1,299,198	1,293,768	1,263,627	1,328,786
1,280	359	276,736	238,962	220,725	220,882	224,233	221,725
383	89	123,745	102,974	94,263	86,193	82,544	82,796
225	55	70,189	67,924	—	—	—	—
266,643	51,113	19,377,426	17,496,821	16,414,789	15,298,879	14,935,945	15,155,938
973.15	140.04	53,088.84	47,805.52	44,972.02	41,914.74	40,920.40	41,049.67
2,882.63	2,333.93	12,545.27	12,657.76	12,443.93	11,745.78	12,046.09	12,833.14
10.52	6.41	34.37	34.58	34.09	32.18	33.00	35.06
1.85	1.13	5.19	5.89	6.22	5.96	5.81	5.98
289	301	592	640	669	673	658	660
—	—	80.27	82.82	82.76	79.30	81.88	94.50
—	—	20.17	20.17	15.17	15.68	18.54	18.31
1.10	.75	4.84	4.72	4.83	4.72	4.39	4.02
.36	.32	.70	.70	.72	.67	.68	.71
.37	.32	.75	.76	.78	.73	.74	.78
—	—	638	650	593	561	584	590
386	371	378	391	390	390	388	392
232	237	217	218	218	213	218	218
233	238	225	227	227	223	228	230
—	—	59,433,440	53,339,539	50,558,099	51,079,449	50,858,265	51,767,036
—	—	4,685,924	4,472,011	3,668,199	3,467,396	3,742,664	4,282,696
—	—	64,119,364	57,811,550	54,226,298	54,546,845	54,600,929	56,049,732
—	—	175,669	157,955	148,565	150,019	156,719	153,856

合計ニ符合セス以下諸表亦同シ

貨 車

第四號表 (其一)

種 別	京釜線	京義線	湖南線	京元線	咸鏡線	慶 全 線			
						慶全北部線	光州線		
營業哩	337.6	374.0	176.5	138.9	398.7	15.5	22.7		
延日	123,224.0	136,510.0	64,422.5	50,622.0	142,236.9	5,657.5	8,285.5		
平均營業哩	337.6	374.0	176.5	138.7	389.7	15.5	22.7		
列車	1,089,242	1,398,528	346,923	373,943	582,537	39,065	25,315		
車輛走行哩	積車	上	6,351,047	12,892,294	832,837	1,636,817	1,995,662	140,079	31,059
		下	5,607,364	4,815,829	1,455,175	1,935,541	2,156,539	204,764	50,417
		計	11,958,411	17,708,123	2,288,012	3,572,358	4,152,201	344,843	81,476
	空車	上	1,370,331	986,608	740,144	858,764	1,103,574	77,388	23,217
		下	2,122,938	9,348,754	117,295	528,699	970,121	12,391	4,097
		計	3,493,269	10,335,362	857,439	1,387,663	2,073,695	89,779	27,314
合計	15,451,680	28,043,485	3,145,451	4,960,021	6,225,896	434,622	108,790		
車輛走行百哩ニ對スル空車走行哩	上	18	7	47	34	36	36	43	
	下	27	66	7	21	31	6	8	
	計	23	37	27	28	33	21	25	
貨車容量噸哩	415,650,191	754,369,747	84,612,634	133,424,566	167,476,605	2,138,011	2,926,451		
貨車利用率	478	514	401	494	447	637	349		
一日一哩平均通過車輛	125.4	205.4	48.8	98.0	43.8	76.8	13.1		
延日貨車數	—	—	—	—	—	—	—		
一車一日平均哩	—	—	—	—	—	—	—		
貨物噸數	車扱	2,269,163	2,517,292	533,815	651,928	987,940	88,153	58,454	
	小口扱	426,236	236,239	112,485	81,873	117,311	19,048	16,033	
	計	2,695,399	2,753,531	646,300	733,801	1,105,251	107,201	74,487	
一日平均噸數	7,385	7,544	1,771	2,010	3,028	294	204		
延噸哩	車扱	153,688,872	357,094,165	28,353,297	58,374,414	66,923,223	1,101,447	802,730	
	小口扱	45,027,336	30,934,002	5,604,330	7,590,758	7,926,176	261,389	219,627	
	計	198,716,208	388,028,167	33,957,627	65,965,172	74,849,399	1,362,836	1,022,357	
方向別延噸哩	上	119,860,842	319,306,900	10,366,130	26,169,456	36,201,632	560,659	443,807	
	下	78,855,366	68,721,267	23,591,497	39,795,716	38,647,767	802,177	578,550	
一噸平均哩	車扱	67.7	141.9	53.1	89.5	67.7	12.5	13.7	
	小口扱	105.6	130.9	49.8	92.7	67.6	13.7	13.7	
	計	73.7	140.9	52.5	89.9	67.7	12.7	13.7	

成 績 表

東海線	平元線	合 計	二 年 度	元 年 度	十 四 年 度	十 三 年 度	十 二 年 度
92.5	29.3	1,585.7	1,456.5	1,341.6	1,309.1	1,300.3	1,189.0
25,345.0	7,975.9	564,279.3	506,441.2	481,970.2	475,938.3	453,128.6	433,156.2
92.5	21.9	1,546.0	1,383.7	1,320.5	1,303.9	1,241.4	1,183.5
121,434	18,706	3,995,693	3,709,193	3,502,344	3,106,880	2,959,504	3,268,293
351,469	15,641	24,246,905	23,608,354	22,983,191	19,882,783	18,993,507	21,858,946
327,585	27,099	16,580,313	13,847,484	12,473,117	11,019,327	9,773,062	10,917,865
679,054	42,740	40,827,218	37,455,838	35,456,308	30,902,110	28,766,569	32,776,811
84,367	16,200	5,260,593	3,874,503	2,912,675	2,522,059	2,072,782	2,193,420
118,308	4,772	13,227,575	13,347,054	13,200,482	11,138,258	11,289,919	13,270,469
202,675	20,972	18,488,168	17,221,557	16,113,157	13,660,317	13,362,701	15,463,889
881,729	63,712	59,315,386	54,677,395	51,569,465	44,562,427	42,129,270	48,240,700
19	51	18	14	11	11	10	9
27	15	44	49	51	50	54	55
23	33	31	31	31	31	32	32
4,408,645	1,713,850	1,566,720,700	1,409,073,907	1,294,393,573	1,118,516,918	1,057,444,677	1,210,841,570
541	402	490	511	527	523	519	492
34.8	8.0	105.1	108.0	107.0	93.6	93.0	111.4
—	—	1,172,391	1,051,154	983,131	976,723	985,214	965,666
—	—	50.6	52.0	52.5	45.6	42.8	50.0
57,231	30,988	5,112,595	4,820,265	4,312,990	3,649,196	3,218,048	3,672,786
13,975	4,076	774,324	749,509	714,106	648,070	576,289	564,397
71,206	35,064	5,886,919	5,569,774	5,027,096	4,297,266	3,794,337	4,237,183
260	96	16,129	15,218	13,773	11,773	10,395	11,577
1,803,255	608,076	668,749,479	634,429,875	602,761,881	505,292,747	482,738,025	531,549,989
583,977	81,057	98,228,652	86,084,745	79,918,906	79,420,642	65,828,487	64,625,543
2,387,232	689,133	766,978,131	720,514,620	682,680,787	584,713,389	548,566,512	596,175,532
1,334,202	201,117	514,444,745	508,999,681	796,875,755	421,230,991	405,902,989	444,911,765
1,053,030	488,016	252,533,386	211,514,939	185,805,032	163,482,398	142,663,523	151,263,767
31.5	19.6	130.8	131.6	139.8	138.5	150.0	144.7
41.8	19.9	126.9	114.9	111.9	122.5	114.2	114.5
33.5	19.7	130.3	129.4	135.8	136.1	144.6	140.7



貨 車

第四號表 (其二)

種 別	京釜線	京義線	湖南線	京元線	咸鏡線	慶 全 線		
						慶全北部線	光州線	
一哩平均噸數	588,614	1,037,508	192,394	475,596	192,069	87,925	45,038	
一日一哩平均噸數	1,613	2,842	52.7	1,303	526	241	123	
一列車平均噸數	182.4	277.5	97.9	176.4	128.5	34.9	40.4	
車輛走行一哩平均貨物噸數	上リ	15.5	23.0	6.6	10.5	11.7	2.6	8.2
	下リ	10.2	4.9	15.0	16.1	12.4	3.7	10.6
	計	12.9	13.8	10.8	13.3	12.0	3.1	9.4
積車走行一哩平均貨物噸數	上リ	18.9	24.8	12.4	16.0	18.1	4.0	14.3
	下リ	14.1	14.3	16.2	20.6	17.9	3.9	11.5
	計	16.6	21.9	14.8	18.5	18.0	4.0	12.5
貨物收入	車扱運賃	3,703,158	6,821,813	763,958	1,125,235	1,562,101	45,031	32,806
	小口扱運賃	2,520,989	1,420,380	433,370	468,194	563,166	27,106	21,356
	雜收	126,217	103,596	25,417	14,815	51,433	11,840	1,322
	計	6,350,364	8,345,789	1,222,745	1,608,244	2,176,700	83,977	55,484
	發著手数料	—	—	—	—	—	—	—
合計	6,350,364	8,345,789	1,222,745	1,608,244	2,176,700	83,977	55,484	
一日平均收入	17,398.26	22,865.18	3,349.99	4,406.15	5,963.56	230.07	152.01	
一哩平均收入	18,810.32	22,314.94	6,927.73	11,595.13	5,585.58	5,417.87	2,444.23	
一日一哩平均收入	51.54	61.14	18.98	31.77	15.30	14.84	6.70	
列車一哩平均收入	5.83	5.97	3.52	4.30	3.74	2.15	2.19	
貨車一哩平均收入	411	298	389	324	350	193	510	
積車一哩平均收入	531	471	534	450	524	244	681	
一車一日平均收入	—	—	—	—	—	—	—	
一噸平均運賃	車扱	1.63	2.71	1.43	1.73	1.58	.51	.56
	小口扱	5.91	6.01	3.85	5.72	4.80	1.42	1.33
	計	2.31	2.99	1.85	2.17	1.92	.67	.73
一噸一哩平均運賃	車扱	241	191	269	193	233	409	409
	小口扱	560	459	773	617	711	1,037	972
	計	313	212	353	242	284	529	530

備考 一、大正十二年七月一日ヨリ列車及線路方向稱呼改正ノ結果十二年度ノ貨車哩、貨車走行百哩ニ對ス計上セリ

一、大正十二年度分一噸平均運賃及一噸一哩平均運賃計兩上段ハ發著手数料ヲ加算セシモノヲ示ス  
 一、貨物噸數ハ二線以上通シテ輸送シタルモノハ各線ニ於テ各別ニ計算セルヲ以テ之ヲ集計スルモ合

成 績 表

東海線	平元線	合計	二年度	元年度	十四年度	十三年度	十二年度
25,808	31,467	496,105	520,716	516,987	448,434	441,893	503,739
94	86	1,359	1,423	1,416	1,229	1,211	1,376
19.7	36.8	192.0	194.3	194.9	188.2	185.4	182.4
3.1	6.3	17.4	18.5	19.2	18.8	19.3	18.5
2.4	15.3	8.5	7.8	7.2	7.4	6.8	6.2
2.7	10.8	12.9	13.2	13.2	13.1	13.0	12.4
3.8	12.9	21.2	21.6	21.6	21.2	21.4	20.4
3.2	18.0	15.2	15.3	14.9	14.8	14.6	13.8
3.5	16.1	18.8	19.2	19.3	18.9	19.1	18.2
69,395	19,669	14,143,166	13,532,430	12,666,338	11,020,165	10,149,909	10,845,279
52,971	7,139	5,514,671	5,018,772	4,729,719	4,389,778	3,942,012	3,643,020
2,983	483	338,106	315,526	—	—	—	—
125,439	27,291	19,995,943	18,866,728	17,396,057	15,409,943	14,091,921	14,488,299
—	—	—	—	—	—	—	726,871
125,349	27,291	19,995,943	18,866,728	17,396,057	15,409,943	14,091,921	15,215,170
457.48	74.77	54,783.41	51,548.44	47,660.43	42,219.02	38,608.00	41,571.50
1,355.12	1,246.16	12,933.99	13,634.98	13,173.84	11,818.35	11,351.64	12,856.08
4.95	3.42	35.44	37.25	36.09	32.38	31.10	35.13
1.03	1.46	5.00	5.09	4.97	4.96	4.76	4.66
142	428	337	345	337	346	334	315
185	639	490	504	491	499	490	464
—	—	17.06	17.95	17.69	15.78	14.30	15.76
1.21	.63	2.77	2.81	2.94	3.02	3.15	2.95
3.79	1.75	7.12	6.70	6.62	6.77	6.84	6.45
1.72	.76	3.34	3.33	3.46	3.59	3.71	3.42
385	323	211	213	210	218	210	204
907	881	561	583	592	553	599	564
513	389	256	257	255	264	257	243

ル空車走行哩、貨車走行一哩平均貨物噸數、積車走行一哩平均貨物噸數及方向別延噸哩ハ改正方向ニ依リ

計ニ符合セス以下諸表同シ

旅客貨物運輸

第五號表

種 別		一 等	二 等	三 等
人	五 一 二 三	1,146	113,790	19,126,944
	十 百 百	363	39,320	1,528,803
	哩 哩 哩	615	32,254	696,688
	迄 迄 迄	1,912	34,621	399,147
員	四 五 六 七	483	7,874	109,429
	百 百 百	220	6,106	76,493
	哩 哩 哩	2,313	11,209	83,173
	超 ユ ル モ ノ	—	152	3,613
延 人	五 一 二 三	26,417	2,290,718	280,140,819
	十 百 百	27,952	2,672,027	103,051,354
	哩 哩 哩	89,305	4,990,353	101,353,835
	迄 迄 迄	524,003	9,104,822	101,113,249
員	四 五 六 七	150,693	2,522,528	35,929,313
	百 百 百	98,768	2,757,263	34,370,610
	哩 哩 哩	1,313,303	6,440,864	47,739,012
	超 ユ ル モ ノ	—	99,066	2,296,806
合 計	合	7,052	246,304	22,031,484
	合	2,230,441	31,586,625	711,474,561

旅客貨物運輸

貨

種 別		車 扱	小 口 扱
噸	二 一 二 三	823,979	115,036
	十 百 百	2,329,124	408,385
	哩 哩 哩	855,096	88,744
	迄 迄 迄	261,193	68,363
數	四 五 六 七	431,117	21,504
	百 百 百	237,348	21,640
	哩 哩 哩	137,826	49,245
	超 ユ ル モ ノ	22,156	907
延 噸	二 一 二 三	7,974,677	1,427,831
	十 百 百	116,596,656	19,410,140
	哩 哩 哩	127,413,268	13,110,733
	迄 迄 迄	62,981,119	17,451,938
哩	四 五 六 七	145,826,544	7,259,150
	百 百 百	106,836,337	9,736,600
	哩 哩 哩	75,392,432	28,962,390
	超 ユ ル モ ノ	14,119,458	589,004
合 計	合	668,749,479	98,228,652

哩別成績表

客

合 計	二 年 度	元 年 度	十 四 年 度	十 三 年 度	十 二 年 度
19,241,880	17,254,025	15,801,422	15,802,819	15,120,792	14,356,414
1,568,491	1,469,903	1,378,950	1,282,178	1,273,145	1,279,131
729,557	680,799	638,041	574,993	544,758	559,381
435,680	402,261	405,780	359,222	342,409	359,531
117,786	95,099	87,743	85,569	78,159	75,441
82,819	74,240	67,887	61,024	62,532	64,679
96,695	82,074	77,654	75,257	66,079	65,906
3,765	—	—	—	—	—
8,167	—	—	—	—	—
22,284,840	20,058,401	18,457,477	18,241,062	17,487,874	16,760,483
282,457,954	256,416,386	241,933,819	233,354,993	226,119,537	217,421,927
105,751,333	98,230,824	93,190,001	87,083,806	85,797,641	87,001,010
106,433,493	98,995,999	91,711,113	82,462,170	77,751,445	81,084,192
110,742,074	100,810,058	99,980,366	90,884,608	85,895,842	89,403,860
38,602,534	31,089,962	28,712,441	27,927,281	25,463,330	24,613,902
37,226,641	33,179,790	30,159,853	27,741,438	28,504,526	29,133,123
55,493,179	47,733,105	45,194,161	43,847,929	38,548,695	38,662,112
6,188,547	—	—	—	—	—
745,291,627	666,456,124	630,881,754	593,302,225	568,081,216	567,320,126

哩別成績表

物

合 計	二 年 度	元 年 度	十 四 年 度	十 三 年 度	十 二 年 度
939,015	876,271	682,757	574,641	507,620	619,472
2,737,509	2,613,773	2,350,710	2,005,614	1,690,625	1,939,907
943,840	872,826	802,386	697,140	591,092	634,861
329,556	293,394	321,690	297,349	272,274	252,543
452,621	476,613	461,987	371,797	385,683	377,339
258,988	240,002	227,183	182,979	179,905	187,664
187,071	196,895	180,383	167,746	167,138	225,397
23,063	—	—	—	—	—
15,256	—	—	—	—	—
5,886,919	5,569,774	5,027,096	4,297,266	3,794,337	4,237,183
9,402,508	9,565,906	7,533,553	6,870,940	5,805,565	7,294,110
136,006,796	129,116,003	117,599,218	100,191,084	83,664,527	96,334,527
140,524,001	130,320,961	119,348,782	104,622,358	89,569,333	93,924,985
80,433,057	72,134,519	79,103,172	72,678,387	67,127,814	62,388,746
153,085,694	160,758,611	155,528,350	124,498,024	128,121,030	124,162,308
116,572,937	108,652,796	102,730,550	81,782,086	81,162,760	84,174,355
104,254,822	109,965,824	100,837,162	94,070,510	93,115,483	127,896,501
14,708,462	—	—	—	—	—
11,989,854	—	—	—	—	—
766,978,131	720,514,620	682,680,787	584,713,389	548,566,512	596,175,532

連 帶

第六號表 (其一)

種 別	旅 客					人 員					手 荷 物	
	一 等	二 等	三 等	合 計	二 年 度	元 年 度	十 年 四 度	十 年 三 度	十 年 二 度	小 荷 物	手 荷 物	
鐵 道 省 著	941	14,855	177,588	193,384	182,850	162,731	159,618	199,377	162,139	4,523,794	791,520	
南 滿 洲 鐵 道 著	146	1,240	26,501	28,787	28,592	31,043	32,949	23,008	23,173	3,060,558	68,829	
中 華 鐵 道 著	5	2	6	13	127	107	108	198	219	—	20	
露 華 鐵 道 著	16	53	113	182	177	179	167	122	101	—	1,032	
亞 細 亞 鐵 道 著	4	8	3	15	5	—	—	—	—	—	—	
吉 長 鐵 道 著	—	1	18	19	5	47	3	7	6	—	—	
四 洮 鐵 道 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
朝 鮮 京 南 鐵 道 著	—	1,101	45,751	46,852	38,604	33,454	28,551	27,248	27,813	389,597	30,308	
朝 鮮 鐵 道 著	—	1,624	103,334	104,958	146,823	158,666	125,328	94,902	94,453	1,438,480	78,418	
全 北 鐵 道 著	—	—	—	—	27,659	59,414	53,845	51,486	55,673	—	—	
川 鐵 道 著	—	11	14,940	14,951	16,397	15,002	12,858	12,782	12,654	107,351	8,685	
圖 們 鐵 道 著	—	200	11,921	12,121	26,727	23,005	13,523	13,509	7,359	83,661	8,504	
金 剛 山 電 氣 鐵 道 著	—	139	12,759	12,898	11,125	10,660	8,466	3,028	—	67,282	6,963	
成 平 軌 道 著	—	14	413	427	—	—	—	—	—	2,630	565	
朝 鮮 郵 船 著	—	260	1,142	1,402	2,032	2,799	1,715	1,740	1,504	1,295	1,918	
朝 鮮 汽 船 著	—	—	—	—	1,196	—	—	—	—	—	—	
大 阪 商 船 著	—	1	1	2	63	51	21	1	—	—	—	
阿 波 國 共 同 汽 船 著	—	—	—	—	11	—	—	—	—	—	—	
澤 山 汽 船 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
片 倉 自 動 車 著	—	43	141	184	178	220	154	178	81	—	—	
金 甲 源 自 動 車 著	—	109	752	861	508	402	485	553	322	—	—	
土 井 自 動 車 著	—	—	—	—	2,045	3,140	2,174	954	—	1,475	13,427	
江 原 自 動 車 著	—	275	269	544	496	252	108	—	—	—	—	
朱 乙 自 動 車 著	—	784	3,065	3,789	3,517	2,903	811	—	—	—	—	
國 際 運 輸 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	290	—	
計	1,112	20,720	403,292	425,124	489,561	501,075	450,900	429,394	385,560	9,676,413	1,009,939	
道	432	2,673	16,670	19,775	17,258	19,656	15,434	14,967	14,094	3,384,838	150,629	
大 阪 河 運 送 鐵 道 著	75	55	49	179	502	394	911	1,461	1,907	1,323	930	
鐵 道 省 中 華 鐵 道 著	251	288	239	778	650	619	636	354	447	—	8,714	
鐵 道 省 露 華 鐵 道 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
鐵 道 省 亞 細 亞 鐵 道 著	75	61	5	141	95	—	—	—	—	363,134	40,651	
鐵 道 省 吉 長 鐵 道 著	—	189	9,670	9,859	3,327	—	—	—	—	—	—	
大 阪 河 運 送 鐵 道 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
島 原 鐵 道 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
南 滿 洲 鐵 道 著	741	2,902	15,194	18,837	16,016	17,275	15,258	15,938	16,820	254,830	172,304	
中 華 鐵 道 著	147	98	10	255	659	378	496	440	759	3,915	3,739	
露 華 鐵 道 著	25	56	56	137	16	10	13	—	10	—	1,265	
亞 細 亞 鐵 道 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	484	
吉 長 鐵 道 著	—	264	10,075	10,339	5,040	—	—	—	—	79,491	29,274	
四 洮 鐵 道 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
朝 鮮 鐵 道 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
金 剛 山 電 氣 鐵 道 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
成 平 軌 道 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
朝 鮮 郵 船 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
大 阪 商 船 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
阿 波 國 共 同 汽 船 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
澤 山 汽 船 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
片 倉 自 動 車 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
金 甲 源 自 動 車 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
土 井 自 動 車 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
江 原 自 動 車 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
朱 乙 自 動 車 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
國 際 運 輸 著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	—	2	601	603	—	—	—	—	—	1,507	298	

成 績 表

小 荷 物 斤 數	貨 物 噸 數					
	合 計	二 年 度	元 年 度	十 年 四 度	十 年 三 度	十 年 二 度
合 計	5,315,324	5,223,520	5,612,698	6,735,928	6,342,570	5,216,841
車 扱	3,129,181	2,811,241	2,635,312	3,079,824	3,191,714	2,713,382
小 口 扱	20	3,425	1,650	784	2,992	5,223
合 計	1,032	4,575	1,116	1,465	772	2,656
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車 扱	—	—	—	—	—	—
小 口 扱	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—
車						

